

1023/24—1932 年度年平

五ヶ年計畫

労働部門	人 数 (千 人)						
	1923—24	1924—25	1925—26	1926—27	1928	1929	1930
全國民經濟部門	—	8 532.0	10 173.4	10 943.7	11 599.0	12 167.9	14 530.9
内譯:							
I. 大 工 業	1 794.9	2 106.7	2 678.0	2 838.6	3 096.9	3 365.9	4 263.8
1. 労働者	1 535.4	1 795.7	2 293.9	2 439.2	2 691.0	2 923.3	3 674.9
2. 勤務員	168.9	196.8	253.6	269.2	274.0	307.5	422.3
3. 少年従業員	90.6	116.2	130.5	130.2	131.0	135.1	166.6
II. 建設	193.6	286.9	426.4	546.8	723.0	917.8	1 623.4
III. 交通運輸	1 038.1	1 057.8	1 239.5	1 302.3	1 270.0	1 302.2	1 499.2
1. 鐵道	802.4	806.4	962.0	1 006.4	971.0	984.0	1 084.0
2. 水路	82.2	85.9	98.8	110.6	104.0	111.0	132.0
3. 其他	153.5	165.5	178.7	185.3	195.0	207.2	283.2
IV. 郵電	80.6	82.4	94.2	95.2	95.0	119.9	153.4
V. 商業	248.4	373.6	470.7	515.2	532.0	626.5	814.7
VI. 會社給養	20.6	33.0	45.3	49.4	55.0	78.9	180.9
VII. 信 用	47.8	66.1	82.4	85.9	95.0	108.3	100.8
VIII. 諸 施 設	1 631.9	1 787.6	2 008.2	2 199.4	2 362.0	2 512.6	2 856.8
1. 教 育	492.9	551.3	602.8	714.7	789.0	819.0	920.8
2. 保 健	251.6	271.1	323.8	365.1	399.0	438.2	476.5
3. 其 他	887.4	965.2	1 081.6	1 119.6	1 174.0	1 255.4	1 469.5
X. 不定期日傭	67.4	77.2	89.9	105.2	117.0	123.0	131.0
XI. 家内婦人労働者	233.1	279.6	351.6	388.1	432.0	310.0	146.0
XII. 農業、林業、漁業	132.7	192.8	252.7	317.2	377.0	396.0	253.0
1. 農 業	H.C.B.	1 796.7	2 007.5	2 077.6	2 037.0	2 028.1	2 208.0
内譯: ソフホーズ, MTS	"	242.0	285.2	296.9	345.4	416.4	795.0
2. 林 業	"	"	"	"	331.0	415.0	611.0
3. 漁 業	"	"	"	"	30.0	37.5	45.0

五ヶ年計畫期間に農業へ一、九〇〇千馬力のトラクター一、二〇千臺餘、一六〇〇百萬馬力の農業を供給した即ち農業への供給は一九二八年の二倍であつた。

第一次五ヶ年計畫四ヶ年間に二、四四六ヶ所の機械トラクター・ステーションが新設され、新式の農具、農具修繕、自動車等々を供給した。

最近三ヶ年間に二〇〇千の集團經濟(コルホーズを含む)が組織され、農民經濟の六〇%播種總面積の七五%が集團化

均労働者勤務員數

1931	1932	1923—1924年に對する%								
		1924—25	1925—26	1926—27	1928	1929	1930	1931	1932	
18 989.5	22 942.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5 483.3	6 302.6	117.5	149.2	158.1	172.5	187.5	237.5	305.5	351.1	—
4 619.1	5 152.8	117.0	149.4	158.9	175.3	190.4	239.3	300.8	335.6	—
632.8	847.4	116.5	150.1	159.4	162.2	182.1	250.0	374.7	501.7	—
231.4	302.4	128.3	144.0	143.7	144.6	149.1	183.9	255.4	333.8	—
2 548.9	3 125.8	148.2	220.2	282.4	373.5	474.1	838.5	1 316.6	1 614.6	—
1 927.2	2 222.0	101.9	119.4	125.5	122.3	125.4	144.4	185.6	214.0	—
1 320.2	1 526.5	100.5	119.9	125.4	121.0	122.6	135.1	164.5	190.2	—
177.0	195.5	104.5	120.2	134.5	126.5	135.0	160.6	215.3	237.8	—
430.0	500.0	107.8	116.4	120.7	127.0	135.0	184.5	280.3	325.7	—
167.2	224.3	102.2	116.9	118.1	117.9	148.8	190.3	244.7	278.3	—
1 077.9	1 410.8	150.4	189.5	207.4	214.2	252.2	328.0	433.9	568.0	—
365.3	515.1	160.2	219.9	239.8	267.0	383.0	878.2	1 773.3	2 500.4	—
116.4	128.4	138.3	172.4	179.7	198.7	226.6	210.9	243.5	268.6	—
3 427.7	3 912.4	109.5	123.1	134.8	144.7	154.0	175.7	210.0	239.7	—
1 153.3	1 347.2	111.8	122.3	145.0	160.1	166.2	186.8	234.0	273.3	—
562.2	647.2	107.8	128.7	145.1	158.6	174.2	189.4	223.4	257.2	—
1 712.2	1 918.0	108.8	121.9	126.2	132.3	141.5	165.6	192.9	216.1	—
181.7	236.6	114.5	133.4	156.1	173.6	182.5	194.4	269.6	351.0	—
124.0	125.2	119.9	150.8	166.5	185.3	133.0	62.6	53.2	53.7	—
228.0	216.3	145.3	190.4	239.0	284.1	298.4	190.7	171.8	163.0	—
2 975.9	4 097.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2 059.7	2 857.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1 601.1	2 370.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
857.2	1 140.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59.0	99.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—

日 露 年 鑑

は、一九三二年度計畫(二十八億留)を七二%だけ實行した、尨も原計畫では最終年の生産を二十二億六千萬留と規定してゐたのである。製紙高は四十七萬噸で一九三一年より五%少い。(原計畫の最終年は七十萬噸の豫定)

生産性と生産費

労働生産性は一九二八年以來四〇%増したが、原計畫は五年間に七〇%を増す豫定であつた。一九三二年度の増加は二二%と豫定せられたが、實際には若干の重工業をのぞけば何等の増加もなかつたし、これら重工業の増加もたかゞ五%を出でない。生産性の減じた場合もあるので、工業全體としての増加は僅か一%にすぎなかつた。

一九三二年中に七%を減する筈の生産費は生産増の總額が名目賃金の上昇よりも少なかつたので、僅か乍ら増した。五ヶ年計畫の最初の二年間に、生産費は一六・七%だけ減つたが、一九三一年中には又も三・七%だけ上昇した。かくて五ヶ年計畫の豫定では三二%を減する筈の

された。尙同期間に五、〇〇〇のソヴェ
ート経済粒穀牧畜及機械耕作ソフホーズ
が組織された。従つてソフホーズ及ソフ
ホーズ兩經濟を合すれば播種總面積の約
八〇%が集團化されたのである。

以上の結果

(一) クラーク階級が崩壊し、農業に於
ける資本主義分子が根こそぎにされ、コ
ルホーズ經濟は社會主義建設の鞏固なる
支柱となつた。

(二) 小規模なる、個人主義的なる、分
散せる農民經濟を社會主義的大農のレ
ールへ誘導し、ソ聯は小農國より大農國へ
轉換した。

(三) 播種面積は一九二七—二八年に比
較し二千百萬ヘクタール増加した。特に
機械耕作は一九三二年千五百萬ヘクタ
ールに達した。蓋し、五ヶ年計畫の課題は
一九三二—三三年に於て千一百万ヘク
タールであつた。

(四) 農業の發展に據り國內に於ける商
品穀物が増加した。即ち、一九二七—二八
年には七〇〇百萬封度の穀物が國家に納

入され、此の内ソフホーズ及ソフホーズ
からの納入は約一〇%に過ぎなかつたが
一九三一—三二年には、一、四〇〇百萬封
度が納入され此の内約七五%が、ソフホ
ーズ及ソフホーズから納入されてゐる。

(五) 牧畜業は種々の缺陷のため不振で
あつたが、五ヶ年計畫はこれらの缺陷を
清算し大角獣は一九三二年末に於て大
規模なるソフホーズ及其販賣所には七、
六百萬頭(此の内ソフホーズに二、一
百萬頭)に増加した。蓋し一九二八年には
三三二萬頭に過ぎなかつた。豚は一九二
八年の七五萬頭より三、六百萬頭(ソフ
ホーズに九五〇千頭、販賣所に二、六百
萬頭)に増加した。羊は一九二八年の九
七〇千頭より九、九百萬頭(ソフホーズ
一、四、四百萬頭、販賣所一、五、六百
萬頭)に増加した。

上記に依つて明らかな如く、第一次農
業五ヶ年計畫は如何に大規模農業主義に
立脚してこれを集團化せしむべきかがそ
の主要眼目であつた。

其の初年に於てはソフホーズ数は極めて
少く、個人農が殆んど全農業を支配して
ゐた。スターリンが當時のソフホーズを
個人農の大海中の一滴に譬へてゐるが、
爾來あらゆる行政的、經濟的援助を與へ
てソフホーズの發達を促進したのであ
る、場合に依つてはソフホーズに反對す
る富農を投獄したり、その財産を沒收す
るなど思ひ切つた手段も辭さなかつた。
そのために農民は家畜を殺す、種子を食
ひつぶすと云ふ状態で、收穫高は減少し
家畜は半減すると云ふ結果さへ生じた。
ソ聯當局はこれに怯げず、黨員中の精銳
一萬七千人を農村に送つて、行政的手段
の外に農民の教育組織に努めしめた結
果、とにかくソフホーズは次の様に發達
した。

年	ソフホーズ数(千)	加入せる農民の割合(%)
一九二八年	三三・三	一・七
一九二九年	五七・〇	三・九
一九三〇年	八五・九	三・六
一九三一年	三二・一	五・七
一九三二年	三二・一	六・五
一九三三年	二四・五	六・四

ソフホーズの増大と共に作付反別の割
合も年と共に増大して、一九三三年には
ソフホーズと合して八四・九%を占め、
個人農の手には僅かに作付反別の一五・
一%が残されてゐるに過ぎなかつた。總
作付反別に於ける社會主義農業の割合
(%)を示せば

年	ソフホーズ	コルホーズ	合計
一九二八年	一・五	一・三	二・七
一九三二年	一〇・〇	六・一	一六・一
一九三三年	一〇・九	七四・〇	八四・九

で、收穫高の上では、一九三三年にはコ
ルホーズは穀物收穫高の七七%、棉花の
八九・一%、亞麻の七八・六%、甜菜の八四・
六%を占むるに至つた。

次に参考迄に一九二八—三三年間に於
ける全聯邦、コルホーズ、ソフホーズ及
個人農の播種面積増減振を示さう。

1928—33年度全聯邦播種面積

	1928	1929	1930	1931	1932	1933
播種總面積(百萬ヘクター)	113.0	118.0	127.2	136.3	134.4	129.7
粒穀物總面積(")	92.2	96.0	101.8	104.4	99.7	101.5
内 譯:						
イ 麥	24.6	24.9	28.9	27.6	26.2	25.4
秋 小 麥	6.2	6.6	10.1	11.3	11.8	10.8
春 小 麥	21.6	23.2	23.7	25.6	22.7	22.4
大 麥	7.3	8.1	7.4	6.9	6.8	7.3
燕 麥	17.2	18.9	17.9	17.5	15.4	16.7
玉 蜀 黍	4.5	3.5	3.7	4.0	3.7	3.9
其 他	10.8	10.8	10.1	11.5	13.1	15.0
加工農作物(千ヘクター)						
棉 花	971.3	1 055.5	1 582.6	2 137.3	2 172.0	2 051.6
亞 麻	1 735.6	2 053.6	2 249.3	3 138.1	3 155.0	2 734.6
向日 葵	3 904.9	3 620.2	3 385.6	4 574.6	5 306.0	3 896.6
大 麻	912.7	872.5	728.1	941.3	944.3	755.0
甜 菜	769.7	770.7	1 035.8	1 394.1	1 537.8	1 212.4
煙 草	45.2	47.1	53.7	93.0	99.2	88.8
マ 鈴 薯	36.2	42.8	40.7	107.9	147.5	99.3
馬 鈴 薯	5 677.6	5 691.7	5 726.5	6 169.3	6 111.4	5 601.9
雜 草(千ヘクター)						
一 年 草	1 163.3	1 468.1	2 016.9	3 283.2	4 461.3	3 089.9
多 年 草	2 403.8	3 154.5	3 944.0	4 128.1	3 788.9	2 878.7

1927—33年度ソルホー大播種面積

年 度	粒 穀 物		加 工 作 物	野 菜	飼 料	其 他	全播種面積		内播種面積		播 種 種 類		
	秋 播	春 播					面積	面積	粒 穀 物	加 工 作 物	野 菜	飼 料	其 他
1927	394.3	635.5	1 029.8	284.4	40.3	188.1	1 559.2	1 164.9	66.0	18.2	2.6	12.1	1.1
1928	326.0	770.5	1 096.5	317.6	45.5	237.9	1 735.0	1 409.0	63.2	18.3	2.6	13.7	2.2
1929	400.5	1 136.7	1 537.2	380.9	50.8	298.0	2 273.8	1 873.3	67.6	15.4	2.3	13.1	1.6
1930	771.3	2 162.5	2 923.8	620.4	112.9	244.2	3 926.2	3 154.9	74.5	15.8	2.9	6.2	0.6
1931	1 752.5	6 329.5	8 082.0	756.0	634.4	1 505.9	10 958.3	9 205.8	73.8	6.7	5.8	13.7	—
1932	2 423.4	8 820.7	9 244.1	972.6	802.7	2 426.1	13 447.5	11 024.1	68.7	7.2	6.0	18.0	0.1
1933	2 785.7	8 058.2	10 844.9	654.5	1 005.7	1 574.8	14 107.1	11 320.4	76.9	4.4	7.1	11.2	0.2

1927—33年度ソルホー大播種面積

年 度	粒 穀 物		加 工 作 物	野 菜	飼 料	其 他	全播種面積		内播種面積		播 種 種 類		
	秋 播	春 播					面積	面積	粒 穀 物	加 工 作 物	野 菜	飼 料	其 他
1927	232.6	344.1	576.7	60.7	44.8	58.0	743.7	516.1	1 177.7	77.0	8.1	6.0	1.2
1928	189.2	847.2	1 036.4	160.2	59.3	88.3	1 386.9	1 177.7	1 177.7	75.8	11.7	3.2	1.7
1929	617.0	2 773.5	3 390.5	388.3	135.2	214.6	4 154.9	3 837.9	3 837.9	81.6	9.4	4.8	0.6
1930	5 434.4	24 255.9	29 690.3	4 375.2	1 839.2	2 026.0	38 080.9	32 646.5	78.0	11.5	4.8	5.3	0.4
1931	20 331.5	40 636.1	61 017.6	9 539.0	4 780.4	6 691.3	78 972.2	58 640.7	77.3	12.1	4.8	7.3	—
1932	24 986.7	44 233.0	69 119.7	11 351.0	4 411.1	5 111.1	91 533.3	66 646.6	75.5	12.4	4.8	7.3	—
1933	25 984.5	48 977.5	74 962.0	9 716.3	3 961.1	5 111.1	93 857.9	67 873.4	79.9	10.4	4.2	5.4	0.0

1927—33年度個人農播種面積

年 度	粒 穀 物		加 工 作 物	野 菜	飼 料	其 他	全播種面積		内播種面積		播 種 種 類		
	秋 播	春 播					面積	面積	粒 穀 物	加 工 作 物	野 菜	飼 料	其 他
1927	37 285.6	55 836.5	93 122.1	6 671.1	7 233.2	2 626.1	110 130.5	72 844.6	84.5	6.1	6.6	2.4	0.4
1928	30 169.3	59 870.1	90 039.4	8 137.6	7 578.6	3 543.3	107 890.5	79 721.2	81.9	7.4	6.9	3.0	0.6
1929	30 379.9	60 704.2	91 084.1	8 060.6	7 449.0	4 470.5	111 621.0	81 241.2	81.6	7.2	6.7	4.0	0.5
1930	32 682.8	36 464.3	69 147.1	5 470.1	6 015.7	4 236.7	83 210.7	62 527.9	81.1	8.1	7.1	5.0	0.4
1931	16 715.0	18 519.2	35 306.2	3 764.3	4 789.4	2 494.4	46 354.3	29 639.3	76.2	8.1	10.3	5.4	—
1932	10 624.6	10 711.3	21 335.9	2 553.6	4 001.6	1 554.2	29 453.9	18 829.3	72.4	8.7	13.6	6.3	0.0
1933	7 428.1	8 319.1	15 747.2	1 658.3	3 654.5	635.1	21 722.6	14 294.5	72.5	7.7	16.8	2.9	0.1

鐵 道 運 輸

鐵道運輸は第一次五ヶ年計畫中に於ては、技術・線路延長、何れの點から見ても著しい發展は遂げなかつた、國內に於ける産業の發展が著しい割に、鐵道輸送の發達は並行せず、常に立後れの觀を呈するに至り、特に技術的には幾多の缺點を有つてゐた。幾多外國人技師を招聘、技術其他幾多の改善を施したにも拘らず效果は頗るは上らず、ソ聯鐵道輸送機關が著しい發展を遂げるに至つたのは第二次五ヶ年計畫、それも極く近年に至つてからである。でも鐵道延長は一九二八年の七六、八八七軒から一九三二年末の八三、三二三軒に、新規操業開始線路は同じく四一八軒から三一年の二一、六四五軒に増大、新設幹線延長は二八—三二年間六千五百軒に達した。その中最も有名な建設工事はトルクシヴ鐵道（一、四四二軒）である。

次に第一次五ヶ年計畫中に於ける鐵道輸送実績を示さう。

五ヶ年計畫

鐵道輸送網發達狀況

指 數	數量單位	1913	1928	1929	1930	1931	1932	
							年平均	年末現在
I. 操業全鐵道路線 (年平均)								
1. 總 延 長	軒	58 549	76 887	77 010	77 046	80 248	81 569	83 313
2. 廣 軌	"	55 574	75 883	76 005	76 043	79 252	80 566	—
3. 狹 軌	"	2 975	1 004	1 005	1 003	996	1 003	—
面積人口別：								
1) 1 000 平方軒當り	"	2.8	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9
2) 10 000 人 當り	"	4.2	5.1	5.0	4.9	5.0	5.0	—
總延長のうち複線以上のもの	"	15 280	15 609	16 017	16 384	17 481	—	18 993
同 電 化 の も の	"	—	—	18	55	64	—	153
II. 新規操業開始線路	"	—	418	484	1 058	2 645	—	382
III. 輸 送 狀 況 (操業路線軒當り)								
1. 總 走 行 距 離 (貨車, 乘客, 手荷物)	千軒/軒	1 556	1 535	1 884	2 413	2 669	3 107	—
2. 貨 物 走 行 距 離	"	1 122	1 215	1 467	1 733	1 896	2 075	—
3. 客 車 走 行 距 離	千人/軒	431	318	416	672	770	1 027	—

鐵道輸送實績

指 數	數量單位	1913	1928	1929	1930	1931	1932
A. 貨物							
1. 列車輸送總計	千噸	154 200	196 860	230 999	294 464	323 629	—
總走行距離	百萬噸/軒	66 846	95 401	114 860	136 361	155 007	—
平均走行距離	軒	434	485	497	463	479	—
2. 商業列車輸送	千噸	132 400	156 237	187 626	238 732	258 283	267 906
總走行距離	百萬噸/軒	65 696	93 389	112 950	133 918	152 129	169 270
平均走行距離	軒	496	598	602	561	589	632
3. a) 商品輸送	千噸	106 568	127 997	157 197	200 327	—	—
總走行距離	百萬噸/軒	54 965	80 115	98 564	115 434	—	—
平均走行距離	軒	516	626	627	576	—	—
b) 商品外貨物輸送	千噸	25 832	28 240	30 429	38 405	36 510	40 265
總走行距離	百萬噸/軒	10 731	13 274	14 386	18 484	19 896	22 384
平均走行距離	軒	415	470	473	481	545	556
4. 輕便列車輸送	千噸	21 800	40 623	43 373	55 732	65 409	—
總走行距離	百萬噸/軒	1 150	2 012	1 910	2 443	2 878	—
平均走行距離	軒	53	50	44	44	44	—
B. 乗客 (有料)							
輸送總計	千 人	184 800	291 118	365 239	554 704	723 681	967 053
總走行距離	百萬軒	25 215	24 484	32 004	51 777	61 813	83 748
平均走行距離	軒	136	84	88	93	85	87
a) 直通輸送	千 人	—	15 203	19 343	29 370	30 960	45 751
總走行距離	百萬軒	—	11 499	15 789	25 362	29 011	40 805
平均走行距離	軒	—	756	816	864	937	892
b) 地方輸送	千 人	—	118 888	154 053	211 122	214 939	257 322
總走行距離	百萬軒	—	9 146	11 608	18 952	21 198	26 191
平均走行距離	軒	—	77	75	90	99	102
c) 郊外輸送	千 人	59 300	157 027	191 843	317 212	477 780	663 980
總走行距離	百萬軒	1 541	3 839	4 607	7 463	11 604	16 752
平均走行距離	軒	26	24	24	24	24	25
C. 手荷物							
總輸送量	千噸	590	518	574	475	625	882
總走行距離	百萬噸/軒	178	122	133	181	280	402
平均走行距離	軒	300	236	231	382	448	456
乘務總計							
1. 總走行距離 (貨物, 乗客, 手荷物)	百萬噸/軒	92 239	119 885	146 997	188 319	217 100	253 420
2. プルト	百萬噸/軒	170 230	228 927	268 003	321 232	363 076	406 620

水 運

第一次五ヶ年計畫中に於ける水運方面の最大建設事業は、白海バルチック運河でこれは一九三三年に完成された。諸河水及マリソ水系を以て白海、バルチック海と、ヴォルガ河、カスピ海とを聯絡するものである。水運路は、一九二八年の七萬一千六百軒から三二年の七萬七千六百軒に増大し貨物及旅客の輸送高は、三千九百八十八萬二千軒から七千九百九十二萬二千軒に増加した。

第一次五ヶ年計畫の スローガン

第一次五ヶ年計畫に於て、生産能率増大の爲め唱導されたスローガンは社會主義競争、突撃隊運動であつた、この社會主義競争は一九二九年四月の全聯邦共產黨總會に於て提唱されたもので、右檄文中には「國民の創造的精力及自發心を覺醒し、勤勞者を社會主義的建設に引入れる永續的方法」と述べられてゐる。この社會主義競争なるスローガンが一

五ヶ年計畫

度揚げられるや全國に轟々たる反響を呼び起し、各工場、労働者間に着々と實行せられ、一九三三年一月一日現在には工業労働者の七一%はこれに参加したと云はれる。

社會主義競争の本質は、資本主義諸國に見られるが如き單なる生産能率増加のための競争ではなく、技術を獲得した優秀なる工場又は労働者が遅れたるものを指導、鞭撻して自己と同一水準に引き上げるにあつた。社會主義競争が呼應計畫の同義語として用ひられた意味もそこにある。

社會主義競争と並んで一九二九年以來突撃隊運動(ウダルニチエスヴォ)が唱導せられ、第一次五ヶ年計畫の終期に於いては突撃隊員は五百萬人に達したと云はれる。

然し一九三五年の半頃、ドンバスに發生したスタハノフ運動は俄然ソ聯全産業部門を席捲し、以來スタハノフ運動が今日に至る迄ソ聯産業能率増進のスローガンとなつてゐるのである。

第二次五ヶ年計畫

該計畫の概説

第一次五ヶ年計畫が、其の各年度の豫定を期間内に遂行し、若干の部門に於ける缺陷を除けば全般的に成功し、殊に基礎的部門に偉大なる成果を収めることは全計畫を四ヶ年即ち一九三二年末までに完成し得る見透を確實ならしむると共に、更に第二次五ヶ年計畫を一九三三年度より實施し得ることの確信を與へたるを以て、聯邦政府は之に對する實際的準備を行ひ、一九三二年初頭これが方針を決定し、五月二十日聯邦人民委員會は國家計畫委員會に基本的計畫の立案を命じ、其の提出の期限を八月十五日迄に指定した。國家計畫委員會ではクイブインエフ議長以下七十三名の委員を以て特別委員會を組織して、計畫案の作製に従事し、一般的成案を得た。

今、第十七回黨大會に於る人民委員會議長モロトフ氏の報告大要に依り、第二

次五ヶ年計畫案並に第一次五ヶ年計畫との比較を概観することにする。

第二次五ヶ年計畫の

基本的課題

黨は第二次五ヶ年計畫に於て三つの基本的課題を提起した。

第一は第二次五ヶ年計畫の基本的な政治課題で資本主義的分子及階級一般の終局的清算階級的差別と搾取を誘發する諸原因の完全な廢棄、經濟に於ける資本主義の殘滓の克服及國內の全勤勞者を轉じて無階級的社會主義社會の意識的積極的建設者たらしめること、第二は勞働者及びコルホーズ大衆の福祉を昂揚しその需要水準を二倍半乃至三倍に引上げることに、第三は工業、運輸及農業の技術的改造を完成することである。

第一の課題に就いては、ソ聯邦に於ける資本主義要素は第一次五ヶ年計畫當時まだ相當の役割を演じてゐたのである。尤も工業に於ける資本主義分子の割合は第一次五ヶ年計畫前まで年々縮減され、今から五年前の全工業生産高に於て資本

主義分子は僅か一を占めてゐたに過ぎなかつたが、商業に於ては私營商業は依然として優勢で小賣總額の二五を占めてゐた。然し第一次五ヶ年計畫の諸年に於て私營商業は殆んど完全に驅逐されてしまつた。

農村に於ける資本主義分子の掃滅は頗る困難な問題であつたが、第一次五ヶ年計畫の諸年に於て貧農及び中農を集團化することに依つて階級としての富農を破砕することが出来、今日までに農家の三分の二を共同經營化し、コルホーズ及びソフホーズは粒穀物全播種面積の八四・七%を耕作するに至つた。

達成された總決算に當面の任務は左表に明らかである。

ソ聯邦經濟に於ける社會主義部門の割合(%)

大工業總生産高	一九三八年	一九三九年	一九三七年
農業總生産高(コルホーズ員の個)	九三・〇	九三・九三	一〇〇・〇
播種總面積(コルホーズ員の個)	三二〇	七四・七	一〇〇・〇
個の經營を含む			
個の經營を含む			

農家のコルホーズ化 二・八 七九・七 一〇〇・〇
小賣商業 一・七 六・五 一〇〇・〇
ソ聯邦國民所得 四三・〇 五三・〇 一〇〇・〇
漸くして第二次五ヶ年計畫末に於ける社會主義部門は國民經濟各部門に於て獨占的地位を占めるに至るであらう。

第二の課題たる勤勞者の物質的水準の昂揚に就いては、第一次五ヶ年計畫に於て大なる達成を得た。即ち失業を絶滅し富農と貧農への分層化を排除した。而して勞働者大衆の生活水準が高まり、農民の福祉昂揚の前提條件が創られたので、物質及文化上の需要が増大して來た。この要求を満足せしめたるため農業、輕工業及食料品工業を進展せしめなければならぬ、そこで第二次五ヶ年計畫に於ては巨額の投資をなして勤勞者の需要水準を二倍半乃至三倍に増大することになつた。

第三の課題たる農業の急速なる發展、輕工業及び食料品工業の進展並に運輸作の改善等は、結局國民經濟の技術的改

善問題に歸結される。故に第二次五ヶ年計畫の根本的且つ決定的經濟課題は國民經濟改造の完成である。

技術的改造の完成と

國民經濟の昂揚

第二次五ヶ年計畫の經濟的主要課題は國民經濟を改造して生産諸力を大いに展開することである。既に第一次五ヶ年計畫に於て工業及び農業の技術的改造が進捗したが、これは端緒に過ぎず、本格的技術改造は第二次五ヶ年計畫に於て行はれることになつてゐる。その結果第二次五ヶ年計畫の期間中に、國民經濟總生産高に於ける工業の割合は次の如く變化する。

國民經濟總生産高に於ける工業及農業の割合(%)

一九三二年	一九三七年	
一、全工業	六八	七五
二、農業	三二	二五
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇

斯くして第二次五ヶ年計畫末年度には工業の割合を約八〇%に達せしめて先進

工業國たる獨逸及合衆國の域に到着せしめやうと見込んでゐる。工業割合の斯かる増大は工業生産高の激増を豫定してゐるからである、即ち第一次五ヶ年計畫末年度の工業生産高は四百三十億留であつたが、第二次五ヶ年計畫末年度には千三十億留に達せしめる計畫である。これは第二次五ヶ年計畫の期間に於て一・四倍に増大し戦前に對しては九倍に相當する。この増産計畫は専ら新設企業を基礎として作成されたものであるから、新設問題は勿論であるが、これらの新技術及新生産の把握問題が重要な意義を有して來る。

第二次五ヶ年計畫の工業生産高に於ける特徴は、生産要具を生産するA群と消費費用物資を生産するB群の發展速度の變化で、第一次五ヶ年計畫に於ては全國民經濟の技術的基礎たる重工業の創設に重點を置いたが、この目的が達せられたので今回はこれを基礎として一般消費費用物資を生産する輕工業を促進せしめることが出来るやうになつたのである。

第二次五ヶ年計畫の工業生産高に於ける二群の割合を示せば左の如くである。工業生産高に於ける二群の相關々係の變化(%)

工業部門 一九三二年 一九三七年

a、群(生産手段及要具)	五三・三	四七・一
b、群(消費費用物資)	四七・七	五二・九
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇

尙ほ第二次五ヶ年計畫の特徴の一つとして地方工業の發展を一層促進せしめる計畫であることに注意を要する。殊に一般消費物の生産を激増せしめたるため地方産の原料と燃料とを使用する工業を發展せしめると共に或る工業企業はこれを地方機關に移管することになつてゐる。

工業の昂揚と改造

次に第二次五ヶ年計畫に於ける工業各部門の發展計畫を見るに生産用具を生産する重要工業部門の基本課題は次の如くである。

a 群工業部門總生産高増加(一九二六—七年度物價による)

生産手段(單位十) の生産(億留)	一九三三年	一九三七年	一九三年度 に對する 一九三七年の 割合(%)
一、機械製(單位十)	九・三	二二・〇	二三七・〇
二、金屬加工(單位十)	一五・〇	四〇・〇	二六七・〇
三、大型機械(單位百)	一四・三	四二・〇	二八〇・〇
四、トラク(單位千臺)	五・七	一六七・〇	三三三・〇
五、コンバイ(單位千)	一〇・〇	三三・〇	三三〇・〇
六、機關車(單位千臺)	八・八	九〇・〇	三三〇・〇
七、貨車(單位千臺)	三・二	一六・〇	五七六・〇
八、自動車(單位千)	三・九	二〇・〇	八三七・〇
九、紡織機(單位百)	六・〇	三六・〇	五九九・〇
一〇、食料品工(單位百)	四七・七	一四〇・〇	二九四・〇
一一、電力(單位十億キ)	一三・四	三八・〇	二八三・〇
一二、石炭(單位百)	六四・三	一五二・〇	二三五・〇
一三、石油(單位百)	三三・一	四七・〇	二二三・〇
一四、銑鐵(單位百)	六・二	一八・〇	二九二・〇

六、鋼(單位百) 五・八 一九・〇 三三三・〇
 七、壓延鋼(單位百) 四・二 一四・〇 三三六・〇
 八、銅(單位千) 四・七 一五・〇 三三三・〇
 九、化學(單位十) 一・九 五・七 三〇七・〇
 一〇、稅材(單位百萬) 二四・四 四一・〇 一七六・〇

重工業の重要部門は大なる發展をする。殊に國民經濟の技術的改造に指導的役割を演ずる機械製造工業は重工業平均増大速度よりも高くなつてゐる。その結果第二次五ヶ年計畫末年度に於ける全工業生産高の八〇%は新設若しくは改造された企業に於て生産される計畫となつてゐる。

次に消費費用物を生産する工業部門を見るに、その重用部門の生産課題は左表の如くである。

b 群工業部門總生産高増加(一九二六年七ヶ年價格に依る)

消費費用物(單位十) 資の生産(億留)	一九三三年	一九三七年	對する 一九三年度の 割合(%)
一、輕工業人民委員部所管	二〇・二	五四・三	二六八・八
二、供給人民委員部所管(食料品)			
三、重工業人民委員部所管(日用品)			
四、工業コペラーチャ			
五、調達委員會所管(小麥粉其他)			
六、其他經濟機關の日用品生産			
輕工業製品別			
綿布(單位百)		二、七九七・六	三三九・八
毛織物(單位百)		九・三	二二〇・〇
革靴(單位百)		八・九	二二五・〇
鞋子(單位千噸)		三九・四	二二〇・〇
石鹼(單位千噸)		三三・二	三三三・九
肉類(單位千噸)		四三・〇	二七・四
魚類(單位千噸)		一、三三〇・一	一四三・五
脂肪類(單位千噸)		六・一	二七・五
罐詰類(單位百萬個)		七六〇・二	三三三・二

工業の一般需要品の生産も著増する、例へば金物類は四・二倍自轉車は五・五倍、時計は五・八倍、寫眞器は一一・五倍、真空管ラヂオ受信器は二〇倍に夫々生産増加する。

紡織物の機械類も大量に生産されるので、綿布毛織物及び亞麻織物の生産高も之れに伴つて増加する、其他b群部門の生産も夫々増加する筈であるが、輕工業及び食料品工業に於て最も重要な品質の改善問題であるからこの問題の解決に大なる注意を傾注することになつてゐる。

農業の昂揚と改造

農業は第一次五ヶ年計畫に於て工業の如き急速なる昂揚を見ることが出来なかつた。尤も粒穀物及工業原料作物は昂揚したが畜産業は不振で家畜頭数は減少さへ示した、然し農業の技術的改良、殊に農業の社會化の方面に於て大なる達成をなし、一九三六年には約二十五萬のホルホーズ(共營農場)五千以上のソフホルホーズ(國營農場)五千の機械トラクター配給所

五ヶ年計畫

が組織された。

その結果として播種面積が増大したのみならず重要作物の生産高も増加を見た。これは私營小農經營に對するホルホーズ、ソフホルホーズ組織の優越性にも依るが尙ほ多數のトラクター、自動車、コンバイン其他の農業機械類を農村に供給して農業の技術的改造を行つたからである。

第二次五ヶ年計畫に於ける主要作物の増産計畫は次の如くである。

第二次五ヶ年計畫に於ける農業總生産高(單位百萬セントネル)

作物別	一九三三年	一九三七年	對する 一九三年度の 割合(%)
一、粒穀物	六九・七	一〇五・六	一五二・二
二、工業原料作物			
棉	一二・七	三三・五	二七・七
亞麻	五・〇	九・〇	一八〇・〇
甜菜	六五・六	二七六・〇	四三〇・七
向日葵	三三・六	五五・七	一五九・〇

これら主要農作物の増産計畫を遂行すれば粒穀物に對する國內の需要を完全に充足し得るのみならず、工業の需要する

原料も大體充足し得る見込みである。この増産は何に依つて實現するかと云ふに専ら收穫率の引上げに依るもので播種面積の擴大は左表の如く餘り見込んでゐない。

第一次及び第二次五ヶ年計畫の播種面積(千ヘクタール)

播種總面積	一九三三年	一九三七年	對する 一九三年度の 割合(%)
播種總面積	一四、四三三	一四、〇〇〇	一〇四・一
內譯			
粒穀物	九、九七二	一〇、四八〇	一〇五・一
工業原料作物	一、四八七	一、四〇五	九四・五
菜園	九、二二五	九、六〇〇	一〇四・二
飼糧	一、〇六三	一、一五〇	一〇八・六

播種總面積は一九三二年の一億三千四百四十三萬五千ヘクタールから三七年の一億四千萬ヘクタール、即ち五ヶ年計畫中に僅か四%の増加に過ぎない。工業原料作物中には五五%の減少さへ豫定されてゐるものである。

増産を實現するためには收穫率を引上げなければならぬのである。而して第二

次五ヶ年計畫に於ける收穫率引上げ計畫は次の如くである。

第一次及び第二次五ヶ年計畫の收穫高

(一ヘクタール當り)

内 譯	自一九三六年 至一九三七年平均	一九三七年 增加割 合(%)
穀 物	七・五	一〇・六
秋 蒔 小 麥	八・六	一三・〇
春 蒔 小 麥	六・一	八・五
裸 麥	八・〇	一・五
燕 麥	八・三	一・二
大 麥	八・二	一・五
玉 蜀 黍	八・九	一四・四
工業原料作物	七・五	一三・〇
棉 花	三・二	三・七
亞 麻	一・〇	一・六
甜 菜	一・〇	一・六
向 日 葵	五・五	八・五

右表の示す如く五ヶ年計畫末までには粒穀物の收穫率を四〇%以上、工業原料作物の收穫率を五五%以上増大せしめねばならぬ、而してこの課題の實現はコルホーズ及びソフホーズの技術的改装に大

展は國民經濟の發展を條件づけるものである。

第二次五ヶ年計畫に於ける貨物輸送高増加は左表に明かである。

第二次五ヶ年計畫の貨物輸送

(單位十億噸・料)

	一九三三年	一九三七年	增加割 合(%)
一、鐵 道	一九・三	三〇・〇	一五・四
二、河 川	二・一	六・四	三〇・二
三、海 運	一・二	五・〇	三二・〇

貨物總運送量に於て決定的な役割を演ずるのは鐵道運輸である。これまで鐵道運輸の成績は餘り思はしなくかつた、今後從來の缺陷を匡正しないと國民經濟の發展に支障を來たす恐れがある、斯かる缺陷の原因となつてゐるのは技術的裝備の立遅れのためであるから、先づ鐵道運輸の技術的改造を行はねばならぬ。

然らばその方策は如何にと云ふに、五ヶ年計畫中に五千料を電化する。殊に貨物輸送の輻輳してゐる、ウラル・クズバス、ドンパス、ザバイカル、ウスリーの諸線を約九千五百料複線とする。自働閉

なる關聯を有してゐるので、農業の機械化問題は第二次五ヶ年計畫に於て本格的に進展せしめる筈、農業に使用するトラクター臺数は次の如く累増する筈。

農業用トラクター總馬力

年 次	千馬力
一九三二年	三、三五
一九三三年	三、一〇〇
一九三四年	四、四〇〇
一九三五年	五、五五五
一九三六年	六、六五五
一九三七年	八、二〇〇
一九三七年に對する(%)	三六・五

農業に使用するトラクターの大部分は機械・トラクター配給所に供給し、同所よりコルホーズはトラクターのサービスを受ける。トラクターの激増に伴ひ配給所數も六千ヶ所に増加、五ヶ年計畫末までには全コルホーズにサービスが出来る。

農業の機械化はトラクターのみならずその他の農業機械に依つても行はれる。即ち農業機械類の増加を示せば左の如

鎖信號裝置は一九三二年には五百八十二料であつたが、これを八千三百料に延長する。

特に貨物輸送力を引上げる方策として注目すべきは輪轉材料に關する計畫で左表の如くである。

第二次五ヶ年計畫に於ける鐵道運輸轉材料の増大

	一九三三年 一月一日 對する元 年(%)	一九三七年 對する元 年(%)
一、機關車臺數	一九、四三三	二四、六〇〇
貨車用機關車	一六、三三〇	一九、七〇〇
右總牽(單位千噸)	一六・二	二九・七
客車用機關車	三・二五	四・八〇
右の總牽(單位千噸)	二・四	四・五
二、電氣機關車臺數	四・〇	一
三、重油機關車臺數	二・七	一
四、車輛(單位千輛)	五・九	六・六
貨車(單位千輛)	五・七	六・四
貨車積載(單位百噸)	九・五	一二・八
總能力(萬噸)	三	四・八
客車(單位千輛)	三	四・八

右表の示す如く、總牽引力は機關車臺數より著しく増大してゐる。これは鐵道

し。

農業機械類の増加(ソフホーズ、機械、トラクター配給所、コルホーズ)

	一九三三年	一九三七年
コンバイン(單位千臺)	五・五	一〇〇・〇
打穀機(單位千臺)	四七・七	八〇・〇
電機設備(單位千キ)	六五・九	四三・〇
修理 所	三三・〇	六九・〇
貨物自動車(單位千臺)	一四・五	一八・〇
乗用自動車(單位千臺)	一・〇	四三・〇

以上の如き機械類に依つて農業機械化の完成を保證出来る見込みで、農業労働を機械労働に變化せしめる計畫である。

これと同時に農業技術の方策と礦物肥料の普及を行ふ筈。化學工業の肥料生産は第一次五ヶ年計畫末までに十倍に達せしめ、循環耕作法を廣く採用し、灌漑施設作業を展開する計畫である。

運輸の昂揚と改造

工業と農業の生産高激増、都市農村間に於ける物資取引進展、勤勞者の福祉及び文化の急速なる昂揚等は、運輸に對し巨大なる任務を課してゐるが、運輸の進

運輸が強力な機關車を多く採用することを示すものである。同様の現象は貨車の臺數とその積載能力の増大に於ても見ることが出来る。即ち車輛の増加よりも積載能力の方が遙かに大きい。これは從來の二車軸貨車よりも四車軸貨車の製造に重點を置くやうになつたからである。鐵道建設中注意すべきは、延長千四百米のバイカル・アムール幹線の建設でこれはザバイカルとアムール下流を聯絡し今日まで利用し得なかつた宏大なる地域を經濟生活に引き入れる。上述した諸方策は、國民經濟の一般的増大に對する鐵道運輸の立後れを清算するものである。

水運は第二次五ヶ年計畫に於て大いに強化され、水運網も増大する。既に第二次五ヶ年計畫の第一年には二百二十七料のベルモルスコ・バルチック運河の建設は完成され百二十七料のヴォルガ・モスクワ運河の建設は開始されてゐる。又第二次五ヶ年計畫の期間中に百料のヴォルガ・ドン運河は建設される豫定である。白海とバルチック海、バルチック海と黒

海、モスクワとヴォルガ河を聯絡する運河が完成すれば、ソ聯邦歐領の水運系統は強大なものとなるであらう。河川及び海上運輸の更新並に改造事業は盛んに行はれて、鐵道運輸の課題を少なからず緩和するであらう。自動車運輸も國民經濟上重要化して來たので道路建設も大なる計畫を有してゐる。航空運送も同様である。

技術的改造の完成と把握の問題

技術的改造事業を實現するためには新技術と新生産を把握せねばならぬ。この新技術の把握と新生産の成否は作業の實際的結果に依つて測定出来るものであり斯かる結果は先づ労働能率の増大と生産物の原價引下に反映される。第二次五ヶ年計畫に於て、工業の労働能率は六三%を増大、工業生産物の原價は二六%引下げることになつてゐる。

然らば工業及び他の國民經濟諸部門に於ける労働能率の増進は何を基礎として計畫されたかと云ふに、労働能率の増進は先づ國民經濟の完成されたる新技術が出来るのである。

建設計畫と生産能力の再分配

國民經濟の技術的改造の完成と勤勞者大衆の福祉及び文化の迅速なる昂揚は新建設を大いに進展せしめなくては實現し得ないのである。第二次五ヶ年計畫に於ては國民經濟の全部門に亘つて建設が行はれる。而して今回の建設計畫の特徴は、ソ聯生産諸力の正しい分配であつて、黨及び政府はソ聯邦領域に均衡のとれた分配をするやうに意を用ひてゐる。殊に原料及び動力源に工業を接近せしめ、時代後れの諸共和國及び諸州の經濟及び文化的昂揚を迅速ならしめ、都市と農村の對立を除去するやうにしてゐる。

茲に第二次五ヶ年計畫の新建設投資額

五ヶ年計畫

を基礎としてゐる。第二は、工業諸企業に於て利用されずなる労働時間の活用を基礎としてゐる、ソヴェト當局は工業内に於ける労働時間を七時間に短縮したが、實際の労働時間は五時間乃至五時間半に過ぎないので、利用されずなる時間が出来る。第三は、社會主義建設に對する労働者大衆の積極性の増大を基礎としてゐる。例へば社會主義的競争乃至突撃隊運動等は労働者の積極性の現はれで、これを基礎として労働能率の増進を行ふ。最後に指導者技術家熟練労働者の豊富な生産上の経験を基礎として労働能率の増進を行ふ計畫である。殊に熟練労働者技師及び技手企業指導者等は、第二次五ヶ年計畫に於ける技術的裝備の把握問題を解決せねばならぬ。

労働者及技術家に就き一言すれば、第一次五ヶ年計畫に於ては、四十六萬人の工場徒弟學校卒業者が國民經濟に加り、その内三十萬人は工業に従事してゐる。第二次五ヶ年計畫の期間に工場徒弟學校を第一次五ヶ年計畫と比較して見るに、第一次五ヶ年計畫に於ては五百五億留であつたが、第二次五ヶ年計畫に於てはその約二・三倍の千二百三十四億留である。斯かる巨額の資金を如何なる國民經濟部門に投資するかと云ふに、右金額の過半即ち六百九十五億留は生産手段及要具を生産する工業に投資して、國內工業化の基礎たる重工業の鞏化を保證する計畫である。

輕工業及食料品工業に對しては第一次五ヶ年計畫に於て三十五億留を投資したが、第二次五ヶ年計畫に於てはその四・六倍たる百六十一億留を投資して一般消費物を生産する工業部門の發展を保證する計畫である。

ソフホーズ、機械・トラクター配給所及びコルホーズ等の農業に對する投資額は、第一次五ヶ年計畫に於ては九十七億留であつたが第二次五ヶ年計畫に於ては百五十二億留である。この金額のうちにはコルホーズ自體が投資する額より含まれてゐない。

卒業の熟練労働者二百七十萬人が國民經濟に加はる豫定である。その内百七十萬人は工業に五十萬人は運輸に従事することになつてゐる。その外、農業に活動するトラクター及びコンバイン操縦士等を百五十萬人養成する。尙ほ自動車學校及び講習會に於て七十萬人の自動車運轉手が養成される。斯くして第二次五ヶ年計畫に於て約五百萬人に資格つけられた活動家が生産に参加することになつてゐる。

高等及び中等技術學校に於ける専門家の養成も第一次五ヶ年計畫に比し著しく増加する。即ち工業關係に於ては中等技術學校卒業者数は第一次五ヶ年計畫の六萬九千人に對し第二次五ヶ年計畫には十七萬二千人に、高等技術學校卒業者数は六萬人に對し十一萬二千人に、夫々増加する。運輸に於ては前者は二萬八千人に對し九萬七千人に、後者は八千人に對し二萬八千人に、農家に於ては前者は五萬七千人に對し十五萬三千人に、後者は二萬九千人に對し五萬四千人に夫々増加す

運輸に對する投資額は第一次五ヶ年計畫に於ては八十五億留であつたが、第二次五ヶ年計畫に於てはその三倍の二百六十三億留である。

工業諸部門の新開設

國民經濟諸部門は次の如く進展する。

機械製造業

第二次五ヶ年計畫に於て九十四の新工場が操業を開始する。第一次五ヶ年計畫の諸年に着手された諸工場が今回の計畫期間中に完成する。例へば十萬噸の製造能力を有するウラルの大型機械工場、十五萬噸の製造能力を有するクラマトルスキー工場、ウラルの化學器械工場、千八十臺の蒸機關車を製造するルガンスキー工場、蒸氣及びディーゼル機關車を各々五百臺製造するオルスキー工場、三百臺の電氣機關車を製造するカンスキー工場の建設は完成する。五百四十輛の四車軸貨車を製造するウラル車輛工場は一部操業を開始し、クズネツキー及びノヴォ・チエルカツスキー機關車工場、カヂンス

キー車輛工場の建設は進展する。河川及び海洋汽船の造船所建設は進展し極東のコムソモルスクに於ける造船所建設は完了する。モーター五萬臺を製造するウフアの工場建設は本期中に完了する。ゴリコフスキー自轉車工場は三十萬臺に擴張される。モスコフスキー自轉車工場は八萬臺に、ヤロスラフスキー工場は五萬積貨物自動車二萬五千臺に擴張される、三噸積貨物自動車を各々十萬臺製造するウヒムスキー及びスタリンググライドスキー自動車工場、五噸積貨物自動車を二萬五千臺製造するサマルスキー工場は本期中に建設される。自動車製造に關聯した諸工場も多く建設される。ハルコフに於ける百五十萬キロワットのターボゼネレーター工場は完成し、ウラルのトランスホーマー其他電機工場、各種工作機械製造工場も各所に建設される。化學工業、食品工業、木材製紙業に使用する各種の機械設備の製造工場も本期中に建設される計畫である。

電化

電化領域に於ては七十九の地方發電所の建設が行はれる。その内四十八發電所は新規建設である。モスクワ、レニングラード、ウクライナに於ける冷金根據地ウラル・クヅネツキー綜合工場等の工業地方に大發電所を建設する。主要工業中心地は相互に高壓線を以て結びつけ、電力の供給を完全に保證し一九三四年投資額は九九〇萬留を計上されてゐる。

石炭、石油

石炭業に於ては、投資額六六二萬留採炭計畫は九六二五〇千噸であり、その中ドンバス六〇百萬噸、クズバス一二二萬(一〇%の増大)、交通人民委員部四百萬噸の豫定、更に大堅坑を増加し、一億四千三百萬噸の産炭能力を有する百七十八坑の操業を開始する。

更に重要な石油業に於ては多數の製油工場を建設し、カスピ・オルスク、マハチカラ・ヴォロネヂ、ネフテタゲ・クラースノヴォドスク間に送油管を建設し、バクウ・バツーム間に送油管を建設し、

バクウ・バツーム間の送油管を擴張し、グロズヌイ・アルマヴィル、ツルドワヤードネプロベトログスク間に精油輸送管を建設する。一九三三年度採油豫定額は三〇六百萬噸、三三・二%の増加であり、アヅ・ネフチは三四・六%増加で二二二萬噸に上り、グロズ・ネフチは一八・八%の増加の豫定であり、掘進豫定は一、五百萬米である。ベンチン及燈油の分解蒸溜並に製油は、將來の工業發展テンボを促進するもので、該計畫の遂行は特に重要である。

スタハノフ運動

第二次五ヶ年計畫に於てソ聯當局が採つたスローガンはスタハノフ運動である。突撃隊運動、イゾトフ運動、社會主義競争に引續いて、次に採用されたスタハノフ運動は一九三五年八月三十一日に、ドレンバス炭坑夫アレクセイ・スタハノフが採炭機を以て六時間に石炭一〇二噸を採掘したことに始まる。これは例的な

記録であつた。これを切かけにして記録保持競争が開始され、彼等は相互に急激に追ひ越し十月末にはゴルロフカのカリーニン炭坑の坑夫アンドレイ・ゴルバチユキが六時間に四〇五噸の石炭を採掘して新記録を作つた。新記録保持は他の工業部門でも急速に開始され、遂にはソ聯全經濟部門を始め、軍隊、文化方面にまで及び一九三五年末には第一回スタハノフ主義者大會が開催されスタハノフ運動の波は全國を席捲するに至つたのである。

スタハノフ運動の發生、その性質に就いては一九三五年十一月十四日モスクワ市に於て開催された「第一回全聯邦スタハノフ労働者會議」に於けるオルジョニキーゼ氏の演説が問題の核心を傳へており、更にキエフ市の「スタハノフ主義者大會」に於けるパストイシェフ氏の報告はスタハノフ運動の基調を明示してゐる點で極めて特徴的である。左に要約しやう。

オルジョニキーゼ氏の演説要旨

五ヶ年計畫

本年度の重工業生産計畫は超過遂行の趨勢にあり、重工業問題は本日の議事日程の埒外に屬するものであるから、余は茲に其の決算報告を引證するのを避けた

我々は目下、極めて重要な問題に當面してゐる。スタハノフ運動がそれである。然らば、スタハノフ運動とは何か？

今日まで我々は採炭作業に鋭意努力を續けてきたのであるが、採炭機一臺につき六噸乃至七噸以上の成績をあげることが全く不可能であつた。外國では如何かと云ふに、ルール炭田では十四噸、英國では十一噸の採炭量をあげてゐる。ところが我がソ聯邦に於ける採炭標準は六噸であつた。然るに今ではソ聯邦の英雄となつてゐるスタハノフ君が、或る日採炭機一臺につき實に百二噸と云ふ採炭量を突然實現したのである。(一人で百二噸の採炭量をあげた如く考へてゐる人が偶々あるが、それは誤で、一作業班全部で百二噸である)スタハノフに次いで他のものが二百噸、三百噸、四百噸と云ふ採炭

量をあげ、遂に五百五十二噸の實績をあげるに至つた。何故右の様なおこつたのであらうか？ 實際に、總ての指導者が全くの白痴であつて、今日まで何事も理解しなかつたからであらうか？ これに對しては、勿論、否と答へざるを得ない。問題は、偉大なる歴史的意義を帯びた他の現象にあるのである。

一九一九年にレーニンは次の如く述べてゐる。

「労働能率は、究極に於て、新しい社會組織の勝利にとつて最も重要なものである。資本主義は、農奴制の下では未だ曾て見られなかつた様な労働能率を生み出した。しかして、資本主義は決定的な勝利を博し得るであらう。だが社會主義が培ひつゝある新しい、より一層高度の労働能率によつて資本主義は敗北の苦杯を喫するであらう。」

スタハノフ、ブスイギン、ヂュカノフ、クリヴォオノス等のスタハノフ主義者は、レーニンの教義を實現して、労働能率の

模範を垂れたものである。ドンバスの現
状を以てしては、一年間に一億七百萬噸
以上の採炭量をあげることは不可能であ
るが、スタハノフ式によれば右の数字は
倍化し得るのである。

然らば、何故今日までかゝる現象が現
れなかつたのであらうか？ これに對し
ては、我々が現在擁してゐるあらゆる可
能性を我々が今日まで知らずにゐたこと
を卒直に認めざるを得ない。

或る同志諸君は、お前は我々が盲目で
あると云ふのかと反問されるかも知れぬ
が、問題はそれと全く事が違ふ。我々は
立派な工業、立派な工場を建設した。然
して、それは我が黨、労働者、技師、經
営者等がなした仕事である。だが我々の
標準は、時代後れの教授や學者に學んだ
ものであるから、今では古臭くなつてし
まつたのである。彼等は、古い立後れた
技術から出發して、革命前の露西亞で教
育を受けたのである。

次にスタハノフ運動はソヴェート獨特
の現象であることを忘れてはならない。

をなした結果によるものでなくして、工
業及び農業部門の卓越せる人士が、技術
を立派に獲得し、新しい作業方法、労働
組織と生産の新しい方法を始めて發見し
たことによるものである。また、スタハ
ノフ主義者なるものは、單に技術を獲得
して高度の労働能律を齎しつゝある人々
の謂ではなくして、それは新しい人間、
即ち、如何にして技術を獲得し、如何に
活動し、社會主義の完全なる勝利のため
に如何に闘争するかを、廣汎なる我がソ
ヴェート國民大衆に身を以て示しつゝあ
る先覺者なのである。

スタハノフ運動は或る突發的な出來事
ではなくして、舊來の社會主義的競争の
發展に基づくものであり、然も其の最高
段階に位するものである。

社會主義的競争と突撃隊運動は幾多の
基本的段階を経過して發展してきた。即
ち、戰時共產主義時代の土曜労働が社會
主義的競争の最も初期の段階であるが、
其の後第一次五ヶ年計畫の時代には社會
主義的競争と突撃隊運動が廣汎に普及

資本主義世界の労働者が、ソ聯邦の勞
働者の如く働くことは決してない。資本
主義世界はスタハノフを生み出すことが
出來ない。若しも資本主義世界にスタハ
ノフ主義者が現れるとすれば、それはよ
くよくの變り者であらう。何故ならば、
労働能律を極度に高めるならば、尠くも
労働者の三分の一乃至は半数が職を失
ふ結果になるからである。

スタハノフ主義者が齎した労働能律の
増大は、ソ聯邦を強力にし、豊かにし、
それによつて労働者自身は賃金を大いに
増加し、富裕となり、自己の文化水準を
高めることが出来る。同時に、労働者が
失業の脅威におびやかされる様なことも
ない。スタハノフ主義者が多く輩出すれ
ば輩出する程、我々の期待する課題はよ
り速かに解決されるのである。

スタハノフ運動は如何に理解されたの
であらうか？ 誰もが即座にそれを理解
したのであらうか？ 私はこれに對して否
と答へざるを得ない。スタハノフ運動の
意義がまだよく徹底してゐない證左とし

し、次いでイゾトフ運動(次頁の註参照)が現れ
るに至つた。

然して、約二ヶ月乃至三ヶ月の間に文
字通り全産業部門を席捲せるスタハノフ
運動は、社會主義的競争と突撃隊運動の
最も高度の形態であつて、從來の社會主
義的競争形態の一切の特徴を吸収し、同
時に完全に生産技術を獲得して其の特徴
を豊かにしてゐる。

スタハノフ運動—それは、高度の社會
主義的労働能律を獲得し、生産品の質的
向上を期し、自己の進歩的な生産上の經
験を廣汎なる労働者・コルホーズ農民大
衆に傳達するための運動である。また、
自己の技術的知識を組織的に研鑽し、新
しいより一層完全なる作業方法、労働組
織と生産の新しい手段を絶えず探求する
ための運動である。

然しながら、スタハノフ主義者が最近
樹立した驚異的な労働能律の記録は、如
何なる方法によつて齎されたものであら
うか？
個々のスタハノフの主義者には、各自

て次の様な實例をあげることが出来る。
私が二、三の經營家に對して、彼等が
何を行ひ、また、スタハノフの方法を如
何に應用してゐるかと質問した際に、そ
の答へは次の如きものであつた。「我々は
スタハノフがらゐる生産計劃を遂行して
ゐるから、スタハノフ運動は我々には關
係のないことである。それは、炭坑夫の
問題である。」また我々一人の同志は、ス
タハノフ運動は労働組合の問題らしい
から、労働組合が宣傳すべきである、と
さへ極言した程である。

とまれ、スタハノフ主義者の新しい強
力な運動が今や職場からまき起つたが、
これはスターリンの指導の下に一路前進
への道を辿るであらう。

ポストイシエフ氏の演説要旨

スタハノフ運動は、既に明らかになら
記録樹立者を集めるための運動ではなく
して、我が全ソヴェート國民が眞實の社
會主義的労働能律を獲得するための強力
な運動の端緒である。同時に、スタハノ
フ主義者の記録は、一時的に極度の努力

銘々の作業方法があることは云ふまでも
ない。然しながら個々のスタハノフ主義
者に固有の作業方法を離れて考察するな
らば、スタハノフ主義者全體の作業にと
つて特徴的な一般的輪廓を若干見出すこ
とが出来る。

まづ第一にあげなければならぬのは、
労働時間を極度に充實することであ
る。

第二が職場及び作業方法の合理化を組
織的に行ふことである。

第三が職場の設備をよく整へることであ
る。

既に述べた如く、スタハノフ労働は、
社會主義的競争と突撃隊運動の最も高度
な段階であつて、スタハノフ主義者は現
代に於ける最も進歩的な人士である。然
して、目下我國の中心的な課題となつて
ゐるのは、これら先覺者の發議を、廣汎
なる労働者・コルホーズ農民大衆の運動
に推移せしめることである。

これがためには、スタハノフ運動の發
展に鋭意努力し、スタハノフ的作業方法

の普及を計らなければならぬ。また、この運動の發展を阻害する一切の障礙を驅逐しなければならぬ。

「註」 イゾトフ運動と云ふのは、自己一人のみが立派な作業能力をあげるばかりでなく、他人をも教導し、自己の水準に之を誘ふことを基調としたものである。これについては、スターリンの次の如き有名な言葉がある。「社會主義的競争の眞髓は、一般的な向上を達成するために、先覺者が立ち遅れた者に與へる同志的な援助である」

ではスタハノフ運動に依つてソ聯各經濟部門は如何なる影響を受けたか。その最も顯著な事實は、重工業部門、特に採炭業が下半期に至つて俄然、生産高を高めて、ウオロシロフ炭田やスヴェルドロフスク炭田の如きは既に十一月末に於いて同年度計畫を完全に遂行して了つた程である。

製鐵業に於ても、一九三五年末に於いてソ聯全體の日産高を、鋼塊四〇、〇〇〇噸、鉄鐵三、八、五〇〇噸と増加せしめたのであるが、それより一ヶ年の経過し

た一九三六年末には、日産目標は鋼塊六〇、〇〇〇噸、鉄鐵五〇、〇〇〇噸、鋼材四五、〇〇〇噸に増大せしめられた。

この目標に向つてスタハノフ運動、社會主義競争が展開されてゐるのである。スタハノフ運動の生産力増加に對する影響は疑ふべくもないが然しソ聯労働者内に於ける不満、特に最近に於ける不満は可なり増大して來てゐる様である。

幾分中傷、誹謗のそしりあるは免れないが或る外國批評家はスタハノフ運動に對して左の如き感想を述べてゐる。

「ソヴェートには、死物狂ひの癩癩を起し、恐らくは落付きを失つた人々の、深く且つ野蠻な暴力形態に立向ふべき地盤が、不可避的に造り出されるのである。政府の新聞はこれらの暴力行爲をさへ抹殺し、スタハノフ政策のすべての不備の現れを隠蔽しやうとしてゐる。だが斯る狡猾な機構の助けを以てしても、労働者大衆をして、スタハノフ政策が彼等にとつて善行美譽である旨を確信させることは出來ない。

否労働者階級の利害の觀點からすれば労働能率増進問題は、全く異つた方法で解決される。即ちそれは健康を破壊し明らかに力不相應である記録保持によつて労働者を驅り立てる方法によつてではない。又上層労働者と下層労働者とを對立させる方法に依つてではなく、廣汎な労働者大衆の一般的な物質的、文化的向上の道に依つてではない云々」

相繼いで起つたソ聯陰謀事件が、スタハノフ運動の指導の衰退、生産の無秩序に導いたことは明らかである。

例へば、工業生産に就いて見れば、重工業の生産高は昨年第一・四半期において前年同期に比して三八・三%の増大を示したのであるが、本年は僅かに九・五%の増進となつてゐるに過ぎない。本年度の重工業生産の増進率は一九・八%の計畫であるから第一・四半期に關する限りこの計畫は完全に蹉跌したと見なければならぬ。三七年度第一・四半期の重工業生産を昨年同期と比較すれば次の通りである。

	昨年比較(%)	年計畫に對する遂行率(%)
電力發生量	一一〇・五	三三・五
石炭	九七・四	三二・二
石油	九三・一	一九・五
油井掘鑿	八四・二	一四・六
コークス	九九・八	三三・三
鐵	一〇〇・七	三三・二
鋼塊	九五・四	三二・〇
鋼材	一〇八・六	三二・二
粗鋼	一〇七・一	三二・一
貨物自動車	一一二・二	一七・五
トラクター	三三・三	三三・二
機關車	九三・八	二四・七
貨車	七三・八	一七・三
工作機械	一〇三・五	二〇・五
硫酸	九四・〇	一五・五
硫	一〇〇・三	三二・〇

昨年中の工業投資は百三十五億留に上り、労働者の數も九・五%増加してゐるのであるから、生産は當然増進すべきであるのに却つて低下してゐる部門が尠くない。電力、鋼、粗鋼、其他二、三が昨年比し稍増大してゐるがその率は一〇%内外に止まつてゐる。

不振は重工業のみではない。例へば鐵道輸送に就いて見れば、積載貨車輛數は昨年夏期の一平均九萬輛臺から一時七萬輛臺に陥落したが、三月から漸く増加して四月に入り初めて昨年の状態に復歸した始末である。第一、四半期の食料品工業及輕工業は昨年同期に比し一一・一二%の増加率を示したがやはり計畫の一・九%内外を遂行したに過ぎなかつた。

製材業の計畫は第一四半期を通じ七二%しか遂行されず、月毎に悪化の傾向を辿つてゐる。春の播種状態も農業機械やトラクターの部分品の受渡不足から一時は非常に不良で、その進行は昨年の五分の一に過ぎない時期があつた。今年度秋期耕作の如きも昨年同期に比し著しい立後れを示してゐる。

建築事業の不振も看過することは出來ない。第一・四半期の建築計畫は七七・九%しか遂行されなかつた。これを年計畫に引直すと僅に一四%の遂行率に相當するに過ぎない。昨年同期の年計畫遂行率

は一八・九%、一昨年のそれは一七・五%であつたのだから、やはり著しい不振と云はねばならない。就中工場及發電所の建設が遅々として捗らず、年計畫の〇・六%乃至九・九%を遂行したに過ぎなかつた。

以上國民經濟の各方面に於ける頓挫は第二・四半期に入つても容易に改善されない。鉄鐵の生産高は概ね計畫の八四%乃至八七%で九〇%を突破することは稀である。鋼材に至つては時に七〇%に陥落することさへある。石炭は四月末政府の嚴重なる布告があつたにも拘らず、計畫の八〇%臺を往來してゐる、特にドンバスの立後れは甚だしい。

斯くの如く、合同本部事件、併行本部事件、ひいては最近のトウハチエフスキ事件はスタハノフ運動に一頓挫を來し、ソ聯邦は今や立上るか退くかの岐路に立ち到つたのであるがこの裏面には黨指導者が數年來經濟的活動に没頭して政治的方面を疎にしたこと、最近の經濟的建設の成功に浮かされて政治的警戒を怠つた

ことが重大な原因をなしてゐることは否めないものである。

第二次五ヶ年計畫実績

ソ聯邦は今年で第二次五ヶ年計畫を終へて、來年一月から第三次五ヶ年計畫に入ることになつた。第二次五ヶ年計畫の最初の豫定は既に去る四月迄に、つまり四年三ヶ月で遂行された。そこで政府は四月二十八日附の聯邦人民委員會を以てかねて準備中の第三次五ヶ年計畫の作成を終へ七月一日までに政府に提出する様國家計畫委員會(ゴスプラン)に命じた。

ソ聯邦は第一、第二の五ヶ年計畫に依つてアメリカ合衆國に次ぐ工業品となつた。第一次を國民經濟建設計畫と稱し第二次を國民經濟發展計畫と稱んでゐるのは面白い。建設から發展へ—その結果、ソ聯邦は工業生産高から云へばアメリカに次いでゐるが、トラクター、コンバイン、人造ゴムの生産、甜菜、小麦の收穫高では世界一になつた、そして機械製作、石油、銑鐵、製材、鐵道貨物輸送高ではヨーロッパ第一位を占め、電力、石炭

貨物自動車、鋼塊、アルミニウム、過燐酸、加里肥料の産額では米獨に次いでゐる。

五ヶ年計畫の一つの目標は技術的、經濟的獨立といふことであつたが、この點でも相當成功してゐる。五ヶ年計畫が始まつた一九二七—二八年當時、國內の需要に對する輸入の割合は頗る大きく、機械類では二割一分、トラクターでは六割六分一厘に達してゐたが、一九三五年には機械類は一分に減少し、トラクターの輸入は全く消滅して了つた。機械類は後れたロシアの工業を近代化し、謂はゆる生産力の擴充の上に缺くことの出来ないものであり、トラクターはソ聯農業政策(大規模共營農場)を進める上になくてならないものだが、それが何れも國産で間に合ふやうになつたのだから大した成功である。そのほか自動車の輸入は殆ど姿を没し、一九二八年には百%輸入に俟つてゐたアルミニウムの生産は需要の九割八分、同じくゴムは四割一分を國産で充たすやうになつた。

く主として機械工業と金屬加工工業がすばらしく發展したためである。そして石炭や石油の様に非常に重要な部門が當初の計畫に遙に及ばなかつた。

左に最近の資料に基き各産業部門計畫遂行状態を概記して見やう。

重工業人民委員部管轄工業

(イ)機械製作工業 重工業人民委員部管轄工業の生産額は一九三六年に三三億留に達したが、これは第二次五ヶ年計畫最終年度の生産額に略ぼ等しい。従つて價格から見れば四ヶ年で第二次五ヶ年計畫は遂行されたわけである。一九三七年年度の計畫は四〇六億留であつて、計畫課題を七四億留超過する筈であつたが、本年上半期の成績はかゝる見透を中斷してしまつた。重工業のうちで好成绩の部門は機械製作工業、金屬加工工業である。この兩部門の第二次五ヶ年計畫最終年度の課題は一四二億留であつたが、既に一九三六年一七〇億留の生産額を挙げた。本年は二一〇億留となる豫定で、従つてこの兩部門だけで約七〇億留の超過

かやうにソヴェート經濟は僅々數年間に驚嘆すべき進歩を遂げたが何としても急務の建物の感を免れない。第三次五ヶ年計畫ではその仕上げに著手することになるのであるがその前に一應第二次五ヶ年計畫の結果を検討して見やう。

第一に第二次五ヶ年計畫は去る四月迄に遂行されたと云ふがこれは工業生産高が最初の豫定に到達したと云ふだけのことでその内容に立ち入ると種々の缺陷がある。

先づ工業生産を二つに分けて、謂はゆる生産力の擴充に宛てられる生産財と國民生活の改善に宛てられる消費財とに分類すると第二次五ヶ年計畫では消費財の方が生産財よりも急速に増加する筈であつた。ところが後者の生産高は三倍に増加したが、後者は二倍にしか増加しなかつた。今年の計畫でも最初の豫定では消費財の方は四百七十二億留、生産財の方はそれよりも少く四百五十五億留の豫定であつたが、實際は前者は四百三十億留しか計上されて居らず、後者は六百億留

遂行を見る筈であつた。しかし機械製作工業の若干の部門は甚だ振はなかつた。

織維機械、製紙機械、印刷機械等々、即ち主に輕工業に關係ある機械製作部門である。クヴィリングゴスプラン副議長その他のソ聯邦の指導者は輕工業の不成績を當事者の怠慢に歸し、更にトロツキスト・スパイの妨害に歸するのであるが、輕工業で使用される機械類の生産が不成績であるといふ事實を看過してゐる。これに反し、アルミニウムの如き飛行機製作にとつて最も重要な生産部門は躍進に躍進を續け、三七年上半期には昨年同期に比し、二一・四%の増加を示してゐる。

機械製作工業において注目すべきはトラクター生産は次の様に急速な發展を遂げつゝある。

トラクターの種類	一九三五年の生産高	一九三六年の(豫想)生産高	一九三七年の(豫想)生産高
無軌道式	二〇,〇〇〇	二九,〇〇〇	五〇,〇〇〇
車輪式	九,〇〇〇	一四,〇〇〇	二一,〇〇〇
深耕式	二,〇〇〇	三,〇〇〇	五,〇〇〇
計	三一,〇〇〇	四六,〇〇〇	七六,〇〇〇

總臺數から見るとトラクター数は減じてゐるが、馬力から見ると次の如くなつてゐる。(單位千馬力)

一九三五年	一九三六年	一九三七年
(豫想実績)	(計)	(實)
二、三六・五	二、六〇〇・四	三、五九〇・〇

大體において馬力数は増加してゐる。こゝで目につくことは先づ、一九三七年における無軌道式トラクターの激増と車輪式トラクターの激減である。兩者の比率は一九三六年を境として全く顛倒してゐる。これはスターリンググライド・トラクター工場及びハリコフ・トラクター工場が車輪式トラクターの製作から無軌道式トラクターの製作に移つたことに起因する。然らば何故かゝる移行が行はれたか。表面的には次の様な理由が擧げられてゐる。

一、無軌道式トラクターはどこでも通行が出来、氣候が悪い時でも作業が出来従つて春の耕耘を早く始めることが出来る。
二、燃料使用は二割少くてすむ。

しかし、無軌道式トラクターが軍事的目的に使用されることは周知のところである。それは就中、重砲牽引のために用ひられ、またタンクへの改装が極めて容易である。トラクター工場の改装はかゝる見地から考察されなければならない。加之、トラクター工場の一部は既に専ら赤軍の需要に應じて作業してゐる。またタンクその他の兵器の製造のためにトラクター製造工場を急速に改装する準備が着々進められてゐる。

かつてクレムリンで横範的トラクター操縦者大會が開かれたとき、或る操縦者は敢然と次の如く聲明した。「我々は政府の命令一下、直ちにトラクターからタンクに乗り移り、敵を撃滅するであらう」と。これを以てしてもトラクターとタンクとの關聯が判明し、ソ聯邦がトラクター生産によつて同時に軍備を充實してゐることが知られやう。

(ロ) 化學工業 化學工業の第二次五ヶ年計畫の生産課題は四〇億留であるが、本年は四七億留に達する見込である。全に比し〇・九%の生産低下を來しゐる。冶金業は本年に入つて全般的に不成績であり、本年度計畫も第二次五ヶ年計畫課題も遂行が困難である。

機械製作工業の好成績と對比して見て、今後冶金業は大きな問題を投げけるだらう。現在の如き不成績を續ける限り、機械製作工業は原料の不足に當面せざるを得ないだらう。こゝには生産部門間の不均衡が明瞭に現はれてゐる。最近、ソ聯邦中央執行委員會の決定により、重工業人民委員部から機械工業人民委員部が分離した。これと同時に、交通人民委員部カガノヴィチが重工業人民委員に就任した。彼の組織的手腕(それは遠慮會釋のないテロと結びついてゐることは、鐵道の從業員の頻々たる銃殺が示してゐる)は既に定評のあるところであり、國民經濟の言はゞ瘤であつた鐵道運輸の業績は彼の交通人民委員就任以來、面目を一新した。彼が重工業人民委員に任命されたことはこの部門が重大な缺陷を有することとを證明するものである(それは次に述べ

體としては甚だ好成绩であるが、個々の部門を見ると生産課題を遂行して行けない部門も少くない。

例へば、硫酸は一九三七年の五ヶ年計畫課題によれば二〇八萬噸生産される豫定であつたが、一六六萬六千噸しか生産されない見込である。

磷酸肥料の生産課題は三〇〇萬噸であるが、本年は二五〇萬噸しか生産し得ない見込である。また加里曹達は七〇萬噸の課題であるが、本年は五〇萬噸しか生産し得ない見込である。

しかし合成ゴム、アニリン染料等々の生産は好調を示してゐる。

合成ゴムの如きは、三十七年上半期に於て、昨年同期に比し八二・九%といふ目覺しい躍進を見せた。これは主に自動車工業の要求に應じたものである(世界のゴム生産高の八割は自動車工業において使用される)。アニリン染料は軍事化學部門として最も必要なるものゝ一つである。ソ聯邦においてアニリン染料生産が極めて好成绩を示してゐることは、この

る石炭、石油産業——これは重工業人民委員部の管轄に屬する——にも存する)。彼の手腕がどの程度まで業績不振を恢復するか、交通において遺憾なく發揮された彼の力が重工業においても刷新的氣運をかもし出すか否か、甚だ興味ある問題である。

(三) 石炭、石油、セメント 第二次五ヶ年計畫の最終年度の課題は採炭——一億五千二百萬噸、採油——四千七百萬噸、セメント——七百五十萬噸であるが、これらの部門は餘りよい成績を擧げてゐない。三十七年度課題は石炭一億五千萬噸、採油三千四百五十七萬噸、セメント七百四十萬噸となつており、何れも第二次五ヶ年計畫課題より少い。採油の如き三十七年度課題は第二次五ヶ年計畫課題より千二百五十萬噸も少い。しかも本年上半期の成績を見ると、昨年同期に比し、採炭は〇・三% (ドンバスは一・四%)、採油は一・一%、セメントは七・八%の減少を示してゐる。第二次五ヶ年計畫よりも低い本年度計畫を満足に進行するには、下半

方面においてもソ聯邦の軍備が着々進行してゐることを物語つてゐる。

(ハ) 冶金業 第二次五ヶ年計畫最終年度における鋼塊生産課題は一、七〇〇萬噸、三十七年度計畫は二、〇〇〇萬噸であるが、上半期成績は極めて悪く、昨年上半期より僅か一〇・四%の増加を示してゐるにすぎない。従つて三十七年度計畫も第二次五ヶ年計畫も遂行が困難であらう。鋼塊は本年度課題を遂行するには下半期に於て二八・一%の生産増加を上げなければならない。

延鐵の第二次五ヶ年計畫課題は一、三〇〇萬噸、三十七年度計畫は一、四〇〇萬噸である。上半期には前年同期に比し六・一%生産を増してゐるが、第二次五ヶ年計畫も本年度計畫も遂行が困難である。本年度計畫を遂行するには下半期の生産増加は四三・七%でなければならぬが、この成績を擧げることは絶望であらう。現在は八割見當の計畫遂行率を示してゐる。

鉄鐵の上半期の成績は悪く、昨年同期

期において石炭は三五%、石油は二四・六%、セメントは五三・二%の生産増加をはからなければならぬ。ところでかかる可能性は全然無いと断言出来る。従つて、この三つの部門の第二次五ヶ年計画は失敗に歸したと言へる。

採炭、採油の如き重要な生産部門の發展が停滞、否、逆行してゐることは重大な問題である。何故ならこれらの部門は燃料、動力の供給源であり、冶金業、鐵道運輸、機械化農業、航空事業等々に對して重大な脅威を與へるからである。石炭の不足、従つてコークスの不足は本年の冶金業の成績に直接にひびき、後者の發展に由々しき障碍を與へた。石油業の不振は産業的に見ても甚だ重大である。トラクター、自動車、飛行機、軍艦の如き、動力燃料として石油を必要とするもの、生産は周知の如く急激に發達してゐる。トラクターの如きは第二次五ヶ年計画開始以來、その馬力数が六倍餘となりM.T.Sのコンバイン数は四〇倍以上に高まつた。然るにソ聯邦の石油産出は最近

は殆んど停滞に近い状態を示し、本年上半期の如きは逆行さへ示したことは前にも述べた。ソヴェート石油の外國輸出が年々減少しつゝあるのはかゝる點に根據をおくのである。(註)

(註) ベンジン及びリグロインの輸出は左の如く減じてゐる。

一九二九年	一、〇七、四四〇噸
一九三〇年	一、四三、五八六
一九三一年	一、六五、〇七四
一九三二年	二、〇七、五五四
一九三三年	一、五五、九六六
一九三四年	一、二九、九三六
一九三五年	六五、二五八

(國民經濟中央統計局發行、ソ聯邦統計年鑑一九三六年度版)

即ち一九三二年度を頂點として輸出は徐々に減じて來たが、一九三五年には激減し、一九三二年の約半分となつた。ソ聯邦當局は輸出の減退が外國市場の不利な情勢によると言つてゐるが、實際の原因は石油産業の停滞的狀態にあることは明らかである。

かくて、石油産業の不振はソ聯邦の軍

備に對しても産業に對しても、絶大の脅威を與へてゐる。ソ聯邦産業指導者が石油業の危機的狀態に憂慮してゐるのも當然のことである。

石油産業について序に述べておくべきことは、産油地がコーカサスとか北樺太とかの邊境地に位し、その輸送、配給に多大の費用を要するのみならず、軍事的に見て甚だ不利なことである。かゝる窮状を打開せんとしてソ聯政府はエンバ、東部パンキール油田の開發に努めてゐるが、豫定通りに行つてゐない。エンバ油田の埋藏量はソ聯邦地質學者の發表によると約十億萬噸に達するが、油田が散在してゐるため開發上重大な障碍であつて、バクー油田の如く生産加工を集中的に行ふことが出来ない。

最後に、セメント生産の不振について言へば、それは今後、新建設に對して重大な障碍を與へざるを得ないであらう。

輕工業

元來、第二次五ヶ年計画の目標の一つは消費資料生産の擴張であつた。第一次

五ヶ年計画中、重工業建設のため塗炭の苦しみを嘗めた民衆に生活の安定を與へるのが、少くとも表面上の目的であつた。モロトフは一九三三年に次の様に述べた。「我々は國民の基本的日常必需品及び食糧の供給を第二次五ヶ年計画中に、第一次五ヶ年計画の少くとも二、三倍とせねばならない」と。これがソ聯政府の・民衆への・公約であつた。

しかし第二次五ヶ年計画期間中における國際情勢の逼迫はソ聯邦に強行的軍備擴張を迫つた。従つて輕工業を盛んにして民衆に消費品を充分に供給するといふ約束にも拘はらず、輕工業は遙かに豫定計画を實現し得なかつた。

輕工業人民委員部管轄工業の第二次五ヶ年計画の課題は一九五億留であつたが、三七年度の生産豫定は一五七億留にすぎない。従つて輕工業は全體として(總生産額・留價格)到底第二次五ヶ年計画を遂行し得ない。次に個々の生産部門の計画遂行状態について考察して見よう。

五ヶ年計画

第二次五ヶ年計画による一九三七年の生産課題

木綿織物	七億三千五百萬米	四億三千五百萬米
亞麻織物	九萬六千噸	九萬噸
メリヤス	一億八千萬足	一億七千萬足

右の資料の示す如く、何れも第二次五ヶ年計画を遂行し得ない。しかもこの豫想は三七年頭初のものであつて、上半期の成績はこれを覆し、一層思はしからざる成績を示してゐるのである。ブラウダ紙(七月十二日)によれば、ソ聯輕工業界の上半期成績は悪く、多くの生産部門は上半期計画を遂行し得なかつた。三七年上半期は三七年同期に比し、左の如き生産低下を示した。

夏衣織物	六%
ハンケチ(木綿)	一九%
亞麻シャツカル織物	三六%
半白亞麻布	二八%

その上、輕工業生産物の質を考慮して見るとき、事態は一層悪いことがわかる。先にソ聯邦の生産品の質の問題を考察したとき述べた如く、綿布、亞麻布の

二流品、屑物は約二割に達し、皮靴の如きも二割五分位は二流品及び屑物である。ソ聯邦の人口を約一億七千萬人とすれば、靴は二流品、屑物を考慮すると、到底一人一足もあたらぬ。輕工業人民委員リュビエーモフはかゝる不成績のために、最近罷免された。

食料品工業

輕工業は總價格から見ても、個々の數量から見ても、第二次五ヶ年計画の遂行に全く失敗したと結論することが出来る。

食料品工業は最も好成績の工業の一つであり、食料品工業人民委員ミコヤンの手腕がそこにはよく現はれてゐる(序に述べておくが、彼は最近、ソ聯邦中央執行委員會副議長の要職に就き、食料品工業人民委員を兼任してゐる)。

食料品工業の第二次五ヶ年計画の生産豫定は一一五億留であるが、三七年は一・二六億留に達する見込である。砂糖の生産は第二次五ヶ年計画課題によれば二五〇萬噸、本年度計画は二六〇萬噸であり

肉はそれ、七五萬セントネル及び八〇萬セントネルである。しかし三十七年上半期の成績はこゝでも豫定以下であつた。

即ち、上半期は課題の九七・五%、全計畫の四二%（昨年同期は四五・八%）にすぎなかつた（ザ・ビシチエヴユ・インドウストリユ七月十六日）。不振の部門は植物油、石鹼、巻煙草、罐詰等々である。

最近は牧畜の状態も改善され、また本年は甜菜等の工業的作物が大豊作であるから（ブラウダ紙）、今後、食料品工業は益々好成績を示すであらう。

この部門は軍事的に見ても極めて重要であるから、ソ聯邦政府がその計畫遂行のために全力を注ぎ、上半期の若干の不成績を克服するために凡ゆる手段を講ずることは疑ない。

林業人民委員部管轄産業

用材調達、薪調達、用材搬出、挽材、製紙等、林業人民委員部管轄のあらゆる産業部門は何れも不成績である。

林業の機械化は非常に立ち遅れており、木材調達は遙かに計畫に及ばず、そ

客運輸）であるが、本年は四、九三〇億キロ噸に達する見込であり、遙かに計畫を突破する見込である。

かゝる好成績を挙げ得たのは、就中、能率の向上による。汽關車、車輛の行程、列車の時速等々の向上によるのである。

貨物機關車の一日の行程は第二次五ヶ年計畫によると一八〇料であるが一九三六年にはそれを遙かに突破して二三三料となつた。本年は更に二六〇料となる見込である。また貨物車輛の一日の行程は第二次五ヶ年計畫によると一二五料である。然るに一九三六年には一四〇料に達し、本年は一五〇料に達する見込である。貨物列車の時速は第二次五ヶ年計畫によると一七料であるが、一九三六年には一八料であつた本年は二〇料となる豫定である。

鐵道運輸は以上の如く好成績を擧げてゐるが、その反面に故障、事故の頻發の如き消極的方面をも持つてゐる。ソ聯邦當局者は事故が起ると直に「トロツキスト」「日獨スパイ」の陰謀に歸し、「陰謀

れがまた挽材の成績にもひびいた。挽材の計畫は九〇%しか遂行されない見込である。

製紙業も不成績である。第二次五ヶ年計畫の生産課題は洋紙百萬噸であるが、せいよ、九十五萬噸位しか生産されないものと見られてゐる。

従つて、林業人民委員部管轄産業は第二次五ヶ年計畫の遂行に失敗したと言へる。

鐵道運輸

第二次五ヶ年計畫の前半二年間に於て、鐵道運輸の成績は極めて悪かつた。

ところが一九三五年にカガノウイチが鐵道人民委員に就任するに及び、彼の不良分子一掃方針、テロ政策の徹底、スタハノフ運動の喚起によつて俄然業績が好轉し、現在では食料品工業と並んで模範的な産業部門となつた。本年上半期及び現在、計畫を一〇〇%遂行してゐる部門は殆んど見られないが、鐵道運輸のみはひとり一〇〇%否、屢々それ以上の計畫遂行率を示してゐるのである。現在、一日

者」に極めて嚴重な處罰を加へる。本年五月、六月の極東だけでも約百五十名の鐵道従業員が處罰されてゐる。最近もイルクーツク市で鐵道従業員が三十四名銃殺されてゐる。

事故の頻發は幾分かは所謂「トロツキスト」の陰謀に起因するかも知れない。元來鐵道従業員組合は傳統的に右翼的傾向を持ち、スターリン派の政策には滿腔の支持を示してゐるわけではない。國際的危機が急激に尖鋭化し、ソ聯邦の鐵道運輸が軍事的に見て甚だ重要ながため、ソ聯邦政府はかゝる右翼分子を一掃せねばならなくなつたのである。鐵道従業員幹部は國を愛し、事業に熱心で、義務を良心的に遂行するものでなければならぬ。従業員は鐵道運輸に潜入せる賣國奴を暴露し放逐せねばならない。交通人民委員部機關紙「グドーク」論説、八月二十一日。これが鐵道當局の方針である。

しかし、鐵道事故は單に「トロツキスト」の仕業によるのみではない。それは

の荷積車輛、荷卸車輛數はそれ、十萬輛に達せんとしてゐる。本年七月三十日は鐵道従業員デーをソ聯各主要都市に於て盛大に舉行し、従業員を益々ひきしめ成績を向上せしめんとはかつてゐる。元來、鐵道運輸は國民經濟上重要な位置を占め、國民經濟の生命を制するほどの重要性を持つてゐる。殊にソ聯邦の如く領土が廣大で、産業・住民地點が大なる距離を距て、散在してゐる國においては尙更らのことである。また鐵道運輸は軍事的に見て極めて重要なことは明白である。

さて、第二次五ヶ年計畫中、鐵道運輸は如何なる發展を遂げたであらうか。

第二次五ヶ年計畫最終年度の貨物運輸噸數は四億七千五百萬噸の豫定であつたが、既に昨年は四億八千四百萬噸に達し計畫を遙かに突破した。三十七年は五億六千五百萬噸となる豫定であつて、第二次五ヶ年計畫を一八%超過するであらう。次に料噸數から見ると第二次五ヶ年計畫の課題は四、一〇〇億キロ噸（貨物、旅

機關車の修繕が終了しないうちに使用することに起因してゐる。修繕事業が如何に不活潑で停滯してゐるかは次のことからも知れる。即ち、本年八月上半には、九百九十八臺の機關車を修繕すべき計畫であつたが、實際には二百九十一臺しか修繕されなかつた。計畫遂行率は二九・%である（「グドーク」八月二十一日）。かくの如く修繕が進まない以上、修繕不充分的機關車が使用され、それがまた事故の原因をなすのである。

次に簡単に極東における最近の鐵道敷設について述べよう。元來、ソ聯邦の一切の建設は濃厚に軍事的色彩を持つものであるが、鐵道敷設は殊にそうである。軍隊、物資の急速なる輸送、敵國の包圍——かゝる立場が常に鐵道敷設の際に貫かれてゐる。

左に最近の主なる敷設線を列挙しよう。タイシエツトからシベリヤ本線と分離し日本海沿岸のソヴ・ガーワニに至るバム鐵道（バイカル・アムール鐵道）の工

事は着々進捗し、一九四〇年には全線開通の豫定である。

バム鐵道とシベリヤ東部線(アムール線)とを連絡する支線、其他國境に接する黒龍江沿岸のトーチカ構築地帯を連結する各種支線も最近着々完成し、運轉が開始されてゐる。

極東新線開通

オリガ—フルマノウオ間(五〇軒、未完)

ソウ・ガーワニ—コムソモリスク間(三〇〇軒、一部開通)

コムソモリスク—哈府間(三〇〇軒)

マンゾフカ—ツリログ間(一五〇軒)

ウスチニマン—ピラ間(二五〇軒)

アルハラ—ミハイロフ間(七〇軒)

ブレヤ—ライチノ間(七〇軒)

ボチカレウオ—ブラゴエ間(一〇〇軒)

プラトスク—ツル間(二〇〇軒)

この外、バム鐵道とシベリヤ東線の間

間に並行するウスチクトウ—チチユフ

キ間(二〇〇軒)、チチユフキ—モガチ

ヤ間(六〇〇軒)を結ぶ延長九〇〇軒に亘

る新豫定線が計畫されてゐる。

これらの鐵道が重大な戦略的意義を持つことは識者の何れも認めるところである。

農業

ソ聯邦政權にとつて、農業・農民問題は最も困難な問題であつたし今もさうである。個人の農業經營を許して置く限り絶へず富農的要素は再生産される危険がある。そこで農業、農民問題の解決は農業の集團化、機械的、近代的農業への移行、農民の小所有者の傾向の打破に求められねばならなかつた。ソ聯邦が第一次五ヶ年計畫に於て強行的に重工業の創設を行つたのも、一つは農業集團化に必要な手段——トラクター、コンバイン等々を生産するためであつた。

農業の集團化は第一次五ヶ年計畫中から着手され、その最終年度に農家總數の六一・五%が集團化された。ところでかゝる集團化は第二次五ヶ年計畫に於ても繼續され、本年一月一日には九二・四%の農家がコルホーズに加盟してゐる。個人農の播種面積は〇・八%にすぎない。

集團化と並んで農業の機械化も躍進してゐる。即ち、機械トラクター配給所は現在コルホーズの九〇%に奉仕してゐる。トラクターは一九三七年だけでも約八萬臺生産される。本年末までにその總馬力は九百四十萬に達する見込である(第二次五ヶ年計畫によると八百二十萬馬力)。コンバインの數は本年八月一日に九萬六千三百臺に達してゐる(アラウダ紙)。

農業の集團化、トラクター、コンバインの普及につれ、農業作業は著しく機械化されてゐる。

左に作業機械化率の統計を掲げる。

第二次五ヶ年計畫の課	一九三七年度の計畫
トラクターによる耕耘及開墾	八〇・〇〇
トラクターによる粒穀の取入	六〇・〇〇
コンバインによる粒穀の取入	三〇・〇〇
機械による打穀	八〇・〇〇

右の表によつて機械化が主なる農業作

業において支配的地位を占めてゐることがわかる。これはソ聯邦の農業の大きな強みである。しかし、それと同時に、ソ聯邦の農業は二重の依存關係に入りこんだ。一つは石油(及びその加工品)の採取への依存、もう一つは石油の輸送配給への依存である。もしその一方か、又は

両方が斷絶すれば、ソ聯邦の農業は大打撃を蒙り、従つてソ聯邦の食糧基礎も

危殆に瀕するわけである。(Dr. Edwin

Hautan, op. cit., S. 126) 現在、石油産

業が停滯状態にあること、また戦時にお

いては軍事的方面に向けられる石油(及

びその加工品)の比率が急激に増加する

ことを考慮すれば、かゝる見透はあなが

ち無根據のものではない。

ソ聯邦各新聞を綜合して考察して見る

と、本年は相當の農作である。最近の新

聞は各地からの收穫豫想報告を掲げ、「近

年稀なる豊作」とか、「老人もこんな豊

作を経験したことがない」とかいふ見出

しで、幾多の報道が掲載されてゐる。國

民經濟中央統計局長ヴェルメンチェフ

五ヶ年計畫

が本年八月二十一日のブラウダ紙に發表したところによれば、本年の收穫は七十億ブードに達する見込である。スターリンは三、四年のうちに穀物生産高を七十億、八十億ブードに高めよ、といふ指令を出したが、氏の計算にして誤なくんばこの指令は本年既に實現されたわけである。たゞ刈取状況を見ると圓滑に行はれてゐない。刈取は遅々としており、コンバインが昨年より激増してゐるにも拘はらず、昨年より刈取のテンポがにぶつてゐる。そのため、一ヘクター當り三センチネル位の損失を蒙るコルホーズが少なくない(八月二十七日アラウダ紙)。これは收穫の三分の一乃至四分の一の損失である。

工業的作物の成績は第二次五ヶ年計畫から見ると思はしくなかつた。甜菜、植物油原料作物など然り。たゞ棉花のみはコルホーズ農民のスタハノフ運動により好調を示し、昨年既に第二次五ヶ年計畫の課題を遂行した。本年は工業的作物、殊に甜菜は大豊作であつた。

かくて農業は五ヶ年計畫中、暗澹たる状態に置かれ、殊に昨年の如きは多くの地方が凶作に見舞はれた程であるが(これは最近のブラウダ紙も公然と認めてゐる事實である)、本年に至つて始めて光明をみとめるに至つたと言へる。

ソ聯邦經濟の世界的地位

第一次、第二次五ヶ年計畫による經濟建設の強行的遂行はソ聯の經濟能力を急激に向上するとともに、ソ聯經濟が世界に於て占める地位を高めた。勿論個々の生産物の質に於て、また經濟の全體的効果においてソ聯邦は未だ遙に先進資本主義國に及ばないものがある。例へばトラクターやコンバインを取つて見ても、その利用能率は誠に微々たるものがある。本年は豊作でその收穫も大いに期待されてゐたにも拘はらず、刈取成績が昨年より約一割位悪いといふのも、コンバインの低い作業率に由来することが大であるから、例へばトラクター數が歐

洲一だと言つても、それはあくまで條件的に解釋すべきものである。従つて左の表を見る場合もかくの如き考慮を忘るべきでない。

△世界工業の生産高に於けるソ聯邦の順位

Table showing industrial production rankings for the world, Europe, and the Soviet Union from 1913 to 1927. Columns include year, world, Europe, and Soviet Union. Rows list various industrial products like electricity, coal, oil, iron, steel, etc.

如き近代的な重要生産の躍進は目覚ましいものがある。右表を信すべきものとすればソ聯邦は今や殆んど凡ゆる重要工業品の生産において、世界第二、歐洲第一、即ちアメリカに次ぐ強國となつてゐるわけである。

階級的な人口動態(單位千人)(家族を含む)

Table showing population dynamics by social class (proletariat, workers, etc.) from 1913 to 1934. It includes absolute numbers and percentages for various groups.

階級構成の變動

五ヶ年計畫の遂行はソ聯邦に大工業を發展させた。それに應じて人口の階級構成も急激に變化せねばならなかつた。

即ち革命以前に於ては農民が人口の壓倒的部分を占めてゐたが、現在は工業プロレタリアート、農業プロレタリアート(ソフホーズ従業員)が著しく増加し、農民とプロレタリアートとの比率に一大變化が生じた。

前頁の表によると、工・農プロレタリア(勤務員、技術者も含む)は世界大戦前の一九一三年には全人口の一六・七%であるが、第一次五ヶ年計畫開始年度たる一九二八年には一七・三%となり、第二次五ヶ年計畫の第二年目たる一九三四年には二八・一%に増加した。即ち全人口の約三割近くがプロレタリアとなつたのである。その數を減じた主なる階級はブルジョア(地主、都市ブルジョア、商人、富農)及び個人農である。前者は一九一三年には一五・九%を占め、殆どプロレタリアの數に近かつたが、一九三四年

五ヶ年計畫

Table showing the total number of workers and employees from 1924 to 1937. It lists absolute numbers and percentages for different years.

労働者數の増加は右の資料によつて判明する。

第一次五ヶ年計畫中(一九二八—三二年)労働者數は約倍加した。新雇傭労働者の大多數は農民出身であつた(その數約八百五十萬)。約百五十萬は曾て雇はれたことのない女子であつた。労働者増加數は第二次五ヶ年計畫の全期間を通じて着々増大し(約六百萬人)一九三七年には二千六百三十萬人に達する見込である。労働者及び勤務員總數は一九二四年の八百五十萬人から一九三七年の二千六百萬人へ、即ち三倍以上に躍進し、大工場労働者數は同期間に二百萬人から約千萬人へ、即ち約五倍に増加した。一九三七年の大工業労働者は一九二四年における全労働者及び勤務員數より遙に多い。このことは、ソ聯邦の労働者の大部分が所謂一代プロレタリアであつて、その

風俗、習慣、思想に於て多分に農民的な小所有者的なイデオロギーの残滓を持つてゐることを意味する。彼等は「人間意識内の資本主義的残滓を多分に持つものであり、屢々反ソ分子活躍の地盤となつてゐる。」

一九三三年度には婦人労働者数は六百八十二萬に達し、全従業員數に對するその比率は二九・九%に達した。即ち婦人労働者は總従業員数の三割を占めてゐるわけである。婦人の生産参加はその後も依然として續行されたから、現在は、その比はもつと多いであらうと思はれる。

スターリンは新憲法草案報告演説に於て、ソ聯邦に、労働者、ホルホーズ農民インテリゲンチヤの三つの社會層のあることを指摘し、それらが何れも資本主義國のそれと根本的に性質を異にすることを述べた。ソヴェートの労働者階級は搾取から解放された全く新たな階級で、人類史上正にその類例を見ない。「ソヴェートの農民は全く新たな農民で、人類史上正にその類例を見ない。」(ソヴェー

トの)インテリゲンチヤは今や全く新たな労働者インテリゲンチヤとなり世界どこにもその類例を見ない。」
ではこれらの社會層間の關係は今後どうなつて行くであらうか。彼は次の様に答へてゐる。

「かゝる變化は一體何を意味するか？
第一に労働者階級と農民間、これら階級とインテリゲンチヤ間を劃する線が次第に消滅し舊來の階級的排他性が姿を消しつゝあること、これら社會層間の距離が愈々狭められてゐることを意味する。第二にこれ等社會層間の經濟的矛盾が次第に解消しつゝあることを意味する。第三にこれ等社會層間の政治的矛盾が次第に解消しつゝあることを意味する。」

工業國化の程度

兩次の五ヶ年計畫は工業生産物を著しく増加させた。従つて總生産額における農業生産額と工業生産額との比率に或る變化が生じた。五ヶ年計畫が開始された一九二八年に工業生産額と農業生産額と

の比率は四八%及び五二%で農業生産額の方が優勢であつた。然るに第一次、第二次五ヶ年計畫中に次の如き變化が生じた。

工業		農業	
一九三二年	六・八%	三三・二%	
一九三四年	九・九%	三二・一%	
一九三五年	一〇・三%	一九・七%	
一九三六年	一〇・二%	一九・八%	

右の表によれば、工業生産額は八割以上、農業生産額は二割以下であつて、一見、工業生産額が壓倒的であると思はれる。かゝる資料を基礎としてスターリンはソ聯邦が農・工業國から工・農業國へ轉化したとか、從來の農業中心國から工業中心國に轉化したとか結論してゐる。しかしかゝる結論は早計に失しないだらうか。何故なら、留價格を以て表現された生産額は、國民經濟において占める兩者の比重を正しく反映しないからである。留價格で表はす場合、工業品は極め

果を著しく減じてゐる。この跛行性は先づ自動車、トラクター、飛行機等々の激増と石油産業の停滞的狀態、躍進しつゝある機械製作工業と停滞的冶金業及び冶金業と石炭産業との間に見られ、また各部門内部にも見られる。

しかしかゝる否定的方面を有し、第二次五ヶ年計畫の遂行に於ても好成績を示さなかつたとは言へ、ソ聯邦工業は近年着々と經營狀態を改善し、労働生産性(労働者一人當りの生産高)も向上しつゝある。第二次五ヶ年計畫中に労働生産性は次の様に高まつてゐる。

一九三三年	八・七%
一九三四年	一〇・〇%
一九三五年	一五・〇%
一九三六年	二二・〇%

(一九三七年においては一九・五%増加の豫定であるが、上半期の成績から見て、到底それは實現されないだらう。)次に生産費の問題であるがこれは五ヶ年を通じて二六%の引下げを行ふ豫定であつたが、本年の計畫がうまく行つても

て高く評價され、農業品は極めて低く評價される。即ち、工業品と農業品との間には「シエール」(缺状價格差)が存在する。この「シエール」は今尚ほ解消してゐないのである。

或る國が工業國か農業國かを決定する上にもう一つ重要な指標がある。それは人口である。ソ聯邦の人口を見ると未だ壓倒的多數は農業に従事してゐる。一九三四年には總人口一億六千八百萬人のうち工業プロレタリア及び勤務員(家族を含む)は約四千萬餘で人口の二五%を占めてゐるにすぎない。残餘の大部分は農業者である。即ち彼等は總人口の七割餘を占めてゐる。

我が國においては總人口の約四割が農業者であり、ドイツに於ては二割五分内外である。イギリスの如きは労働組合に加入せる工場労働者及び其家族のみで二千萬、人口の約半數を占めてゐる。かくして見れば、ソ聯邦はイギリス、ドイツの如き工業國は言ふに及ばず、日本に比してさへ農業者の率が多に多い。

1934, 35 年度國民經濟實績

1936 年度計畫

五ヶ年計畫

指 數	數量單位	1934 年	1935 年		1936 年 度計畫
			計 畫	實 績	
國 民 所 得					
總 額 (1926—27年度價格による)	十 億 留	55.8	64.5	65.7	83.1
内 譯					
工 業	業	27.9	—	34.2	43.4
農 業	業	9.4	—	10.5	13.0
建 設	設	6.7	—	7.3	10.2
交 通 運 輸	輸	3.0	—	3.8	4.5
國 民 所 得 比 重					
工 業	業 %	50.0	—	52.0	52.2
農 業	業	16.8	—	16.0	15.7
建 設	設	12.0	—	11.1	12.2
交 通 運 輸	輸	5.4	—	5.8	5.4
國民所得に於る社會主義經濟形態の比重		96.0	97.5	97.8	98.5
工業品及農產品の比重					
工業品及農產品總額		100.0	—	100.0	100.0
工 業	業	78.9	—	80.3	80.2
農 業	業	21.1	—	19.7	19.8
投 資 專 業					
投 資 總 額	百 萬 留	22 626	24 842	24 015	32 365
工 業		11 695	12 205	11 853	13 956
内 譯					
生 產 財 生 產 部 門		9 631	9 986	9 718	10 647
消 費 財 生 產 部 門		2 064	2 219	2 135	3 309
農 業		2 474	2 289	2 181	2 633
文 通 運 輸		4 250	5 455	5 307	7 173
内 譯 :					
鐵 道		2 757	3 843	3 750	4 762
水 路		585	1 029	976	1 533
自 動 車		560	458	458	615
郵 電		278	305	283	393
商 品 取 引		486	552	548	683
文 化 生 活、行 政 建 設		3 443	4 036	3 843	7 527
其 他					
都 市 住 宅 建 設		1 720	2 023	1 930	3 065
公 營 事 業		1 283	1 447	1 400	1 885

日 露 年 鑑

一六%にしか達しない。昨年はずべての方面が計畫以上にうまく行つたのであるが、生産費の引下げだけは計畫通りに行かず、工業全體を通じて六・二%の引下げを行ふ豫定のところ實際は四・四%にしか達しなかつた。本年上半期は却つて生産費が昂騰してゐる。

斯くてソ聯邦の工業はその當事者の誇張するが如き力は到底持たないにしても、今後侮り難きものに發展する可能性は充分持つてゐる。

左に參考迄に一九三四、三五、三六年度國民經濟率及三七年度計畫を掲げやう。

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
			計 畫	實 績	
發 電 所	百萬キロワット時	21 016	24 900	25 900	32 000
發 電 量	"	15 274	189 05	19 500	24 300
內 譯： 地 區 發 電 所	"	14 435	17 593	18 105	22 000
動 力 本 部 所 屬 分	"	3 196	4 195	3 920	5 000
熱 エ ネ ル ギ ー 量	千 カ ロ リ ー	93 611	112 200	108 900	135 000
燃 料	千 噸	87 701	104 080	101 372	125 250
石 炭	"	59 940	68 000	67 390	80 000
內 譯： 重 工 業 人 民 委 員 部	"	4 899	7 000	6 393	8 700
ド ン バ ス 炭 田	"	11 578	14 000	14 120	17 800
モ ス バ ス 炭 田	"	2 908	4 130	3 385	4 800
ク ヅ バ ス 炭 田	"	2 106	2 900	2 746	4 000
キ ゼ ル ウ ゴ リ 炭 田	"	1 831	2 500	2 355	3 300
チ エ リ ヤ プ ウ ゴ リ 炭 田	"	2 358	2 600	2 745	3 450
カ ラ ガ ン ダ 炭 田	"	283	330	292	350
ウ オ ス シ ビ リ 炭 田	"	969	1 295	1 046	1 420
サ ハ リ ン ウ ゴ リ 炭 田	"	—	150	105	350
キ ル グ ウ ゴ リ 炭 田	"	231	350	220	300
ツ ク ヴ ル チ エ ル ウ ゴ リ 炭 田	"	3 865	5 450	4 919	6 250
ツ ク ウ イ プ ル ウ ゴ リ 炭 田	"	261	—	360	835
交 通 人 民 委 員 部	"	1 485	1 862	1 660	2 000
地 方 工 業 人 民 委 員 部	"	25 525	27 830	26 772	30 000
原 油 及 瓦 斯	"	20 215	20 950	20 726	22 200
ア ゼ ル バ イ ジ ャ ン 油 田	"	3 511	4 000	3 281	3 350
グ ロ ー プ ネ フ チ 油 田	"	1 138	1 400	1 319	1 585
マ イ ネ フ チ 油 田	"	243	400	271	665
エ ム バ ネ フ チ 油 田	"	63	489	405	1 003
バ シ ユ ネ フ チ 油 田	"	16	100	345	500
ト ル ク メ ン ネ フ チ 油 田	"	62	160	155	367
ス レ ド ア ズ ネ フ チ 油 田	"	242	300	240	300
サ ハ リ ン ネ フ チ 油 田	"	20 300	23 110	21 377	25 100
精 油	"	4 462	4 956	4 912	5 560
燈 油	"	2 773	3 170	3 080	3 920
ベ ン ゼ ン 及 リ グ ロ イ ン	"	17 187	19 520	18 500	22 000
泥 炭	"	10 515	11 716	11 110	13 220
內 譯： 泥 炭 業 本 部	"	206	535	420	850
板 炭	"	14 222	16 750	16 730	19 635
骸 炭	"				
採 鑛	"				

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
			計 畫	實 績	
歐 保	百 萬 留 音 健	430	530	550	1 278
	"	360	470	430	700
工 業					
I. 全 聯 邦 工 業					
總 生 產 額 (1926—27年 度 價 格 に よ る)	十 億 留	54.6	62.8	65.9	81.1
內 譯	"				
生 產 財 生 產	"	30.3	—	37.2	45.6
消 費 財 生 產	"	24.3	—	28.7	35.5
比 重					
生 產 財	%	55.5	—	56.4	56.2
消 費 財	"	44.5	—	43.6	43.8
勞 働 者 動 務 員 數	千 人	8 401.9	—	9 028.7	9 417
同 平 均 勞 賃	留	1 828.4	—	2 246.4	2 476.4
同 勞 賃 資 金	百 萬 留	15 361.8	—	20 282.5	23 320.3
投 資 額	"	11 695	12 205	11 853	13 956
II. 大 工 業					
總 生 產 額	十 億 留	50.6	58.8	61.9	77.0
勞 働 生 產 性 (一 人 當 り)	%	—	—	—	—
勞 働 者 動 務 員 數	千 人	6 567.5	—	7 075.7	7 436
內 譯： 勞 働 者 數	"	5 167.7	—	5 593.6	5 845
勞 働 者 動 務 員 平 均 勞 賃	留	1 933.2	—	2 397	2 649.4
內 譯： 勞 働 者 平 均 勞 賃	"	1 779	—	2 237	2 505
勞 働 者 動 務 員 勞 賃 資 金	百 萬 留	12 696.9	—	16 961.3	19 701.1
III. 聯 邦 及 地 方 工 業 人 民 委 員 部					
總 生 產 額	百 萬 留	40 558	46 987	49 455	61 559
勞 働 者 生 產 性 (一 人 當 り)	留	7 716	8 462	8 700	10 529
勞 働 者 數	千 人	5 227	5 515.4	5 650.5	5 809
同 平 均 勞 賃	留	1 672	2 041	2 104.5	2 338
生 產 品 商 業 原 價	前 年 度 に 對 する %	+ 0.7	+ 22.7	+ 19.8	- 6.2
投 資 額	百 萬 留	11 054	11 570	11 232	13 262
IV. 聯 邦 工 業 人 民 委 員 部					
總 生 產 額	百 萬 留	34 599	40 304	42 672	53 214
勞 働 生 產 性 (一 人 當 り)	留	7 639	8 490	8 740	10 632
勞 働 者 數	千 人	4 519	4 732	4 867	4 988
勞 働 者 平 均 勞 賃	留	1.700	2 090.4	2 152	2 400
生 產 品 商 業 原 價	前 年 度 に 對 する %	—	+ 21.2	+ 18.0	- 6.3
投 資 額	百 萬 留	10 586	11 070	10 757	12 332
主 要 工 業 生 產 品					

五ヶ年計畫

指 数	数量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
			計 畫	實 績	
自 動 自 轉 車	臺	111	—	900	10 000
ト ラ ク タ ー (15馬力)	千 臺	114.8	126.7	154.1	154.3
チ ャ ー ジ ン ン	千 臺	0.5	—	1.0	3.0
ト ラ ク タ ー 線 備 品	百 萬 留	147.4	—	170.0	210.0
農 業 機 械 製 造 具	百 萬 留	278.7	387.6	422.2	912.3
農 業 機 械 器 具 (1926—27年度價格による)	百 萬 留	261	370.6	410.0	852.2
内 譯・ 農 業 機 械 本 部	千 臺	8.3	20.0	20.2	61.0
コ ム バ イ ン	千 臺	74.8	90.6	83.1	108.0
ト ラ ク タ ー 牽 引 犁	千 臺	1.6	2.5	2.5	4.0
亞 麻 收 穫 機	千 臺	4.9	9.7	9.7	39.5
加 工 農 作 物 耕 作 機	千 臺	—	600	600	700
穀 物 精 選 機	千 臺	13.1	12.8	12.8	13.2
脱 穀 機	千 臺	12.2	18.8	20.8	97.7
ト ラ ク タ ー 播 種 機	千 臺	21.1	26.0	23.4	32.0
工 作 機 械 製 造	千 臺	228.2	245	135	260
金 屬 切 斷 機	千 臺	51.7	100	54	112
エ ホ ル ギ ー 動 力 機	千 平 方 米	450.6	—	748	1 529
蒸 氣 ボ イ ラ ー	千 平 方 米	376	—	680	1 371
内 譯： 高 壓	千 平 方 米	74.6	128	68	158
蒸 氣 及 水 力 タ ー ビ ン	千 平 方 米	120.9	355	170	344.5
a) 蒸 氣	千 平 方 米	316	1 000	890	2 300
b) 火 力	千 平 方 米	21.3	63.5	51.7	102.9
船 舶 用 デ ィ ゼ ル	千 馬 力	202	235	225	250
ロ コ モ ビ ル	千 馬 力	28.5	—	90.0	90.0
石 油 發 動 機	千 馬 力	—	1 600	1 000	4 225
ベ ン チ ン 發 動 機	千 馬 力	15.3	28.0	35.0	70.5
風 力 發 動 機	千 馬 力	122	150	142	180
自 動 車 ト ラ ク タ ー 發 動 機	千 馬 力	1 485	1 557	1 590	1 980
交 流 發 動 機	千 馬 力	85.9	100.0	100.0	115.0
電 球	百 萬 個	534	—	500	600
電 信 機	臺	241	—	250	300
電 話 機	千 臺	69.7	92.0	92.0	112.0
自 動 電 話 機	千 臺	153.9	—	230.0	260.0
手 廻 式 電 話 機	千 臺	4.2	—	3.3	2.3
技 術 機 械 製 造	千 臺	0.4	—	2.8	8.0
熔 鑄 爐	千 臺	—	—	—	—
マルテン, ベツセマー, トマス爐	千 臺	—	—	—	—

指 数	数量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
			計 畫	實 績	
鐵 鑄	千 噸	21 631	27 500	27 062	28 200
滿 鐵	千 噸	1 821	2 400	2 377	2 800
石 綿	千 噸	92	110	100	130
採 鑛 化 學	千 噸	284	495	495	720
磷 礦	千 噸	1 136	1 400	1 480	2 000
磷 合 成 物	千 噸	383	700	770	920
加 里 岩	千 噸	1 002	1 300	1 300	1 800
冶 金	千 噸	10 428	12 500	12 493	14 500
銑 鐵 合 成 鐵	千 噸	67	100	120	145
鋼 鐵	千 噸	9 693	11 800	12 520	16 000
壓 延 鋼	千 噸	7 044	8 650	9 440	12 200
内 譯： 鋼 管 を 除 く	千 噸	6 734	8 200	9 000	11 500
鐵 管	千 噸	470	635	644	1 070
銑 鐵 管	千 噸	191	260	255	419
黑 鋼	千 噸	53.3	71.0	75.4	110
電 氣 鋼	千 噸	40.8	64.0	68.7	100
機 械 製 造 及 金 屬 加 工	十 億 留	13.5	16.1	17.0	22.0
全 聯 邦 總 生 產 額	十 億 留	—	—	—	—
運 輸 機 械 製 造	千 臺	1 248	1 723	1 807	1 900
機 關 車	千 臺	75	150	109	200
工 業 用 機 關 車	千 臺	70	150	152	500
狹 軌 用 機 關 車	千 臺	8	30	4	35
内 燃 機 關 車	千 臺	19	50	38	62
電 氣 機 關 車	千 臺	161	—	221	400
鑛 山 用 電 氣 機 關 車	千 臺	1 865	1 600	1 866	2 000
モ ー タ ー 機 關 車	千 臺	33.5	85.0	90.8	90.0
貨 車 (二 軸)	千 臺	29.0	80.0	85.4	80.0
内 譯： 交 通 人 民 委 員 部	千 臺	4.5	5.0	5.4	10.0
客 車	千 臺	1 490	650	889	905
内 譯： 電 氣 貨 車	千 臺	52	100	85	155
電 車 用 客 車	千 臺	675	600	700	900
河 川 獨 航 船	千 馬 力	33.3	46.4	34.0	73.0
河 航 金 屬 船	千 馬 力	44.5	98.0	71.7	85.3
積 載 力 千 噸	千 噸	—	—	—	—
自 動 車 ト ラ ク タ ー 工 業	千 臺	55.4	75.0	77.7	144.5
貨 物 自 動 車	千 臺	17.1	17.0	19.0	17.0
乘 用 自 動 車	千 臺	—	—	—	—

日 露 年 鑑

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年
			計 畫	實 績	
エナメル引銃鐵器	千 應	9.4	14.0	15.0	20.5
エナメル引鐵器	"	16.0	19.0	19.6	22.5
亞鉛引鐵器	"	15.6	28.0	19.0	37.1
アルミニウム器	"	0.7	0.8	0.8	2.0
鋼鐵製ナイフ及フオーク	百萬對	3.7	5.0	4.5	6.7
サモワール	千 臺	43.8	50.0	100.0	120
寢カ ン テ ラ	"	611	920	670	1090
カ ン テ ラ	"	1 559	2 325	2 280	2 800
化 學 製 品					
硫 酸 肥 料	千 應	782	965	995	1 300
磷 酸 肥 料	"	890	1,200	1 465	1 680
苛 性 曹 達	"	398	416	422	500
ア ニ リ ン 染 料	百萬留	142.8	153.4	170.0	187.1
ラ ッ ク 染 料	"	64.2	86.8	127.0	157.5
化 學 藥 品	"	48.3	50.7	62.4	70.0
リ ノ リ ウ ム	千平方米	742	800	1 200	1 500
自 動 車 タ イ ヤ	千 本	1 043	1 300	1 416	1 600
自 動 車 タ イ ヤ [ギガント] 印	"	504	700	668	900
ゴ ム 靴	千 足	65 004	75 000	76 341	85 000
靴 底 皮	千 應	33.0	35.5	37.0	46.5
建 築 材 料					
セ メ ン ト	千 應	3,559	4,400	4 470	6 500
耐 火 粘 土	"	1 267	1 491	1 535	1 640
耐 火 煉 瓦	"	338	497.4	495	562.5
煉 瓦	百萬個	4 560	6 000	5 700	7 300
瀝 青 塗 り 厚 紙	千 束	3 656	5 277	5 714	6 445
ル ベ ロ イ ド	"	726	1 000	1 100	1 600
タ イ ル	百萬個	43.7	100.0	75.0	153.0
石 灰	千 應	2 221	2 800	2 700	3 455
石 膏	"	507	770	800	1 171
ス レ ー ト	百萬枚	102	180	164	215
林 業					
用 材 及 薪 造 材	百萬立方米	201.61	216.77	209.59	238.59
同 搬 出 高	"	181.26	315.54	205.65	233.63
用 材 搬 出 高	"	99.73	116.12	113.85	138.47
薪 搬 出 高	"	81.63	99.42	91.80	95.16
廣 軌 用 枕 木	千 本	33 695	46 400	47 084	56 600
挽 材	百萬立方米	25.32	27.35	28.16	33.86
家 具 (1926-27年度價格)	百萬留	198	222.05	258	370.55

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年
			計 畫	實 績	
壓 延 爐	千 應	8.4	42.2	22.7	44.5
石 油 機 械	百萬留	38.6	51.4	55.2	72.9
織 物 機 械	"	—	135	128	259
自 動 木 材 輸 送 機	臺	4	40	35	60
モ ー タ ー 鋸	"	—	—	625	1 500
鉸 掛 鋸	"	290	—	295	300
製 紙 機 械	"	1	9	3	10
連 續 織 維 分 離 機	"	2	6	6	12
食 料 品 工 業 用 機 械					
(1926-27年度價格による)	百萬留	31.8	47.4	48	80
エ ク ス カ ヴ エ ー タ ー	臺	276	610	430	650
コ ン ク リ ー ト ミ キ サ ー	臺	410	480	615	534
振 攪 機	千馬力	156	212	235	260
振 攪 機	臺	58	450	200	400
モ ー タ ー ・ ロ ー ラ ー	"	224	350	350	500
ラ ズ エ ー タ ー	千平方米	1 740	2 295	2 332	3 505
鉄 鋼 製 ヒ ー タ ー ・ パ イ プ	"	82.4	105.5	106.0	168
鐵 製 ヒ ー タ ー ・ パ イ プ	"	20.7	—	31.6	55.0
ボ ー ル ・ パ ア リ ン グ	百萬個	13.3	20.0	20.0	34.7
定 置 式 ト ー キ ー 映 寫 機	臺	690	—	1 900	3 000
移 動 式 " "	"	—	450	915	6 800
小 型 映 寫 機	"	4 609	7 000	6 900	6 500
醫 療 機 械 器 具	百萬留	41.6	73.8	58.0	107.6
計 算 器	臺	—	3 000	100	3 000
十 鍵 盤 計 算 器	"	1 667	1 500	2 700	1 000
算 數 器	千 臺	52.5	40.0	46.0	40.0
タ イ プ ラ イ タ ー	臺	—	7 500	8 180	10,800
消 費 用 金 屬 製 品					
總 生 産 額	百萬留	715.1	953.0	940.0	1 500.0
(1926-27年度價格による)					
内 譯					
自 轉 車	千 臺	274.5	350.0	327.0	800.0
ミ シ ン 機 械	"	260.9	400.0	410.0	450.0
蓄 音 機	"	200.6	447.0	295.0	955.0
同 レ コ ー ド	千 枚	2.6	10.0	7.4	50.8
寫 真 機	千 臺	169	200	172	236
時 計	千 個	126	150	195	500
ラ ズ オ 受 信 機	千 臺	48	172	125.0	500
金 屬 食 器					
黒 色 鉄 鐵 器	千 應	17.1	19.0	20.0	28.9

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
			計 畫	實 績	
腸 詰 及 燻 製 肉	千 觔	47.5	50.0	108	170.0
魚 類 (派 獲 高)	"	1 543.1	1 550.0	1 540.0	1 714.0
魚 類 (製 品)	"	1 090.0	1 169.2	1 221.0	1 370.0
ザ ラ 糖	"	1 403.5	1 450.0	2 000.0	3 500.0
精 糖	"	487.1	500.0	707.0	1 000.0
植 物 油	"	368.2	400.0	429.7	509.85
石 鹼	"	426.43	482.34	484.6	581.4
罐 詰 (400瓦)	百 萬 函	965.3	1 101.6	1 118.8	1 274.4
動 物 油	千 觔	134.7	135.3	154.2	193.0
乾 酪	"	16.9	18.0	19.4	24.5
人 造 パ タ	"	70.5	84.0	81.0	80.0
酒 精	千ヘクトル	4 723.2	5 800.0	6 100.0	7 000.0
煙 草	百 萬 本	73.8	75.0	80.0	88.55
マ 木 ル カ	千 函	2 918.4	3 200.0	3 750.0	5 000.0
菓 子 類	千 觔	536.8	634.0	631.2	823.4
マ カ ロ ニ	千 觔	11 578	14 010	14 500	15 240
糖 蜜	"	176.0	240.24	188.5	248.6
澱 粉 及 糖	"	3 397.8	3 935.7	4 362.1	4 642.5
麥 母	"	194.9	214.5	241.2	274.2
麥 酒	千ヘクトル	27.7	34.1	34.9	42.5
製 粉	千 觔	4 535.9	4 755.0	5 101.4	5 977.5
內 譯：小 麥 粉	"	9 000.0	11 500.0	11 994.0	11 700.0
裸 麥 粉	"	4 623.2	6 807.2	8 069.0	7 620.0
7.5%	"	526.7	1 000	968.0	1 340
バ ン	"	4 283.3	4 419.5	3 866.0	4 035
割 割	"	10 067	14 486.8	14 338.9	14 756.4
合 成 飼 料	"	648.4	975.0	839.1	1 008.0
	"	240.0	350.0	420.0	600.0
農 業					
總 生 產 額	百 萬 留	14 269.4	16 961.1	15 838.7	19 673.2
內 譯：農 畜 產	"	10 926.1	13 094.0	11 935.6	14 750.8
農 作 物	"	3 283.3	3 867.1	3 903.1	4 922.4
播 種 面 積	千ヘクター	131 473.3	131 068.6	132 777.2	135 200
內 譯：秋 播	"	34 847.6	37 266.1	36 044.2	37 762.5
春 播	"	96 625.7	93 797.5	96 733.0	97 437.5
a) 粒 麥	"	104 677.3	100 542.9	103 440.2	102 265
內 譯：小 麥	"	35 246.9	36 391.2	37 056.3	38 682.7

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
			計 畫	實 績	
ベ ニ ャ 板	千立方米	492	503.3	539	614.0
燐 寸	百 萬 函	9.11	10.20	10.70	10.70
紙 類	千 觔	565.8	628.4	640	787.4
a) 上 級 紙	"	319.5	350.8	347	442.3
b) 下 級 紙	"	246.3	277.6	293	345.1
ボ ー ル 紙	"	52.2	62.4	62	71.2
工 業					
粗 綿 絲	千 觔	387.8	400.6	379	467.61
綿 織 物	百 萬 米	2 732.5	2 800.7	2 632	3 215.0
綿 絲	百 萬 卷	639.4	622.5	508.7	700.0
毛 絲	百 萬 米	73.67	73.45	79.9	90.53
麻 絲	百 萬 平方米	152.7	230.0	213	326.0
生 絲	觔	921.7	1 138.6	1 135	1 405.5
絹 織 物	百 萬 米	30.85	35.21	37.2	49.0
裁 縫 品 (1926-27年度價格)	百 萬 留	1 808.8	1 844.6	1 851.0	2 121.9
靴 下 着	百 萬 足	322.9	—	353.7	420.4
編 織 物 下 着	百 萬 枚	53.7	—	69.9	96.17
上 着	"	22.4	—	26.2	34.39
手 袋	百 萬 足	—	—	31.7	52.31
靴	千 足	—	77 000	84 816	103 631
フ エ ル ト 長 靴	"	7 190	8 680	8 930	11 300
フ エ ル ト 短 靴	"	470	700	550	885
冠 物	百 萬 個	1.6	2.1	2.3	3.6
フ エ ル ト	千 觔	21.6	9.5	25.5	32.0
窓 ガ ラ ス	百 萬 平方米	51.1	63.3	66.5	92.1
コ ッ プ	百 萬 個	89.9	150.3	129.6	161.5
彈 簧 樂 器	千 個	439.5	600.2	594.8	770.0
管 樂 器	臺	3.937	5 575	5 132	10 000
吹 奏 樂 器	千 個	10.3	12.9	12.2	22.0
手 風 琴	"	24.6	36.9	37.2	54.3
鉛 筆	百 萬 本	563.0	595.0	485.0	635.0
ベ ン	"	393.0	450.0	450.0	650.0
手 帳	百 萬 冊	—	—	1 000	1 474
映 畫 寫 真 工 業					
映 畫 フ ィ ル ム 製 造 高	契 約 單 位	302	368	322	350
內 譯：藝 術 ト キー	"	36	72	66	97
技 術 ト キー	"	15	20	20	39
食 料 品 工 業					
肉 類	千 觔	496.0	(466.0)	565	650.0

指 数	數量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
			計 畫	實 績	
煙 草	一ヘクターに就きセントネル	7.2	9.8	7.4	10.2
マ ホ ル カ	"	10.6	14.0	13.5	16.4
留 鈴 薯	"	83.2	100.0	94.6	115.0
耕 作					
「コルホーズ」に於ける休耕地増加	千ヘクター	20 832	22 400	23 850	27 415
春蒔穀物のため秋に犁きたる畑地	"	42 092	59 017	46 149	66 000
「コルホーズ」に於ける粒穀物	百ヘクター	26.2	39.8	32.0	46.0
優良種子を蒔けるもの	ヘクター				
「コルホーズ」に於ける春蒔種子による粒穀物の種蒔せるもの	千ヘクター	450.0	2 400.0	1 863.0	4 900
M T S の 建 設					
當該年度の終りに於ける MTS の數		3 506	4 229	4 376	4 951
内 新 設		614	723	870	575
此 内 春 まで に 建 設		410	438	439	465
MTS の關係せる「コルホーズ」面積	百ヘクター	63.0	—	75.9	84.0
「コルホーズ」の播種面積に對する割合	%	63.9	—	72.8	80
MTS の「トラクター」作業量を耕地に換算す(打穀を除く)	千ヘクター	62 535	105 264	98 000	165 500
農 業 機 械 設 備					
農業に「トラクター」を使用	千馬力	1 545	1 650	2 080	1 933
内 M T S に 使 用	"	1 130	1 296	1 674	1 650
MTS に於ける「トラクター」一臺當りの作業	"	4 463	5 663	6 543	8 476
内 M T S	"	2 754	3 818	4 428	6 078
「トラクター」に取付けたる農業機械	百グループ	195.8	348.9	—	814.7
一ヶ年間の「コンバイン」使用	千 臺	8.3	25.0	20.0	61.0
内 M T S の 使 用	"	5.1	19.7	14.3	52.0
收穫に使物する「コンバイン」數	"	29.9	48.6	49.1	85.4
配 給 所 總	"				
内 M T S に 使 用	"	13.2	26.6	27.1	58.1
收穫に「コンバイン」使用割合					
a) ソフホーズ人民委員部所屬粒穀	%	74.0	90.0	97.1	98.0
ソフホーズ	"	2.3	—	7.8	22.0
b) コルホーズ	"				
亞麻收穫機使用數	千 臺	1.6	2.5	2.2	4.0
甜菜掘返し機數	"	3.2	5.0	5.0	8.0
玉蜀黍採集機數	千 臺	2.2	0.7	1.0	0.7
MTS に於けるコムバイン	ヘクター	125	160—180	259	320
一臺當り操業率					
貨物自動車數	千 臺	3.18	3.3	2.1	2.1
ソフホーズ人民委員部所管	"	8.32	11.8	12.2	12.5
農務人民委員部所管	"				
鑄物性肥料	千 噸	26.8	124.0	247.9	425.0
加 磷	"	897.4	1 161.0	1 337.1	1 550.0
過 磷	"	260.8	495.0	458.5	685.0

指 数	數量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
			計 畫	實 績	
裸 麥	千ヘクター	23 663.4	23 647.4	23 120.9	23 239.6
燕 麥	"	18 011.0	17 365.4	18 320.3	17 659.1
大 麥	"	8 086.6	7 729.5	8 276.9	8 182.4
稷	"	8 243.1	4 075.0	5 509.1	4 006.4
蕎 麥	"	3 104.6	2 044.0	2 096.9	2 015.4
玉 蜀 黍	"	3 841.3	3 425.4	3 403.5	3 007.0
豆	"	2 754.4	3 123.9	2 920.7	3 021.8
米	"	132.4	135.8	137.8	142.6
b) 加 工 農 作 物	"	10 724.8	10 552.2	10 641.8	10 745
内 譯					
棉 花 合 計	"	1 940.6	1 942.5	1 953.5	2 015.0
灌 水 棉 花	"	1 578.3	1 575.9	1 583.4	1 586.5
長 織 維 亞 麻	"	2 109.8	2 070.0	2 106.7	2 122.5
北 部 産 大 麻	"	545.8	613.0	520.6	623.3
向 日 葵	"	3 500.1	3 223.0	3 309.4	3 179.8
甜 菜 (工 場 製)	"	1 183.3	1 220.0	1 225.1	1 244.8
煙 草	"	89.0	89.8	89.8	92.3
マ ホ ル カ	"	102.4	111.0	107.3	111.5
c) 畑 作 物	"	8 834.5	9 763.0	9 936.5	10 332.5
内 譯 : 馬 鈴 薯	"	6 130.4	6 825.1	7 375.6	7 425.0
d) 飼 料	"	7 143.4	10 188.0	8 608.7	11 860.0
内 譯 : 草 類	"	5 889.7	8 368.8	7 119.6	9 958.2
a) 一 年 作	"	3 032.0	4 918.8	4 256.7	5 122.5
b) 前年度草の刈入面積	"	2 558.2	2 909.0	2 385.7	4 126.8
内 種 蒔 用 面 積	"	—	830.5	—	920.0
e) 根 果	"	654.1	919.7	769.1	1 009.0
收 穫					
粒 穀 物 合 計	一ヘクターに就きセントネル	8.5	9.4	8.9	10.2
秋 蒔 小 麥	"	7.9	10.8	9.6	11.4
春 蒔 小 麥	"	8.9	8.0	7.9	8.9
秋 蒔 裸 麥	"	8.4	9.8	9.3	10.4
春 蒔 燕 麥	"	10.5	10.1	10.2	11.2
春 蒔 大 麥	"	8.0	9.8	9.6	10.3
玉 蜀 黍	"	10.4	12.8	9.2	16.0
稷	"	5.1	6.5	5.4	7.3
灌 水 棉 花	"	7.3	9.4	10.2	11.2
亞 麻 織 維	"	2.5	3.0	2.6	3.7
甜 菜 (工 場 製)	"	96.0	125.0	132.3	204.0
向 日 葵	"	5.9	6.6	5.6	8.5

五ヶ年計畫

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
			計 畫	實 績	
ソフホーズ	千 頭	—	1 577.4	1 784.8	1 991.3
コルホーズ	"	—	4 657.3	5 260.0	6 935.0
畜 産 品 質 指 数					
牝牛一頭一回搾乳量					
a) ソフホーズ人民委員部所屬肉乳	斤	845	1 190	1 200	1 650
b) 食糧品工業人民委員部製糖業本部所屬ソフホーズ	"	1 141.0	1 300.0	1 400	1 750
c) コルホーズ商業部	"	1 000.0	1 150.0	1 150.0	1 400.0
屠殺獸一頭當り平均重量					
a) ソフホーズ人民委員部所屬肉乳	"	248.0	250.0	265.0	296.0
b) 豚					
ソフホーズ人民委員部所屬養豚	"	64.8	92.7	88.5	103.8
食料品工業人民委員部所屬養豚	"	72.4	93.0	100.0	108.3
農 業 勞 働					
勞働者一人當り生産高 (1926—1927年度價格による)					
ソフホーズ人民委員部所屬ソフホーズ	留	506	900	827	1 287
農務人民委員部所屬ソフホーズ	"	802	1 132	1 169	1 647
勞働者及び勤務員數					
ソフホーズ人民委員部所屬ソフホーズ (合計)	千 人	982.4	997.0	876.5	788
農務人民委員部所屬ソフホーズ (合計)	"	238.6	252.2	228.1	220
平均勞銀					
ソフホーズ人民委員部所屬	留	1 185.4	1 420.2	1 550.7	1 716
農務人民委員部所屬ソフホーズ	"	1 150.5	1 318.5	1 450.5	1 591
機械トラクター配給所及び 機械トラクター修繕工場					
數 員 合 計	千 人	296.1	317.3	327.3	384.4
平均勞銀	留	1 928.4	2 349.3	2 262.7	2 527.0
ソフホーズ生産原價及び機械トラクター 配給所トラクター作業原價の低減					
a) ソフホーズ人民委員部 (人民委員部全般)	%	+ 9.0	- 5.8	+ 6.5	- 18.2
b) 農務人民委員部					
棉花ソフホーズ	"	+38.5	-31.4	—	-11.0
種子改良ソフホーズ	"	—	—	—	- 6.4
茶業ソフホーズ	"	—	-17.5	—	-30.0
機械トラクター配給所トラクター 作業原價低減	"	—	—	—	-12.5
投資事業					
ソフホーズ人民委員部系統	留	715	506	475	360
農務人民委員部系統	"	1 706	1 731	1 680	2 202
運 輸					
鐵 道 輪 送					
年末現在使用線路全長	千 軒	83.5	83.8	83.8	84.9

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
			計 畫	實 績	
畜 産 頭 數					
a) 馬	千 頭	14 936.3	16 708.8	15 618.1	17 095.2
内 譯					
ソフホーズ	"	226.4	253.7	245.3	282.3
コルホーズ	"	10 191.2	—	11 765.4	13 079.2
b) 有 角 家 畜	"	38 869.3	45 710.0	46 076.0	54 110.6
内 譯					
ソフホーズ	"	2 243.8	2 300.8	2 229.3	2 420.7
コルホーズ	"	10 329.1	12 650.7	12 750.0	15 135.0
牛	"	19 031.3	20 279.0	19 932.5	21 628.7
内 譯					
ソフホーズ	"	993.9	1 010.4	975.6	991.7
コルホーズ	"	3 029.5	3 647.7	3 450.0	4 060.0
c) 豚	"	17 116.2	23 553.0	23 553.0	31 500.0
内 譯					
コルホーズ	"	925.4	1 000.0	1 155.5	1 430.4
ソフホーズ	"	321.6	400.0	465.0	502.1
食料工業人民委員部 ソフホーズ	"	3 511.6	5 153.5	5 210.0	7 300.0
d) 羊	"	40 771.0	48 873.5	50 800.0	62 000.0
内 譯					
ソフホーズ	"	4 856.8	5 424.3	5 385.8	6 060.0
コルホーズ	"	11 982.7	14 287.4	15 140.0	19 285.0
未 成 畜 家 畜 飼 育					
a) 仔 馬	"	—	2 060.5	1 676.6	2 300.0
内 譯					
ソフホーズ	"	—	38.2	34.4	45.8
コルホーズ	"	—	1 552.3	1 323.0	1 825.0
b) 仔 牛	"	—	11 358.2	11 810.0	13 012.8
内 譯					
ソフホーズ	"	—	546.0	576.4	601.5
コルホーズ	"	—	3 517.5	3 570.0	4 200.0
c) 仔 豚	"	—	17 028.1	17 293.5	24 500.0
内 譯					
ソフホーズ	"	—	773.0	793.3	1 228.3
食料品工業人民委員部 ソフホーズ	"	—	320.3	379.6	427.3
コルホーズ	"	—	3 952.9	4 060.0	5 800.0
d) 仔 羊	"	—	16 315.2	17 443.6	22 317.3
内 譯					

日 露 年 鑑

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年度計畫
			計 畫	實 績	
勞働者一人當り勞働量 (道路局工場勞働學校の生徒を除く)	千 疋 / 軒	266.0	258.5	286	310.0
輸送原價低減	前年に対する%	+ 1.8	+ 11	—	- 2.6
鐵道輸送	百萬留	3 057	4,244	4 150	5 059
河川輸送					
全聯邦使用水路全長	軒	—	—	87 838	98 000
内譯：水運人民委員部使用	"	81 240	85 000	80 384	86 300
水運人民委員部使用設備附水路全長	"	70 768	80 000	74 300	84 200
年末現在機關河船 (技術船を除く)	千馬力	588.9	675.6	631.1	703.3
被牽引船	積載噸 (千)	5 304	5 785	5 641	5 761
積込陸揚作業の機械化率	%	21.9	30.1	30.5	45.6
水運人民委員部貨物輸送	百萬噸	52.7	58.0	64.0	75.6
貨物總走行距離	十億噸/軒	59.0	33.4	34.0	42.9
有料船客輸送量	百萬入	41.2	41.0	40.3	45.6
海上輸送船					
船舶 (年末現在)	積載量 (千噸)	1 037.4	1 115.7	1 184.8	1 315.2
積込陸揚作業の機械化率	%	23.0	25.0	30.0	45.7
ソ聯船除貨物輸送 (商船及び艦艇船を含む)	百萬噸	22.6	26.0	26.2	31.9
ソ聯船除乘客輸送	千人	2 908	3 402	2 625	3 271
水運人民委員部に於ける勞働の生産性及び原價					
水運勞働者一人當り仕事量	千航/噸軒	330.9	363.3	348.0	409.0
海洋輸送勞働者一人當り仕事量	"	1 133.2	1 371.8	1 278.1	1 527.0
輸送原價引下	前年度に対する%	+ 7.2	- 1.9	+ 2.5	- 5.0
水道人民委員部投資額	百萬留	470	600	576	750
自動車運輸					
自動車庫	千	181.0	257.5	260.0	400.0
内譯：貨物	"	132.6	190.0	193.0	314.0
乗用	"	37.2	52.0	53.5	67.0
運輸機關別比重					
鐵道運輸	%	78.4	—	79.2	77.3
河川運輸	"	11.1	—	10.4	11.1
海洋運輸	"	10.5	—	10.4	11.6
民間航空					
航空路延長	千 軒	78.4	58.8	46.8	55.0
輸送量	千 噸 / 軒	5 990.6	10 000	9 500	20 000
航行時間	千 時	35.2	—	48.2	65.0
郵 電					
總收入	百萬留	537.5	591.3	554.9	601
長距離電話延長	千 軒	1 855.0	2 005.0	2 013.5	2 253.0

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年度計畫
			計 畫	實 績	
敷設線路全長	千 軒	144.4	150.8	148.7	155.0
電化鐵道線路全長	軒	379	1 083	1 077	1 619
自動閉塞機附線路全長	千 軒	2.1	3.8	3.7	5.1
機關庫總數	千	20.9	22.2	22.2	23.3
内 譯					
「EO」型機關車	千	204	674	730	1 405
「SO」型 同	"	3	103	82	582
「E」型 同	"	7 260	7 800	7 800	7 850
貨車庫總數	"	537.7	601.4	599	637.5
内譯：四軸貨車庫	"	56.2	73.8	72.2	105.7
客車庫總數	"	31.9	32.5	32.4	32.0
自動閉塞機附貨車總數	"	2.6	29.5	20.0	91.5
貨車總計に對する%	%	0.5	4.9	3.3	14.3
自動閉塞機附貨車總數	千	140.0	218.2	220.0	281.5
貨車總計に對する%	%	26.0	36.3	36.7	44.1
鐵道貨物輸送					
商業輸送列車輸送貨總數	百萬噸	317.1	358.0	390.0	457.0
一晝夜平均積載車輛	千 輛	55.7	63.0	68.0	78.5
商業輸送列車一噸積平均走行距離	軒	649	640	666	655
鐵道輸送輪轉材料利用指數					
機關車一晝夜平均走行距離	"	168.5	185.0	193	259.0
機關車補助走行距離比率	%	31.0	30.0	32.6	30.0
機關車繰替	時	32.4	29.85	28.6	18.0
一列車平均總量	噸	994.0	1 036	1 033	1 075
一列車平均正味重量	"	556	593.8	593.6	619.2
貨車商業速度	軒/時	14.2	15.3	15.7	19.0
貨車一晝夜平均走行距離	軒	117.2	122.0	130	143.0
貨車一往復	晝 夜	8.75	7.65	7.63	6.7
空車走行距離比率	%	29.0	27.0	27.1	26.5
貨車搭載量	噸	5.3	5.5	5.6	5.76
輪轉材料修繕					
機關車大修繕	千	3 432	4 150	4,019	2 500
貨車大修繕	"	40.8	46.0	46.0	45.0
客車大修繕	"	1 982	2 520	2 520	2,550
機關車普通修繕	"	4 658	5 200	5 035	7 640
貨車普通修繕	"	117.8	144.5	140.0	130.0
客車年一回修繕	"	4 136	5 550	5 400	5 000
	"	19.4	21.1	20.0	20.0
鐵道輸送勞働及び原價					

指	數	數量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
				計	實績	
民間郵電業	留		1 558	—	1 890	1 956
商會給養青	留		1 480	—	1 810	1 887
社會給養青	留		1 241	—	1 490	1 550
教保諸官	留		1 937	—	2 265	2 400
農	留		1 541	—	2 276	2 356
農	留		2 699	—	3 120	3 250
農	留		1 204.2	—	1 525	1 700
III. 國民經濟部門勞賃資金	百萬留		44 000	49 825.4	56 200	63 400
內譯						
工業建設	留		15 361.8	—	20 282.5	23 320.3
鐵道運輸	留		5 449.7	—	5 639.7	6 764.9
水上運輸	留		2 603.8	—	3 531.9	3 950
民間郵電業	留		345.4	—	469	578
商會給養青	留		459.8	—	621.8	670.9
社會給養青	留		2 164	—	2 986.5	3 462.6
教保諸官	留		676.5	—	745	722.3
農	留		3 042.6	—	3 963.8	4 488
農	留		1 138.8	—	1 809.4	1 929.6
農	留		4 322.1	—	5 135.5	5 349.5
農	留		3 745.3	—	4 471.3	4 680.1
幹部養成						
年末現在人員數	數					
經濟大學	所		8 194	9 045.0	9 193.0	10 438
最高農業學校	千人		40.1	40.6	36.2	39.1
高等專門學校	所		465.7	523.4	509.9	528.6
大眾幹部養成	所		—	—	5 461	7 347.0
內譯：工業及鐵道	所		—	—	1 888.2	2 879
商 品 取 引						
主要農業食料品生產額	額					
粒穀物	百セントネル		272.0	—	304.9	363.0
肉製品	千噸		1 027.5	—	1 220.7	1 460.0
乳製品	千噸		6 317.5	—	7 428.0	9 143.0
馬鈴薯	千噸		10 554	—	13 620	16 465
野菜類	千噸		5 854	—	6 469	7 645
消費工業品及食料工業品生產額	百萬留		—	17 860.0	18 050.7	22 297.0
工業協同組合	留		—	5 370.0	5 622.8	7 282.6
小賣商品取引總額	留		61 780.9	80 000.0	80 470.0	100 000.0
商業網小賣商品取引	留		54 772.0	71 500.0	73 500.0	92 600.0

指	數	數量單位	1934年	1935年		1936年 度計畫
				計	實績	
電信機計	臺		10,391	11 590	11 808	12 494
都市電話局	千番		639.8	722.0	696.9	820.0
都市中心	臺		1 835	2 100	2 206	2 890
農村ソヴエート	臺		36 770	37 200	39 760	42 000
ソフホーズ	臺		4 232	—	4 580	4 730
M T S	臺		3 526	3 580	3 775	4 600
長距離無線電信電話機	臺		235	263	252	278
同電力	キロワット		1 162.6	1 317.7	1 263.6	1 485
ラヂオ放送局數	所		67	79	73	82
同電力	キロワット		1 592.0	1 846	1 752	2 007
同發電量	千キロワット時		5 920.0	6 100.0	6 255.8	7 670.0
ラヂオ受信局	一ヶ所		2 324	3 034	2 857	4 427
內譯：都市	所		1 401	—	1 642	2 201
農村	所		339	—	563	1 204
郵便網	所		44 308	49,000	46 170	46 170
同機械化率	%		34.3	39.0	37.5	44.8
勞働者一人當り仕事量	留		2 270	2 240	2 100	2 186
郵電人民委員部投資	百萬留		284	310	287	400
勞 働 及 幹 部						
I. 國民經濟部門勞働者勤務員數	千人		23 738.9	24 356.6	24 741	25 725
內譯						
工業建設	留		8 401.9	—	9 028.7	9 417
鐵道運輸	留		2 680.8	—	2 291.4	2 492
水上運輸	留		1 348.9	—	1 511.1	1 580
民間郵電業	留		166.2	—	187	202
商會給養青	留		295.1	—	329	343
社會給養青	留		1 462.2	—	1 650	1 835
教保諸官	留		545.1	—	500	466
農	留		1 571	—	1 750	1 870
農	留		738.8	—	795	819
農	留		1 601.3	—	1 646	1 646
農	留		3 110.3	—	2 932	2 753
II. 國民經濟部門平均勞賃	留		1 853.4	—	2 271.5	2 464.5
內譯						
工業建設	留		1 828.4	—	2 246.4	2 476.4
鐵道運輸	留		2 033	—	2 461.2	2 715
水上運輸	留		1 930	—	2 337	2 500
水上運輸	留		2 078	—	2 508	2 861

指 数	數量單位	1934年	1935年		1936年度計畫
			計 畫	實 績	
救命施設	所	302	370	393	456
託児所	千ヶ所	5 143.8	6 648.4	5 631.7	6 426.2
療養所	臺	86 000	87 000	87 750	90 100
同使 用 臺	數	550 000	575 500	579 000	603 000
休息の家	臺	77 380	80 380	94 600	100 000
同使 用 臺	數	1 345 000	1 416 000	1 613 700	1 667 600
消 毒 所	所	90	115	102	130
同 支 所	數	1 072	1 881	1 487	1 848
マラリヤ撲滅研究所	數	457	520	660	765
同 支 所	數	728	1 230	1 220	1 477
バクテリア研究所	數	1 169	1 636	1 383	1 747
傳染病研究所	數	6 691	8 884	8 289	9 861
教 育					
初等中等及中等學校就學者總數	千 人	24 459.6	25 608.1	25 569.1	27 935.9
内 譯					
1—4 級	千 人	18 314.6	18 862.9	19 112.4	19 827.5
5—7 級	千 人	4 857.1	6 224.1	5 957.8	7 323.7
8—10 級	千 人	287.9	521.1	498.85	784.7
都 市 學 校	千 人	5 991.7	6 364.9	6 755.8	7 560.6
内 譯					
1—4 級	千 人	4 201.4	3 997.1	4 433.2	4 662.0
5—7 級	千 人	1 609.0	1 933.6	1 958.2	2 344.3
8—10 級	千 人	281.3	434.2	364.4	554.3
農 村 學 校	千 人	17 467.9	19 243.2	18 813.3	20 375.4
内 譯					
1—4 級	千 人	14 163.2	14 865.8	14 679.2	15 165.5
5—7 級	千 人	3 248.1	4 290.5	3 999.6	4 979.4
8—10 級	千 人	56.6	86.9	134.5	230.4
學 齡 前 教 育	千 人	5 383.7	7 901.0	5 858.8	6 920.8
内 譯					
都 市	千 人	1 324.7	1 781.6	1 256.2	1 497.4
農 村	千 人	4 059.0	6 119.4	4 602.6	5 423.4
兒 童 園 收 容	數	1 181.2	1 709.6	1 370.9	1 708.5
政 治 教 育					
文盲清算所收容數	千 人	3 977.6	4 617.0	4 157.2	3 080.0
無學清算所收容數	數	3 392.1	5 788.0	5 015.6	6 419.0
成人教育學校就學者數	數	207.2	389.6	357.9	612.8

指 数	數量單位	1934年	1935年		1936年度計畫
			計 畫	實 績	
内 譯					
内國商業人民委員部	百萬留	14 597	—	33 210.0	41 300.0
消 費 組 合	數	20 796	—	14 480.0	19 500.0
各工業人民委員部	數	5 306.5	—	6 020.0	7 640.0
小賣商品取引	數	—	—	—	—
都 市	數	39 348.8	51 250.0	51 805.0	64 420.0
農 村	數	15 423.2	20 250.0	21 695.0	28 180.0
社會給養諸經營取引總額	數	7 008.9	8 500.0	6 970.0	7 400.0
都 市	數	6 340.8	7 650.0	6 250.0	6 580.0
農 村	百萬留	668.1	850.0	720.0	820.0
勞 働 及 流 通 費 用					
勞働者一人當り操業率					
内國商業人民委員部	千 留	—	—	—	—
ツエントロソユーズ	數	—	—	—	—
零 賃 資 金 (取引に對する%)					
内國商業人民委員部	%	—	—	2.0	1.98
ツエントロソユーズ	數	—	—	2.81	2.64
流 通 費 用 節 減					
内國商業人民委員部	%	—	—	—	— 9.2
ツエントロソユーズ	數	—	—	—	— 8.9
投 資					
總 額	百萬留	486.0	552.0	548.0	683.0
内國商業人民委員部	數	55.0	200.0	199.0	365.0
ツエントロソユーズ	數	274.0	6.00	60.0	62.0
公 營 專 業					
住 宅 資 金	百萬平方米	196.56	202.90	200.38	209.38
電 車 所 有 都 市	一 單 位	63	65	65	72
乘 合 自 動 車 在 庫	數	1 450	2 200	1 880	2 550
脚 輪 バ ス	數	40	90	61	300
水 道 設 備 都 市	數	380	380	381	388
水 道 網 延 長	千 米	11 420	11 940	12 000	15 700
運 河 設 備 都 市	一 單 位	64	76	72	83
共 同 浴 場	數	1 500	1 653	1 650	1 755
保 健					
病 院 寢 臺	數	477 529	530 010	524 976	561 156
都 市 外 來 患 者 診 療 所	所	47 370	50 900	51 685	53 739
都 市 齒 科 病 院	數	9 687	10 336	10 189	11 156

勞働者及勤務員數	千人	七四、八	六六	六七〇
勞賃資金	百萬留	一、三四五	一〇三	一、三四八

鐵道線路總延長	(千料)	八四、四	八五、二	八六、三
電化鐵道總延長	(料)	九、七	一〇、三	一〇、七
自動制動機裝置鐵道	(千臺)	三、七	五、一	八、九
機關車在庫總數	(千臺)	二、一	三、〇	四、二
自動聯結裝置機關車數	(千輛)	二、五	三、八	五、〇
貨車在庫總數	(千輛)	六、六	七、〇	七、四
自動聯結裝置貨車	(千輛)	一、九	二、〇	二、一
貨車積載力總量	(百萬噸)	一、三	一、三	一、五
營業運輸貨車積載力總量	(百萬噸)	三、八	四、四	五、〇
一晝夜平均貨物積載量	(千輛)	六、一	六、二	六、五
貨車總走行距離	(百萬噸/料)	二、八	三、三	四、〇
有料旅客輸送量	(百萬噸)	九、一	九、八	一〇、五
△運輸材料使用指數	(料)	一、八	二、三	二、〇
夜間行走距離	(料/時)	一、五	一、八	二、〇
營業平均速度	(料)	一、四	一、四	一、五
貨車平均走行距離	(料)	二、七	三、七	四、六
△勞働力	(千料)	二、七	三、七	四、六

就業勞働者總數	(千人)	一、三四八、五	一、三三三、三	一、三〇〇、〇
同平均一ヶ月勞賃	(留)	三〇、一	二四、八	二〇、〇

△運輸材料生產高	臺	一、七九六	一、五七	一、九〇〇
機關車(E、SU)型	臺	六五	三二	五〇〇
「S O」型	臺	一	一	五〇〇
內、炭水車凝汽器附	臺	一	一	五〇〇
「F D」型	臺	一	一	五〇〇
內、炭水車凝汽器附	臺	一	一	五〇〇
「S U」型	臺	一	一	五〇〇
「I S」型	臺	一	一	五〇〇
幹線用電氣機關車	臺	一	一	五〇〇
鑛坑用	臺	一	一	五〇〇
モータリ機關車	臺	一	一	五〇〇
貨物車	臺	一	一	五〇〇
旅客車	臺	一	一	五〇〇

海洋旅客輸送量	千人	二、七九〇	八五	三、三九〇
△空運部門	千人	五、〇	九三	五、〇
旅客輸送量	千人	一、五八、三	九五	一、八〇、〇
郵便物輸送量	千噸	五、八	七	六、二
貨物輸送量	千噸	三、五	三三	三、八〇
△自動車運輸部門	千臺	三、六〇	九七	五、八五〇
自動車在庫總數	千臺	三、五	一〇〇	四、八三、六
A、貨物	千臺	五、〇	八二	七、九〇
B、乘用	千臺	六、三、七	一〇三	六、一
△通信部門	百萬留	二、一五〇、〇	九五	二、三〇〇、二
長距離電信電話線延長	千料	一、三、四〇	九	一、二、八〇〇、〇
電信機總數	千本	一、七	一	二、七
重要都市間直通電話線	千所	三、五〇〇	一〇〇	三、三〇〇
地區電信中心數	千所	二、〇〇〇	九三	二、八〇〇
地區電話中心數	千所	四、三、〇〇〇	一〇四	四、七〇〇〇
電話設置農村村	千所	七、五、四	九七	八、六、八
地方電話局數	千所	二、七	九八	二、八
電距離電信電話器數	千臺	二、七	九八	二、八
△勞働及幹部	千位	九、六、七	一〇〇	九、九、七

B 建設	千	二、一、一	八五	一、七、四九
C 鐵道運輸	千	一、四九五	九五	一、五、五〇
D 水運	千	一、八〇	八九	一、九七
E 通信用	千	三、四〇〇	九八	三、七五
F 商業	千	一、七九	九八	一、九四七
G 教育	千	二、〇〇〇	一〇七	二、一、九〇
H 保健	千	一、〇〇七	一三	一、一、五九
I 農業	千	二、七〇	九	二、五、八
△勞賃資金	百萬留	七、四〇〇	一〇九	七、八、三〇
A 工業(以下右に同じ)	百萬留	二、六、三九	一一	二、八、一〇
B	百萬留	四、二八二	一〇七	四、七、七四
C	百萬留	五、四〇	九三	六、五、一
D	百萬留	六、九七	一〇四	七、九、五
E	百萬留	四、〇七	一一	四、五、四二
F	百萬留	六、八六三	一一	八、八〇八
G	百萬留	二、三六四	一一	二、七、三三
H	百萬留	五、〇三九	一〇八	五、〇、八九
I	百萬留	四、八八、二	九四	五、〇、六
A 大學高等專門學校	千人	一、三六、七	九七	一、二、七、三
B 運輸通信	千人	三、九、三	一〇一	三、八、五
C 農業	千人	五、八、五	八六	五、七、一
D 教育	千人	一、三、一、五	九一	一、四、五、五
E 醫學	千人	八、五、三	九	九、五、二

五ヶ年計畫

一九三六年
實績
遂行率
一九三七
年計畫

大學志願者	六、七	七、四	六、八
赤色教授養成所	一、二	一、五	一、八
マルクス・レーニン主義研究所	一、三	一、〇〇	一、六
共產主義高等專門學校	六、四	七、七	八、〇
中等專門學校	八、九、三	九、三	九、四、四
勞働者大學豫科	二、六、七	三、三	一、九、七、三
工場勞働者學校	三、三、六	一、〇〇	三、〇、六
△學校卒業者數			
經濟アカデミー	一、五	八、八	一、五
最高共產農業學校	九、二	一、〇〇	一、一、五
大學高等專門學校	七、九、四	九、五	九、三、九
大學志願者	一、六	九、四	一、七
赤色教授養成所	〇、〇、二	一、〇	〇、二
マルクス・レーニン主義研究所	〇、〇、六	六、〇	〇、一
共產主義高等專門學校	一、一	七、三	一、九
中等專門學校	一、二、二	九、二	一、七〇、五
勞働者大學豫科	五、九、三	八、五	七、一
工場勞働者學校	一、四、五	六、六	二、二、七
大衆幹部養成	七、八、八	九、〇	八、三、三
△商品流通			
小賣商品流通	實績	遂行率	一九三七年計畫
(社會給養を含む)	一九三六年		
A 小賣商品流通	一〇六、四〇〇	一〇六	一三三、〇〇〇
B 社會給養	八、四〇〇	一〇六	一三三、〇〇〇
養通	八、〇〇〇	一〇八	九、〇〇〇

勞働者一人當り操業率	千	留	一、四、〇	一、二、〇	一、四、一
A 内國商業人民委員部			七、〇	二、七、四	八、八、七
B 消費組合中央聯合			七、〇	二、七、四	八、八、七
流通費低減					
A 内國商業人民委員部			六、五〇		八、六、九
B 消費組合中央聯合			七、三〇		七、三〇
△公共施設建設					
住宅準備	百萬平方米		二〇四、三、八	九、八	二、〇、〇
電車施設都市數			六、八	九、三	七、三
水道施設都市數			三、九、九	一、〇、三	四、六、六
排水施設都市數			八、五	一、〇、一	九、五
△保健事業					
病床總數	千		五、六、四、〇	一、〇〇	六、九、八
A 都市			三、〇、一、二	九、九	三、三、一、九
B 農村			一、六、六、七	一、一、四	一、八、三、三
都市總床數	千		四、四、八、七	一、一、三	五、二、五、五
A 產婦用	一單位		一、六、五、三	一、一	一、九、五、一、八
B 小兒用			五、一〇	二、二	六、三、四
救急施設數			三、七、一	一、〇、三	四、三〇、六
托兒所床數	千		三、七、八、四	九、七	五、七〇、八
A 都市			四、一、六、三	七、七	九、一、六、三
B 農村			三、三、三、五		三、五、四、三
產院數	一單位		三、七、八、一		四、一、三、六
小兒醫院床數					
小兒療養所床數					

勞働組合休息家床數	千	九、九、三	九、九	一〇五、〇
同 從業員數	千	一、六、七〇	一〇〇	一、七五、〇
療養避暑遊樂地床數	千	九、一、五	一〇〇	九、五、〇
同 從業員	千	六、五、〇	一〇〇	六、四、〇
△教育				
初等、準中學、中等學校生數	單單位	一九三六年	一九三七年計畫	
A 都市	千	二七、六〇〇、八	九、九	三〇〇、三、一
B 農村	千	七、九〇〇、六	一〇、四	八、八、五、〇
△就學前教育				
兒童の園收容兒童數	千	一、〇、三、九、七	一	一、二、九、一、八
(コルホーズを除く)				
兒童の家收容兒童數	千	三、三、二	八、八	三、四、八、七
△政治教育				
無學清算學校生徒	千	三、四、二、〇	五、五	六、〇〇〇、〇
成人教育所生徒	千	五、九、四、八	九、七	一、〇、九、二、九
教育人民委員クラブ	一單位	四、三、八、九、四	一〇〇	五、七、五、五、九
組織、大藥圖書館		四、二、三	一、四〇	五、二、三、三
A クラブ及文化の家		三、九、六、八、一	九、七	五、三、三、六
B 讀書の家		八、六、三、六	一、二	一、一、二、九、八
大衆圖書館網				
△藝術				
劇場、映畫館、サカ	千	二七、二、五		三〇、三、九〇
カス其他總數	千	二、六、一、六		二、九、三、〇
映畫	千	二、六、一、六		二、九、三、〇
音畫	千	五、六、五、四		一、一、六、〇〇
△出版				

新開	千	九、九	九、七	九、九
一日發行部數	百萬部	三、八、〇	四、四	三、九、〇
單行本雜誌發行部數	十億部	四、四	八、六	五、四
△聯邦國家預算及地方豫算				
※歳入部門				
一、取引	一九三三年(百萬留)	一九三三年(百萬留)	三六六年對	三六六年對
二、收益控除、其他收入	六、五、八、四一	七、六、七、五	二、六、六	二、六、六
イ、工	五、八、六、二	九、二、三	一、五、八、一	一、五、八、一
ロ、鐵道運輸業	三、〇、五、三	五、九、五〇	一、九、四、八	一、九、四、八
ハ、公共住宅經濟	三、七	六、八	二、七、〇	二、七、〇
ニ、其他企業及施設	一、〇、二、九	九、九	九、七、四	九、七、四
三、所得稅及其他租稅	一、四、七、三	一、六、三	一、〇、九	一、〇、九
四、社會化部門割當諸公債	一、〇、九、五	一、五、八	一、三、九、四	一、三、九、四
五、社會保險資金より社會文化施設への交付金	一、四〇〇	一、六〇〇	一、四、三	一、四、三
六、公衆公債	三、四、六、三	三、七〇〇	一〇、六、八	一〇、六、八
七、租稅及公課	三、四、八〇	四、三、七、五	一、二、五、七	一、二、五、七
八、其他收入	三、五、九、六	四、一、一〇	一、四、三	一、四、三
歳入總計	三、四、七、六	四、二、七、九	七、九、四	七、九、四
※歳出部門				
一、國民經濟融資	八、八、二、三	一〇、四、一、三〇	一、一、八、〇	一、一、八、〇
イ、工	四、一、八、五、六	四、三、九、七、六	一〇、三、七	一〇、三、七
ロ、農業及林業	一、五、〇、八、一	一、二、九、六、九	八、六、〇	八、六、〇
ハ、運輸及通信	九、〇〇、四	九、九、六、三	一、一〇、六	一、一〇、六
ニ、鐵道運輸	八、七、八、八	八、七、六、三	九、九、七	九、九、七
三、其他	四、七、八、八	四、六、九、九	九、八、一	九、八、一

ニ、國營商業配給及	五、四四三
買付機關	一、八六六
ホ、公共住宅經濟	一、七三二
ハ、其他國民經濟支出	三〇、九七七
ト、社會文化諸施設	一三、九六六
教 育	五、八七七
保 健	一四、九一〇
體 育	
チ、國防人民委員部	

五、一〇六	九、八
一、七四三	九六四
四、四三三	三、六一
三六、〇五	一三、一七
一八、七三〇	一三、三
七、六五	一三〇、〇
二〇、一〇一	一四、八

リ、内務人民委員部	五、五九	六、五六七	二、七五
及 行 政			
ヌ、國債關係諸支出	一、七五五	二、五七九	一四七、〇
ル、其他支出	二、〇六一	四、三五一	二、一一
出 總 計	八、六三六	一〇、一八〇	二、九、五
入 超 過 額 計	一、八四五	九、五〇	
累 計	八、三三	一〇、一三〇	二、八、〇

第三次五ヶ年計畫 その傾向と目標

ソ聯邦は今年で第二次五ヶ年計畫を終へて、來年一月から第三次五ヶ年計畫に入る事になつた。第二次五ヶ年計畫の最初の豫定は、既に述べた様に本年四月までに、つまり四年三ヶ月で遂行された。そこで政府は四月二十八日附の聯邦人民委員會(閣令)を以つて、かねて準備中の第三次五ヶ年計畫の作成を終へ七月一日までに政府に提出する様ゴスプランに命じた。第二次五ヶ年計畫は四年三ヶ月で遂行されたとはいへ、その内容を検討すると決して完全に成功したとは云へない。第三次五ヶ年計畫はこれを承

けて、次の諸點に目標が置かれる筈である。第一に、國民經濟内に生じた不均衡の整理である。例へば重工業と輕工業の不釣合を除き、重工業内部でも石炭、石油等の後れた部門を補強し、さらに各部門内部の後れた部門(例へば冶金業では銅、鉛、亜鉛、アルミニウム、錫の生産、化學工業では曹達、人造肥料、人絹、アニリン染料の生産)を強化することだ。これが出來なければ、國民經濟の圓滑な發展は望まれない。計畫經濟だから一箇處に缺陷があると全局に影響する。後れた部門、弱い部分を補強して全體の發展に歩調を合せることは次の五ヶ年計畫の主要な目標の一つとなつてゐる。

次にソ聯邦の經濟には既に莫大な投資が行はれてゐる。現在の生産設備は相當充實してゐる、更に生産高を増加し、國民生活を高めるためには、新に投資して設備を擴張する必要はなく、現在の生産設備を十分に利用し活用すればよい。今日は百の能力が三十位しか利用されてゐない處がある。これは生産力の餘力と呼ばれてゐるものであるが、この餘力を活用すること、つまり一人當りの生産高(勞働生産性)を増加することが次の五ヶ年計畫の重要な目標である。

ソ聯邦の一人當りの生産高が、數年間に二倍近くに増大したことは既に述べた通りであるが工業全體を通じて見ると、一九三三年には前年に對し八・七%

増加し、一九三四年には一〇・七%、一九三五年は一五・六%、三六年は二二・四%と急テンポで増加してゐる。しかしこれを歐米諸國に較べると未だ低いのである。試みにアメリカの勞働者一人當りの生産高(一九二九年現在)を一〇〇とすれば、ソ聯邦の勞働者の方は各産業部に就いて次の通りである。(%)

一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
加工工業全體	一七・九	二一・五	二二・二
製 鐵 業	一五・五	二〇・七	二二・七
金屬加工工業	三三・七	三三・二	三六・九
化學工業	一六・一	二〇・〇	
製紙工業	二・六	二・四	三・二
製陶及ガラス	一七・三	二二・二	三二・二
木工加工工業	三・六	三・八	三・七
綿 業	四・八	五・七	四・九
皮革工業	三・六	三・〇	
食料品工業	二四・〇	二六・六	
印 刷 業	一七・六	三三・一	三九・五

加工工業全體を通じてみればソ聯邦の勞働者一人當りの生産高はアメリカの三分の一強である。製鐵業もこれに近く、一番よいので半分内外だ(綿業、金屬加

工業)。これをアメリカ並に引上げようといふのが次の五ヶ年計畫の目標である。これに關聯して生産費引下げの問題がある。この點では第二次五ヶ年計畫でも思ふ様に行かなかつた。今日のソ聯邦の經濟では生産費が%上ると十億留の損をするのであるからこれは大きな問題である。今日のソ聯の生産費は歐米諸國よりも高くつてゐる。一製品當りの原料、材料、勞賃の支出が多くなつてゐる。それに不合格品が頗る多い。物によつては半分乃至三分の二以上に達する場合も珍らしくない。このロスを少くし、上記の支出を節約して生産費を引下げることが第三次五ヶ年計畫の目標となつてゐる。

以上要するに、從來の量の發展から質の改善に向はんとするが第三次五ヶ年計畫の傾向であり目標である。

第三次五ヶ年計畫によつてソ聯邦が三度び巨大なる發展を遂げるか否かは實績に俟たねばならぬにしてもその計畫案は例によつて尨大なるものである。左に極

く簡単にその輪廓を記さう。

金 屬 工 業

先づ第一の課題は良質壓延鋼、レール、鋼管類其他鐵製品の生産増加であつて之に對して特別の施設を行ふ、新設される熔鑄爐一、三〇〇立方米はいづれも最大の有效容積を有し生産能力はアメリカのそれに比敵するものとなる、アルタイ、チムケント、中央亞細亞に於ける非鐵金屬工業の發展に力を注ぎ、亞鉛、鉛、金、銀、カドミウム、硫黃等の産出高は莫大な量に上るべく電氣亞鉛工場の生産能力は第三次五ヶ年計畫の終りには二倍に増加される。

金及石油増産計畫

第三次五ヶ年計畫中に新金鑛の開発、設備の機械化はソ聯金鑛業に一新期限を劃するものとならう、新に開發される金鑛の主なるものは、レナのパリシヨイ、デガルヂン金鑛、ウラルのウエレゾフスキイ金鑛及西部シベリヤのヅメノゴルスク金鑛等であるが、金生産増加の半ばは新金鑛から産出され、採金能力は現在

の三倍に増加されるであらう、第三次五ヶ年計畫により國の中央部及東部に新油田の開発を行ふが、右新油田の石油生産高は五ヶ年計畫中に全聯邦生産高の一八%に及ぶ豫定である。

以上工業の發展は必然的にソ聯各地工業部門の發展を促すこととなるが、第三次五ヶ年計畫の特徴は實に工業の全然缺除せる新地域乃至初步的な工業地帯に一大工業地帯を建設するにある。

地方工業の發展策

第三次五ヶ年計畫中、個々の州、地方に於ける産業が如何に大飛躍を遂げるか、一例を示すならば現在北部地方に於ける年造材高は二千五百萬立方米であるが、第三次五ヶ年計畫の最終年度には五千立方米に増大、大セルロース綜合工場十ヶ所が建設せられ、年百四十萬噸のセルロースが生産される(即ち現在の全聯邦生産額の二倍)ベチョラ地域の石炭生産高も著しく増大される、同地の石炭埋藏量は千億噸(ドンパスより多い)と目されてゐるが、これらは大發電所、コ

ルクス工場の建設に依つて開發される、ウフタ河の石油埋藏量は四千萬噸であるが近き將來には年二十萬噸の石油が生産される豫定である。

鐵道、水運、空輸計畫

鐵道の延長は著しく擴大且つモダン化され、貨車の増加と共に客車の速度増加に特別の注意が拂はれる、而して客車数は第三次五ヶ年計畫の最終年度には第一、二次五ヶ年計畫中の三倍に達する、各河川水運の發達は特に注目し値すべきもので新に二〇、〇〇〇軒の水路が開通される。その他ヴォルガ河とバルチック河との連結、カスピ海—アゾフ海間の運河開通は第三次五ヶ年計畫中に於ける最大建設の一つであり、ヴォルガ—ドン運河の開通はモスクワ市をして五つの海をつなぐ港たらしめるであらう、北洋航空路全延長は八〇、〇〇〇乃至八五、〇〇〇軒に延長される(即ち二五、〇〇〇乃至三〇、〇〇〇軒の増大)但し右は民間の航空路を含まず、民間航空路は四二年迄には六〇、〇〇〇軒に達する豫定であ

る。其他北洋航路に使用される船舶數、貨物・乗客輸送數も著しく増大される、自動車生産計畫は未だ確定されてゐないが四二年には約七三三、〇〇〇臺の自動車(内トラック五一三、〇〇〇臺)が生産されることゝならう。

産業

工業

工業の管理組織

ソ聯邦工業は純然たる國營計畫統制經濟で現在重工業、國防工業、機械製造工業、輕工業、林業、食品工業の諸部門に分れ、各々同名を冠した人民委員部に統轄されてをり、國家計畫委員會(ゴスプラン)により統合立案されたる計畫案に基いて運営されてゐる。

諸部門中で重工業(聯邦單一)、輕工業(聯邦複合)、林業(聯邦複合)の三人民委員部は所謂工務省の別名で呼ばれてゐた最高國民經濟會議が五ヶ年計畫の進展に伴ひ改組新設されたもので、食品工業人民委員部は從來の聯邦供給人民委員部を分割して複合人民委員部として獨立し

たものである。聯邦單一國防工業人民委員部は三六年末重工業人民委員部より分離獨立せるもので、機械製造工業人民委員部は三七年八月更に重工業人民委員部から獨立した新部門である。各人民委員部主要役員名左の通りである。

重工業人民委員	カガノウイチ(兄)
國防工業人民委員	カガノウイチ(弟)
機械製造工業人民委員	ブルスキ
輕工業人民委員	シエスタコフ
林業人民委員	イワノフ
食品工業人民委員	ミコヤン

國營企業合同に関する法令

ソヴェイト政府は國營企業の合同(オプエジネーニエ)を組織し經營の合理化を計る目的を以て一九三〇年二月十三日

附を以て大要左の如き法律を發布した。

- 一、聯邦最高國民經濟會議に對し、人民委員會議又は勞働國防會議の認可を得て國營工業の各部門管理の爲全聯邦的合同を組織するの權利を與ふ。
- 二、聯邦最高國民經濟會議に對し左の權限を與ふ。
 - イ、管下「トラスト」及國營株式會社の行動を終止すること
 - ロ、合同の定款の認可、資本金額の決定
 - ハ、合同の構成を定め此等合同構成機關(分子)に關する規定を認可すること
 - ニ、合同に加入するとせざることを問はず全聯邦的意義を有する新「トラスト」の設立
 - ホ、「トラスト」に加入するか又は直接合同に加入する生産企業に關する模範的規定の認可
- 三、共和國又は地方的意義を有する企業のソヴェイト聯邦最高國民經濟會議への移管問題は同會議と當該聯邦構成共和國の人民委員會議又は經濟評議會との協議により之を決す
- 四、第二イ、ニ、ホ、第三はソヴェイト聯邦の他の人民委員部に對しても之を適用

五、聯邦構成各共和國政府に對し本法に準じ共和國的及地方的意義を有する工業管理組織改革手段を講ずべきことを提議す前記企業合同に關する法令に依り左の如き全聯邦的意義を有する企業合同が組織された。

- レクテスイリヨ(藥品及び技術的製品原料製造販賣合同)
- ソユーズ・ルイバ(全聯邦漁業合同)
- ソユーズ・モロコ(全聯邦牛乳バター企業合同)
- ソユーズ・コンセルヴ(全聯邦罐詰工業合同)
- ソユーズ・ミヤーン(全聯邦製肉事業合同)
- ソヴェイト・ゾーロト(全聯邦有色金屬、金及びプラチナ採掘精製販賣事業合同)
- ソユーズ・フレープ(全聯邦穀物合同)
- ソユーズ・ブテイツェプロドウクト(全聯邦鳥類産物事業合同)
- ソユーズ・プロドオヴオツチ(全聯邦果物野菜類事業合同)
- グアト(全聯邦自動車トラクター製造工業合同)
- ミネラル・ルード(全聯邦非金屬礦物採掘)

- 精製販賣事業合同)
- ウオストウーゴリ(ソヴェイト聯邦東部石炭礦業合同)
- ヴコ(全聯邦皮革工業合同)
- トコトウルピナ(全聯邦タービン製造工業合同)
- ソユーズ・レリス(全聯邦木材業合同)
- ソユーズ・ラスマスロ(全聯邦植物性油製造工業合同)
- スターリ(全聯邦冶金、鐵及備備業合同)
- ソユーズ・ウエルフイ(全聯邦海上船舶製造工業合同、全聯邦河川用船舶製造工業合同)
- ソユーズ・ネフチ(全聯邦石油事業合同)
- レシノオプエネーニエ(全聯邦ゴム及びアスベスト工業合同)
- ソユーズ・サーハル(全聯邦製糖業合同)
- ソユーズ・ソリー(全聯邦製鹽業合同)
- フセス・ピーチプロム(全聯邦燐寸工業合同)
- ソユーズ・スタンコインストルメルト(全聯邦織機、器具類製造工業合同)
- ソユーズ・ステクロファルフォル(全聯邦硝子、陶器製造工業合同)
- ソユーズ・ストロイ(全聯邦建築及び建築)

- 用石材類製造工業合同)
- ソユーズ・タバコ(全聯邦煙草製造工業合同)
- テクスチリ(全聯邦織物工業合同)
- フセヒムプロム(全聯邦化學工業合同)
- ヴエオ(全聯邦電氣工業合同)

國家計畫委員會改組

Gosplan (國家計畫委員會) の組織的缺陷の解消と國民經濟計畫化事業改善の目的を以て、ソ聯邦中央執行委員會會議は Gosplan の現行機構を改組することを左の如く決定した。

- 一、Gosplan 幹部會を廢止すること
- 二、Gosplan 議長提議により人民委員會 議任命の Gosplan 成員数は七十名とする
- 三、Gosplan に左の各部を新設すること
- イ、綜合計畫部(五部より編成)
- ロ、國民經濟諸部門計畫部(十六部より編成)
- 四、更に獨立の七部を設置すること
- 五、Gosplan 議長の下に左の三機關を置くこと

- イ、Gosplan 議長書記局
- ロ、行政經濟管理局
- ハ、編輯出版局

六、左の四機關を Gosplan に編入すること

- イ、Gosplan 國民經濟監査中央管理局
- ロ、Gosplan 經濟調查研究所
- ハ、全聯邦計畫院
- ニ、モスクワ及レニングラード計畫研究所

- (一) 一般計畫課
- (二) 労働課
- (三) 工業生産課
- (四) 生産原價課
- (五) 計畫遂行監査課

これに依つて従來獨立してゐた労働部、幹部課は解消、幹部養成は文化部に編入、農業部にはソフホーズ課を新設地區計畫部から天然資源課が獨立、燃料エネルギー部が廢止されてこの代りに燃料部と電

産 業

電 化

電化事業統制機關

ソ聯邦の産業中で革命前に比して最も長足の進歩を遂げ來つたものは電化である。レーニンは會つてソ聯邦の如く經濟的技術的に遅れた國家を社會主義化する上に絶對必要な手段は電化であるとなし、前國家計畫委員會議長にして電氣技師たりし、クリヂャノフスキー氏其他と計り一九二〇年ゴエルロ(國立電化委員會)を組織し、同年十二月の第八回全露ソヴェイト大會において有名な電化十年計畫を立案報告した。爾來電化は他の産業部門に比し、より急速なるテンポをもつて發展し來つたが、現在この電化を組織し統制する國家機關は左の如し。

電化の最高管理機關は聯邦國民經濟最高會議幹部會であつたが一九三二年一月同會議が重工業、輕工業、林業の三人民

委員會に分割再組織されてから、電化事業は重工業人民委員會の所屬となり、同委員會内に燃料及動力部があり之がエネルギーゴツェントル(全聯邦動力經濟合同)を監督し、エネルギーゴツェントルは電化事業關係のトラスト及び地方事務所を統制してゐる。之等機關の名稱及び所在地を擧ぐれば次の如くである。

- A、合同 エネルギーゴツェントル——モスクワトラスト(一)エネルギーゴストロイ——モスクワ、(二)ギドロエレクトロストイ——モスクワ
- B、地方事務所(一)——モグスーロモスクワ、(二)エレクトロトローク——レニングラード(三)セフカフエネルギーゴウブラウレ——ドニエール(四)ウラエネルゴ——スウェルドロフスタ、(五)ドンエネルゴ——ハリコフ、(六)ザエレクトロトローク——チフリス、(七)イワノウオ・ウズネセンスコエネルゴ——イワノウオ・ウズネセンスク、(八)ニシエネルゴツェントル——ニジニイ・ノウゴド、(九)ブレス——ブリヤンスク(十)ホゲス——ハリコフ、(十一)ニシウ

オルエネルゴ—サラトフ、(十二)ベル
ネルゴ—白ロシア共和國、(十三)スレ
ドネウオルエネルゴ—サマラ、(十四)
ズウクエネルゴ—キエフ、(十五)ユジ
ウクエネルゴ—オデッサ

電化事業概説

ソ聯に於ける電化事業は、レーニンの
提案による全國電化委員會の活躍に基礎
を有し、他の部門に比し極めて迅速に發
展し、國民經濟の發達に資する所大であ
る。

第一次電化五ヶ年計畫時代に於る電化
実績左の如く

一九二八年 一九三〇年 一九三二年 一九三三年
發電力(千KW) 一、八七〇、三三四 二、八四〇 三、八七〇 四、五七〇
發電量(百萬KW時) 五、〇〇三 六、三六八 八、三三〇 一〇、四三三

第二次五ヶ年計畫最終年度たる三七年
度には總發電力二千二百萬キロワット、
總發電量一千億キロワット時を指して
ゐる。このうち約二〇%は水力發電によ
り約七八%が火力發電によつてゐる。而
して、右電力のうち鐵道電化及運輸に消

一〇%、即ち、一千萬人の個人經營農を
残すのみとなつた。
一九二八年以降、コルホーズ數及これ
に加入せる農民の數は左の如く増大を示
してゐる。

Table with 2 columns: Year (1928-1935) and Kolkhoz count (千). Values range from 33,300 to 249,400.

各共和國別にみた三五、三六年度農業
集團化状態は前表の通りである。

猶これらのコルホーズ、ソフホーズに
トラクター其他の農業機械を配給するM
TC(機械トラクター配給所)の數も逐増
の一途を辿つてゐる。最近諸年に於るM
TC建設状態は左表の如き數字を示して
ゐる。

産 業

費される電力量は約百二十億キロワット
時、工業電化—六百六十億キロワット
時、電業電化—約百億キロワット時、
公共事業經營電化—約百二十億キロワ
ット時豫定である。

農 業

各共和國別集團農場數

Table with 2 main sections: 1. Grouped farms (千) for 1935-1936 across various republics. 2. Farm collectivization rates (%) for 1935-1936 across various republics.

農業經營
ソ聯邦に於る農業はコルホーズ、ソフ
ホーズ及個人經營農に分れてゐるが、現
在では殆ど大部分がコルホーズ化されて
ゐる。コルホーズは集團農場或ひは共營
農場として我が國にも知られてをり、ソ
フホーズは國營農場と譯されてゐる。

ソ聯邦が大
農主義に基い
て農業集團化
を開始したの
は第一次五ヶ
年計畫の一九
二九年以降で
逐年集團化の
過程は進行し
現在では農家
經營の九〇%
までがコルホ
ーズ、ソフホ
ーズに加入し
てをり、僅か

MTC建設状態

Table showing MTC construction status for 1934, 1935, and 1936. Includes rows for total MTC count, new construction, and tractor area.

機械トラクター配給所々有のトラクタ
1數を年度別に對比すれば左の如し。

Table with 2 columns: Year (1929-1931) and number of tractors. Values: 2,400; 31,100; 63,300.

一九三二年 七四、八〇〇臺
一九三三年 一二二、三〇〇臺
一九三六年 三二〇、〇〇〇臺
コンバイン(合成式刈取機)の増加率は
更に高度で、機械トラクター配給所は一
九三〇年僅かに七臺を所有してゐたところ
三六年度は六萬一千五百臺の老數を
示し、農業に利用される貨物自動車數も
逐年増加、一九三〇年は農業全部門を通
じ僅か二千三百臺のところ現在機械トラ
クター配給所だけで四萬四千二百八十臺
の貨物自動車を所有し、コルホーズ所有
に係る貨物自動車數は現在三萬臺餘に上
つてゐる。人的要素の點では最近の四年
間にトラクター操縦士百四萬四千名、コ
ムバイン操縦士十二萬五千名、自動車運
轉手八萬六千名を養成してゐる。
農業關係統轄機關としては農務人民委
員部及國營農場人民委員部がある、現在
主腦者左の如し。

Table with 2 columns: Position (農務人民委員, 國營農場人民委員) and name (ユルキン).

極東建設

極東建設の概要

一、面積及資源

ソ聯の行政上の極東地方なるものは總面積二百九十五萬四千平方杆(最近ソ聯邦最高會議選舉を控へ行政區劃としてのゼヤ州はチタ州に編入された。従つて舊ゼヤ州の占めてゐた一七五六平方杆は上記面積より削除されねばならない)で正に歐露の半ばに比敵する廣大なる面積を占めてゐる。本地方は八州及二民族管區より成り、又之が行政上は更に八十三の地區に分れてゐる。その首都は云ふまでもなく極東赤軍の司令部所在地として有名なハバロフスク市である。

參考までに極東地方各州別面積を示せば左の如くである(單位千平方杆)。

アムール州	二三八
カムチャツカ州	一、一五八
ニジニエアムール州	五九六
沿海州	九六七
サハリ州	四〇七
ウスリ州	五三一
ハバロフスク州	三三七
猶太人自治州	八〇〇

(註) 前述の如くゼヤ州はチタ州に編入されたため極東地方から除外される。

極東地方は概して氣候寒冷であるが東部と西部に於ける氣候風土は著しく異り、七月の平均温度は北部の二度から南部の二十度間を上下し、一月のそれは東部の零下四度から西部の零下二十度乃至三十度の間を上下してゐる。極東地方の大半は、冬は乾燥して寒冷な、夏は濕潤な、そして東海岸に多量の降雨を齎す季節風モンスーンの影響を受ける。極東地

方の河川はアムール河とその主要支流を除けば氾濫や急端のために航行に不便であり、北部では人煙稀薄な地方を流れ、一年の大部分を水に閉ざされる。極東地方の河川中主なるものはアムール河とアナドイル河である。

當地方は、氣候寒冷ではあるが、極めて自然的富源に恵まれてゐる。水産資源の豊富なることに就いてはこゝに説明を要しませぬ。

山林富源も亦極東ソ領は全世界で第二位を占めてゐる。即ち建築用材は素より、パルプ用材、工藝用材等の産出は極東經濟の重要地位を占め、又獸類は毛皮及び肉類を大量的に産出し、我友邦滿洲國との國境に在る興凱湖、黒龍江一帶の平原地は農業に適する沃土であつて、小麦、燕麥、大豆及び其他工藝農作物等耕作せられ、現在(一九三六年)度の耕地面積百五萬二千ヘクタールの外に、なほ土地改良を施さずして耕作可能の原野が五十萬ヘクタール以上あると、ワレイキスは報じてゐる。

極東の礦物富源もまた豊富で、サガレン及びカムチャツカの石油は勿論、石炭富源は特に大で、その埋藏量實に十一億二千八百萬噸と算せられ、そのうちブレイヤ炭田は最も囑目され、その埋藏量は現在のソ聯有数の炭坑ドンバスより二倍大と稱せられ、その一部、即ちウルガリンスキー區は本年より本格的に操業が開始されたばかりであるが、その外にカムチャツカ州アナドイルの大炭田には半無煙炭の厚さ二米の鑛層が五層重疊して約五十平方杆に亘つて廣がつてゐると云ふ。これ等の石炭富源のうち現在採炭されてゐるのは、沿海州炭(アルチョーム及びスーチャン)サガレン炭、アムール炭(ライチーハ及びキウダ)等で、之等の採炭量は第二次五箇年計畫により急テンポで増大したとは云へ、なほ年四百萬噸内外に過ぎない。

小興安嶺とシホタ、アリアン山脈には礦物多量に存し、即ち鐵鑛と共に良質なモリブテン、ウオリフラムの如き金屬、或は銀、鉛、亞鉛、銅等の外コルイム地

極東建設

方及びゼーヤ川附近を主とする採金業は將來益々有望とせられてゐる。特に、極東地方にて既に発見された鐵鑛脈の數でも七十箇所に及び小興安嶺地帯の赤鐵鑛の埋量は、實に五億噸と稱せられてゐるが、未だ本格的に採掘されてゐるものは目下皆無である。

また建築工業に必要な煉瓦及び洋灰の原料も相當豊富であると云ふ。

之等の豊富なる天然資源を完全に開發するならば、一極東地方だけでも世界強國の一に匹敵する經濟力を養ふに足るを得べく、さればソ聯當局者をして「極東の勞働者及び農民がこの富源を利用し、極東地方をソ聯邦内の先進地帯の隊列に加へしめ、我が社會主義祖國の武力を増進せしむることは自然の道程である」と誇號せしめてゐるのもまた道理である。

(一九三四年極東國立出版所發行のパレット「極東地方」)

斯くてソ聯の第二次五箇年計畫では極東開發に特に留意し、それに向けらるべき基本的投資、即ち一九三三年より一九

三七年に至る五箇年間の投資豫算四十億五千九百萬留と豫定されたのであるが、實際は初めの三箇年間に既に三十三億留を費ひ盡した。前極東地方執行委員會議長ゲ・クルウトフの第四回極東地方執行委員會に於ける報告に依れば、一九三六年度の一年間に極東地方建設資金に定められた額は三十億留で、實に全聯邦のその十分の一に當る。「この數字を見ても、ソ聯の黨及び政府が極東地方の經濟建設——より適切に言へば、極東地方に於ける國防建設に如何に大なる注意を向けてゐるか、明白であらう。」(本年三月六日のチホオケアンスカヤ、ズヴェズダ紙)。而も一九三七年度に入つて既に投資された金額は、共產黨極東地方委員會書記ワレイキス(最近罷免されたと傳へられる)の報告に依れば二十億以上に及ぶと云はれてゐる。

二、人口問題と殖民政策

極東地方總人口は一九三三年一月一日現在百八十六萬一百人を算し、内農村人

口百十二萬二千七百人、都市人口七十三萬七千四百人となつてゐる、而して住民は主として移民より成り、土着民は極めて少数である。即ち總人口の六二・五％はロシア人、一六・八％はウクライナ人、二・二％は白ロシア人、四・五％は朝鮮人その他で土着民族のツングース人は〇・七％、チュクチ人は〇・六％、ユリヤーク人は〇・四％と云つた有様である。右に參考までに極東地方の各州別面積及人口を示せば左の如くである。

(一九三三年一月一日現在)

州	面積(平方英里)	人口(單位千人)
アムール州	一三、七〇九	四三、三〇〇
ゼンヤ州	六、七〇九	一、二六、四〇〇
カムチャツカ州	五、一七〇	五八、三〇〇
ニジニエ・アムール州	六、七〇七	八七、七〇〇
沿海州	一五、〇〇〇	二、五、六〇〇
サハリ州	三三、〇〇〇	七〇、〇〇〇
ウスリー州	二六、三〇〇	三、七、五〇〇
ハバロフスク州	一五、五〇〇	二、六、四〇〇
猶太人自治州	二五、〇〇〇	五〇、〇〇〇
計	一、一三、七〇七	一、八〇、一七四

極東開發、即ちソ聯で謂ふ所の極東に於ける「社會主義建設」の第一に解決せねばならぬ先決問題は、人口増殖と、水路、鐵路、空路、自動車路等の道路交通網の開發である。

然らば極東ソ聯の人口増殖状態はどうであるか？之を説明する最近の數字は次の如くである。

一九三二年一月現在	一、七三、〇〇〇
一九三三年同	一、八六、〇〇〇
一九三四年同	一、九六、〇〇〇

即ち右年間の増加は一箇年八萬八千人乃至十一萬五千人である。北滿經濟調査所發行のソ聯資料第五八號に依れば、三六年初に至る二箇年の増加数を二十七萬四千人と見て、一九三六年度の總人口を二百二十五萬人と推定されてゐるが、之は不當の推定ではあるまい。而も右の推定人口の中には、我が滿洲事變後急激に増加された數十萬の極東赤衛軍及び十萬を算すると評せられる強制労働者は含まれてゐないのである。

一九二六年度の國勢調査に依れば當時

の極東地方總人口は百二十八萬五千人であつた。されば過去十年に於ける極東ソ領の人口増加率は七五％に達し、最近五ヶ年間に於ける増加率でも二九％に及んでゐる有様である。

既に述べたる如く一九三三年一月一日現在に於ける極東地方人口は合計百八十六萬一千人となつてゐるのであるが、其の後の推移を見るに、前記ワレイキスの今年六月に開かれた極東共產黨地方大會に報ける報告に依れば、極東の農村戸數は一九三三年の八萬九千戸より、三六年には七萬七千九百戸に減少(二・四の減少率)してゐるのであるから、三三年以降の人口増加數の凡そ三十九萬人と右の農村減少分即ち一萬一千戸に相當する人口は殆んどみな都市人口に、換言すれば鑛業及び土木建設に吸収されたものと見なければならぬ。之によつても極東ソヴェート建設の動向を窺察することが出来る。

如何に工業人口の急激に増加するかの一例を挙げれば、一九三二年までには五千戸を減少するに至つたのである。

十三戸を有したに過ぎない黒龍江下流のコムソモリスクは、第二次五箇年計畫で極東重工業の中心地、軍需補給の根據地建設地と指定されてより年々人口は増加して、昨年の一九三六年には六萬人に達し、今年初頭の四箇月に一萬人以上も増加して既に七萬人に達したと、六月十二日のチホオケアンスカヤ・ズヴェズダ紙は報じてゐる。而も從來の出稼的獨身移民を固定せしめる爲めに最近には全國の婦人に呼びかけて、特に未婚婦人に「全國の若き愛國者は極東に來れ！」と煽動勸誘してゐる。同紙の報ずる所に依れば、「ワリヤ・ヘタクローワ婦人の呼びかけに應じて五月十日には歐露より四百人の未婚婦人が移入し、その後續々と入り込んで十月迄には既に五千名以上に達してゐる」。

更にソ聯政府の極東農民人口増殖策を見るに、既往並に現在に於ける極東地方農業の不振は農村人口の不足に原因する所少からずとなし、政府は第一次五箇年計畫に於て極東方面(ザバイカル地方を

極東建設

も含む)に五箇年間に五十萬人の農業移民を移殖せんことを計畫し、更に又第二次五箇年計畫に於ても多數移民の東送に依り一九三七年末迄に農村人口を百三十萬人(ザバイカル地方を含まず)に増加し、以て極東の農業を振興し、食糧の自給自足を計らんと努力した。即ち各種の宣傳に依りて移民を勸誘すると共に、極東地方ホルホズ農民の永代土地使用權を認め、公課賦役の免除乃至輕減の特典を與へ、又は國防上の必要と相俟つてホルホズ軍隊を設置する等の凡ゆる手段方法を用ひて農村人口の増加に努力し來つた。然しながら、右政府の移民獎勵策によつて一時増大しかけた移民數も一九三四年乃至三五年を頂上として其の後激減した傾向すら認められ、加ふるに五箇年計畫に於ける工業偏重的跛行的政策及び急激無理なる農民の集團化政策は農民の離村、都市集中を招き、結局に於ては農村人口のみは所期の如き増加を見ざるのみか、前述の如く、その戸數に於て一九三三年より三六年の間に凡そ一萬一

千戸を減少するに至つたのである。されば極東地方の當局者は之が對策の一手段として兩三年來尅大なる極東駐屯赤軍よりの年々の除隊者を成るべく極東に引留むる方針を執り、昨年ホルホズ有志の大會に於てもブリユツヘル元帥は、各農場管理人に對し可及的多數の赤軍除隊兵を農場員として編入すべき旨を懇懇せることすらあり、又本年四月には右の趣旨を徹底せしむる爲め極東地方執行委員會は、極東地方ホルホズに移住を希望する赤軍除隊兵に對して長期に亘る一切の租稅公課の免除及び家族並に財產輸送費の支給、住宅建築資金の長期信用貸付、種子費の補助等々の特別の恩典を附與することを決議し、當時の議長クルトフの名を以て既に布告したのである。

隊兵に對する特典を參考迄に記すれば左の如きものである。

1、特別極東軍、太平洋艦隊、國境警備軍より一九三九年除隊又は一九三七年除隊する諸兵員にして家族と共に極東コルホーズに移住を希望する者に對し下記の特典を附與す。

- (一) 移住除隊兵家族に對し、其の未納農稅、文化稅・保險料を免除し、且國家に滯納中の肉類、牛乳、バターの納入を免除す。
- (二) 移住家族に對し、各種課稅及附加稅並に肉類、馬鈴薯、獸毛、牛乳、牛等國家への義務的納入を一九三七年より向ふ十箇年間免除す。
- 2、除隊兵及其の家族の極東コルホーズ移住希望者に對し、下記の特典を許與す。
 - (一) 家屋の修理又は新築及經營施設のため長期クレヂットを附與す。
 - (二) 現住地より移住地までの家族及財産の運賃を國家負擔とし、無料輸送す。
 - (三) 經營準備として各家に對し、無償還にて四〇〇留の補助金を給與す。

- (四) 蔬菜種子入手のため各家に對し、無償にて一〇〇留の補助金を給與す。
- (五) 家畜類の特別貸與をなす。
- (六) 第一回収穫を以て返還する條件にて移住者の需要に應じ穀物の貸付を行ふ。

三、交通運輸

交通機關の發達はどうか？
先づ最近の鐵道の建設状態を見よう、第二次五ヶ年計畫に於て、ソ聯政府が、極東の鐵道建設に特に十三億一千四百九十萬留の巨費を投じて鐵道網の整備發達を圖つたのは、極東産業上の必要と又それ以上軍事的意味からであることは論を俟たない。されば極東の共產黨書記ワレイキスも「極東に於ける鐵道の發達と新線敷設の經濟的及國防上の意義あることは説明の必要がない」と率直に言明してゐる。(アラウダ紙六月二十八日)

またこゝに注意を要することは、極東の新線敷設には、主として強制労働者の安價なる勞働力を用ひるが故に實際の投資額以上に經濟的には實績を擧げ得ることである。

とである。

既にウスリー鐵道全線は複線となり、貨客の運搬能力は倍加した。またシベリヤ鐵道本線のアムール鐵道と新工業都市コムソモリスクとを繋ぐ新設線も開通して昨年十一月二十七日には同鐵道の最初の客車が通じた。(本年六月十二日のチホオケアンスカヤ・スヴェエーズダ紙による)

新設鐵道のうち最も大規模なるは、シベリヤ本線と並行して敷設されつゝある有名なるバイカル—アムール鐵道幹線(略してバム鐵道と云ふ)である。同鐵道は西方より廣大なブレイヤ炭田地帯を経てコムソモリスクに通じそれより黒龍江を渡つてシホタ山脈を東に突き抜け我が樺太の對岸なるソヴイェトスカヤ灣軍港に至る幹線鐵道である。現に工事中であるが、その完成程度は不明なるも、一九四〇年迄には全線完成する豫定だと言はれてゐる。パンフレット『極東地方』には次のように書かれてゐる。
『本線の使命は、重要な新工業地を經由することが第一目標にして、本線起工

に當り人民委員會議長モロトフは全聯邦共產黨第十七回大會席上次の如く語つてゐる。新設鐵道中最も大規模のものはバム鐵道にして、千四百軒に達しザバイカル地方と黒龍江下流地方とを連絡し、未開發の廣大なる富源地帯を經濟市場と爲す至大な力となるものであると。二箇の横線は、一九三五年よりウスリー鐵道と連絡せられる。その一つは前記のウオロチヤエフカコムソモリスク線で、他の一つはウスリー線のロンドコ及びピラの二驛間よりウチ・ニマンに至つて新設のバム幹線に接続し、小興安嶺の鐵道とブレイヤ大炭田を連絡するものにして、この二鐵道が環狀を畫き、その環狀内には巨大な工場、製作所、鑛區があり、之等の建設工事は既に着手せられてゐる。』
以てその建設の意義と規模の大なるを知るべきである。

極東建設

加之、新式機關車及客貨車も製造せられて輸送能力は著しく増大し、鐵道貨物輸送高の如きは一九三三年の五百五十四萬七千噸から一九三六年には千七百二十二萬六千噸に激増してゐると云ふ。
海上貨物輸送高は、反對に一九三三年の三百六萬五千噸より、三六年には二百六十四萬八千噸に減少してゐる。前記共產黨極東地方の代表者ワレイキスは六月二十八日のアラウダ紙上で之を辯明して次のように言つてゐる。「この現象は先づ第一に、鐵道作業が改善されて、以前には海路に依つたものが、現在は鐵道によつて運搬されるようになったと云ふことによつて説明がつく。」恐らくこれは詭辯であらう。河川の水路による貨物運搬が、それに並行する鐵道の完備によつて食はれるのであれば、これは解る。だが未だ海路との並行線を有せざる極東ソ領に於て海路による貨物が「鐵道の完成化によつて吸收された」とは考へられな

い。而もシベリヤ本線は、最近數年間は軍需品の輸送だけでも多忙を極めて、海路の輸送貨物を吸収し得ない實狀にあつた筈である。恐らく他に缺陷があるのであらう。

ソ聯極東鐵道は近年迄、浦鹽、ウルレーヤ間(二〇八三軒)を烏蘇里鐵道、其以西チエリヨムボーウオ(イルクツクの西一三〇軒)までをザバイカル鐵道と稱してゐたのであるが一九三六年四月一日以後、その管區が廣大では輸送能力が充分に發揮出來ぬといふ所から次の様に改正してその管區を縮少しした。

極東鐵道
(ダリネウオストーチナヤ)

極東鐵道局所在地はハバロフスク市で、局長はレムベルグ(但し最近逮捕せられた由)其管區は、
本線—浦鹽—ウオロシロフスク(舊ニコリスク)—ハバロフスク—アルハラ間—二二一軒。
綏芬河支線—ウオロシロフスク—綏芬河間—二三軒。
蘇城炭鑛支線—ウーゴリナヤ(浦鹽の北三四軒)—ワブシク(舊スーチャン)—ナホドカ間約一六〇軒。
ツリー・ローグ支線—マンゾフカ

(ウオロシロフスク北二二〇号)ツ
リー・ローグ間約一五〇号。

烏蘇里鐵道は一八九一年五月十九日、
時のニコライ皇太子極東來訪の際浦鹽郊
外に於て起工式を舉行し、それより工事
に着手し、其南部線區、浦鹽、ニコリス
ク、ムラビエフ、アムールスキー間三七
七露里は一八九五年までに完成、翌年一
月一日營業開始、北部線區ムラビエフ、
アムールスキー、ハバロフスク間三四四
露里は一八九八年一月一日營業を開始し
た。本線は古い時代の建設でもあり、建
築規格の如き西伯利鐵道や黒龍鐵道に比
すれば餘り嚴格ではなかつた。そこで一
九一一年以來改良工事を計畫し、勾配や
曲線の緩和を計り、浦鹽ニコリス間
(一一二号)はその頃完成した。ニコリス
ク以北は一九一四年改良工事に着手した
が、間もなく歐洲戰爭開始となり、僅か
ばかりの工事を完成したのみで、爾來そ
のままに放置せられ、昨年頃より復線工
事と共に改良工事をやつて居る模様であ
る。

綏芬河支線、即ちニコリスク、綏芬河
間は東支鐵道建設材料運搬の必要上、一
八九八年初め東支鐵道建設局に其工事を
委囑し、急速施工、同年末竣工したもの
である。此支線は建築規格を西伯利鐵道
に準じ施工せられたので、烏蘇里本線に
比すれば良好である。此支線は東支鐵道
營業中に滿洲特産物の輸出と歐洲大戰中
露國向軍需品の輸送に活躍をやつたので
あるが、北鐵賣却後は漸次其意義を失し
昨年以來極東鐵道局は旅客列車の運行す
ら停止し、現に綏芬河驛とは交通杜絶の
状態にある。

蘇城炭礦支線は一九〇七年にウーゴリ
ナヤ、カンガウズ間(七四露里)を廣軌
線としカンガウズ、スーチャン炭礦間は
狹軌線とし途中ケール架空線もあり、
純然たる運炭線であつたが、一昨年全部
廣軌に改造し、且つ改良工事を施し、更
に炭礦より南下してナホードカ港まで延
長せられた。

ツリーローグ支線はマンゾフカより
分岐し、興凱湖に沿ひ、滿洲國々境近く

のツリーローグに至る、延長約一五〇
号であつて、マンゾフカ、プラトノフカ
間(一一二〇号)は旅客列車を運行して居
る。此線は密山縣方面の特産物を浦鹽に
吸せんが爲建設せられた(一九一九年)
頃のであるが、現在では滿洲特産物の此
線に依る輸出は全く杜絶して居る。

黒龍鐵道(アムールスカヤ)

鐵路局所在地スウオボードヌイ市(舊
アレクセエフスク)局長ルーチャンブル
グ、其管區は、

本線||アルハラ、クセニエフスカヤ間
一一八二号。

武市支線||クイブイシエフカ(舊ボチ
カレウオ)ブラゴウエシチエンスク
間一〇九号。

本管區は舊黒龍鐵道の中央部である。

舊黒龍鐵道はクエンガ、ハバロフスク間
(一九九七号)で、一九〇七年夏起工し、
一九一五年末に竣工の豫定であつたが、
一ヶ年位工事延期となつた。何分當地方
には永久凍土層もあり、且つ一般に氣候
寒烈の爲め、工事も思ふやうに進捗しな

かつたのである。黒龍鐵道は西伯利鐵道
の規格により建設せられた。其後黒龍鐵
道の名義を廢し(鐵道局は知多にあつた)
烏蘇里及ザバイカル鐵道に分屬したが、
昨年の改正により黒龍鐵道なる名義を復
活したのである。

モロトフ鐵道

舊ザバイカル鐵道、即ちイルクツク第
二(舊インノケンテイエフスカヤ)スレー
テンスク間(一四三七号)の東半部と、舊
黒龍鐵道の一部より成り、局所在地は知
多市、局長はコーガー(最近交迭したと
の説あり)其管區は

本線||クセニエフスカヤ、クエンガ、
ペトロフスキー、ザウオド間一〇一
四号。

スレーテンスク支線||クエンガ、スレ
ーテンスク間五四号。

ネルチンスク支線||ブリスコワヤ、
ネルチンスク間一〇号。

滿洲里支線||カルイムスカヤ、オトボ
ル間三七六号。
ブカチャチ炭礦支線||カガノーウイチ

極 東 建 設

(舊、パシエンナヤ)ブカチャチ間七三
号。

ザバイカル鐵道は一八九八年十月、イ
ルクツク、バイカル湖畔線(六六号)の竣
工を初めとし、一方バイカル湖上汽船に
より、鐵道材料を運送しつゝ、東行して
工事を進め、他方浦鹽に陸揚したる材料
は黒龍江を遡行して、スレーテンスクに
至り、工事を進行しつゝ、一九〇〇年一
月六日全線の臨時營業を開始するに至つ
た。最初鐵道局はイルクツクに在り後ち
ソヴェート政權になつて知多に移し、一
時知多鐵道となり(一九二三年頃)次で
ザバイカル鐵道、昨年モロトフ鐵道と改
名したのである。

東部西伯利鐵道(ウオスト

ーチノ・シビルスカヤ)

舊ザバイカル鐵道の西部と、舊トムス
ク鐵道の東部を以て數年前東部西伯利鐵
道の名稱が出来た。初めはバイカル湖畔
のマイソワヤ驛以西であつたのが、昨年
の改正で、左の通りとなつた。
本線||ペトロフスキー、ザウオド、タ

イシエツト間一三〇三号。

支線は無い、鐵道局所在地はイルクツ
ク市で、局長はクロフマリ。

本鐵道の西隣はクラスノヤルスク鐵道
であるが、極東との縁遠き故略すること
とする。

西伯利鐵道の複線工事

西伯利鐵道は日露戰役後複線工事を起
し、歐洲大戰前にはザバイカル線カルイ
ムスカヤ驛以西は、歐洲大戰中(一九一六
年)に完成したのである。爾來複線工事
は見合せとなつたが、近年に至り、ソ聯
政府は極東に大軍を集中するに及び、極
東鐵道の輸送力増大の爲、先づ黒龍鐵道
の複線工事を計畫し、歐露のバルチック
海と白海を連絡する運河竣工後、右工事
に使用した強制勞務者十數萬人を此工事
に使役し、盛に苦工を進めた結果、カル
イムスカヤ、ハバロフスク間(二二二七
号)は昨年までに之を完了し、引續きハ
バロフスク、ウオロシロフスク間(六五七
号)の線路改良工事に共に複線工事を急
ぎつゝあるを以て、何れ一兩年中には完

成するであらう。浦鹽、ニコリスク間の複線工事は、改良工事と共に一九一四年之を完了したのである。

黒龍鐵道の隧道及鐵橋々脚は何れも複線用となつて居る故、鐵橋を複線とするのは容易であるが、未だ鐵桁の掛換は行はれて居ないやうである。

バム鐵道

露國は日露戰役後、有事の際東支鐵道のみにては、露歐と浦鹽方面との聯絡不十分なるを察し、極東聯絡の第二線として、黒龍鐵道を計畫した。最初黒龍鐵道は黒龍江の左岸に沿つて建設せらるゝ筈であつたが、斯くては戰略上危險性が伴ふにつき、同江を距る五十露里以上北方に敷設せられた。斯くて東支鐵道と共に間接の複線となつたのであるが、北滿鐵道を失つた曉に於ては、有事の時、黒龍鐵道も亦危險を感じるに至つたので、今度は思ひ切り北方寄りのバイカル、アムール即ちバム鐵道を計畫したのが數年前のことである。

バム鐵道はイルクツクの西方タイシエツトを起點とし、東北の方向を取り、ブラトフスキー、オストログを經(アンガラ河左岸)バイカル湖の北方を過ぎ、ボダイボに至り、東行してトモトに達し、それより稍北東の方向を取りエキムチヤンを經、南東の方向を取りコムソモリスク(黒龍江の左岸)に至る幹線である。コムソモリスクよりは黒龍江の左岸を辿り、極東鐵道一驛ウオロチエフカ(ハバロフスクの西四八軒)に達し、極東鐵道に連絡するのである。本幹線は數年前タイシエツトより起工し、四〇〇軒位は竣工したそうであるが、本工事に就てはソ聯當局は秘して居る故的確なることは知れない。尤もウオロチエフカ、コムソモリスク間約三四〇軒は昨年竣工し、引き続き同市の建設に馬力を掛け、造船所、發電所諸行場、飛行場等が出来、更に奥地に向て鐵道工事が進められて居る。左に本鐵道の推定距離を示せば、
タイシエツト、ボダイボ間(一部竣工)
約一、〇六〇軒

ボダイボ、トモト間 約七六〇軒
トモト、エキムチヤン間 約八〇〇軒
エキムチヤン、コムソモリスク間 約四五〇軒
コムソモリスク、ウオロチエフカ間(竣工) 約三四〇軒
幹線合計 三、四一〇軒
更に支線の計畫もあるが、その内
エキムチヤン、スウオボドヌイを結ぶもの 約四〇〇軒
トモトよりルフロウオ附近に至るもの 約六五〇軒
コムソモリスク、ニコラエフスク港間 約四〇〇軒
コムソモリスク、ソフガワニ港間 約三四〇軒
支線合計 約一、七九〇軒
右は推定ではあるが、幹線と合せ、約五、二〇〇軒と云ふ大計畫である。黒龍鐵道が支線を合せ約一、七〇〇軒なりしに、其建設に約八年の日子を要したのであるから、同鐵道より北方不毛の地に建設する本鐵道工事の難易は到底比較に

ならない。況んや沿線に炭鑛も未發見である。材料も手近にあると思はれない。最も困難なるは給水工事である。此等の狀況を考慮すれば、之れが完成までは尙相當の日子を要すると思はれる。

最近特に世人の注意を惹くものに、北洋航路の開發がある。之に就いては、ソ聯の北洋航路管理局配船部長エフ・イ・ドリゴリの語るところを聴かう。

「北洋海面に於ける本年度航海は去る(六月)十四日リト號に依り開始されたが、本年は、例年に比し著しく船舶輻輳す可く、政府の認可を得た北洋航海に關する計畫は八億噸漚となつており、五十隻以上の大型海洋船舶は北氷洋を縦横に馳驅す可きのみならず、多數の船舶は奥地よりバイカルカヘンペリヤ材の輸送に従事するであらう。昨年迄は、木材は、バイカルカから外國備船に積載輸出せられてゐたのに反し、本年はソ聯邦國籍船舶に依りてのみ行はる可く、コルイマ行貨物を積載する船舶は、歸途バイカルカに寄港して木材を

極東建設

積取り外國に向ふもので、空船の航行は最小限度抑制せられることにならう。猶本年度航海の特徴は、従來東方より運搬せられたコルイマ向貨物並にヤクトの經濟機關に對する物資が、歐露より(勿論北氷洋を經て)運ばれることであらう。このことは、シペリヤ鐵道の貨物輻輳を著しく緩和させるものである。」

更に又六月二十九日の「赤旗」紙は、イズヴェスチヤ紙の報ずる所であるとして、次の記事を掲げてゐる。
「……最近北氷洋航路は碎氷船のみでなく、普通の貨物船でも通航してゐるが従來それは皆往行だけに留まつてゐたが、七月六日レニングラードを出帆北氷洋航海の途にあるモスソヴエト號(排水量六四三〇噸)に對しては、政府は一航海季節中に一往復すべき重要使命を負はせてゐる。之は北氷洋史上最初のことである。即ちモスソヴエト號はカムチャツカのペトロパウロフスク港に於て荷揚をした後、船艙を輸出

貨物を以て滿たし、直ちに北氷洋經由ムルマンスクに向つて復航の途に就き、ムルマンスクから英國に向ふものである。」

若しも之が今後繼續的に確實に實行されるれば、印度洋經由で行はれる我が北洋魚貨の英國向け輸出にも、相當の打撃を與へる可能性はあると見られる。

さて次は河川運輸であるが、これは大部分黒龍江水系によるものであつて、上下黒龍江船舶局の曳船及び貨客船は約百三十隻、その實馬力約二萬四千馬力、ライター約百六十隻、その總噸數約一萬噸の船舶が運行し、一九三六年航行期に於ける輸送貨物量は一、七三六、六一三噸に達すると言はれてゐる。なほ前記ワレイキスの極東地方共產黨大會への報告に依れば、極東ソ領全體の河川貨物輸送高は一九三三年の五十四萬八千噸より三六年には百八十二萬四千噸に激増してゐるのである。

民間航空事業は一九二九年に航空路開設準備が行はれて以來、滿洲事變を契機

として急テンポにて發達し、最近に於てはモスクワ浦鹽間八千軒の郵便旅客機の定期就航、ハバロフスク―浦鹽間、ハバロフスク―サガレン間、浦鹽―カムチャツカ間等の主要定期旅客郵便航空路を始めの他に數十に登る定期及び不定期又は季節的航空路が開設されてゐる。極東の民間機は凡そ百臺と見られてゐる。今、ソ聯では、オソアビアヒム中央評議會の決定に基づき十五萬人の飛行家を養成せよと云ふ運動が捲き起つてゐるが、極東に於ても先般ハバロフスクに於て共産青年同盟及びオソアビアヒムの合同會議が開催された。その席上オソアビアヒム極東支部長バジヨノフは次のように述べてゐる。

「極東地方に於ける飛行學校入學者の數は漸次増大して居り、一九三七年度には四百人の航空士が養成され、その中ハバロフスクのみに於ても百八十人の飛行士が教育される豫定である。」

だが極東の首腦者は今日までの之等の民間航空事業の成績を以て満足してゐない。即ち前記ワレイキスは斯う言つてゐる。

造が叫ばれてゐるが、現在本地方には自動車の製造工場は存在せず又今の所その建設計畫も無い。新品の自動車及びトラクター類は悉く西方から移送せられてゐる。

修理工場は、ハバロフスク市に大規模の専門工場が一箇あり、一九三五年に完成、作業を開始したもので建設費は四千七百萬留、その作業能力は自動車の大修理一日十臺、年約三千臺餘である。其の他中小規模の修理工場は若干の地方中心城市に分散し、又浦鹽、ハバロフスク及び其の他の主要都市に在る造船工場では事業の一部門として、自動車、戦車、トラクター等の修理をも行なつてゐる由である。

従來極東地方に於ける航空器材工場は、飛行隊駐屯地及び主要なる民間機の空港等に於ける小規模なる修理工場數個を數ふるのみであつたが、最近極東情勢の緊張に伴ひ航空機工業の獨立を目差して、浦鹽、ハバロフスク、コムソモリスク等に大規模なる工場の建設が開始せら

る。極東地方の如き道路の不備と領土の廣大なる所に於ては民間航空は重要な意義を有してゐる。然しながら今日までの所、優秀なるパイロットは居るが旅客飛行の發達は大したものではない。これは民間航空當局の指導も悪い。」

極東には現在多數の自動車を有するも未だ不完全なる爲め、政府は最近各村落又は都市間を結ぶ新道路開拓に努めてゐる。

造船・造船工業

極東に於ける運輸事業の發展の爲めには、之等の運輸交通機關の建造、修理事業及び大造船所の創設を急務とすることは論を俟たない。

そこで政府は先づ黒龍江沿岸の新工業都市コムソモリスク市にソ聯邦中最大級の造船所建設に着手した。斯かる極東第一の造船所を日本海沿岸の港灣に建設せずして、殊更黒龍江の中流に建設したことは意味深きものがあらう。同造船所は一九三三年起工、三六年竣工の豫定であつたが今なほ工事續行中で、本年末迄に

れ、之等は一體昨一九三六年度から前後して本格的作業を開始するようになったと言はれてゐる。

以上の運輸事業及び運輸機關建造製作事業の大躍進は國民經濟の發展に寄與するのみならず、近代技術に立脚する軍備強化の基礎となる。然しなほソ聯當局者は「我々は交通運輸事業及び夫等機關の製造事業のみの隆盛を以て安心してはならない、社會主義建設と國防力とを更に一層強化せしむる爲めには、船車、航空機等に必要なる石炭、石油、ベンジン等の燃料を、極東地方以外の遠隔な地よりの補給に依存してはならない」と強調してゐる。斯くて極東地方の燃料の自給自足が叫ばれるわけである。

燃料及び動力

「極東地方の第二次五箇年計畫に於て石炭採掘事業は、その基本的事業とならう、蓋し現在發展しつつある極東の農工、運輸の諸事業は何れも石炭を要求してゐるからである。而して石炭及び燃料問題解決の確固たる基礎を本地方

は完成する筈である。同造船所は造船臺三基、船渠三基を備へ、三、四千噸級の艦船の建造修理を爲し得ると云ふ。

元來極東の造船工業は第二次五箇年計畫以來勃興したもので、夫れ以前には航洋艦船の建造は行はれず、専ら浦鹽及びブラゴウエンチンスク等に於ける數箇の造船所に於て、艦船の修理漁業用船舶艇舟の建造及び黒龍江水系運用汽船の組立並に大傳馬船の建造が行はれてゐたに過ぎなかつた。所が今や浦鹽のウオロシロフ極東造船所では潜水艦、驅逐艦の建造及び一般船舶の修理を行つて居り現在職工數は三千五百名と稱せられてゐるのである。一九三四年に作業を開始せるハバロフスク郊外のキエロフ造船所も相當に近代的設備を有し潜水艦の組立てや艦船の修理を行ひ、従業員も千五百人を算すると云ふ。

その外黒龍江の上、中流のブラゴウエンチンスク、スラセフスク等の造船所は江船建造に従事してゐる。極東地方に於ては自動車運輸事業の促

内は設置し置かねばならぬと云ふことは同志スターリンの指示する所である。」

之れは先年共産黨極東地方委員會の前書記長ラブレレンチエフの言明せる所であるが石炭の自給又は進んで歐露への移出は斯くも高く叫ばれてゐる。そして同氏は、スターリンの名によつて、特にブレイヤ炭田開發を組織化すべしと號令した。

斯くの如くスターリンの名に於てブレイヤを指摘せる理由は何處にあるか。即ち同地は極東地方の中央に位置して産業上戰略上有利な位置にあること、沿海州炭のみにては當地方の全需用を充たし得ず、就中その西部方面の要求に全く應じ得ぬことにある。

將來ウスチ・ニマンとビラ間の鐵道が完成し、ウスリー鐵道の北方に於てバム幹線が貫通する場合、ブレイヤ炭を極東の諸産業に供給するが如きは容易にして、特に目下建設準備中の小興安金屬工場の銻鑛爐にも供給する計畫が立てられ

てゐるのだ。ブレイヤ炭の埋蔵量は頗る大で、既に判明せる埋蔵量だけでも一億噸以上に及ぶと言ふ。之が開發の爲めにウスリー鐵道に連絡するブレイヤ驛には參謀部が設けられ、又數百名の技師、勞働者はブレイヤ河を遡行してウスチ・ニマンに向ひ第一期工事として住宅を建築し鐵道敷設の準備事業に着手したと報告されてゐる。

此の外、開發に着手したもので、有望なるものはハバロフスク南方ローゼンガルトフ炭坑、猶太人自治州のピラ炭坑、ゼーヤ州のトルブチノ炭坑等の炭田があり、又カムチャツカのアナドイル區アクル州東部にも有望な炭田が存在すると言はれてゐる。

現在採炭されてゐるのは沿海州のスーチャン及びアルチョーム炭坑、アムール州のライチーハ及びキウダ炭坑、極東鐵道附近のタブリチヤンカ炭坑及びサガレンの炭坑であるが、最近五ヶ年間に於けるその總產出額は大體次の如くである。

年次	採炭量(噸)	計畫遂行率(%)
一九三二年	一、九三〇、〇〇〇	四〇
一九三三年	二、二六、〇〇〇	六五
一九三四年	三、三三六、〇〇〇	八四
一九三五年	四、一〇〇、〇〇〇	九〇
一九三六年	三、六七、〇〇〇	七四・五

前掲の數字で見ると通り五年前の百九十五萬噸に比ぶれば三六年度の三百六十一萬噸は莫大な増加であるが、最も必要とされた時一九三六年度及び今年度の第一・四半期の採炭高は、尨大な計畫にも不拘反對に前年度よりも減少してゐる。これ炭業界に於て清掃運動の起つた所以である。之に就いては後で一言する。

石油採掘の行はれてゐるのは、現在ではサガレン東海岸地方に限られてゐるが、油田の調査は近年大陸の各地に行はれ、一九三四年石油研究所カムチャツカ調査隊はカムチャツカ西海岸チギリシリ一區ヴァヤムホルカ及びトコロ附近に於て有望なる油層を發見し、又一九三六年には黒龍江下流コムソモリスク及びニジネ・タンボフスコエ方面に於て試掘が開

年次	採油井數	採油量(噸)
一九三二年	一〇	一八、九〇〇
一九三三年	一五	一九六、四〇〇
一九三四年	一六	二四、八〇〇
一九三五年	三四	三九、三〇〇
一九三六年	?	三〇、〇〇〇

始せられた外、ブレイヤ河中流チエクンダ近傍より出る乾溜性石炭(揮發油四五%以上)は液化事業に有望であると言はれてゐるが今の所之等の開發には着手されてゐない。

然しソヴェト政府は極東に於て五ヶ年計畫を立案するに際し、液體燃料自給の計畫をも立て、一九三一年ハバロフスク市に大規模の精油工場の建設に着手すると共に、之と相俟つて愈々本格的にサガレン油田の開拓に乗出すに至つたのである。而して最近五ヶ年間のサガレン油田の採油状態は次の如く、年々増大してゐるのである。

東地方に於ける電氣事業は甚しく劣つてゐた。發電事業の重要視せられるようになったのは、五ヶ年計畫にその第二次で滿洲事變以後である。第二次五ヶ年計畫では飛躍的に大なる建設計畫を立案したが、其後計畫に多大の修正變更を來たし、或は事業の中止となつたものもあり、結局出來上りは當初の案に比し可なり縮少されるに至つたとは云へ、後述の數字を見ても解る通りその躍進は著しい。

當地方發電事業の爲には因り水力の利用を有利とするであらう。然しながら現在は水力利用の研究調査十分ならず、既成の發電所は悉く火力發電に依つてゐる。従つて將來水力利用の餘地は十二分にあり、利用し得る水力資源は全聯邦の一五%を占めてゐると云ふ。最近五ヶ年に於ける當地方の發電事業の成績は次の如くである。

年次	發電力(キロワット)	發電量(キロワット時)
一九三二年	一八、〇〇〇	七、七〇〇、〇〇〇
一九三三年	二六、四〇〇	?
一九三四年	五四、〇〇〇	?

極東建設

金屬工業

年次	一、九三五年	一、九三六年
產出(噸)	一、〇〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
豫定(噸)	八、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇

鐵資源は、比較的豊富で、埋蔵量五億噸と稱せられるヒンガノ・ブレイヤ鑛業地帯の外、尼港附近の褐鐵鑛區、オリガ附近の磁鐵鑛區、スーチャン河流域及び其の他に七十餘ヶ所の埋藏鑛區が發見せられてゐるが、之が精煉工場は目下建設中に屬して居つて、實際に操業中のものは皆無である。なほヒンガノ・ブレイヤ建設と共に、小興安に建設準備中の冶金工場は年産五萬噸の金屬を生産し、更に第三次五ヶ年計畫に入れば六十萬噸を産出する豫定であると云ふ。コムソモリスク市の黒龍江製鐵工場は、一九三五年起工、今三七年作業開始の豫定であるが、實際の工事は著しく遅延してゐると云ふ。

有色金屬の埋蔵量は、相當に豊富であると言はれてゐるが現在迄に開發せられたものは、僅かに沿海州のチチュエを中

心とするシハリ鑛山のみである。チチュエに在る工場は、原鑛たる方鉛鑛及び閃亜鉛鑛を鉛分と錫とに撰別するもので、その能力は年十五萬噸である。

最近世界市場に金屬動を惹起せしむるに至つた採金はどうかであるか。既に發見の金産地は各方面に散在し、且つ多數に登つてゐるが、現在經營せられてゐる主要なもののみを擧ぐれば、ゼーヤ河中流、セレムチヤ河上流、アムグン河上流、オホーツク近傍、同海岸ナガエヴォ附近カムチャツカのアナドイル附近及びコルイマ河上流等の諸地方である。極東地方の金埋蔵量に關しては、稍々古いが鑛物學者アルネット氏の調査に従へば約六百萬噸で、實に全露の埋蔵量約一千萬噸に對し六割を占めると云ふ。

採金事業は、現在數箇の採金トラストに依て經營せられ、「上部黒龍江採金」、「黒龍江採金」、「沿海州採金」及び「極東建設」等の諸トラストが活動してゐる。金の産額に關しては、近年は極秘に附せられ公表されてゐないが、一九二六年ま

での五ヶ年間の採金量は次の如くである。

年 次	極東(担)	全聯邦(担)	比率(%)
一九二二年	二、七〇〇	六、三三六	四三
一九二三年	一、八六九	七、七七一	二四
一九二四年	一、七六六	一〇、五八〇	一七
一九二五年	二、八三六	一八、四〇〇	一五
一九二六年	三、三九三	三三、三三六	一五

其の以後の公表記録は、當地方に關するものは皆無であるが、全聯邦の産金額の變遷及び断片的資料を綜合判斷すると、一九三二、三年頃は一萬五千担内外、一九三四年二萬担内外、三五年には一躍三萬担内外に躍進したものと推定せられる。斯くの如き飛躍は極北のコルイマ金床地帯の開発に依る増加であつて、同地方の開発は今後益々強行される計畫であるから、將來の産金量も更に増加するものと豫想されてゐる。

建築材料に關する工業

次に建築資料としてのセメント及び煉瓦の生産状態を見よう。最近當地方の異常なる建設並に龐大なる國防施設の増強

によつて、セメントの需要は急激に増加し、一九三七年には約七百萬樽を必要とするに至るであらうと云はれてゐる。

然らば生産状態はどうであるか、一九三四年度の發表に依ると浦鹽及びハハロフスクに新設せる三個の煉瓦工場のみで三萬萬個を製出し、極東全體の生産力は五千八百萬個となり、セメントは三五年に第一期擴張工事を行なつた。スバスカ工場のみで二十五萬樽を製造する豫定で新設のギカント工場を合すれば三百二十萬樽の年産額となる豫定であつた。所が三六年度の實績は特殊煉瓦十四萬三千噸、セメント十九萬九千噸と發表されてゐる。三七年度の豫定は特殊煉瓦十四萬五千噸、セメント十八萬乃至十九萬噸であると云ふ。

次に木材だ。極東地方の森林は、木材業に對する無盡藏の資源で、又極東木材の高級なる品質は周知の事柄である。之等の木材は、建築用、造船用、鐵道枕木及びパルプ用等に用ひられ、その一部は我國へも輸出されてゐる。最近極東の

てはダリレスは計畫の六二・八%しか遂行しなかつた」と怒號してゐるのである。

尙木材關係の工業では、最近ブラゴウエンチュンスクにある人絹工場の改良擴張、チエルニゴフカの製紙工場の復活、レンザヴォドスク、ピロビヂヤンに家具工場の新設、その他各所に荷車製造所新設の計畫が具體化されつゝあると云ふ。

農・漁業及び食料品工業

極東地方當局の「農業の機械化」「播種面積の擴張」「農業の集團化」等々の號令にも拘らず、極東の農業のみは衰頹の一途をたどつてゐる。播種面積で見ると、第一次五ヶ年計畫に於て百二十八萬ヘクタールより二百八萬ヘクタールに増加せんことを企圖したるに、反つて九十八萬九千ヘクタールに減少し、更に第二次五ヶ年計畫に於ては三百萬ヘクタールに到達せんことを企圖して何等實績上らず殆んど釘づけの状態である。農戸數に至つては、一九三三年より六年までの四年間のうち一萬一千百戸も減少してゐるのである。而

建築工業の隆盛となるに伴ひ木材の需用は激増した。一九三四年度の造材豫定は五百萬立方メートルであつたのが、三六年度は造材高實に八百萬立方メートルに達してゐると言はれてゐる。價格によつて之を見れば、第二十回極東地方共産黨大會に於けるワレイキスの報告によると、造材高は一九三三年の五千三百五十萬留から三六年には實にその二倍近くの一億五十萬留に達したと云ふ。然しながら之を以てしても、嵐の如く勃興せる極東建設事業の需用には應じ切れないことは左の極東建設投資額と造材額の膨脹比例を見れば分かる。

(六月六日のチホオケアンスカヤ・ズヴェズダ紙による)

年 次	一九三一年	一九三三年	一九三六年
極東經濟投資	一〇〇	一九三	三三〇
ダリレスの造材	一〇〇	三〇三	三六〇

そこで極東地方機關紙チホオケアンスカヤ・ズヴェズダ紙は本年五月二七日の社説で「……木材に於ても成績良好ならず、本年(一九三七年)度第一期に於

陰謀を企てた。極東地方の收穫は三六年度は雪害の爲め廣汎な損害を被つたが、一九三七年度は農業機械の缺乏により計畫の遂行に至らなかつた。極東地方農業部の幹部數名は外國の手先となり極東を賣り、外國の爲めに富源を保留しておく爲めソヴェートの手による開發事業を阻止した。」

これによれば極東地方農業不振の責任の一半は外國、もつとはつきり言へば、日本にある、と云ふことになる。恐れ入つた話ではある。そんな愚論はさておき斯かる農業不振の原因の一つは、農民の意思を無視した急激無理な農業の集團化にあると思はれる。ワレイキスの報告を見ると、僅か數箇年の間に七萬七千九百戸の農家のうち七萬四千戸、即ち全體の九〇・五%が集團化されたことになつてゐる。極東より遙かに前から集團化が始まつた歐露をも含めたソヴェート全體に於ては、全農家の九〇%が集團化されてゐるのである。それよりも激しいのであるから餘程無理があるものと思はれる。

家畜は、ワレイキスの言に従へば相當發展したやうに見える。馬匹の如きは前述の如く凡そ四倍も増加してゐるのであるが、之は直接軍備との關係があるのであらう。次に水産業に就いて一言しよう。ワレイキスの報告によると、漁獲高は最近四年間に二百五萬ツェントネルから三百十三萬四千ツェントネルに増大した。最近では鮮魚をその儘市場へ搬出する爲め冷凍船が數隻新造され、浦鹽には大冷凍庫が竣工された。又漁業製品に必要とされる鹽は從來殆んど移入されたものであるが、最近タリミに大製鹽工場が建設され、斯くて三五年以降一萬噸を製鹽すべき計畫を立て極東での自給自足を計つてゐる。

参考迄に一九三六年度極東地方主要建設を掲げれば左の如くである。

コムソモリスツ市及其の附近

- △製紙総合工場
- △冶金工場
- △ダブリプロムストロイ
- △ゴリユーン水力發電所敷地調査及基礎工

は、特に戰略上の必要からであることは云ふまでもない。成る程ソ聯政府の立てた五ヶ年計畫に基く尨大な數字に達してゐるものは少くない。然し彼等のつくつた稍もすれば誇大に失する計畫の幾%が達成されたかは左程問題ではない。我々の關心は、現實にそれが如何に發展して行くか或は衰退して行くかにかゝつてゐる。

注目し値するのは、昨年あたりから農業は勿論石炭その他の數種の産業が停滞又は衰退すらしてゐるものがあることである。それをソヴェートの幹部達は「日本トロッキストの組織的なサボターヂユ」の結果だとわめき立て、農業に、石炭企業に、其他あらゆる部門に亘つて血なまぐさき手入れを行なつてその不振の責任を「日本トロッキスト」に歸せしめやうとしてゐる。この爲めに血祭りに上げられた犠牲者は、本年一月以來極東だけで三百名以上に達したと報ぜられてゐる。

所で本年六月始めて開かれた極東地方

事

ハバロフスク市及其附近

- △クラツキング工場擴張
- △キーロフ記念工場擴張
- △モロトフ記念工場擴張
- △カガノヴィツチ記念工場擴張
- △石油貯蔵所建設
- △微生物研究所建設
- △醫科高等學校建設
- △血清研究所建設
- △化學藥劑工場建設

其 他

- △北樺太探油事業強化(エハビカタングリに新探油區設置)
- △ブレーヤ炭田開發
- △北樺太探炭の増加
- △沿海州のシホタ・アリン・コンビナート大擴張
- △ウスリー州のシナンチン・ニツケル埋藏地開發
- △モロブデン埋藏地開發
- △浦鹽のウオロシロフ記念工場擴張
- △スバスクのスターリン記念洋灰工場擴張
- △電力本部關係企業建設
- △探金業の廣場擴張と新地區開發

共産黨大會で、書記長ワレイキスの報告に對する討論で、スーチャン炭坑の一坑夫は次のように絶叫した。

「我々の所には新しい労働者が入つて來る。所が住居の準備はない。彼等は汚いバラツクに住はせられてゐる、夫故労働力が喪失するのだ。労働者は坑内作業に行くのを好まない。と云ふのは、我々の所では坑内で働く者は二百留録いでゐるが、地上で働く連中は八百留録いで居るではないか。計算の規準も再検討する必要がある。

技師達自身がしばしばそれを理解せず而も労働者に理解させ様とする。或る技師は、物差しを取つて、計つては見、計つては見したが遂に計算することは出来なかつた。(チホオケアンスカヤ・ズヴェズダ紙六月二日號所載)

最後に第二十四回極東地方共産黨大會

- △石油資源調査
- △ソヴェート灣の大木材工場建設
- △ホルの木材加水分解工場建設
- △ラゾの大木材綜合工場建設
- △ウオロシロフ市の酵母工場建設準備
- △ビロビヂヤンの大小工場建設

尙東シベリヤ州の一部と、ヤクウト自治共和國の一部を含む所謂「極東」地方の建設を見れば次の如きものがある。

- △バム鐵道(バイカル・アムール幹線鐵道)
- △アンガラストロイ
- △後貝加爾の稀金屬埋藏地開發
- △アムール(ヤクーツク、アルダン)レナ兩幹線道路建設
- △ウオロチャエフカ(コムソモリスツ)間鐵道及自動車道路建設
- △コルイマのダリストロイ
- △アルチヨム炭坑附近のアルチヨム國營發電所建設

以上を以て見るに、極東地方に於ける産業は、農業其他少數部門を除いては、著しく發展傾向にあることは明かである、最近頻りに極東の自給經濟が叫ばれて、その計畫が着々實行されんとするの

に於ける書記長ワレイキスの報告及報告文中の極東地方産業に關する數字を掲載しやう。

ソ聯極東の現状

(「アラウダ紙」六月二十八日號掲載)

極東地方は太平洋岸に面する國土二百九十五萬四千平方米を占め、南はボシエツト及びウラヂオストツクに始まり、北は樺太、オホーツク海、カムチャツカを経てベーリング海峡にまで及んでゐる。尙、太平洋、韃靼海峡、オホーツク海に面する東海岸線はコルイマ、ヒンガン山脈を経て西に延び、恰かも黒龍江に沿つて西進、クセニエフスク驛に至つてゐる。

極東地方は金、石炭、褐炭、鐵、亞鉛、錫、銅、石油(樺太)等の鑛床に富んでゐるが、其他、優質な建築用材と魚族資源を豊富に有してゐるのは周知のことである。

極東地方は九州、二民族管區よりなり行政的には八十三地區に分れてゐる。

ソ聯邦に於ける社會主義の偉大なる勝利はレーニン・スターリン黨の指導下に達成されたものであるが、其の結果極東地方は太平洋に於ける社會主義國家の堅固不拔の砦となり眞の要塞となつた。この偉大なる經濟的並に文化的發展を達成するためにはボルシェヴィキ的・スターリン的不撓性が必要であつた。尙、極東地方の現状をあまりとくなく描寫するためには次の如き情勢を考慮に入れる必要がある。

即ち、日本軍部は滿洲占領以來新しい戰爭を日程に上げ、ソ領極東攻撃なる直接的脅威を提起してゐるのである。これがため我が極東國境の鞏化策が必要となり且つ資材の追加支出が不可避となつたのである。

たが右の任務は遂行された。今やソ聯極東國境は、我が偉大なる社會主義國家のあらゆる地方がさうである如く、正に難攻不落となつたのである。然して我々の活動は國防課題と東部國境鞏化策とに其の重點を置いたため、今日迄尠からざるに至つた。

市の建設は大體終了したが、一九三三年には一萬五千人に過ぎなかつた同市の人口は一九三六年には既に六萬五千人を算するに至つた。

極東經濟の發展に伴ひ貨物取扱高も増大してゐる。極東地方に於ける鐵道の貨物取扱高一九三三年には五百五十四萬七千噸であつたのが一九三六年には千七百二十二萬六千噸に激増した。尙、河川運輸の貨物輸送量は一九三三年には五十四萬八千噸であつたが一九三六年には百八十二萬四千噸となつた。

海上運輸の貨物取扱状態はあまり芳しくない。即ち、一九三三年度には三百六十五萬噸であつたのが一九三六年には二百六十四萬八千噸に低下してゐる。これは、鐵道運輸の改善に伴ひ、従來海上輸送によつてゐた貨物を鐵道で輸送する様になつた結果である。

極東地方に於ける鐵道の發展並に新設が經濟上並に國防上如何に重大な意義を占むるものであるかは今更説明を要しないところである。一九三七年度に於ては

極 東 建 設

る努力を必要としたのであるが、之は現在に於ても同様である。其の他、特殊情勢としてあぐべき件は、極東地方は他地方に比し未開の地域や島嶼がより多く存在し、これを社會主義建設の對象としたことである。

極東地方、就中其の北東地方、オホーツク沿岸、隣接諸島は比較的人口稀薄である。

極東地方に於けるソヴェート政權がソ聯國內他地方に比し五ヶ年間の立後れを見たことも極東に於ける社會主義建設の發展を妨からず阻害した。然して日本の侵略的干渉は、革命前既に確立されてゐた比較的貧弱な工業を破壊し、重大なる損失を齎したのである。

然し乍ら、以上述べた如き一般的情勢の複雑性に新なる困難が加重したにも拘らず、極東地方に於ける工業化は急速なテンポで發展した。新建設事業の投資額は最近二ヶ年（一九三五—三六年）間のみで四十億留に上つたが本年度即ち一九三七年度に於ても二十億留餘の支出を見

アムール鐵道並に極東鐵道の復線工事が完成する外、ヴォロチヤエフカ・コムソモリスク間の新設線が開通される豫定である。

新しい非舗裝自動車道路も多數建設された。

農村に於けるコルホーズ體制の勝利は、極東地方に於ける公共社會化農業並に畜産業のために廣汎なる發展の進路を開拓した。極東地方は農業發展に好適の氣候的條件を有し且つ畜産業に必要な牧草地に恵まれてゐる。農耕地は主としてアムール及びウスリーの二州が之を占めてゐる。然るに極東地方に於ける農業は今日迄未だ立後れの域を脱してゐないが、右は黨の指導が宜敷きを得ないことと農業機關の活動が不充分なことに基因する現象である。

播種面積は最近三ヶ年間に於て殆んど變化を示してゐない。極東地方に於けるソフホーズ（國營農場）数は總數五十七で、其の播種面積は十一萬七千ヘクタールに上つてゐる。尙、機械トラクター配給

る豫定である。最も急テンポで發展してゐるのは大工業であり、一九三三年度に於ける右生産高總額は三億百二十萬留であつたが、一九三六年度には六億六千四百八十萬留に増大した。

木材の生産高は八百萬立方メートルに増加し、採炭高は一九三三年には二百二萬噸であつたが一九三六年度には三百六十一萬七千噸となつた。

北樺太の採油高は一九三三年には十九萬六千四百噸であつたが一九三六年度には三十萬八千噸に増大した。亦、漁獲高は一九三三年には二百五萬四千セントネルであつたが一九三六年度には三百十三萬四千セントネルとなつた。

極東地方に於ける労働者並に勤務員數は一九三三年には四十六萬七千人であつたが一九三六年度には六十一萬一千人を算するに至つた。尙、労働者一人當りの平均年収入は一九三三年には二千七百七十留であつたが一九三六年度には四千二百八十九留となつた。

黑龍江の新興工業都市コムソモリスク

所は百三ヶ所にあり、右は千七百七十六に上るコルホーズ（共營農場）に奉仕してゐる。

ソ聯邦に於ける社會主義工業の勝利は、極東農業機械化にとつて好個の條件を齎した。極東地方に於けるトラクター數は一九三三年には三千三百五臺あつたが一九三七年には四千五百六十三臺となつてゐる。コンバイン（合成式刈取機）は一九三三年には六百六十二臺であつたが一九三七年度には千六百三十三臺に増大してゐる。亦、近年、畜産業も發展の一途を辿つてゐる。

極東地方のコルホーズは現在千八百六十六に上る商品農場を擁してゐるが、其の内、搾乳農場が六百三、養豚農場が三百九十二を算してゐる。ソヴェート商業も發展し、商業取引高は一九三三年には七億八千四百萬留であつたが一九三六年度には三十二億五千六百六十萬留に上つた。尙、右の内九億八千二百九十萬留は農村に於ける賣上高である。

會主義的大工業が建設され亦農村に於ても新しいホルホーズ農業が確立せられ、農民階級は社會主義建設に直接參劃するに至つた。尙、ソヴェート商業即ち一切の資本家の介入を許さない商業も逐年發展の一路を辿つてゐる。

社會主義經濟の發展は、ソ聯極東の國防上必要な經濟的基礎を建設しつゝある。然して、鞏固なる眞の國防は、安全保障上當然必要とする條件であると同時に社會主義建設にとつて不可缺の條件である。

極東地方の社會主義建設は、前述せる如く、經濟的並に文化的開發程度の低い乃至は全く未開發の新しい地域を開拓の對象としたのである。然して、この意味に於て、カムチャツカ州及び北樺太州の發展、コルイマの工業並に文化建設、北洋航路の開拓と發展等は重大なる國家的意義を有するものであると云へる。就中極東地方とソ聯中心地間の最短連絡幹線となつた北洋航路は、商品、建築材料機械等の搬入並に乘客輸送路として大なる

經濟的並に文化的意義を提供してゐる。

極東地方は廣大な面積を有してゐるにも拘らず道路網に乏しいので、非軍用航空輸送も重大なる意義を有してゐるのであるが、其の旅客空輸事業は今日まで見るべき實績を上げてゐない。而して右は、優秀な操縦士を有してゐるにも拘らず非軍用航空管理局の指導方針が劣悪なためである。

ソヴェート政府は近年カムチャツカ州の發展に大なる努力を集中した。同地に建設された漁業綜合工場は十七、罐詰製造工場は十五に上つてゐる。農業も發達し、播種面積は二千ヘクタールに増大したが、其の内ソフホーズ關係の播種面積は八百ヘクタールである。尙、畜産業も漸次發展の傾向を辿つてゐる。

カムチャツカに於ける學校建設数は、小學校百四十六校（其の内六十四校は民族學校）、中學校十八校、工業學校に上つてゐる。製材業並に造船業も確立された。カム

チャツカへの商品輸入は年々増加の傾向にあり、一九三三年度に於ける移入高は三千百萬留であつたが一九三六年には一億八千萬留に上つた。尙、カムチャツカの人口は現在八萬七千人を算してゐる。

コリヤク民族管區はカムチャツカ州に所屬してゐるが、同管區は三十一萬一千平方メートルの廣大な面積を有してゐる。革命前には病院を全く有せず、學校の就學者は總數二百名に過ぎず、然も大部分はロシア人官吏の子弟であつた。尙、一九一三年に於ける帝政々府の教育費支出額は人口一人當り年額僅かに七十四哥に過ぎなかつた。然るに現在では同管區に於ける學校数は五十校に上り、（其の内中學校が五校、師範學校が二校）、病院も十一あり、産院も二十ヶ所に開設されてゐる。

北樺太もカムチャツカに劣らぬテンポで發展してゐる。石炭並に石油工業が發展し、文化的水準が向上し、人口も増大してゐる。最近の十ヶ年間に於て北樺太の人口は一萬一千人から九萬人に激増し

た。一九三六年度に於て北樺太の採油高は三十萬八千噸、採炭高は三十六萬噸、木材調達高は三十一萬二千立方メートル、漁獲高は約二十萬セントネルの實績を夫々示してゐる。尙、北樺太に於ても農業の開發は行はれ、特に野菜栽培が發展してゐる。

猶太人自治州（ビロビジャン）は極東地方の管下にあるが、同州はソ聯に於ける最も新しい民族自治州の一つであるにも拘らず急速なるテンポで發展してゐる。然して猶太人自治州の結成は、ソヴェート政權のレーニン・スターリン主義的民族政策の數多い功績中の一つである。

猶太人自治州はソ聯邦に於ける最も豊饒な一地域を占めてゐる。同州の人口は一九三三年には五萬人であつたが一九三七年には十二萬人に増大した。尙、首都ビロビジャン市の人口は一九三三年には七千人であつたが一九三七年には二萬六千人となつた。

ビロビジャンには發電所、煉瓦工場、製材工場、石炭工場が既に建設されてゐる。

極東建設

るが近く、ミシン工場、大輻重器材工場等の建設が終了する豫定である。

極東地方は將來に於ける移民發展の可成條件を充分に備へてゐる。即ち、移民に提供し得る五十萬ヘクタールの土地は、樹根除去も土地改良も全く必要としない農耕好適地なのである。

吾人が配慮を怠つてならないことは、此等移民の困難を最小限度に止め、彼等の生活安定を計り得る様な條件を設定することである。農民はコルホーズ内に自己の住宅を建設し得る様にならなければならぬ。吾人は之等移民の生活上の個人的慾望に最大限の注目を拂ひ、資本やクレヂットを提供したり、建築材料を與へたり、生活必需品の購入費を下附したりして彼等を實際的に援助しなければならぬのである。

尙、こゝで次のことを注意してきたい。即ち、全聯邦共產黨極東地方委員會の指導者が過去に於て重大なる政治的誤謬を犯さなかつたならば、我が經濟的發展、文化的建設、教育並に國防思想普及

の發展、陸軍及び太平洋艦隊の鞏化等け更に一段と優秀なる實績をあげ得たであらう。黨の指導者たちは、政治的警戒心を缺き極東を誤つたのである。

極東地方に於ける地方工業は今日まで許すべからざる立後れを續けてきたが、石炭工業も其の例に洩れず、満足すべき發展實績を上げてゐない。即ち、石炭工業は著しい立後れを續け、逐年増大しつつある燃料需要に應じ切れない状態である。例へば現在スーチャン炭坑は一晝夜平均採炭計畫を僅かに六〇%遂行してゐるに過ぎず、アルテム炭坑の如きも八〇%の遂行率を示してゐるに過ぎない。其他、露天掘りを採用してゐるライチハ炭田（西部採炭地）ですら豫定計畫未遂行に終つてゐる。

極東地方の石炭工業部門に於て、破壊有害分子、トロツキイ的・ブハーリン的スパイ分子が嫌ふべき策動をなしてゐたのは極めて最近のことである。

當面の經濟的課題は、收穫率の向上を計り、石炭工業、林業並に漁業を相當の

水準にまで引上げ且つ強力なる建設機關を設置することである。尙、コムソモリスク市の發展と同市の新規建設事業に對しては多大の考慮を拂はなければならぬ。

極東地方は第三次五ヶ年計畫に於て、同地方の生産品、就中食料品並に農産物を以て自己の需要を満し得る様になる豫定である。

社會主義は勝利を占めたのであるが、資本主義の擁護者たちはまだ其の武器を収めてはゐない。資本主義の復興論者たちは(トロツキストと右翼スパイ分子は彼等の最も向ふ見ずな部隊である)、あらゆる手段を用ひて社會主義經濟の破壊と阻害に狂奔し、ソヴェエト體制の爆破を企てゐるのである。

資本家階級は撲滅され、農村ブルジョアジーたる富農階級も清算されてしまつたのであるが、階級闘争はまだ中止されてゐないのである。然して、資本主義並にブルジョア制度の擁護者、帝國主義の手先、スパイ、破壊分子、策動分子、フ

アシズムの下僕等は依然として反社會主義闘争を繼續してゐるが、彼等は目的のためにはどんな卑しい手段をも辭さないのである。

然して、日獨兩國のトロツキストの手先の破壊行動、策動行爲、スパイ行爲は工業部門に於ても運輸部門に於ても將又農業部門に於ても、尠からず暴露されたのである。

スターリンの指令を遂行することが必要である。即ち、「技術を獲得せよ!!」と云ふ古いスローガンは「基幹部員の政治教育」及び「黨精神の獲得」を強調する新しいスローガンを以て補充しなければならぬのである。然して度を過ぎた政治的信頼心を宜敷く清算すべきである。

極東地方のボルシェヴィキは極めて重大なる義務を荷つてゐる。即ち、我々は社會主義建設を指導するのみならず、國防事業、軍隊、太平洋艦隊を強化し、極東國境の難攻不落を保證しなければならぬのである。右の任務を遂行するためには、仕事に

對するボルシェヴィキ的な忠實性とエネルギーと労働愛好の精神とが必要であり且つ我々の仕事並に指導者の仕事に現れてくる諸缺陷を假借なく批判し合つたり自己批判をしたりすることが必要である。然してスターリン的黨政策を斷乎として遂行するためには、鐵の如きボルシェヴィキ的規律と不撓不屈の精神とが必要である。

革命の過程に於て我々は多くの難局に逢着したが、大概の場合我々は其を見事に克服してきた。若しも黨の指導者諸君がより一層注意深く行動し、之等破壊分子を適當な時機に暴露し得たならば、極東に於ける發展には計り知れない程大なるものがあつたに相違ないのである。

吾人は既得の達成に意を安んじ、社會主義の仇敵に對する闘争を休止してはならない。政治的武器の刃を砥ぎ澄して更に一段と警戒を厳にしなければならぬのである。而して之を實現するためには、我は多數の仇敵と戦はなければならなかつたのであるが、あらゆる戦線に於

て見事に彼等を破り、敗走せしめたのである。

然して我々が打つて一丸となり、ボルシェヴィキ的・スターリン主義的に仕事をとり上げるならば、以上に列擧した諸缺陷は、最も近き將來に於て根絶されるに相違ないのである。

極東地方産業數字

國營工業の總生産高	一九三三年 三〇一、〇〇〇千留	一九三六年 六四、〇〇〇千留
造材	高 五、五〇〇千留	一〇〇、五〇〇千留
探炭	高 二、〇〇〇千噸	三、九七〇千噸
探油	高 一、九六、四〇〇噸	三〇、八千噸
(サガレン州)		
漁獲	高 二、五四四トネル	三、一三四トネル
労働者勤務者數	四六七千人	六一二千人
労働者賃銀平均年額	二、一〇〇留	四、三九留
鐵道貨物輸送高	五、五七千噸	一七、三六千噸
河川貨物輸送高	五、四八千噸	一、八四千噸
海上貨物輸送高	三、〇六五千噸	二、六四八千噸
播種面積	九六、四九ヘクタール	一、〇五三ヘクタール
農家戸數	八千戸	七、九千戸
コルホーズ數		一、一七六
ソフホーズ數		五七

極東建設

(その播種面積) (二七千ヘクタール)

農業用機械	トラクター 三、三〇五臺	四、二七臺
コムバイン	六三臺	一、〇三臺
貨物自動車	三三三臺	六九八臺
家畜頭數		
馬	四、五五千頭	一、六七千頭
豚	六千頭	四七千頭
大有角畜	二、五五千頭	四、五五千頭
綿羊及山羊	五、六三三頭	一、九六六千頭
商業取引高	七、四、〇〇〇千留	三、五、六、〇〇〇千留
極東地方豫算收入	二、五、〇〇〇千留	四、七、〇〇〇千留

交通

ソ聯の交通運輸

交通運輸の概観

歐亞大陸に跨がり、世界陸地の六分の一といふ廣大なる領土を有するソヴェト聯邦に於ては交通運輸は殊更重大な意義を持つて居るが、しかも帝政時代より此方面で極めて貧弱なる遺産を受けついでたこと、世界大戦内亂等のためその貧弱なる運輸機關を更に極度の荒廢に歸せしめたことはソヴェトの交通運輸を一層困難なものとした。

新經濟政策に入つて交通機關の復舊に大なる注意が向けられたが、資金の不足と技術の幼稚とは充分にその成果を収むるに至らなかつた。

其後一九二五、六年頃から其復舊のテ

ンボも増加し、陸上交通の方面では一九二六、七年に至り遂に戦前の水準にまで復活するに至つた。即ち一九一三年の鐵道貨物輸送總額一億三千二百萬噸に對して一九二四、二五年度には八千四百萬噸に過ぎなかつたが、一九二五、二六年度には一億一千七百萬噸に増加し、二六、二七年度には一億三千四百萬噸となつて、一九一三年の水準を超過すること二百萬噸を示した。

然るに其後五箇年計畫の時代に入つて廣大なるソ聯邦の各地に社會主義的大工業の諸企業が發達し、一方ホルホズ化運動のテンボ増進によつて農業の改造目覺ましく、生産諸力は廣き戦線を敷いて展開され建設の増大消費の増加は種々なる貨物の輸送に對する需要を著しく高めるに至つた。

しかも陸上、水上運輸の實情は、この増大せる需要に應ずべくあまりに遅れてゐたためソヴェト爲政者の間には交通運輸の社會主義的大改造といふ新しいスローガンが提出さるゝに至つた。

日本鐵道技術家の招聘による運輸機關修繕技術の日本化運動も、一九三一年における水運人民委員部の新設も同年秋の聯邦共產黨中央委員會總會における運輸問題の大討議も、交通人民委員部長ルヒモウイチを罷免して有能の聞え高き黨中央統制委員會議長アンドレーフ氏を同部長に新任、更にスターリンの片腕として黨最高幹部カゴノウチイを人民委員長に選任したが同氏が重工業人民委員長轉出に伴ひ次長のバクーリンが一九三七年八月委員に昇任カゴノウイチによつて著しく改善された鐵道運輸の業績向上に適進してゐる。

工業、農業の生産高激増、都市農村問題に於ける物資取引進展、勤勞者の福祉及び文化の急速なる昂揚は、運輸に對し巨大なる任務を課してゐる。

第二次五ヶ年計畫に於ける貨物運輸高増加は左表に明かである。

第二次五ヶ年計畫の貨物運輸

(單位十億噸籽)

一九三三年	一九三七年	増加割合%
一、鐵道	一六・三	三〇・〇
二、河川	三六・一	六四・〇
三、海運	一八・二	五〇・〇

一九三七年度運輸計畫

ソ聯運輸第二次五ヶ年計畫は一九三七年を以て愈々最終年度に入るが、聯邦中央執行委員會並に人民委員會が一九三七年三月二十九日發表したる本年度運輸事業計畫は左の通りである。

△鐵道運輸

鐵道運輸計畫 鐵道運輸の一晝夜平均輸送量は一九三六年には八萬六千二百車輦であつたが一九三七年度豫定計畫は九萬五千車輦である、尙、貨物取扱高は五億六千五百萬噸、乗客数は十一億四千五百萬人と豫定されてゐる。

同走行距離 機關車の一晝夜平均走行

距離は二百六十籽、貨車の一晝夜平均走行距離は百五十籽の豫定である。

同建設費 交通人民委員部管下の建設費は總額五十五億五千三百十萬留であるが、右内譯は輪轉材料建造費十三億八千萬留、鐵道新設費四億五千二百萬留、複線工事費三億三千萬留の豫定である。

鐵道新設線 一九三七年度に開通される鐵道新設線は全延長一千六百六十七籽であるが其の内主なるものはウラルスクーイレック間(百四十一籽)、ルブツオフカ―ウリバ間(二百六十籽)の二線である。其の他、一千百四籽の複線工事が完了し五百六十一籽の電化線が開通する豫定である。

△水運

水運輸送計畫 一九三七年度の水運輸送計畫は左の如くである。

河川運輸	四七億三〇〇萬噸籽	三億人
海上運輸	三三億二〇〇萬噸籽	四億七〇〇萬人
建設費	水上運輸部門の建設費は總額	

十二億一千萬留と決定したが、右の内主なるものはヴォルガ・モスクワ運河建設費二億八千二百萬留、マヌイチ運河建設費一千五百萬留、港灣及び埠頭の構築修理費六千四百萬留である。尙、全延長百二十八籽のヴォルガ・モスクワ運河は本年度中に開通する豫定である。

△非軍用航空事業

空輸計畫 一九三七年度に於ける非軍用航空輸送計畫は二千五百萬噸籽と決定され、一九三六年度に比して一九%の増加を豫定してゐる。

同建設費 非軍用航空事業部門の建設費は總額二億三千萬留と決定されたが、非軍用航空本部は本年度において航空幹線のラヂオ化並に夜間飛行を行ふ航空路の照明裝置の完備を計る豫定である。

同航空路總延長 國家的意義を有する非軍用航空路總延長は一九三七年度において五萬五千籽に上る筈である。

一、鐵道の部

一、革命後の鐵道事業

革命當時露國の鐵道延長四萬キロメートルは革命戰の犠牲となり、一九一八年の全國貨物運送高は歐洲大戰前に比較し六〇%の大激減となり、汽罐車の修繕の如き百八十日乃至二百日を要したのであるがソ聯邦政權確立せられて以後十五ヶ年間に全國の鐵道新設延長は一萬八千八百八軒に増加し、鐵道建設第一次五ヶ年計畫によつて一九二九年から一九三二年の四ヶ年間に既に五ヶ年計畫の豫定建設延長の九〇%以上を遂行した。今革命後より第一次五ヶ年計畫開始年度に至る迄の十ヶ年間の鐵道網の延長米突數を見るに左の如し。

一九一八年	一〇六九軒
一九一九年	七一
一九二〇年	一九七
一九二一年	二〇〇
一九二二年	一一八

一九二三年	二四六
一九二四年	一、五四九
一九二五年	一、五九〇
一九二六年	一、〇〇四
一九二七年	一八四

第一次五ヶ年計畫開始前に建設された鐵道中其延長數並に經濟的見地より重要な意義をもつてゐるのは左の諸鐵道である。

- 一、オレンブルグ、ポスト、ウラル間(三二八軒)一九一九年竣工
 - 二、ストラウゴロド、パウロダール間(一八九軒)一九二四年竣工
 - 三、アポストロオ、ヘルソン間(一五四軒)一九二〇年、アチンスク、アクカン間(四六〇軒)
 - 四、コリチュギノ、クズネツク間(一八一軒)
- 以上一九二五、二六年間に竣工
- 而して第一次五ヶ年計畫によつて建設された鐵道總軒數は五、六五三軒で是を年度別にすれば左の通りである。
- | | |
|----------|-------|
| 一九二八—二九年 | 三一軒 |
| 一九二九—三〇年 | 四〇八 |
| 一九三〇年 | 二、六〇四 |

一九三一年	一、一一四
一九三二年	一、四九六

今、東支鐵道發行「ウエストニク・マシニユリ」によれば第一次五ヶ年計畫によつて建設せられた新線數は五十線の延長五千五百二十三軒に達してゐる。而して鐵道建設第一次五ヶ年計畫の成果として特筆すべきはトルキスタンとシベリヤを連結する彼のトルク・シブ鐵道の開通である。

- 一、トルク・シブ鐵道 是はトルキスタンに於ける棉花工業の發展を助成すると共に廉價なシベリヤ産穀物を中央アジアに供給する點と支那新疆地方との經濟關係發展とに於て又、戰略上から見るも極めて重要性を有するものである。
- 二、ウラル・クズバス鐵道 此はウラル地方の豊富な鐵産物とクズネツク地方産石炭との相互輸送上重要な鐵道である。
- 三、トロイツク・オルスク鐵道(延長四百一キロメートル)及び同支線カルタ

ル・マグニトナヤ鐵道(延長百四九五キロメートル) 是は直接マグニトゴルスク大綜合工場に連絡するものである。

四、ホロウオエ・アクモリンスク・カラガンダ鐵道(延長四百六十キロメートル) 是は農業の盛んな同地方の爲め特設せられたもので一方カラガンダの炭礦地方と連絡するものである。一九三二年開通。

五、ノウオシビリスク・レニンスク鐵道(延長二百九十五キロメートル)及び同支線クズネツク・ムンドウイバン鐵道 是はクズネツク炭をウラルの鐵産地方に供給せしめる點に重要な役割を演じてゐる。

六、ブリヤンスク・ウヤジマ鐵道(延長二百三十四キロメートル) 是は南部地方とレニングラードを連絡する新鐵道で一九三二年開通す。

右の他、第一次五ヶ年計畫期間中に建設開通を見た新鐵道はメウオベリツフ、リルーキ、チエルニゴフ、ウオルーチ、

交通

ウネチャ、ウオロジバ、アホストロゾオ、オドネブ、ロベト、ロフスク其他がある。

此の第一次五ヶ年計畫期間中に建設せられた新鐵道の中、經濟上軍事上最も重要視されるべきはトルキスタン・シベリヤ幹線鐵道である。同鐵道の延長は一、四四二軒、完工までに二ヶ年半を費した同線の開通によつて中央亞細亞は東西シベリヤとの最短交通路を持つこととなつた。又、前記諸鐵道中經濟的に重要視されてゐるのはノウオシビリスク・レニンスク鐵道(二九五軒)で、同線は有名なウラルクズネツク炭の進出を全國的ならしめる點で多大の期待がかけられてゐる。因みに一九二二—二三年以後鐵道敷設の爲め投資せられた金額を示せば、左の通りである。(單位百萬留)

一九二二—二三年	三五
一九二三—二四年	八・六
一九二四—二五年	一四・七
一九二五—二六年	二六・三
一九二六—二七年	四二・五
一九二七—二八年	七三・三

一九二八—二九年	一五六・〇
一九二九—三〇年	二六五・〇
一九三〇年中間年度	五八・六
一九三一年同右	三五七・〇
一九三二年同右	五一三・〇

二、第一次五年計畫時代

一九二六—二七年度において立運れのソ聯鐵道は早くも復興を終り、當面の輸送には支障なき程度に達したとは云へ他國民經濟部門に比し、其の復興テンポは緩漫にして、他經濟部門にては既に再建の途上に在るにも拘らず、鐵道運輸に於ては未だ物的及技術的基礎の再建の途に就かず著しく立運れの狀態に在つた。茲に於てソ聯邦當局は運輸企業の根本的再建及業務の合理化を行ひ以て運輸企業内部の充實を計る必要を痛感し、第十五回黨大會の決議に基く工業化五ヶ年計畫の一部として運輸五ヶ年計畫(自一九二八—二九年至一九三一—三三年)を樹て總額六十七億一千三百萬留の資本を投下して鐵道運輸に於ける物質、技術的基礎

の再建と作業の合理化とを計ることゝなつた。

五ヶ年計畫に付ては、諸外國は勿論、ソ聯邦内に於てさへ其の成功に疑を抱く者が多かつたが萬難を排し五ヶ年計畫を四ヶ年で完成し相當の効果を収めた。五ヶ年計畫の遂行状態は左の如くである。

一、投下資本

五ヶ年計畫に依る豫定投下資本總額は六十七億一千三百萬留であつたが、之は四年間に於て遂行され實際の投資總額は六十七億四千九百萬留に達した。

此の莫大なる金額の主なる費途は左の如し。

新經建設費	三〇〇百萬留
車輛新造費	八〇〇〃
驛、連絡所設備の改良費	三二〇〃
複線工事費	三六〇〃
機械化費	一三〇〃
機關車改造費	一〇〇〃
電化工事費	六〇〃
自動制動機及同連結器	四二〃

一九三三年度に於ける一日平均破損機關車數は前年度の二一・四%から二一・一%に減少したが未だ標準破損率(一七%)に達してゐない。然かも破損機關車は幾分増加を來たし、十、十一の兩月に於ける破損機關車平均率は前年度第四期の二〇・八%、一九三三年第二期の二〇・四から二一・四%に増加してゐる。

健全機關車の技術的狀態を表徴するものは途中に於ける機關車の破損指數であるが、此の指數に依れば機關車の破損回數は一九三三年の各月を通じ前年度より増加を示し、前年は一日平均四八件なりしものが一九三三年では十月末迄の平均四八・八件に達し其の過半數は救援機關車を呼出す有様である。

貨車の狀態に至つては尙更不良で概算に依れば一日平均の休車は二萬八千車に達し、是等不良貨車を途中に於て發見し解放を餘儀なくせらるゝ件數は一ヶ月平均十四萬四千乃至十四萬七千件に達した。

一九三三年度に於ける資本投下總額は

億二千萬留で計畫に對し一一・六%の收入不足を來した。

一九三三年度に於ける收入不足額は約七億五千萬留で其の内貨物收入の不足は四億三千七百萬留に達してゐる。斯くの如き收入不足を來した原因は、貨物輸送量が豫定數量に達しなかつた爲ばかりでなく、厩料當平均收入が減じた結果で、一九三二年度の實績は

一・六一哥、一九三三年度の計畫は一、六三哥であつたのに對し、一九三三年度の實績は一・五四哥に過ぎなかつた。平均收入が減少したのは平均以下の貨率を適用する貨物の比率が増加(貨物總輸送量に對する石炭及礦物の比率は二六%の計畫であつたのに實際は三一%に達した)せる外、貨物平均走行料が計畫よりも増大(六一〇料の計畫に對し實際は六三五料)した結果である。

一九三四年は最近數年間に於て鐵道經濟の基本的部門の作業改善に一進境を示した最初の年度と云ふことが出来る。

一九三三年度に於ける輸送作業總量

交 通

(厩料)は、前年度に比し三百五十億三十三萬噸(二〇・八%)を増してゐるが、比の増加量は實に最近三ヶ年間に於ける増加量(三百五十億六十萬噸)に略々匹敵してゐる。

三、第二次五ヶ年計

壹時代

ソヴェート政府に於ては兎も角も第一次五ヶ年計畫を四ヶ年で完成し相當の成績を收めたが、更に第二次五ヶ年計畫(自一九三三年至一九三七年)を樹て鐵道運輸の再建と物的基礎との強化とに努めたるも、運輸業は依然として不振を極め先述せる如く一九三二年度半期に至り運輸業績は極度の悪化を來した。

茲に於て黨及政府は一九三三年七月三日「鐵道運輸事業に關する件」(鐵道運輸管理機關の改造)勞銀制度及勞働標準の改正、開道運輸に於ける政治部交通人民委員部地方機關の業務の改善及輸送計畫等々を決定して一般方針を指示すると共に鐵道運輸の再興に努力したる結果、一

二十三億五千萬留(追加支出を含む)の豫定なりしに實績は二十一億留で計畫の九一%に當つてゐる。

一九三三年度に於ける資本建設工事の遂行條件は基本的な大工事の前年度より繼續工事なりし結果、極めて良好なりしにも拘らず其の實績は量及質共其前年度よりも不良であつた。

一九三三年に於て建設せられた新線は九百八十料で計畫の六四%に過ぎない。然かも基本的建設工事たるモスクワ―ドニバス線の如きは工事の質極めて不良にして軌條敷設區間三百二十五料の内完全なもの百五十乃至百六十料に過ぎない有様である。

電化に對しては三千二十萬留が支出されたが之は計畫の九〇・五%前年度の二三・五%に當つてゐる。一九三三年度に營業を開始した電化線は百九十七料である。電化計畫の遂行率は計畫の四八・二%であるが、前年度の實績に對しては殆ど二倍以上に達してゐる。

一九三三年度に於ける總收入は五十七

九三三年後半期に於ける一日平均積込車數は五萬二千六百車(一九三三年前半期には四萬九千九百車、一九三二年前半期には五萬七百車)に増加するに至つた。然し後半期に於ける好成绩も前半期の不成績と相殺せられ、結局に於て一九三三年の貨物作業總量は殆んど前年度と同様であつた。

一九三三年に於ては機關車九百三十六輛(内FD型強力蒸汽機關車一九輛、電氣機關車二四輛)、貨車一萬七千五百輛(内大型貨車五〇〇輛)客車一千三百五十輛が新造せられ、電化區間も五百二十四料となり、技術的施設が大飛躍を爲せるにも拘らず運輸成績も甚だ香しくなく、一般産業が九%も其の生産量を増加せるに對し鐵道運輸のみは依然として舊態の儘である。貨物運送數量は一九三二年度の二億六千七百九十萬噸に對し三三年度は二億六千八百八十萬噸、一日平均積込車數は一九三二年の五萬一千四百十五車に對し五萬一千四百七十六車、貨物走行噸料は一九三二年の一六九三十億噸料に對

し一六九五億噸に於てほんの申譯ばかりの増加を示したるに過ぎない。

然かも主要貨物にして其の生産地に放置せらるゝ數量は益々多く、ドンバスに於ける石炭の滞貨量は十月に百九十萬噸クズバスに於ける夫れは五十萬噸を超へ前年の二億近くに達した。

旅客輸送は從來好成绩を擧げてゐたのであるが、一九三三年度に於ては輸送計畫を遂行しないのみでなく、旅客輸送數及總走行料は何れも前年度の水準以下となり、旅客輸送數は一九三二年度に九億六千七百十萬人なりしものが三三年度には十億二千七百萬、總走行料は八三・七十億噸なりしものが七五・二十億噸に減少を來した。

旅客輸送の増加テンポが低下し始めたのは一九三二年度の第三期であつたが、特に甚しかつたのは第四期である。一九三三年第一期に於ける旅客輸送數は前年度の九五%増であつたが第二期には二五%第二期には八・五%減となつた。

マグニトナヤ線(一四五料)を延長してマグニトゴルスク產出礦物の需要地たるウファ(サマラ・ズラトウスト)鐵道に連絡せしむるものである。

五、カラガンダ―バルハシ線

本線はカラガンダ(アクモリンスク)を距る二三三料の地點に在る終點驛)をトルキスタン西伯利鐵道のバルハシ(セミパラチンスクより五一四料)に直通せしむるものである。

六、バイカル―アムール本線(略稱バム鐵道)

本線は極東第二次五年計畫の重要課題であるが、右極東五ヶ年計畫は右の外ウスリー全線の複線工事をも豫定に入れてゐる、バム鐵道はバイカル湖の北より太平洋に至る幹線であつて其の延長一、八〇料、其の内一、三五〇料は極東地方を通過し、之に要する勞働者數十萬を算ふと傳へらる、又情報によればバム鐵道はアルダン及ゴナム兩河の分水嶺に當る地點のレベデーヌイ驛より南方ポリシヨイ・ネヴィル驛に至る間の支線建設に依りて

交通

四、第二次五ヶ年計畫の新設主要鐵道

第二次五ヶ年計畫によれば其の最終年度たる一九三七年末における鐵道の總延長は九四、〇〇〇料に達する豫定であるが、同年度中に於ける新設主要線路は左の如し。

一、莫斯科―ドンバス本線

本線は第一五ヶ年計畫に於てトルキスタン西伯利本線が重視せられた如く第二次五ヶ年計畫に於て最も重視せられてゐるもので其の理由は一九三七―三八年に至り同線は千百十萬噸のドンバス産石炭を主要新工業地方に輸送する重大使命を帯びてゐるからである、本線は一九三二年既に工事に着手し、ドンバス炭田とモスクワ間に最短直通路を作らんとするもので、其の工事は目下南東鐵道エレットを經、モスクワ―ワルイキ間に進められてゐる、本線は將來ロストフ迄延長する計畫で、右實現の曉はモスクワと北高架索地方とを連絡する最短線とならう。

ウスリー及バイカル鐵道に持續するものなりといはる、本線はクズネツクよりミヌシンスクを經て西伯利鐵道の一驛タイシエトに至る線と同驛よりウスチクトスコエを經てボダイボに至る線と共に所謂「西伯利併行線」をなすもので本線完成の曉は極東開發に一新紀元を劃すことは勿論、極東の國防に重大なる意義を齎すに至るべくソ聯邦が急速本線の建設及ウスリー、ザバイカル兩鐵道の複線工事に着手せるは滿洲に於ける新事態の結果、東支鐵道(北滿鐵道)が有事の際利用不可能となることを悟り、之を日本又は滿洲國に賣却することとなつた爲め、之に代るべき軌道を自國領土内に建設し、有事に備へんとするもので、一九三四―三五年度完成の豫定であつたが全部完成は一九四〇年になる模様である。

五、一九三四年ソ聯邦鐵道運輸実績

一九三四年度は最近數年間に於て、鐵道經濟の基本的部門の作業改善に一進境

二、ウラル―クズバス本線

本線はノウオシビリスクの東南約四〇〇料の地に位するクズネツク炭田とウラル工業地帯間の距離約二、〇〇〇料を連絡するを目的としノウオシビリスクよりマグニトナヤに至る既存鐵道に併行し敷設せらるべく五ヶ年計畫に依る新工業地方と原料地方との輸送を圓滑ならしめんとするものである。

三、アクモリンスク―カルタリイ線(延長八五九料)

アクモリンスクはオムスク鐵道のペトロパウロフスク―カラガンダ線の途中に位しウラル―クズバスの連絡路に當る主要驛である、ウラル―クズバス本線は先づクズバス炭田の出口バルナウル(ノウオシビリスクより南方二二八料)を起點とし、既成線クルンダ―パウロダ(一三八料)及アクモリンスクを經由カルタリイに連絡する。

四、マグニトナヤ(マグニトゴルスカヤ)―ウファ線

本線は一九三一年開通のカルタリイ―

を示した最初の年度といふことが出来る。

一九三四年度における輸送作業總量(噸料數)は前年度に比し三百五十億三千萬噸(二〇・八%)を増してゐるが、此の増加は最近三ヶ年間に於ける輸送作業増加總量(三百五十億六千萬噸)と略ぼ同様である。

一九三四年度に於ては物質技術的財産が著しく強化された。即ち一九三四年度に於ては約一千七百料(ドンバスより北方への出口を著しく強化するモスクワ―ドンバス幹線六百四十料を含む)の第二線が敷設せられ、過去二ヶ年間に約一千料の第二線は營業を開始し自動閉塞裝置の線路延長は一九三四年一月一日現在で一千五百五十二料なりしものが同年末には二千五百料に増加せる外、約二萬七千輛の貨車(二軸計算)が新造され、貨車の總積量は一ヶ年間に五%(一九三四年一月一日現在―一千萬輛、一九三五年一月一日現在―一千五十萬輛)を増し、又機關車總索引力は六%(一九三四年一月一

日現在—二十三萬三千六百噸、一九三五年一月一日現在—二十四萬七千七百噸）を増してゐるがエフ・デ型強力機關車は百八十臺以上に達してゐる。驛の入換作業は約五百六十臺のモーター機關車の新造に依り強化されることゝなつた。

鐵道輸送貨物の保全是幾分改善せられたるも極めて不充分たるを免れない。貨物の滅失、不足、腐敗、毀損件數は一九三二年には五十萬八千口、一九三三年には四十三萬一千七百口、一九三四年（前半期）には二十萬三千百口を算してゐる。

六、一九三五年ソ聯邦

鐵道業績

一九三五年鐵道運輸業新規建設投資額四十二億留（總投資額二百二十三億七千五百萬留）主要建設目標左の如くである。

- 一、ヴォルガ、ドニエストル、イルトイシ河に四大橋架建設
- 一、複線工事

三千三百十軒

に至つた。

一九三六年度に對する積込計畫噸數は四五、七〇〇萬噸であつたが、實際の積込噸數は四八、四二〇萬噸にして年度計畫の一〇五・九%、前年度積込噸數の一四・六%に達し、第二次五ヶ年計畫最終年度—一九三七年—の課題（四七、五〇〇萬噸）を凌駕することゝなつた。斯くの如く一九三六年度に於ては貨物の輸送數量に付ても第二次五ヶ年計畫最終年度の豫定課題を超過遂行するに至つた。一九三六年度に於ける輸送貨物の増加數量は約一〇、〇〇〇萬噸であつて一九三三年に於ける舊帝政露西亞鐵道の貨物輸送數量の八〇%以上に當つてゐる。

一九三六年度に於ては極東及西伯利に於ける諸鐵道特にトムスク鐵道クズバスの基本的幹線に於ける作業が著しく改善せられた。

主要貨物積込計畫の遂行狀況を示せば左の如くである。

原油製品	對年度計畫 (%)	對前年度同期積込車數 (%)
交通	一四・〇	二六・五

- 一、鐵道電化 百七十五軒
- 一、自動制動機設置 千六百三十九軒
- 一、車庫三十ヶ所、機關庫百三十七ヶ所
- 一、年平均一千五百臺程度の車輛修繕工場五ヶ所

- 一、軌道取替 五千軒
- 一、枕木敷設 三千三百萬本
- 一、バラスト取替 百八十萬立方米
- 一、新線 千七百九十七軒

カガノウイツチ就任以來顯著なる業績改善の實をあげつゝあるソ聯邦交通人民委員部發表になる本年九月及一月以降九月までの実績と昨年同期の実績との比較左の如し。(A—季節的部門を含む場合。B—季節的部門を除く場合)(百萬留)

本年九月	昨年九月	本年九月	昨年九月
A 二、〇七・九	一、六四・六	一、七二・〇	一、三六・七
B 二、〇九・八	一、五四・三	一、三六・三	一、六六・〇

これを本年度年次計畫A、二百二十七億九千萬留、B、二百二十五億一千九百六十萬留遂行の點からみると、一九三六年の年次計畫遂行率A、七五・九、B、七五・八、前年—一九三五年—に對する比率はA、一二五・〇、B、一二五・一といふ好

黑色金屬	一八・五	一三・四
鐵物	一〇・七	一一・三
木材	一〇・六	一一・三
礦物性建築材料	一五・九	一五・一
穀類	一〇・四	一一・〇

石炭の年度積込計畫はソ聯全體としては遂行不足であつた(年度計畫の九四・二%及前年度積込車數の一二〇・四%)。

次に一九三六年度に於ては旅客輸送も亦著しく改善され、旅客サーヴィス改善に關する幾多の方策が講ぜられた。一九三六年度に於ける旅客輸送計畫(七〇〇億旅客料)は十一ヶ月間に遂行せられた。一九三六年度の旅客輸送は七六九億旅客料(年度計畫の一〇九・九%)を算し前年度に比し一三・二%の増加を來たした。

一九三六年度に於ける輸送旅客總數は九、〇八〇萬人で年度計畫の一〇三・二%、前年度の一〇七・八%に當つてゐる。僅か二驛の修繕に約一億留の巨費が投ぜられ、幾多の優秀な療養地行列車が新設され、旅客列車數は殆んど倍加された。勞働大衆の増大する需要は鐵道業務の

成績で、鐵道運輸部門はソ聯邦の悲觀的材料から漸く脱するに至つたことが窺はれる。

七、一九三六年度業績

一九三六年度に於ける鐵道運輸は異常な成功を収め、積込車數に在つては一九三六年十一月二十七日又輸送噸數及噸料に在つては十二月十日何れも年度計畫の遂行を完了した。

一九三六年度に於ける總積込車數は三一、五三四、四六六車(計畫は二八、七三一、〇〇〇車)で年度計畫の一〇九・八%に當つてゐる。一日平均積込車數は八六、一六〇車で所定平均積込車數(七八、五〇〇車)の一〇九・八%に當り、前年度に比し二六・五%の増加を來たした。

一九三六年度の貨物輸送量は三、二二五億噸料を算し年度計畫(二、九九三億噸料)の一〇八・二%に當り、前年度に比し二五・四%の増加を來たし、第二次五ヶ年計畫最終年度—一九三七年—に對する課題(三、〇〇〇億噸料)を遙かに凌駕する

改善に依つて一層完全に滿され國內に於ける物資の流動は圓滑となり、一九三六年第一・四半期乃至第三・四半期だけで需要範圍の廣いより大衆的物資の輸送は異常な増加を來たし、前年同期に比し織物類は一八%、動物性油は七八%、砂糖は一八・五%増となつた。

一九三六年度に於ては運送具の利用、國內資源の極度の動員、鬭争並スタハノフ主義の將來の發展を阻碍する限界主義的理論再發防止に依つて貨物積込テンポの増大を來たした。貨車の廻送—營業作業の一般的質的指數—は前年度に比し著しく改善され、一九三六年度に於ける貨車廻送日數は平均六・六二日(一九三五年は七・六九日、一九三四年は八・七五日)となつた。

貨車一日平均走行距離は一四〇・五軒に達し第二次五ヶ年計畫最終年度に對する計畫(一二五噸)を既に遙かに超過してゐるが之は全く運轉速度の増大と貨物驛及操車驛業務の整理及合理化の結果に基く貨車滯泊時間の短縮とに基因するも

のである。平均速度は一九三五年に一五・七軒、一九三四年に一四・二軒であつたものが一九三六年には一八・五軒に増加した。

機關車の利用に於ても又成功を収めた。貨物機關車の廻送時間は三二・三時間となり一九三四年に比し三〇%の減少を來たした。運轉速度の増大(一九三五年に二四・四軒なりしものが一九三六年には二九・九軒に増加)とクリウオソフ式業務方法の採用に依り達成された機關車のより迅速な廻送とに依つて機關車一臺當輸送數量は著しく増大し且一定數の機關車を豫備となし置く事が出來た。

列車の重量を増加すると同時に速度をも増大せる結果、通過能力の利用も亦著しく改善され、貨物列車の運轉密度は一九三四年に比し二七%(一三往復から一六・五往復)の増加を來した。

鐵道運輸各部門に於ける業務の振興は直に労働能率の一般的増進を招來した。一九三六年度に於ける従業員(營業關係)一人當労働能率は三二〇、〇〇〇噸軒の

豫定なりし處実績は三五四、八一〇噸軒に達し年度計畫の一四%に當り、前年度に比し二七・七%の増進を來たした。鐵道財政も亦改善され、鐵道輸送實費は二・六%の輸送實費低下課題に對し九ヶ月間で三・四%の低減を來した。

一九三六年度に對する積込及輸送年度計畫は北高架索鐵道を除く外は全部遂行せられた。

運輸作業の増大に伴ひ鐵道従業員の物質的生活條件も亦著しく改善された。一九三六年度に於ける従業員一人當平均勞銀は大略二四八・二留に達し前年度(一九三五年は二〇一・九五留)の二三%増となつた。特に勞銀の激増を先たしたものは下級従業員であつて、線路工夫の勞銀は一九三四年の水準よりも四〇%を増し、客扱車掌の勞銀は同一期間内に二倍となつた。一九三六年夏季に於ける機關手の勞銀は一ヶ月平均六二〇留、スタハノフ主義機關手の夫れは八〇〇留乃至二、〇〇〇留であつた。

一九三六年度に於ては約五〇〇、〇〇〇

した。而して昨年度に基本的電化工事を完了した區間はクズネツク||ベローウオ間、ゴロブラゴダツトスカヤ||チヌソフスカヤ間、カンダラクシャ||アパチーツイ||キロフスク間、ミネラリスエ、ウオヰ||キスロウオドスク間等である。

一九三六年度には新線二、一三五軒、複線二、二五二軒が開通し、有色金屬埋藏地(コウンラド)とソ聯邦第三石炭基礎地とを連結するカラガンダ||バルハシ線も其の革命的建設を完了した。ドンバス及ウクライナから西部カザクスタン及西伯利への新たな出口となるウラルスク||イレツク線も假營業を始めたが、極東に於ける複線工事も近く完了するので更にワルイキ||バラシヨフ||ペンザ(七二六軒)等の複線工事に着手することゝなつた。

八、一九三七年度計畫

ソ聯邦鐵道に於ては一九三七年十月革命二十週年を以てスタハノフ・クリウオソフ主義運動のより旺盛な振興年

交 通

度たらしめ、現在鐵道運輸が直面せる困難を完全に克服すると共に運送具のより效果的利用と積込水準の向上とを達成しなければならぬ。

從つて鐵道運輸に於ては社會主義經濟上の需要を満足せしむると共に冶金大企業、炭坑、社會主義農村經濟、資本建設の需要を確保する爲、一九三七年には石炭一四、一〇〇萬噸、原油二、八五〇萬噸、礦物三、八五〇萬噸、金屬一、九〇〇萬噸、木材六三、〇〇〇萬噸、礦物性建築材料九、三五〇萬噸を輸送しなければならぬ。斯くて一九三七年度に於ける豫定輸送貨物數量は五六、五〇〇萬噸、即ち前年度よりも八、三〇〇萬噸多いので、此の莫大な作業を遂行する爲には一ヶ年間一日平均九五、〇〇〇車の積込を行はねばならぬ。

一九三七年度の輸送計畫では貨物四、〇〇五億噸軒(前年度の三〇・二%増)又旅客八七〇億旅客噸軒となつてゐるが、此の巨大な計畫を遂行するには先づ第一に鐵道經營業務の改善、積却貨車の滯泊

〇平方軒の新住宅地が開拓され個人の住宅建設に約二千萬留、文化建設に二千五百八十萬留、病院、治療所及療養所の建設に約六千萬留、託兒所等の建設に二千五百萬留が投下され之に依つて鐵道従業員の生活水準は著しき向上を來たした。

一九三六年に於てはハンブ一六個の機械化、移動式保線所五四の新設數千の轉轍器の聯動化、温水洗罐の廣汎な施行、舊式貨車の更新、ベアリング軸箱への轉換、車輛の更新及近代化、重要路線一萬軒の強化等に依つて鐵道運輸の技術的裝備及戰鬥能力は著しく強大となつた。尙自動閉塞施工事は非常な進展を示し、一九三六年末に於ける自動閉塞裝置線路延長は五、〇〇〇軒以上に達し、ハリコフ、ロストフ及プロフラドナヤ經由モスクワ||北高架索間、モスクワ||リヤザン間、クルガン||ノウオンピリスク間等の如き重要線路は全部自動閉塞式となつた。電化線延長は一九三四年に三七四軒一九三五年に一、〇二七軒なりしものが一九三六年度末には一、七四四軒に増加

時間の極度の短縮、指定運送の徹底化、貨物の急速運送、事故の決定的防止を要する。

一九三七年度に於ては鐵道經濟の技術的裝備の強化其の他に對し第二次五ヶ年計畫最終年度に於て支出せる額と同額の五十五億留以上を投下し物質技術的基礎を強化する事となつてゐる。

一九三七年度の資本投下政策は大體に於て前年度の政策を踏襲せるものであるが、其の異なる所は新技術の採用に對する支出を増額せる點であつて、本年度に於ては運送過程の機械化及自動式化並に新技術の採用に對し二億留を支出する事になつてゐるに反し昨年度は一七億留であつた。

當該年度にはエフ・デ型機關車六〇〇臺、蒸汽冷却裝置附エス・オ型機關車五〇〇臺、イ・エス型機關車一〇〇臺、エス・ウ型機關車二二五臺、電氣機關車五〇臺、自動連結器及自動制動機附大形貨車四三、五〇〇輛、二軸油槽車一、〇〇〇輛、客車一、五〇〇輛(内電車五〇輛)保線新設線用軌條一、

一〇〇、〇〇〇噸を製作する事になつてゐる。

一九三七年度計畫の主要課題は輸送貨物の増加に伴ひエフ・デ型機關車への轉換を必要とする主要線路の強化である。

一九三七年度には線路經濟の健全化及改造に對し昨年度よりも二〇、〇〇〇萬留多く一五、〇〇〇萬留を支出し、二、四〇〇萬留の改造、三、五〇〇萬留の大修理、一、〇〇〇萬留の中修理を行ふ豫定となつてゐるが昨年度の工事經過よりすれば本年末迄に約五〇、〇〇〇萬留(線路總延長の約五〇%)の線路が整備されるであらう。

改造及修理工事はモスクワ、クルスク、ストラウヤンスク、ニキトフカ、イロワイスコエ、ヤシノワータヤ、ビヤチハトキ、イロワイスコエ、ユルツエウオ、チュソフスカヤ、ゴロブラゴダトスカヤ、チュルイムスカヤ、ノウオロシビルス等の如き主要線路に集中する、事になつてゐるが、特筆に値するものはエフ・デ型機關車の運轉が豫定されてゐる延長

一、〇〇〇萬留のアルザマス、ツルージエノ線の大修理工事である。此の線路は所謂カザンブルグ線(スウエルドロフスク、カナン、モスクワ)であつて本線路の大修理に依つてウラルと國內中央部との連絡を強化し且化學的貨物並北部ウラル發木材、金屬及石炭の大量輸送を行はねばならない。

尙スターリングラード鐵道(スターリングラード、サリスク間、スターリングラード、リハヤ間、七三六萬、オレシブルグ鐵道(キネリ、オレンブルグ、ジュサルイ間、三八八萬)、東部西伯利鐵道(ジマ、イルクルトスク、ムイソ、ワヤー、四〇〇萬)、南ウラル鐵道(チェリヤビンスク、コロパ、チュウ方面、三〇〇萬)、ウオロシロフ鐵道(アルマウ、イル、ソチ間、一三四萬)、ドネツ鐵道(アルマズナヤ、クビヤンスク間、四一四萬)に於ても大修理工事が行はるゝ事になつてゐる。

本年度に於ける線路工事に要する材料の數量は新軌條一〇、〇〇〇萬留、碎石三、六百萬

萬立方米、轉轍器三〇、〇〇〇、轉轍器用角材一五、〇〇〇、轆又五、〇〇〇、尖端軌條七、〇〇〇、締結具七〇、〇〇〇、枕木二三百萬本等である。

一九三七年度には線路の技術的裝備を一層強化する豫定で保線作業の機械化に對し三、〇〇〇萬留を支出することになつてゐる。

尙線路經濟の補助的企業の強化特に碎石の採取基礎の開發に留意し粉砕設備に對し一、二〇〇萬留、砂採取場の開發に對し約三〇〇萬留を支出することになつてゐる。

橋梁及人工建造物に對しては一四、〇〇〇萬留又路磐の健全化に對しては四、一〇〇萬留を支出することになつてゐる。

一九三七年度に於ては強力機關車の増大及弱小機關車の漸減に依つて機關車の近代化を強化する豫定である。

一九三八年一月一日現在に於けるエフ・デ型及エス・オ型機關車の機關總數に對する比率は一九三七年一月一日現在

の一三・一%より一九・七%に増加し、エ型機關車の比率は四九・一%から四五・一%、弱小機關車の比率は三七・八%から三五・二%に夫々減少するであらう。

斯くして一九三七年度にはモスクワ、ブリヤンスク線、クローフスカヤ、スウエルドロフスク線(ツルージエノ經由)、ワライキ、ベンザ、バラシヨフ線、キネリ、クロパ、チュウオ線、デバリツエウオ、クビヤンスク線、ヤシノワータヤ、ワオルノワハ線及キネリ、オレンブルグ線にエフ・デ型機關車の運轉を見る事となるであらう。

本年度に於ける機關車經濟投下資本總額は四〇、〇〇〇萬留にして其の大部分は機關車業務の改善、給水設備の強化及機關車の近代化に支出さるゝ事になつてゐる。尙カガノウイツ氏の主張に依り今後二ケ年間に機關車の温水洗滌設備が完了する外、給水臺一一四、機械化された給砂場二七を建設する豫定になつてゐるので機關車の修理及裝備過程は著しく迅速となり且機關車に於ける機關車の滯

泊時間も非常に低下するであらう。

一九三七年度に於ては機關車の強力化と並行して機關車の近代化に對し五、二〇〇萬留(一九三六年度は三、七九〇萬留)を支出し、五、五〇〇萬留の機關車に電燈を、八、〇〇〇萬留の機關車に温水洗滌孔を、五、六〇〇萬留の機關車に自動連結器を、一〇、〇〇〇萬留の機關車にハウスヘルテル器其他測定器を取付ける事となつてゐる。尙機關車三、五〇〇萬留の大修理費として一〇、五〇〇萬留が支出される。

一九三七年度に於ては給水設備の強化工事費として六、六四〇萬留を支出しクルガン、マクシノ間水道及軟水場一二を建設する外中間驛に發電所四〇〇を建設する豫定である。

車輛經濟に於ては修理基礎の強化、新技術の習得及車輛の健全化を根幹とし、投下資本二億八千萬留中貨車三〇、〇〇〇輛及客車四、〇〇〇輛の大修理に對し一四、五〇〇萬留を支出することになつてゐる。

新工事中特筆すべきものは客車の修理及裝備場一二、自動制動統制所七五及彈藥貯藏所三七である。本年度に於ける最大な改造工事は貨車六〇、〇〇〇輛に自動制動機の取付である。

一九三七年度には驛及構外線の通過能力の強化に對する投下資本も著しく増額され、驛作業過程の強化及貨車廻送の迅速化を圖る爲總額三七、〇〇〇萬留(一九三六年度は一三、五〇〇萬留)を支出する事になつてゐるが、其の大部分は重要線路(モスクワ、レニングラード線、モスクワ、ロゾフヤ、セバストポール線、ロゾフヤ、ロストフ、マハチ、カラ線、モスクワ、スウエチ線、モスクワ、モジヤイスク線等)に於ける一五、〇〇〇個の轉轍器の聯動裝置(内一三、〇〇〇個の轉轍器は電氣聯動裝置)並驛の増改築、線路の延長及待避驛の新設に使用さるゝであらう。尙工費三〇、〇〇〇萬留を投じ構内線及待避線一、三〇〇萬留を新設する豫定である。

新操車ハンブ五個と一八個(内四個は

新設)のハンプの機械化に對し約四、〇〇〇萬留を投する豫定である。

尙目下エフ・デ型機關車へ轉換、電化、線路の改造、轉轍器の聯動化等の如き改造手段を講じてゐる線路(モスクワレニングラード間、モスクワスモレンスク間、モスクワセバストポール間(ハリコフ、ロゾワヤ、シネリコーウオ經由)、スウエルドロフスクゴロブラゴダツトスカヤチユソーフスカヤ間、モスクワリヤザンミチユリンスク間、ビヤチハトキポスツイシエウオ、アルマウールソチ間等)は自動閉塞式となり、一九三七年末の自動閉塞式線路の延長は九、〇〇〇軒以上に達するであらう。

本年度の電化工事費は六、八〇〇萬留であつて、年度内にアパチーツイムルマンスク間(一八四軒)の正式營業を開始し、キローフ鐵道のカンダラクシャアパチーツイムルマンスク間(三〇〇軒)を電化する豫定であるが、スターリオン鐵道の本線(ビヤチハトキウエルホフツエーウオニジネドネプロフスク間一七九軒)は是非共電化を完了しなければならぬ。

幹線の通過能力を強大にし且クズバズ發石炭の搬出を圓滑にしなければならぬ。

本年度に於てはウラルの北方出口(キローフヘルミスウエルドロフスク線)を強化する爲りヤガソウオコテリニチ間(七一軒)に複線が建設されるであらう。

尙ビヤチハトキドルギンツエウオ間(七四軒)、サラトフルチシチエーウオ間(一八一軒)及オスノワリゴフナフリヤ(ドンバス發レニングラード行西方出口)間の複線工事も完了することになつてゐる。

本年度に於ては鐵道従業員の住宅及文化施設の改善に對し大なる注意が拂はれ、黨及政府は住宅の建設及文化施設に對し四四、五〇〇萬留が支出される事になつてゐるが、其の内三〇、〇〇〇萬留は住宅建設及文化施設に、七、五〇〇萬留は社會主義教育學校及小兒の家の建設に、又三、〇〇〇萬留(保健人民委員部豫算より運輸に對し支出する資金の外に)

交 通

ばならぬ。

本年度の大工事として擧ぐべきものはモスクワポドリスク間、モスクワアレクサンドロフ間及後高架索鐵道のボルジヨム支線の電化工事である。

一九三七年度には新線の建設に對し四四、〇〇〇萬留を支出することになつてゐるが、本年度建設計畫の特質は建設資本の大部分を昨年度と同様起工線の延長及完成に支出する點である。

本年度の新設工事中重大な意義を持つものはクラスヌイ・リマンクビヤンスク線(九七軒)である。本線はドンバス發北方行石炭の輸送経路を短縮し且クルスク経路の輸送を緩和すると共に石炭をモスクワドンバス線へ輸送しなければならぬ。東部西伯利の豊富な材木の輸送上重要な意義を持つトムスクチユールム線(九五軒)の建設も亦年内に完了するであらう。

本年度にはモスクワ管區の迂廻線(ジレウオウオスクレレンスクアレクサンドロフ線)の建設を終る豫定であるが

は療養所健設に使用さるゝ筈である。

鐵道従業員の勞銀總基金は一九三六年に三六一、六五〇萬留であつたものが、一九三七年には四〇八、二四〇萬留に増加してゐる。鐵道従業員の一ヶ月平均勞銀は一九三六年の二四八・二留が二七〇留となり八五%を増してゐる。従つて勞働能率は一五%以上増進せしめなければならぬ(従業員一人當三九一・七千觔)。運輸各部門に於ける新技術の廣汎な採用並勞働過程の機械化に依り勞働能率は一層の増進を來すべき事は疑なき所である。

九、準戰時體制下の鐵道業績

辣腕カガノウイツチ就任以來顯著なる業績改善の實を擧げたソ聯鐵道部門は白熱化する國防強化と産業建設事業と相俟つて益々その重要性を増大してをり資本投下額は三五年三十七億五千二百萬留、三六年四十四億二千八百萬留から三七年には五十三億二千三百萬留に増加、豫算

北方發石炭及木材はモスクワ管區を避けて本線に依り輸送さるゝ事となるであらう。

モスクワドンバス幹線の延長工事に對しては七、〇〇〇萬留を支出する事になつてゐるが、其の大部はコンドラシヨフカネオスウエタイ間の工事に使用されるであらう。

カザクスタンの豊富な有色金屬埋藏地に至るネリダジェズカズダン新鐵道の建設に對しては五、〇〇〇萬留を支出する事になつてゐる。

一九三七年度には一、五〇〇軒以上の複線を建設しなければならぬが之が爲には三三、〇〇〇萬留の資本を要する。

新設工事の内特筆すべきものは本年度に九、〇〇〇萬留を支出する事になつてゐる北部鐵道コノシャダニロフ間(三五一軒)の複線工事であるが本線は木材の搬出を強化する上に於て重大な意義を持つものである。

エイヘプロエクトナヤ間複線(二七九軒)はノウオンピリスクレレンスク

歳出入方面からみると昨年度歳入三億一千七百萬留、歳出四十七億八千八百萬留、本年度は歳入六億八千八百萬留、歳出四十六億九千九百萬留豫定、鐵道部門勞働者勞賃資金は三五年三十四億七千九百六十萬留、三六年四十二億八千二百萬留から三七年には四十七億七千四百萬留に増加を示した、最近諸年度に於ける同部門躍進の動向の全貌を左に表示する。

△鐵道運輸(年度末現在)

	一九三五年	一九三六年	一九三七年(計畫)
鐵道線路總延長(千軒)	八四・四	八五・二	八六・三
電化鐵道總延長(軒)	九・七	一・〇三	一・七〇
自動制動機裝置(軒)	三、七二七	五、一八九	八、九六〇
機關車在庫總數(千臺)	三三・一	三三・〇	三三・二
自動聯結裝置機(臺)	二、五四	五、二八五	一一、二八五
機關車牽引力總量(千噸)	三〇六・五	三三三・八	三五〇
貨車在庫總數(千輛)	六六・二	七二・三	七六・四
自動聯結裝置貨車(千輛)	一九・六	七七・〇	一一〇・五
貨車積載力總量(百萬噸)	一一・三	一一・七	一二・七
△貨客輸送			

營業運轉貨車輸送總量(百萬噸)	三八・五	四八四・二	五五・〇
一晝夜平均貨物積載量(千輛)	六八・二	八六・三	九五・〇
貨車總走行距離(百萬噸) (千噸)	二六八・八	三三三・五	四〇〇・五
有料旅客輸送數(百萬人)	九一九・一	九〇〇・八	一、四四・〇
△輪轉材料使用指數			
△貨物機關車平均一晝夜走行距離(噸)	一八九・一	二二三・三	二六〇
營業速度(噸時)	一五・六	一八・三	二〇
貨車平均一晝夜走行距離(噸)	二八・四	二四・七	一五〇
△勞働力			
勞働者一人當り採業率(千噸)	二七・〇	三三・七	三九・六
就業勞働者總數(千人)	一、四七・五	一、三三・一	一、二六・〇
同平均一ヶ月勞賃(留)	二〇・九五	二四・八三	二七・〇
△輪轉材料生産高			
機關車 (E)	一、七六六	一、五七七	一、九〇〇
「SU」型(臺)	五	三二八	五〇〇
「SO」型(臺)	五	五〇〇	五〇〇
内、炭水車凝汽器附	一	一三六	五〇〇
「FD」型(臺)	五三二	六六四	六〇〇
内、炭水車凝汽器附	一	六	一〇〇
「SU」型(臺)	三七〇	一三三	三三三

ソ聯鐵道從業員數 (1935年12月現在) (局別)

局名	勞働者	技工	勤務員	徒弟	計
北	67,703	5,223	9,540	4,787	87,253
キ	31,866	2,791	4,004	2,499	41,160
十	71,347	5,954	12,291	5,367	94,959
西	68,778	5,976	9,369	4,951	89,074
エム・ベ	56,206	5,084	8,085	4,366	73,741
エム・グ	61,407	4,318	9,072	5,041	79,838
エム・ア	5,800	568	1,420	465	8,253
エム・カ	85,541	7,012	11,328	6,105	109,986
ユー・ゴ	78,345	6,993	11,617	5,008	101,963
スター	72,987	6,155	10,105	4,542	93,789
エ	57,230	4,340	8,160	3,606	73,386
ド	62,498	4,297	7,772	3,596	78,163
ド	27,373	2,324	3,634	1,417	34,748
ユー・ゴ	56,140	4,226	7,116	3,081	70,563
シエフ	24,022	1,968	3,481	1,833	31,304
アソブ	49,225	4,112	8,046	3,566	64,949
ザ	36,895	3,753	6,627	3,221	50,496
カ	52,084	4,672	6,919	3,636	67,311
ユー	37,642	2,711	4,306	2,833	47,492
オ	40,661	2,907	4,389	2,598	50,555
ト	53,808	3,955	6,978	3,990	68,731
東	37,979	2,490	3,828	2,872	47,169
ザ	35,530	2,667	3,651	3,257	45,105
ウ	36,558	3,518	4,221	3,334	47,631
リ	34,749	2,897	4,858	2,113	44,617
サ	27,800	2,237	3,749	1,725	35,511
オ	30,113	2,955	3,345	1,767	38,180
中	36,842	3,585	5,602	3,159	49,188
ツ	23,177	1,893	2,917	2,267	30,254
計	1,360,356	111,581	186,430	97,002	1,755,369

シベリヤ鐵道時間改正

五月二十五日よりシベリヤ鐵道一般旅客列車の運行時間表は左の通り改正せられた(浦鹽時間に依る)

「IS」型(臺)	二	三	一〇〇
幹線用電氣機關車(臺)	三	四	五〇
鐵坑用(臺)	三〇〇	一六九	三〇〇
モーター機關車(臺)	一、九三〇	一、八〇三	一、六〇〇
貨物車(千臺)	九〇・八	七五・九	九四・六
旅客車(千臺)	八九〇	七二・五	一、五〇〇

浦鹽發

- 第一號列車(莫斯科行急行) 毎週日曜及水曜午後十一時發
- 第五一號列車(哈府行普通) 毎日午前八時半
- 第四一號列車(莫斯科行普通) 毎日午後六時五十分
- 第九七號列車(イルクーツク行普通) 毎日午後八時半
- 浦鹽着
- 第二號列車(莫斯科發急行) 毎週日曜及水曜午後八時四十五分

交通

二、水運の部

一、ソ聯の水運概況

ソヴェート聯邦は北はバルチック海、白海、北氷洋、南は裏海、黒海、東は太平洋に面し其海岸線三萬九千軒に達してゐる。かく海岸線は長大であるが、その大部分は冬期結氷し航行の便を缺くため外國貿易の大半を海運によるにも拘らずソヴェート聯邦の水運は比較的發達してゐない。殊に歐洲大戰内亂の打撃深刻でその所有船舶は非常に少いため、大部分外國の船舶に仰いでゐる。バルチック海、黒海、極東等には造船所を有してゐるが諸外國に比し、可なり造船技術劣つてゐるため、この方の活動も大して見るべき

ものがない。主なる港名左の如し。

- 一、白海及北氷洋—アルハンゲリ斯克港、ムルマンスク港
 - 二、バルチック海—レーニングラード港
 - 三、黒海及アゾフ海—オデッサ港、ニコラエフスク港、ノウオロシースク港、バツム港、マリウポリ港
 - 四、太平洋—浦鹽斯德港、ニコラエフスク港、アレクサンドロフスク港、ベトロバウロフスク港
 - 五、裏海—アストラハン港、バクウ港
- ソヴェート聯邦は一方その廣大なる領土内にヴォルガ、ドン、ドネーブル、ドヴィナ、アムール、レナ、オビ、エニセイ等世界的大河を擁する關係上、河川運輸も亦重要意義を有してゐる。
- 之等海上及河川運輸は、現在ソヴェート聯邦水運人民委員部によつて指導統制されてゐるが、直接の經營機關中最大なるものは、ソフトルグフロト(ソヴェート商船隊本部)でこれはソヴェート聯邦の海運中、裏海を除く黒海、バルチック海、太平洋、北氷洋等の航運に従事し、その運送貨物數量は、一九二五年一百六

十萬七千艘であつたものが、一九二八年には二百一十一萬四千八百一十一艘に増加してゐる。

ソフトルグロフトに次ぐ大水運經營企業は國營裏海汽船會社で、これも一九二五年の貨物運送數量二百一十一萬四千噸に對して、一九二八年には五百八十一萬噸に増加してゐる。ソ聯邦内の各種木材企業ツェントロ・ソユーズ等もそれ自身に所屬する諸船舶を有してゐる。例へば「セーウエルザツプ・レス」(西北木材)は二十七隻の汽船と其他船舶七百五十隻を有し、「カレル・レス」(カレリ共和国木材)は各種船舶百六十五隻を有してゐる。ツェントロソユーズは汽船十四、其他三十九隻を有してゐる。

尙ソヴェート政府が、最近に至り特にこの水運方面を如何に重大視して來たかは一九三一年における水運事業實際投資額三億一千二百萬ルーブルに對して、一九三二年には四億二千萬ルーブルの投資を豫定した事實によつてもこれを知ることが出来る。

二、第二次水運五ヶ年計畫

水運は第二次五ヶ年計畫に於て大いに強化され、水運網も増大する。既に第二次五ヶ年計畫の第一年には二百二十七軒のベロモルスコ・バルチック運河の建設は完成され、百二十七軒のヴォルガ・モスクワ運河の建設は開始された。又第二次五ヶ年計畫の期間中に百軒のヴォルガ・ドン運河は建設される豫定である。白海とバルチック海、バルチック海と黒海モスクワとヴォルガ河を連絡する運河が一九三七年七月開通して、ソ聯邦歐領の水運系統は強大なものとなつた。

三、水運管理機關の改造

水運管理組織上の缺陷の清算、管理作業の根本的改善、一頭制の鞏化、意識的プロレタリア規律の扶植のため、ソ聯邦中央執行委員及び人民委員會は一九三四年三月十五日付規定を以て水運人民委員部及びその機關を左の如く改造すること

とに決した。

水運人民委員部中央機關

- 一、水運人民委員部(委員長、パホモフ)に於ける左の中央管理局及び職能別企業合同を廢止す。河川經營及び技術管理局、造船、修理合同(河川船舶修理工場を河川汽船部に移管)、木造々船全聯邦合同(木造々船所を河川汽船に移管)、水運大建設全聯邦合同、通信管理局、材料供給管理局、港灣中央管理局、(港灣局を海洋汽船部に移管)、計畫、技術、經濟管理局
- 二、廢止される河川經營及び技術管理局の代りに水運人民委員部内に左の河川運輸地域別中央管理局を組織す。ヴォルガ・カム河川運輸管理局、北部河川運輸管理局、南部河川運輸管理局、東部河川運輸管理局。
- 三、海洋船隊、ソヴェート商船隊、港灣中央管理局を海洋船隊中央管理局に合同す。
- 四、水運人民委員部に水運政治管理局を

組織す。

- 五、水運人民委員部内に次の部を置く、計畫。財政部、労働者供給部、幹部員養成部、消防部、船舶監視部、登録部、動員部、庶務部。
- 六、水運人民委員部は、監督官、指導幹部員、運輸教育、調停裁判をその直屬とす。
- 七、水運大建設管理局及び潜水作業部を獨立採算企業とす。
- 八、河川中央管理局及び海洋船隊中央管理局に左の課を置く。經營課、機械、船舶課。計畫課、大建設課、行政課、交通。通信課。港灣經濟課。

四、海上運輸

- 一、海洋船隊の經營、船舶修理及び造船の遂行、港灣經濟指導のため左の地に海洋汽船管理局を置く。オデッサ(貨物及び旅客船隊黑海管理局)、ツアブセ(油槽船隊黑海管理局)、バクウ(海洋船隊裏海管理局)、ドン(海洋船隊アゾフ管理局)、アルハンゲリスク(海洋船

交通

隊北部管理局)、レニングラード(海洋船隊バルチック管理局)、浦鹽(海洋船隊極東管理局)

- 二、海洋船隊管理局の構成は左の如し。管理局長、同次長、通信部、港灣經濟部、機械船舶部、計畫。財政部、建設部、労働者供給部、動員部。行政及び幹部養成部。
- 三、外國貿易及び近海航行を行ふ海洋船隊管理局に外國航路部及近海航路部の任免及び異動を行ふ。
- 四、海洋船隊管理局長はその管下各部長の任免及び異動を行ふ。
- 五、港灣管理局の構成は左の如し。港灣局長、同補佐官、港灣監視官、船舶修理所長、材料調達部、計畫。財政部労働者供給部、動員部、行政部。
- 六、港灣局長は海洋船隊管理局に直屬す。水運人民委員部は右の事項を遂行するを要す。

五、三十七年度計畫

△運部門	單位	一九三一年	遂行率	一九三七年計畫
内國水路總長延	千軒	九三六	九六	一〇一一
同航行可能水路延長	千軒	七・六	九三	八九・九
河川獨航船隊能力	千馬力	六七三	一〇〇	七三・七
海洋船隊貨物積載力	千噸	一、四九一	九三	一、三〇・四
河川貨物輸送量	千噸	七、二九六	九二	八七、一三〇
河川旅客輸送量	千人	四、九四	一〇三	五、〇〇〇
海洋貨物輸送量	千噸	三〇、七〇〇	九七	三三、四六六
海洋旅客輸送量	千人	二、九〇	八五	三、三九〇

六、モスクワ・ヴォルガ運河の完成

過去四ヶ年間に亘り工事中であつたモスクワ・ヴォルガ運河は三十七年五月一日を期して愈々開通の運びとなつた。モスクワ・ヴォルガ運河は世界最大の河川運河であるが他の運河と異り次の如き重要な三個の國民經濟的意義を兼備してゐる。即ち、

- 一、ヴォルガの飲料水を首都居住民に供給

- 二、モスクワ河及びモスクワ市内に於ける同河支流の水量を豊富にする
- 三、首都モスクワを國內大水路に連結し、モスクワをして大汽船の運航可能な港灣たらしめる

この運河は全長百二十八軒、幅八十五・五米、水深五・五米で長さではスエズ運河の百六十四軒に及ばないが、バナム運河の八十一軒をはるかにしのぎ、亦掘鑿土砂の點ではスエズの七千五百萬立方メートルの一億六千萬立方メートルを凌駕し二億二千萬立方メートル上つてゐる。附屬設備の主なるものを上げると、開門十一、ダム十一、ポンピング・ステーション五、水力發電所八等である。

この運河の起工は一九三三年の七月で爾來四ヶ年間に亘り總額二十億留の巨費を投じて茲に完成の運びとなつたものであるが、これよりモスクワ、バルチック海、白海、カスピ海、黒海、アゾフ海は直接水路を以て連結され、またモスクワ・レニングラード間の水路聯絡は從來

に比し一千百軒の短縮を見ることになつた。

モスクワ・ヴォルガ運河はまづヴォルガ河流域カリーニン市から百軒下流のキムライ町からはじまりヴォルガの河水をたゞへて南下し、モスクワ市の西郊に至つてモスクワ河に合流するもので、新運河のために四十一隻の専門船舶が建設され、二千五百人の従業員が既に配置に就いた。亦、この運河建設に使用した材料はベトン三百萬立方メートル、金屬二千萬噸、石材六十萬貨車に上つてゐる。

モスクワ市民一人當りの上水配給量は從來百六十五立であつたが、新運河の開通により今後は六百立となる豫定である。(因みに、ニューヨークが四百八十五立、パリが四百六十立である)。

七、ヴォルガ運河貨物運輸

モスクワ・ヴォルガ運河の一九三七年七月開通後一ヶ月間の成績がソ紙に發表されたがそれに依る旅客輸送總計一八

交通

河川海洋運送統計

指 數	數量單位	1934年	1935年			1934年 に對する 1935年の 比率%	1935年 に對する 1936年の 比率%
			計 畫	實 績	遂行率%		
* 河 川 輸 送							
全聯邦使用水路全長	軒	—	—	87 838	—	98 000	112
内譯：水運人民委員部使用	"	81 240	85 000	80 384	95	86 300	107
水運人民委員部使用設備附水路全長	"	70 763	80 000	74 300	93	84 200	113
年末現在機關附河船 (技術船を除く)	千馬力	588.9	675.6	631.1	93	703.3	111
被 牽 引 船	積載量(千噸)	5 304	5 785	5 641	97	5 761	102
積込み陸揚作業の機械化率	%	21.9	30.1	30.5	—	45.6	—
水運人民委員部貨物輸送	百萬噸	52.7	58.0	64.0	110	75.6	118
貨物總走行距離	十億噸/軒	29.0	33.4	34.0	102	42.9	117
有 料 船 客 輸 送 量	百萬 人	41.2	41.0	40.3	98	45.6	113
* 海 上 輸 送							
船 舶 (年末現在)	積載量(千噸)	1 037.4	1 115.7	1 184.8	—	1 315.2	114
積込み陸揚作業の機械化率	%	23.0	25.0	30.0	—	45.7	—
ソ聯船隊貨物輸送 (商船及汽船裝船を含む)	百萬噸	22.6	26.0	26.2	101	31.6	116
ソ聯船隊乗客輸送	千 人	2 908	3 402	2 625	77	3 271	90
水運人民委員部に於ける 労働の生産性及び原價	千航噸/軒	330.9	363.3	348.0	95.8	409.0	105.2
水運労働者一人當り労働量	"	1 133.7	1 371.8	1 278.1	93.2	1 527.0	112.7
海洋輸送船労働者一人當り仕事量	"	—	—	—	—	—	—
輸 送 原 價 引 下	前年度に對する%	+7.2	-1.9	+2.5	—	-5.0	—
水運人民委員部投資額	百 萬 留	470	600	576	—	750	130

九、五〇〇名、貨物二二二、〇〇〇噸であつた。尙最近木材運送船が運河に就航することになつたが右運送船はモスクワ河及オカ河を経てスターリングラード市迄木材を輸送してゐる、斯くの如く貨物輸送の激増は極めて便利且つ運賃の安價なることを證明するもので將來貨物輸送は益々激増するであらうといはれる。

三、郵電の部

一、三六、三七年度比較

ソ聯邦郵電の管理は郵電人民委員部(委員は現在リシヨフ)に屬してをり、同人民委員部は郵便、電信、無線電信、電話及國際郵便、電信、電話、ラヂオ事業を管理してゐる。主要機關としては各共和國における總管理局及地方管理局がある。

今、一九三六年度の郵電人民委員部關係部門の實績及び一九三七年度の計畫を見るに左の如し。

項目	一九三六年	遂行率	一九三七年
通信總量(百萬留)	六三・七	一〇三	六六
長距離電信電話線	二、一五〇・〇	九五	二、三〇三・一
延長(千軒)	—	—	—
電信機總數(臺)	二、四〇二	九八	二、四〇〇・〇
重要都市間直通	—	—	—
電話線(本)	一七	—	一七
地區電信中心數(所)	三、三三〇	—	三、三三〇
地區電話中心數(所)	二、七〇〇	—	二、七〇〇
電話設置農村ソツ	四、五〇〇	—	四、五〇〇
エト數(所)	—	—	—
地方電話局數(千番)	七五・四	—	七五・四
長距離電信電話器	二七三	—	二七三

二、モスクワ浦鹽間の直通電信

三四年三月三十一日モスクワ浦鹽間の延長九千五百軒の直通電信が開通した。これまでモスクワ浦鹽間に於ける電信聯絡は數ヶ所の中繼局經由で行はれてゐたので、送信を滯滞せしめたのみならず誤りも少くなかつた。然るに極東地方の經濟的及び文化的施設が進展して來たので、ソ聯邦の中央との確實迅速なる聯絡を痛感するに至つたのである。

三、モスクワ市府間無線電話開通

モスクワ・ハバロフスク間並にモスクワ・ウラヂオストツク間の直通無線電話連絡は、首都・極東間の通信事業に大なる寄與を齎すものとして、かねてより計畫中のものであつたが、いよ／＼モスクワ・ハバロフスク間の通話が試験的に開通されることになつた。

右通話は、家庭に取付けてある普通の電話器で出来るのであるが、モスクワ・ハバロフスク間の通話料金は一通話(三分間)十五ルーブルである。

四、ソ聯邦の郵便料

三三年二月二十五日ソヴェト聯邦國民經濟會議により書留並に普通國內郵便物に關する郵便料金表が決定された。それによると二十瓦まで市内書留封緘書信は三十哥、同市外書留は四十哥である。更に二十瓦を増す毎に市内五哥、市外十哥増である。市内普通封緘書信は二十瓦

まで十哥、市外普通書信二十哥である。更に二十瓦を増す毎に市内普通書信は五哥、市外は十哥増である。各種の帶封郵便物は百瓦毎に四哥である。

五、ソ聯邦の國際電話連絡

ソ聯邦は現在十七ヶ國の歐洲諸國と電話連絡を有し、右國際電話の通話数は逐次増加の傾向を辿つてゐる。

一九三五年度に於ける國際電話の通話数は十六萬五千四百九十八通話で、一日平均の通話数が四百五十三通話となり、前年度即ち一九三四年度に比し一四%方の増加を示してゐる。尙、ソ聯邦が最も活潑なる電話連絡を有してゐるのは、佛國、英國、獨逸、ポーランド及びラトヴィヤであるが、郵電人民委員部の發表によれば一九三五年度に於ける右歐洲諸國との通話数は左の如き數字を示してゐる。

獨逸	四五、六六六通話
英國	二四、三〇二通話

交通

郵電業績

指 數	數量單位	1934年	1935年			1936年度計畫	1934年 に對する の比率%	1935年 に對する の比率%
			計畫	實績	遂行率%			
總收入	百萬留	537.5	591.3	554.9	94	601	103	108
長距離電話延長	千	1855.0	2005.0	2013.2	100	2253.0	108	112
電信機數	臺	10390	11590	11808	102	12494	114	106
都市電話局	千	639.8	722.0	696.9	96	820.0	109	118
都市中心臺	臺	1835	2100	2206	105	2890	120	131
農村ソヴェト	〃	36770	37200	39760	107	42050	108	106
ソフネーズ	〃	4232	—	4580	—	4780	108	104
M T S	〃	3526	3580	3775	105	4600	107	122
長距離無線電信電話機	〃	235	263	252	96	278	107	110
同能力	キロワット	1162.6	1317.7	263.6	—	1485	109	117
ラヂオ放送局數	所	67	79	73	96	82	109	112
同能力	キロワット	1592.0	1846	1752	95	2007	110	115
同發電量	千キロワット時	5920.0	6100.0	6255.8	—	7670.0	106	123
ラヂオ受信局	千ヶ所	2324	3034	2857	94	4427	123	155
内譯：都市	〃	1401	—	1642	—	2201	112	134
農村	〃	339	—	563	—	1204	166	214
郵便網	〃	44308	49000	46170	94	46170	104	100
同機械化率	%	34.3	39.0	37.5	96	44.8	109	119
労働者一人當り仕事量	留	2270	2240	2110	93.6	2186	92.5	104.1
郵電人民委員部投資	百萬留	284	310	287	—	400	101	139

(註) ラヂオ事業に就ては「文化の部」を参照せよ。

佛國 二〇、六八二通話
ラトヴィヤ 一五、五九六通話
ポーランド 一五、四二五通話
ソ聯邦の對英、對佛關係は經濟的にも文化的にも著しい發展をとげたので、右兩國との電話連絡は近來大いに活潑の度を加へるに至つた。即ち、昨年度に於ける對英通話数は前年度即ち一九三四年度に比し六千二百七十四通話(三四・八%)の増加を見た。尙、佛國との電話連絡は一九三四年八月に開通したのであるが、一九三五年度の最後の五ヶ月間に於て、前年度同期に比し三千二百二十二通話(五五%)の増加を見たのである。

一方、諸外國よりの電話呼出數を見るに、昨年度に於ては英國及び佛國よりの呼出數が激増した。即ち、英國よりの呼出數は一九三四年度には二千五百四十六件であつたが、一九三五年度には六千二百四十九件に増加してゐる。同時に見逃すことの出来ないのは獨逸、ポーランド、ラトヴィヤ等の歐洲諸國とソ聯邦間の電話連絡數が減少したこ

とで、これは一面に於て文化的・經濟的關係の消長を物語るものであるとも云へるであらう。因みに、昨年度に於ける右歐洲諸國との電話連絡數を前年度に比較すれば、對獨關係が三千六百四十九通話減(七・四%減)、對ラトヴィヤ關係が三千五百一十一通話減(一八%減)、對ポーランド關係が三千二百九十六通話減(一八%減)となつてゐる。

六、モスクワ・紐育間に國際電話開通

ソ聯邦郵電人民委員部は三七年三月五日附を以て對米國際電話開通計畫を發表、去る四月十四日午後七時、いよ／＼モスクワ・紐育間の試験通話が行はれた。結果は非常に好成績であつたが、一般の通話を開始するまでに尙四、五回の試験をなす筈である。

右モスクワ・紐育間の國際電話はロンドンを通じて行はれるのであるが、目下モスクワ・ロンドン間は有線電話連絡を有してゐるので、ロンドン・紐育間のみ

無線電話を以て連絡する。

ソ聯邦の國際電話連絡は最近の三ヶ年間に著しく其の面貌を改めた。即ち、一九三三年度に於ては僅かにバルチック沿岸諸國とモスクワ間にレニングラードを通じて電話連絡を有してゐたにすぎなかつたが、現在ではモスクワから左の諸國と自由に通話出来る。

獨逸、英國、和蘭、瑞西、白耳義、リユクセンブルグ、ラトヴィヤ、リトワニヤ、ダンチヒ、ポーランド、佛蘭西、チエツコスロヴァキヤ、オーストリア、フィンランド、瑞典、エストニヤ、デンマーク、ノールウエイ、等。

ソ聯に於ける通信事業の現状

ソ聯通信人民委員代理ゲ・プロコフイエフ氏の所説

通信事業が經濟・文化並に國防的見地から見て偉大なる意義を有することは周知の事實であるが、ソ聯に於ける通信事業の現状を概観すれば左の如くである。

郵便物取扱數量 ソ聯に於ける郵便物取扱數量の増加は次の數字に徴して之を知ることが出来る。

種 類	一九三六年	一九三七年 (豫定計畫)
書 信	一、三六、〇〇〇	一、四〇、〇〇〇
郵便爲替	五、〇〇〇	六、〇〇〇
小包郵便	三、〇〇〇	三、七〇〇
新聞・雜誌類	五、五〇〇、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇

以上の數字を一九一三年度の統計と比較してみると極めて興味深い。即ち、一九一三年度に於ける郵便物取扱數量は全種目を合して僅かに九億六千七百萬通に過ぎず、郵便取扱局數は全國を通じて僅かに一萬三千局に過ぎなかつたが、現在では四萬二千局に上つてゐる。

各都市間の電報取扱數は一九三六年度には七千三百萬通に上つたが一九三七年度には八千萬通を超過する見込である。

通信事業の技術的改善 通信技術の根本的改善を速かに實現し、世界最高の技術的水準に到達せしむることはソ聯通信

列強に比して著しく立遅れてゐるが、就中電話並ラヂオには特に其の傾向が顯著である。

ソ聯の電話普及率は極めて低位にあり、聯邦各共和國首都に於ける人口百人當りの電話架設數を見るに左の如き數字を示してゐる。

モスクワ	三・六個
チフリリス	一・七個
エレヴァン	一・三個
アルマ・アタ	一・五個
タシケント	一 個
アシハバード	一・三個
キエフ	一・五個
バク	一・六個
スタリナバード	一・八個
フルンゼ	一・三個
ミンスク	二・六個

ソ聯郵電人民委員部は電話普及の目的の下に本年度に於て合計十一萬個の新設電話を架設する計畫を立てた。農村に於ては三千五百の農村ソヴェートに電話を架設する外、約三千の現存地方電話交換局を改善する豫定である。尙、自働式電

交 通

話の普及並に農村ソヴェート、機械トラクター配給所、國營農場、共營農場等の全面的電話化が當面焦眉の課題となつてゐる。

ソ聯に於ける各都市間の電信・電話連絡の現状は未だ極めて不十分で、最小限度の需要すら満してゐない状態である。尙ほ、電信連絡を全く有せざる地區が百餘あり、亦都市間に電話連絡を有せざる地區が七百餘に上つてゐる。亦、大部分の電信局はクロプフェル式と云はれる舊式の器械（耳で聞いて受信するもの）を備へてゐる状態であつて、これが改變は當面の急務である。

一九三七年度に行はれる電信電話連絡の技術的改善中特に注目すべきものは、モスクワハバロフスク間の大幹線建設が完了することである。即ち、首都モスクワと極東間に電話連絡が確立される外、グルヂヤ、アゼルバイジャン及びアルメニヤとの電話連絡が擴張せられる筈である。亦、モスクワカザクスタン間にも有線電話連絡が開始される豫定であ

事業當面焦眉の急務であるが、これに關聯して先づ第一に留意せねばならぬのは現在の技術的基礎を百パーセントに利用すべきことである。即ち一九三六年八月に行はれた調査の結果によれば、モスクワに於ける電報取扱局設備の技術的能力は僅かに四二・六%利用されてゐるに過ぎなかつた。尙、レニングラードが三二・四%、スヴェルドロフスクが二四・六%と云ふ數字を示してゐる。

ラヂオの運用状態も同様に劣悪を極めてゐる。即ち、地方ラヂオ仲繼所の運用基準は普通一晝夜二時間半となつてゐる。ラヂオ放送局の運用状態も同様に劣悪を極め、サラトフ放送局の如きは一九三六年度に於て一晝夜平均二時間十八分の放送をなしたのみである。またアストラハン放送局に至つては更に劣悪で、一晝夜平均一時間四十八分と云ふ運用状態を示してゐる。故に當面焦眉の急務として強調すべきは現在の技術的能力を百パーセントに利用すべきことである。

ソ聯通信事業の技術的水準は資本主義

一九三七年度に於ては電送寫眞が廣汎に普及される見込である。即ち人民委員會議の決定によれば約二十本の電送寫眞連絡線が開かれる豫定であるが、其中主なるものをあげればモスクワハバロフスク間、モスクワウラヂオストツク間、モスクワアルマ・アタ間、モスクワバク間、モスクワロストフ間、モスクワシムフェロポリ間等である。尙、モスクワに於けるテレヴィジョン中央局も本年度に於て其の運轉を開始する豫定である。

航空運輸

ソ聯の定期航空輸送

ソ聯邦の航空運輸は一九二二年、獨逸のルフトハンザ會社との合辦で成立したデル・ルフト會社のモスクワキーニヒスベルヒ間の定期航空が最初である、同航空路は次でベルリンまで延長されたが一九三七年四月を以て兩國の契約満期と

なり、解消され現在中止されてゐる。
ソ聯の航空會社としては一九二三年成
立したドロリヨット會社(義勇航空)ウ
クライナ航空會社(ウクルグ・ウオズト
フ・プチ)が成立したが、之等は後合併
して民間航空隊を組織し、現在のソ聯邦
航空路は全部同隊の經營に係るものであ
る。

*航空輸送、其他民間航空關係詳細記事は
「航空事業」の項(第一一七頁)参照。

ソ聯邦定期航空路

(總延長距離四八、九八二籽)

▽モスクワを基點とする旅客、貨物、郵
便物、聯邦民間航空隊經營(毎月一往
復)
カザン、スウエルドロフスク、クルガ
ン、オムスク、ノウオシビリスク、ク
ラスノヤルスク、ニジネウジンスク、
イルクツク、ウランウデ間。

〔註〕モスクワノウオシビリスク間の距
離は、三、〇三〇籽、所要時間三〇―四
〇時間、旅客運賃二六五留、貨物一籽に

ルガンスクマリウボリ間(三六〇籽)
トネプロペトロフスクオデツサ間
(六二〇籽)、同キエフ間(四四五籽)。
▽アクチュビンスクを基點とする空路。
ダリリヴ、ウラルスク、クスタナイの
各地へ。

付三・八〇留。
▽モスクワ基點、郵便専用空路
チタ、ネルチンスク、モゴチャ、ルフ
ロウオ、テイグチャ、ボリカリヨフ、
アルハラ、チホンカヤ、哈府、ラーゾ、
浦鹽。
〔註〕モスクワ浦潮間八、一九〇籽で所要
時間九六時間三〇分。
▽モスクワレニングラード間六五〇籽
所要時間三時間一〇分。同ボロゴエ間
同ウオロネジ間及スターリングラード
間及び左の諸線、オレル、ハリコフ、
ロストフ、ミネラリヌイウオドイ、ビ
ヤチゴルスク、グロズヌイ、マハチカ
ラ、バクー、チフリスの各地。
〔註〕モスクワスターリングラード間は
九九五籽で所要時間八時間、同チフリ
ス間は三、〇二五籽で所要時間三八時間。
▽モスクワを基點とする其他の線左の如
し。
ペンザ、サマラ、アクチュビンスク、
チエルカール、クシルオルダ、タシケ
ントの各地。

〔註〕モスクワタシケント間は三、〇五
〇籽で所要時間三二時間三五分。

▽浦鹽を基點とする空路左の如し(旅客
貨物、郵便物)(アコ漁業會社經營)。
哈府、尼港、シヤンタルスキー島、ア
ヤン、オホツク、ナガエオ、ハリユウ
ゾオ、ボリシエレツク、ペトロパウロ
フスク。

〔註〕浦鹽ペトロ間四、〇〇〇籽旅客賃金
一、七五二留。
同支線、浦鹽ウラジミロ、アレクサン
ドロフスク間一〇〇籽(聯邦民間航空
隊經營)。

▽尼港を基點とする空路。
尼港よりケルビ(三二〇籽)、デカスト
リー(二四〇籽)、コルチヤン(一六〇
籽)、コーリ(一五〇籽)及びラングル
に至る線。

▽哈府を基點とする空路。
尼港、オハ線(一、一〇〇籽)、マリ
ンク、亞港線(九五〇籽)、同コムソモリ
スク間(二八〇籽)、同ビロビヂヤン間
(二五〇籽)。

此外、亞港オハ間(二八〇籽)及びビロ
ビヂヤン、スターリンフェリト間(五〇
籽)の支線あり。

▽其他の極東諸線。

武市ノボヤルコウオ間(一一〇籽)、ブ
レーヤチエクンダ間(二二〇籽)、ウ
ランウデアルタンブラツク間及同庫
倫間(隔日一往復)。

▽イルクツクを基點とする空路。

ウエルホレンスク、ゲルヂノフスコエ、
ウスチクト、キレンスク、イチエラ、
ウイチム、ニユヤ、オレクミンスク、
イセツカヤ、ヤクーツク。

〔註〕イルクーツクヤクーツク間二、七
〇三籽、所要時間二〇時間四五分(毎月
九往復)。

▽イルクツクを基點とする他の線。

ウエルホヤンスク、グルヂノスコエ、
ウスチクト、キレンスク、イチエラ、
ウイチム、ボダイボ線。

〔註〕イルクツクボダイボ間一、七七八
籽、所要時間十四時間。

▽ハリコフを基點とする空路。

交 通

ルガンスクマリウボリ間(三六〇籽)
トネプロペトロフスクオデツサ間
(六二〇籽)、同キエフ間(四四五籽)。
▽アクチュビンスクを基點とする空路。
ダリリヴ、ウラルスク、クスタナイの
各地へ。

週二往復)。
▽ノウオシビリスクよりカールウオ間
(二四六籽)、コルパチウオ間(四九〇
籽)(隔日一往復)。

定期航空路線使用機
(型式) (旅客數) (發動機)
アント・九型機 九人乗旅客機 三三〇馬力三基
アント・四型機 六人乗旅客機 四〇馬力五基
カリニン・五型機 八人乗旅客機 四〇馬力二基
スターリ・三型機 八人乗旅客機 四〇馬力二基

▽其他の諸線(民間航空隊經營)。
アルマ・アタシヤルケント間(三〇〇
籽)、タシヤウズチヤルジュイ間(四
七〇籽)、同アシハバツト間(四八〇
籽)、タシケントよりサマルカンド、
チヤルジュイ、アシハバツト、ガザン
クリ(一、七〇〇籽)、タシケントより
サマルカンド、テルメツツ、ユタリナ
バツト間(九六五籽)、タシケントオ
ハ間(四四八籽)。

▽スタリナバツトを基點とする空路。

同、ガラム間(一七〇籽)、クラブ間(一
八〇籽)、ホログ間(一七〇籽)、パウ
マナバド(一九〇籽)。

▽アルハンゲリスクよりウストジルマ間
(一、〇一〇籽)(三日に一往復)、コト
ラス、スイソリスク間(九二〇籽)(毎

▽モスクワアルマ・アタ間航空路。
一九三六年七月九日以降、モスクワよ
リカザクスタン共和國首都アルマ・ア
タ間に定期郵便、旅客飛行開始され、
全航程三、六〇〇籽、使用機は「アント
九型」及び「ベ・五型」で兩地間飛行
時間二十一時間、旅客運賃六〇〇留で
ある。

▽モスクワ―ブライグ間航空路。

モスクワ―ブライグ間の定期航空路は一九三七年七月一日より開始された、右は一九三五年以來懸案となつてゐたもので昨一九三六年試験飛行を行ひソ側に於て諸準備を進めたがルーマニヤ政府の態度は氣乗薄で其實現は危まれてゐたが二九三七年ル國との航空協定の成立により其實現を見るに至つたものである。同航空路はルーマニヤの主要地ルツシ、ルクーシユ(クラヤンベルグ)を貫きチエツコ國に入るもので毎週月水金三回モスクワ、ブライグ双方より出發する着陸地はモスクワ―ブライグ、キエフ(以上ソ聯邦)ヤツシ、クルーシユ(以上ルーマニヤ)ウジホロド、ブライグ(以上チエツコスロヴァキヤ國)。

▽モスクワ・ストツクホルム間航空路。

モスクワ―ストツクホルム國際航空路は一九三七年七月一日より開通したが同線には十人乗のソ聯快速旅客機「ANT-三五」が就航して居る。同機は

時速二九〇―三〇〇浬で客席の他貨物、郵便物室も設けてある。最近高速試験飛行の結果、途中着陸時間を除き四時間と三十分でモスクワ―ストツクホルム間を飛翔した。

米ソ間航空路開設問題

非軍事航空本部長トカチエフ主催の下に米・ソ間航空路開設問題に關する審議會第一回會議は一九三六年九月二十九日モスクワに於て開催せられ曩に米・ソ間連絡飛行を決定したるレザアネフスキイ、レフチエンコ、北極飛行家モロコフの補佐者ボベジモフを始め各専門家列席し種々審議の結果米ソ航空路の開設は可能なりとの結論に達し而て航空路に付ては種々の案ありたるも結局南部線及北部線の二路に歸着した。

北部線とはモスクワ―クラスノヤルスク―キレンスク―オレクミンスク―ヤクーツク―クレスト・ホリジヤイ―セイムチヤン―ナガエヴォ―ギジガ―カメンスコエ―アナドウイル―チユコツト岬―ローレンス灣―ノーム―フェアバンクス―

ホワイト・ホース―シアトルの経路を採るものにして又南部線とはクレスト・ホリジヤイ迄は北部線と同一なるも爾後アヤン―オホーツク―ナガエヴォ―ウスチカムチヤツク、コマンドル及アリユーシヤン群島―シユアルド(アラスカ)―ホワイト・ホール―シアトルの経路を採るものとす南部線は大體一萬三千二百キロ(内ソ領六千四百キロ)、北部線は一萬一千六百キロ(内ソ領六千九百五十キロ)の延長にして所要日数は四、五日とす。而て前者に付ては航空路の調査費百四十萬留、同じく建設費五千四百萬留、後者に付ては調査費百五十萬留、建設費六十萬留を要する見込である。右航空路中米領を通ずる部分は既に裝備せられ又ジュノ―ノーム間はモスクワ―ヤクーツク間と同様定期航空連絡が行はれて居る會議出席者は右二航空路中北部線を適當なりと認むることに一致した。尙會議に於て航空の時期(冬期を可とするや夏期を可とするや)、使用機の型、運搬すべき貨物の種類等に付ても審議した。

文

化

教 育

赤色教育の發展

革命によつて政治的權力を掌握したプロレタリアートは、「文盲撲滅」の旗幟を高く掲げて、大衆を過去の迷蒙より覺醒さすべく全精力を教育の方面にも傾注した。蓋し、過去の學校こそは、大衆の階級意識を鈍化させるため大なる役割を演じてゐたからである。

ソ聯に於ける教育の根本目的は、一言にしてこれを謂へば、共産主義を實現せんがための大衆教育にある、と云へよう。従つて、ソ聯の教育が、抽象的な、實生活から隔離されたブルジョア世界のそれとは根本的に相異してゐるのも何ら怪しむに足らない。

文 化

戦時共産主義時代

いま一九一七年十一月七日革命政權確立以來、ソ聯赤色教育發展跡を辿るに、先づ所謂戦時共産主義時代の一九一八年十月十六日附學校令によれば、

第一、革命の成果及びソヴェート政權を擁護し、共産主義社會に至る過程として社會主義を建設することを要し、教育を以て之が實現の具となすべくブルジョア的手段化を防止しなければならず、此の目的のために、イ、教育の中央集權、ロ、教育及學問の政治化が行はれ、ハ、教育の解放殊に労働者及農民に優先權が與へられる。

第二、從來遅れてゐた國民文化の程度を大に向上せしめることを要し、此の爲には教育の奨励、就中普通教育の普及其

内容の變更及無學者並に一般民衆の教育を緊急とするが故に

イ、労働學校の制度を定めこの職業教育と連絡せしめ、普通教育の内容を生産的勤勞に結びつけ、宗教と絶縁せしめ、ロ、普通教育の義務的國民皆教制度を實施し、教育を無料とし、ハ、被服學用品を官給し、ニ、無學者を教育して國民皆教の實績を擧げ、年少浮浪者收容教育を行ひ、ホ、校外教育機關を設ける。

第三、經濟建設の根本問題たる工業化及農業の發達に必要な技術及技術者を養成することを要するが故に

イ、實用を主とし、普通教育と調和せる職業教育を興し、ロ、高等教育を専門職業教育化する。

第四、婦人を解放し、其啓發を圖ることを必要とするが故に

イ、學齡前の教育を發達せしめ、ロ、男女を共學とし、教育上男女を平等とする。

第五、國家文化の發達及經濟建設を基礎として、國內多種の異民族の開發を要するが故に

イ、小數民族の教育を興し、ロ、諸民族を

して教育上自主権を有せしめ、就中各母語により教育を行ふの自由を認める。

とあり、教育改革の急進的實施を圖らんとしたのであるが、革命の變動に續いて起つた内亂、外國出兵、饑饉等の爲國家の經濟及國民の生活が破壊せられた結果、急速な教育改革は到底實行し得ず、他面、教育無用論の如きを唱ふる者もあつて、教育は當時の教育人民委員ルナチヤルスキーの所謂「瀕死の状態」に陥り、不振を極めたのである。

新經濟政策時代

それが一九二一年新經濟政策の採用決定せられて以來、國家經濟力漸次回復の途に就くと共に、教育も復活するに至つたが、殊に經濟的建設の爲急速を要する技術者の養成に迫られた結果職業教育機關の充實促進に努むると共に、普通教育部門に於ても所謂德育と云ふが如き謂はば抽象的なる目的に終始することを得ざるに至つた、即ち一九二三年十二月十八日附露西亞共和國單一勞動學校令に依れば、普通教育機關たる勞動學校の目的、

が兒童に對し自己の生活並に勤勞者の社會に於ける生活に必要な知識及習性を涵養せしむるにある旨を規定し、又中等程度の普通教育機關に付ても著しく職業教育の色彩を加へ來り、農村に於ては年少農民學校、都市には工場七年學校の如き名稱を有する學校が設立せられた。

然るに新經濟政策時代に於ては所謂共產黨の内訌が續發し、例へば一國社會主義建設の可能性を主張するスターリン等現幹部派と永久世界革命論を唱ふるトロツキー派との論争激しく、且舊思想を有する技術家、學者等知識階級が政府當局の急激なる經濟建設方針に對し、技術的に又思想的に歩調を共にすることを得ざりし事例少からず、之が爲新思想を有するプロレタリア青年技術者の養成を必要とし、幹部派の思想、即ちスターリニズムに依り教育し、階級的自覺を扶植する爲、技術教育と平行して政治教育を強調することとなり、政治經濟問題に關する社會知識科の教育を重視し、上級學校への入學試験には之を必須科目とし、高等

教育機關に於ても、專門學校の如何を問はず之を必修せしめたのである。

第一次五ヶ年計畫時代

次いで一九二八年十月より一九三二年末に至る第一次五年計畫時代に於ては、國民經濟の改造計畫經濟の施行に伴ひ、新經濟政策時代よりも更に技術者養成の急務に迫られ、既に技術職業教育を強化すると共に、普通教育にも之を著しく反映せしめたが、他面、專門教育を受けるに必要な基礎知識を向上せしむることを要務とし、遂に普通教育の改善をも決意し、且之を全聯邦に普及し文盲退治に努力を注いだのである。

尙普通教育に關しては、義務教育實施期の豫定を繰上げることにし、一九三〇年七月第十六回黨大會の決議に基き、同年八月十四日附聯邦中央執行委員會及人民委員會議決定（初等義務教育に關する件同年度法令第三十九號四二〇）に依り、同學年度より一般に初等教育四箇年を、又都市及工業地方に於ては七箇年を義務教育とし、次で一九三三年一月より

は十年制の普通教育機關を設けることとなつた。而して此期に於ては普通教育機關は所謂職業教育に於けると同様、階級的性質を帶び、勞農者優先主義が勵行せられたのみならず、綜合技術教育（ポリテクニズム）を高調し、學校には通常比較的整備した作業場があり、且學校は之を後援する各種企業、共同農場（コルホーズ）等に連絡せしめ、實際的勤勞を獎勵したが、他方、上級學校入學の爲、學力の向上を要したるにより、普通教育の内容を改善し、系統的知識を一般的教授方法に依り授くる必要があつたが、此の兩者の調和に苦心した次第は當時の法令に徴しても明瞭である。

第二次五ヶ年計畫時代

更に第二次五年計畫時代に於て重工業建設漸く一段落を告げ、聯邦經濟力の増進に伴ひ、ソ政府は輕工業の發達及國民生活の改善に努め、教育方面にも益々力を用ひ得るに至つた。

即ち普通教育に於ては第一次五年計畫時代に於けると同様、所謂綜合的技術教

育（ポリテクニズム）を採用し、生産に關する原則及主要器具使用法の理解、並に勤勞の習性と基礎的諸學科に依る一般知識の習得とを結合したものを要點とした。

又職業教育に付ては重工業建設計畫の一段落と共に、機械及設備並に外國より取入れたる新技術を有効に活用し得べき專門技術家を必要とするのみならず、軍事的考慮よりも技術を習得せる人材を養成するの必要急なるものあり、加ふるに從來は重工業建設を第一主義とし、「技術は總てを決す」と云はれ、云はば技術者濫造の傾きがあつたが、右建設の一段落となつた後は之を運用し其の成果を收め得べき人物、幹部の必要に迫られた。

斯くて一九三五年五月四日スターリンは陸軍大學卒業式に於て「幹部（カードル）は總てを決す」と唱へて、人材の必要を強調し、同年秋生産能率増進運動たるスタハノフ運動擡頭以來、重工業の成績優秀なる者に對し旺に行賞を行ひ、人材登用の道を開くと共に、技術規準の引

上を行ふや、益々技術者及所謂幹部の養成並に技術知識の補習教育の必要が力説せられ、之が強化に努むるに至つたのである。

スターリン憲法と教育

以上の如く赤色教育はソ聯國內に於ける政治經濟上の變化に伴ひ、殊に計畫經濟の樹立に基き改善強化を加へて來た譯であるが、その教育の根本精神は三六年十二月新たに制定されたスターリン憲法第二百一十一條に盡きるところは左に掲げることとする。

「ソヴェート社會主義共和國聯邦市民は教育の權利を享有す、右權利は一般的初等義務教育、高等科學生の壓倒的多數に對する國家補助金制、當該民族語に依る授業、工場、國營農場、機械トラクター配給所、共營農場に於ける勤勞者に對する無料の工業、技術、農業教育に依り確保さる」

普通義務教育

既述の如く發展し來たつた赤色教育は之を普通義務教育、職業教育、政治教育

の三分野に分けて考へることが出来る。先づ普通教育に就いて述べれば、三歳以下の幼児の教育は各所(各地方)の保健部の管理に属し、托兒所、幼児の家、母子の家等に之を行ひ、三歳以上七歳以下の児童は學齡前児童の家及び子供の廣場に於て單一勞働學校への豫備教育を施してゐる。

國民普通教育の根本機關たる單一勞働學校には滿八歳から入學せしめ、男女共學であり、大體九年制で第一部四ヶ年、第二部五ヶ年に分れ、第一部及第二部前期(三年)の合計七ヶ年は普通の教育及政治教育を施し、第二部後期の二ヶ年は多少職業教育をも授けてゐたが、三三年一月より十年制の普通教育機關を設置することとなり、四級迄を初等、五級から七級迄を準中等、八級から十級迄を中等學校と稱し、尙ほ七歳の學齡前児童を教育してゐた組を準備級と稱することになつた。而して義務教育といふのは一般に初等四ヶ年、又都市及工業地方に於ては準中等七ヶ年となつてゐる。

この外、普通教育機關としては七年制工場徒弟學校があり、他の七年制單一勞働學校と同種であるが、勞働時間、體育及其の他の地方の工業に關係深き學科の時間を増し、多少技術教育化したものである。又、共營農場青年學校は社會教育と同時に農村に必要な知識を授け、教化せられた農民を養成するを目的とし、十二歳乃至十六歳の者を入學せしめ、修業年限は三年である。尙ほ幼年館(三歳—七歳迄)、少年館(八歳—十五歳迄)、未成年館(十三歳—十六歳迄)、不良兒童感化院等を擧げることが出来る。

かくて十月革命によるソヴェト政權樹立以來二十年間に、ソ聯當局は兒童の社會主義教育といふその文化革命の重大課題を如何に遂行して來たか、今これをソ聯中小學校教育に現はれた最近の統計數字によつて見れば、先づ二十年間に學校敷地面積は一億一千万平方米増加し、帝政ロシアの二百年間に於けるよりも多數の學校を建設した。三六年の全聯邦生徒數二千七百四十萬人が三七年には三千万

人に増加し内譯都市八百八十萬人、農村二千二百二十萬人強となつた。三六年の全聯邦學校數は一六三、七二九校(内新設四千五百校以上)であつた。三七年には都市及び勞働者地區に九百校(教室數五一八、九五〇室)、鐵道従業員子弟の爲に一七七校(教室數三萬五千室)、農村地方に二、五三六校(六六三、七四〇教室)が新設される豫定である。最近二ヶ年間に於ける之が學校建設に對する政府支出は約十三億八千五百萬留、又其他の學校經費(教員俸給、學校諸設備其他)支出は三六年の三十三億留に對し三七年は六十一億七千九百萬留に増加してゐる。全聯邦の中等學校、準中等學校、初等學校教員數は九十萬人以上に達し、更に本年六萬五千人増加した。

十萬人に増加、白ロシアでは三六年より八萬人増加の一、〇二一千人、カザクスタンでは學校數七、六三〇校、生徒は三七年九九二千人(内一九七人新入學)になる豫定であり、又教員數は二七、八一人、三七年の之が政府教育支出四億三千萬留(内一千八百萬留は學校新設費)である外全聯邦に鐵道従業員子弟學校生徒一、一〇三千人がある。以上今年新入學の全生徒數は五百二十萬人に達し、多くは幼稚園から入學した者である。尙ほ國民教育に對する國家豫算三六年度の一三、九一五、七百萬留が三七年には一八、二六九、八百萬留に増大してをり、以上の學校教育と相俟つて校外教育に力を注ぎ、例へばロシア共和國百六十六都市には兒童遊園地が建設され、同共和國だけでも兒童プール及び運動場數百六十四ヶ所、また六百ヶ所の兒童技術研究所、數十ヶ所の兒童藝術教育會館が設立されてゐる。

次の諸統計はソ聯普通教育の發展段階を示すものである。

普通義務教育(初等及び中等)の發達—戰前との比較

年 度	實 數				1914—1915年(=100)に對する%			
	實 數		内 譯		實 數		内 譯	
	學校數	生徒數	初等學校 (1—4 學級)	中等學校 (5—10 學級)	學校數	生徒數	初等學校 (1—4 學級)	中等學校 (5—10 學級)
1914—15	106 400	7 800 601	7 235 988	564 613	100,0	100,0	100,0	100,0
1920—21	118 398	9 781,263	9 206 839	574 424	111,3	125,4	127,2	101,7
1921—22	102 533	8 439 004	7 784 184	654 820	96,4	108,2	107,6	116,0
1922—23	90 037	7 394 463	6 776 204	618 259	84,6	94,8	93,6	109,5
1923—24	89 616	7 828 536	7 089 416	739 120	84,2	100,3	98,0	130,9
1924—25	92 880	9 139 921	8 307 812	832 109	87,3	117,1	114,8	147,4
1925—26	102 833	10 193 914	9 204 351	989 563	96,6	130,7	127,2	175,3
1926—27	110 773	10 726 628	9 522 087	1 204 541	104,1	137,5	131,6	213,3
1927—28	118 222	11 356 197	9 947 503	1 408 694	111,1	145,6	137,5	249,5
1928—29	124 429	12,074 806	10 468 410	1 606 396	116,9	154,8	144,7	284,5
1929—30	132 656	13 503 712	11 697 010	1 806 702	124,7	173,1	161,7	320,0
1930—31	152 654	17 656 232	15 609 069	2 047 163	143,5	226,3	215,7	362,6
1931—32	167 262	20 846 232	18 999 966	2 846 266	157,2	267,2	248,8	504,1
1932—33	167 254	21 813 452	18 179 431	3 634 021	157,2	279,6	251,2	643,6

1924/25 年より 1932/33 年に至る各種學校及生徒數の一般的増加

區域別	年度	普通義務教育各種學校總計												
		學校數	教員數	生徒數	學校數	生徒數	學校數	生徒數	學校數	生徒數	學校數	生徒數		
全聯邦	1924—25	92,880	247,059	9,139,921	86,973	132,606	3,864	1,272,341	229	20,185	771	441,739	1,043	273,050
	1925—26	102,833	277,772	10,193,914	96,344	7,874,152	4,356	1,577,417	493	35,541	714	433,771	926	273,039
	1926—27	110,773	303,714	10,726,628	103,298	8,087,124	6,051	1,796,331	700	51,708	491	498,262	933	293,203
	1927—28	118,222	336,021	11,356,197	109,876	8,427,374	5,484	1,958,579	1,015	87,942	892	566,876	955	315,426
	1928—29	124,429	363,328	12,074,806	115,499	8,898,326	5,728	2,068,614	1,348	131,461	959	644,753	895	331,649
	1929—30	132,656	391,869	13,503,712	122,883	9,951,281	5,925	2,222,854	1,927	207,402	1,067	777,879	854	344,326
	1930—31	142,654	479,839	17,656,232	139,643	13,100,283	7,968	3,560,686	4,385	608,759	367	277,796	291	108,708
	1931—32	167,262	569,749	20,846,232	145,450	13,772,038	10,355	5,031,680	11,431	2,026,424	26	16,090	—	—
	1932—33	167,254	631,257	21,813,452	138,747	12,633,604	7,531	3,245,719	19,766	4,667,434	1,194	1,259,899	16	6,796
	1927—28	111,144	126,242	3,229,485	6,626	1,163,396	2,898	1,254,732	63	5,085	806	532,867	721	273,405
	1928—29	111,031	133,944	3,342,767	6,513	1,152,393	2,959	1,287,462	72	7,493	870	608,907	689	286,512
	1929—30	111,301	136,192	3,550,887	6,346	1,149,362	3,049	1,354,819	102	11,284	972	735,720	661	299,702
	1930—31	107,801	139,171	3,809,228	5,849	1,113,271	4,060	2,260,201	359	95,798	318	256,760	194	83,918
1931—32	111,257	149,672	4,526,201	6,213	1,329,992	4,505	3,013,464	518	167,641	21	15,104	—	—	
1932—33	111,120	166,026	4,904,161	5,667	1,229,048	3,721	2,240,000	635	288,107	1,092	1,205,072	5	1,934	
1927—28	107,108	209,779	8,126,712	103,250	7,263,978	2,586	703,847	952	82,857	86	34,009	234	42,021	
1928—29	113,326	229,384	8,732,039	108,986	7,745,933	2,769	781,152	1,276	123,971	89	35,846	206	45,137	
1929—30	121,626	255,677	9,952,825	116,537	8,801,889	2,876	868,035	1,825	196,118	95	42,159	193	44,624	
1930—31	141,874	340,618	13,847,004	139,794	11,987,012	3,908	1,300,485	4,026	512,961	49	21,036	97	25,510	
1931—32	156,005	420,077	16,320,031	139,237	12,442,046	5,850	2,018,216	10,913	1,858,783	5	986	—	—	
1932—33	156,134	465,231	16,909,291	133,080	11,404,556	9,810	1,005,719	19,131	4,439,327	102	54,827	11	4,862	

1934 年—1937 年 生徒數

指	數量單位	1934 年	1935 年	1936 年	1937 年 (計數)
		千 人	24,459.6	25,569.1	27,600.8
初等中等及中等學校就學者總數	人	18,314.6	19,112.4	20,790.6	22,228.1
內 1—4 級	人	4,857.1	5,957.8	6,755.8	7,900.6
5—7 級	人	287.9	495.85	443.2	443.2
8—10 級	人	5,991.7	6,755.8	7,900.6	8,805.0
市 內	人	4,201.4	4,433.2	4,958.2	5,364.4
市 外	人	1,609.0	1,958.2	2,813.3	3,644.4
農 村	人	17,467.9	18,813.3	19,699.9	21,228.1
內 1—4 級	人	14,163.2	14,679.2	15,699.9	16,679.2
5—7 級	人	3,248.1	3,999.6	4,526.2	5,134.5
8—10 級	人	56.6	134.5	134.5	134.5
育 兒 園	人	5,383.7	5,858.8	6,299.7*	6,791.3*
市 村	人	1,324.7	1,256.2	1,256.2	1,256.2
農 園	人	4,059.0	4,602.6	5,043.5	5,535.1
兒 童 園	人	1,181.2	1,370.6	1,370.6	1,370.6

*はコルホーズを除く

文 化

職業教育

現在ソ聯邦職業教育機關として擧げ得るものは高等教育機關、技術學校、工場徒弟學校、夜間學校、短期速成學校、労働豫備學校、通信教授學校等にして、全聯邦に網の目の如く隅なく設けられ、其數は逐年増加の傾向を示してゐる。

右の中、高等教育機關及技術學校に付て革命前なる一九一五年始、新經濟政策より第一次五年計畫への轉換期たる一九二八年、第一次五年計畫終了直後なる一九三三年始及第二次五年計畫半ばなる一九三五年始に於ける校數及在學生數の比較を見るに左表の如くである。

校 數	一九二五年 一月一日	一九二六年 一月	一九三三年 一月	一九三五年 十月
在學生數	二四、九〇〇	二五、七五七	四六、八二五	五三、三三九
技術學校校數	三三	一、〇三三	一一、五三三	二、五三三
同在學生數	〇、三三三	一、一七〇	七、七〇六	一〇、〇三三

年度中に現代的要求に適應せざる小規模且時勢遅れの、若しくは臨時的に設けられた學校を閉鎖し、之に代へるに現代的な大規模機關を新設したが爲であつて、又技術學校の學生數の減少したのは多數學生が労働豫備學校へ入學、若しくは轉學を希望したが故と見られる。斯る傾向は労働豫備學校在學生數の著しく増加した事實に反映して居る。即ち同年度に於ける労働豫備學校校數は七二八、在學生數は二八四、五四三名に達し、又工場學校校數は一、七一二及同學生數は二四六、二八八名を數へた。

尙一九三五年の統計に従ひ學生の政黨關係を見るに、例へば技術學校及高等教育機關に付共產黨員及同候補者は夫々一、九%及一四、七%、コムソボル員及同候補者は夫々三、二%及三三、五%を占めてゐる。近年の傾向としては入學者の年齢が低下してゐる關係もあつて、共產黨員減少し、コムソボル員が著しく増加した。

又職業教育機關在學生中女子の占めて

る率は相當の數字を示し、注目に値するものがある。即一九三四年中等教育機關在學女生數の在學生總數に對する比率は三五%、技術學校に於ては四三、九%、一九三五年度に入りては夫々三八%及四四、一%に増加した。

職業教育機關概要

現存主要職業教育機關の概要は左の如くである。

一、工場徒弟學校

各工場に於て十五歳以上の者を收容し、毎日五、六時間労働する傍二、三時間宛修學せしめる。元來未成年労働者に速成的教育を與へる學校であつて、上級學校に直接連絡してゐない年限は六箇月乃至重工業の如き重要専門方面では最長二年間で熟練労働者、將來工場労働者指揮者及工場長等の養成を目的としてゐる。

二、技術學校(テクニクム)

七年制普通教育機關たる準中學校と直接連絡する中等職業教育機關にして、修學年限は三年乃至四年である。技術

學校の修了者は一定の義務年限の間(通常學生は給費を受けるので、修業後は義務的に勤務するものであつて、後述高等教育機關に付ても亦同様で、期間は通常三年である)實務に就いた後高等教育機關への入學試験受験資格を得ることになつてゐる。従つてテクニクムに於ける教育の内容は専門職業教育(授業時間の三二%に當ると云ふ)の外に、普通教育の科目(語學等にして同上七八%)及一般科學的科目(物理、數學等の如きものにして同上四七%)がある。尙テクニクムの種類は所謂技術的のもの外社會經濟、教育、音樂、藝術關係等多種存し、技術専門家以外農場商店等の支配人、科學的頭腦労働者等を養成してゐるが、右は更に高等教育機關及それ以下の教育機關の爲の教員志望者を準備する意味をも含むものである。

運動の結果、從來の所謂突擊隊運動(ウダールニチエストウオ)より更に進んでスタハーフツイに依る能率賃銀制の採用せられて居る今日、各方面に於て大歓迎を受けてゐる。重工業人民委員部所屬技術學校乃至技術講座に於ては、一九三五年度には約七〇〇、〇〇〇人が教育せられ、聯邦を通して各方面の技術學校乃至講座を卒業せる労働者の數は二、〇〇〇、〇〇〇に上つた。

三、労働豫備學校(ラプファク)

右は正則な豫備教育のない労働者及農民に對し、高等教育機關に入學する準備教育を施す爲に設けられたものであつて、普通高等教育機關に附屬してゐるが、各經濟機關に於て經營するものである。大體四箇年間に於て中等程度の普通教育を施すと共に、専門の基礎知識をも授けるものであるが、入學年齢は十七歳乃至三十歳、晝夜二部に分たれ、夜間部は二年、晝間部は三年の労働履歴を有し普通教育を修了し一般

政治的豫備知識を有することを入學の條件としてゐる。

四、各種講習會

労働者資格向上の爲各種講習會があり、殊に一九三五年十二月二十五日共產黨中央委員會總會は「労働者をして勤務の傍ら講習會に於て技術知識を修めしめ、技術檢定試験を普及し義務的に之に應ぜしむること」を決議し、重工業、輕工業、林業、交通等經濟關係の人民委員部に對し右講習會を開設すべき旨を勸告した。

五、高等教育機關

高等教育機關とは専門學校及之と同程度なる大學を併せて稱し、十年制中學校、技術學校又は労働豫備學校の修了者にして十七歳乃至三十五歳の者を收容し、五年間専門程度の教育を施すものにして、職業教育上最も重要な機關である。この機關の學習方法は自習を奨励して學力を向上せしめ、實習は學習時間の三〇乃至四〇%としてあり、卒業證書を受領するには國家試験を受

文 化

け、技術關係の學科に就いては國家試験委員會の審査を経ることを要し、成績優秀なる者には第一級卒業證書を其他の者には第二級卒業證書を授與し、第一級卒業證書を受けた者は専門別に從ひ特定地位に就き學術研究を繼續し、又は在外研究員となることを得るのである。

職業教育、殊に工業技術關係の教育人民委員部の管理する所にあらず、各關係人民委員部が之を管理し、聯邦人民委員會議に設置せられてゐた高等技術教育特別委員會が之を總括し、教育其他人文科學の専門教育に限り夫々教育又は保險人民委員部の司るところである。各人民委員部に之を見れば左表の如し。

人民委員部	管下	學生數	夜間講義
重工業人民委員部	大學數	八三、三三〇	一、五八七
食糧品工業人民委員部		二二、八八五	—
公益事業人民委員部		七、五七〇	五〇三

專門別	校數	在學生數
工業及建築	一六	一六四、四四五
運輸及通信	三三	三、七、八九三
農業	九二	六、六四八
社會、經濟	七〇	三〇、五五八
教育	一八七	二、六、七五八
保健	一六	六三、〇二二
計	五五五	四三、三三三

民族共和國に對する職業教育の獎勵

ソ政府當局は夙に聯邦構成共和國の中殊に革命前に於て被壓迫民族及植民地人の居住地方だつた所謂邊疆民族共和國住民の教育に對しても大なる努力を措きまなかつた。此等諸地方は帝政時代に於ては何等個々の産業文化もなく、民族的經濟の經營及教育施設のみならず國家的初等教育設備さへも禁ぜられたものが尠くなかつた次第で、教育機關の存在なきもの大部分であつたが、現在に於てはソ政府がレーニン及スターリンの民族政策を踏襲實施せる結果、右諸共和國は地方的に夫々民族經濟及文化を發展せしめ得べき機會を獲得した。斯くて現在各民族共和國に於ける勤勞者の職業教育は各共和國内の教育機關及聯邦教育機關に於て平行的に實施せられ、聯邦高等教育機關内にある此等學生數の増加率を表示すれば左の如し。

共和國 學生總數に對する割合
一九二九年 一九三五年

ウクライナ	一四・六%	一四・八%
白ロシア	二・九%	三%
カザツク	〇・二%	〇・四%
シヨルジア	二・四%	三・五%
アルメニア	二%	二・三%
タザツク	〇・五%	〇・一%
バシキル	〇・一%	〇・二%
計	一六、八〇〇	四六、八〇〇
白ロシア	四、八〇〇	一四、〇〇〇
カザツク	三〇〇	一、九〇〇
シヨルジア	四、〇〇〇	一六、六〇〇
アルメニア	三、三〇〇	一〇、八〇〇
タザツク	一〇〇	五〇〇
バシキル	一〇〇	九〇〇

尙共和國別に在學生數を掲記すれば左の如し。
而して一九二九年度を一〇〇として高等教育機關在學生指數を見れば、一九三五年度は夫々ロシア共和國二七三カザツク共和國六三三、三、シヨルジア共和國四一五、タヂツク共和國五〇〇、バシキル共和國四五〇となり、増加割合は躍進的である。而して各民族共和國内の教育施設數の逐年増加傾向は、特に帝政時代に於て前述の如く民族的經營及教育施設のみならず國家的初等教育學校の設立さへも禁ぜられて居た地方に於て著しい。即ちカザクスタン地方はプロレタリア革命前に於ては住民の九八%は文盲だつたが、現在に於ては同共和國内には高等教育機關、技術學校及労働豫備學校等が存在し、キルギス地方は革命前極めて文化的水準低く死亡率の大なる爲激減の一途にあり一八九七年より一九一七年迄二十年間に同地方の人々は三割方減少した程であるが、現在キルギスには一、七〇〇の小、中學校、高等教育機關三專門學校一四、四の労働豫備學校あり、加之キルギス人學生五〇〇名は聯邦の大學及専門研究所に於て勉學しつつある有様である。又シヨルジアに於ても帝政時代には一箇の大學も存在しなかつたが、現在一五、〇〇〇の大學及專門學校があり、一四、〇〇〇名の各種専門科卒業生を出してゐる。

1934年—1936年に於ける幹部養成所及び生徒數動態

指 部 年 末 現 在 人 員 數	指 部 年 末 現 在 人 員 數	指 部 年 末 現 在 人 員 數	1935年				1936年 計	1934年に對する1935年の比率(%)	1935年に對する1936年の比率(%)
			計	進 行 率 (%)	1931	1932			
經濟	8194	915.0	9193.0	93	10438	112	113		
農 業	40.1	40.6	36.2	89	39.1	90	108		
高 等 專 門 學 校	465.7	523.4	509.9	97	528.6	109	104		
大 衆 幹 部 養 成 所	—	—	5461	—	7347.0	—	134.5		
内 譯:工業及鐵道	—	—	1888.2	—	2879	—	152.4		

1915年, 1928年, 1931年, 1932年, 1933年, 年初頭に於ける幹部養成所及び生徒數動態

學 校 別	指 部 年 末 現 在 人 員 數	指 部 年 末 現 在 人 員 數	年 度 始 め					1928年に對する%		
			1915	1928	1931	1932	1933	1931	1932	1933
I 高等專門學校及び高等工業學校	91	129	537	465	721	416.8	500.0	558.9	792	
II 技 術 學 校	124.7	159.8	272.1	394.0	459.8	170.3	246.6	294.0	377	
III 工 業 勞 働 學 校 及 び 之 に 準 ず る も の	2877	1660	2992	3096	3522	1777.7	187.6	213.5	258.0	
IV 大 學 備 校	253.6	253.6	593.7	754.1	797.0	234.1	267.4	314.3	—	
V 共 産 主 義 高 等 專 門 學 校 及 び 共 産 主 義 高 等 工 業 學 校	1814	178.3	684.7	975.0	3900	180.0	218.9	215.0	—	
VI 藍 間 ソ ヴ ェ ト 黨 學 校	67.0	147	69.4	87.2	888.9	327.9	546.8	537.8	657.6	
	—	49.2	231.9	319.5	382.7	472.1	649.4	716.9	—	
	—	19	49	53	76	257.9	278.9	400.0	—	
	—	8.4	18.9	30.5	81.0	225.0	363.1	369.0	—	
	—	100	108	163	230	108.0	163.0	230.0	—	
	—	17.0	23.8	33.6	40.0	140.0	197.6	285.3	—	

△各種學校就學者數

校	實績	進行率	計	畫
大學高等專門學	千人	四八、二	九四、五〇	六
A 工業	"	一三六、七	九七、一七	三
B 運輸通信	"	三九、三	一〇一	三八、五
C 農業	"	五八、五	八六	五七、一
D 教育	"	一三、三	九一、四	五
E 醫學	"	八五、三	九	九五、二
大學志願者	"	六七、七	七四	六八
赤色教授養成所	"	一、二	七五	一八
マルクス・レーニン主義研究所	"	一、三	一〇〇	一、六
共產主義高等專門學校	"	六、四	七、七	八、〇
中等專門學校	"	八、九	三、九	四、四
労働者大學豫科	"	二、六	七、三	一、九
工場労働者學校	"	三、三	六、〇	三、〇
△學校卒業者數				
經濟アカデミー	"	一、五	八、八	一、三
最高共產農業學	"	九、二	一〇〇	二、五
大學高等專門學校	"	七、九	四、五	九、三
大學志願者	"	一、六	九、四	一、七
赤色教授養成所	"	〇、〇	二、一	〇、二
マルクス・レーニン主義研究所	"	〇、〇	六、〇	〇、一

政治教育

ソ聯邦に於ては國家をして國家統治、工の管理又は公共企業管理につき充分の理解を有せしむる必要を認め、労働組合産業組合、其他の機關の協力により國民の政治教化に多大な努力を拂ひつゝあるが、其の施設の主なるものは左の如くである。

文盲清算委員會は読み書きの能力のない無學者に普通教育を施すことを目的とする機關である。共產黨中央委員會は全文盲を清算する方針にて熱心に活躍しつつある。

労働者講習會及農民講習會は労働者及農民が單に文盲の域を脱し、読み書きをなし得る程度に満足しないので、更に進んでより高き教育を受くるために設置せら

れる。講習會の殆ど全部は夜間講習であつて、工場労働者に對するものは一年乃至三年、農民に對するものは一年乃至二年を以て修業年限とする。

労働大學は前記講習を卒へた者であつて、更に進んで専門的研究を希望する者を收容する學校である。政治經濟、文學又は専門的職業教育を施すも其地方の入學者の希望によつて教授細目を定める。此學校は名稱は大學であるが實際は職業的傾向を有する普通教育機關である。

獨學及自習機關の主なるものは、圖書館、クラブ、讀書の家、赤い部屋及通信教授である。圖書館は、都市にあるものは、大部分労働組合の經營で、農村にあるものは、殆ど國營である小村にあつては巡回文庫の制を設けてゐる。

クラブは都市及工場地帯に多く、主として労働組合の管理である、いづれのクラブにも子供室を設け幼児を預かり、婦人の労働に便ならしめてゐる。

讀書の家は農村に於て、都市のクラブに相當するものである。讀書の家の如く

獨立した家屋でなくて、或る家の一室等を利用し、その一隅を赤布で飾り、多くレーニンの像を掲げ、新聞雑誌を備へたものを赤い部屋と稱してゐる。讀書の家には出版物宣傳文書を備ふるほか、映畫ラヂオ等の設備がある。音楽芝居等を催す以外に、各種講習會、研究會、展覽會の開催に利用する。

通信教授は學齡期に教育を受けなかつた成人に對し、普通教育を通信教授の方法によつて授くるのを目的としてゐる。主要都市に通信の機關を設け、學習者に參考書及問題を送附し、學習者は解答を郵送すれば、答案を採點し説明し、更に新しい問題を送附する方法を以て行はれてゐる。

なほラヂオを利用する通信教授も近來盛に行はれるやうになつた。

文盲撲滅運動の不振

一九三七年五月露西亞共和人民委員會の定例會議席上に於て文盲並に準文盲撲滅運動に關する實績報告が行はれた。報告者は露西亞共和國教育人民委員部、

モスクワ州執行委員會、アゾフ・黒海地方執行委員會、パンキール自治共和國人民委員會等の代表であるが、右報告によれば「一九三七年度に於て文盲の完全なる清算を期すべし」との一九三六年一月十六日附聯邦政府並に黨の指令は全く所期の目的を達してゐないことが判明した。即ち一九三七年度に於ける文盲清算支出額は前年度に比し約二倍に増加してゐるにも拘らず、露西亞共和國全體では文盲の五〇%がまだ就學してゐないのである。尙、地方別の内譯數字を示せばアゾフ・黒海地方に於ては文盲の六八%、モスクワ州では六〇%、パンキール自治共和國では五四%がそれ〴〵未就學の状態を示してゐる。

文盲撲滅運動のかゝる不成績は、露西亞共和國教育人民委員部並に地方教育機關が其の指導宜敷を得なかつたこと、自治共和國人民委員會、地方並に州執行委員會等が文盲清算に熱意を缺いたことに基因するものである。仍て露西亞共和國人民委員會は教育人民委員ブノフ

氏に對し豫定通りの實績を收め得る様な方策を各地方、州並に自治共和國別に決定し之を十五日以内に實施すべきことを命じた。尙、露西亞共和國人民委員會は教育人民委員部に對し「一九三七年六月中に自治共和國、各地方並に州に督學官を派遣し、文盲清算事業を調査乃至指導すべきこと」を提言した。

一方、自治共和國人民委員會、地方執行委員會並に州執行委員會は向ふ一ヶ月以内に所管地區及び村落ソヴェートに於ける文盲清算運動の進行状態を調査し、未就學の文盲を全部學校に收容することに決定した。尙、文盲並に準文盲の教育は夏期に於ても之を中止せず、且つ夏期農業労働の特殊條件を考慮し、個人教育方法も廣汎に適用することになつた。

最近の圖書館事業

ソ聯邦労働大衆の文化向上に與つて力あるものゝ一は圖書館事業であると言はれるが、最近の發表によれば該事業に對する全聯邦の國家豫算は數億留に達し、ロ

シヤ共和国では中小學校生徒及び一般兒童圖書館だけでも五千五百萬留を支出し、また教育人民委員部の大衆圖書館豫算は第二次五ヶ年計畫中に七倍、圖書購入資金は三倍に増加してゐる。就中、レニン記念圖書館(モスクワ市)は過去三ヶ年間に三百萬冊を、サルツィコフ・シチエドリッ記念圖書館(レニングラード市)は二百萬冊を増加し、またキエフ、チフリス、ミンスク、バクウ、エレワン等各市の圖書館はそれぞれ數十萬冊を所有してゐる、翻つて農村を見れば都會よりも立遅れてはゐるが、一九三四年當時の農村常設圖書室數四三、一三九ヶ所よりは現在遙かに増大、コルホーズ俱樂部、農村讀書の家等の重要な部分を占め、ロシヤ共和国及ウクライナ共和国だけでも六萬ヶ所以上を算してゐる。尙ほ、ソ聯圖書館事業で注目すべきは館員の養成である、即ちモスクワ市圖書館員養成所(専門學校)は現在學生四三八名を收容し、年々卒業生は全聯邦各地圖書館に派遣され、大衆に對するポリツェヴ

イク文化の宣傳煽動者として活躍し、かくて館員は單に圖書の機械的配給者として留まるばかりでなく、例へばアゾフ・黒海地方のクルガンナヤ圖書館の如きでは同地方住民の四〇%が同館を利用し圖

書の爲ばかりでなく、政治、經濟、文化その他百般のことで館員に色々相談してゐることであり、かうした指導的館員が全聯邦に約六萬人を算してゐる。

1928/29—1932/33 年間に於ける集會所網の發達

集會所名稱	年 度				
	1928/29	1929/30	1930/30	1931/32	1932/33
1. 農村圖書室	21 316	20 737	25 593	38 021	34 214
2. 社會主義文化の家	—	—	175	729	1 772
3. クラブ、人民の家及び文化館	6 409	6 672	9 499	12 520	13 304
勞働組合所	3 857	3 522	4 081	4 150	4 677
内譯： コルホーズ所屬	—	—	—	—	5 240
其他	2 552	3 150	7,418	8 370	3 387
4. 農民會館	5 056	5 483	7 822	8 462	5 333
クラブ及び農民會館合計	32 781	32 892	43 089	54 732	54 623

1934年—1936年政治教育動態

指 數	數量單位	1934年	1935年		1936年度計畫
			實 績	遂行率%	
政治教育					
文盲清算所收容數	千人	3 977,6	4 157,2	90	3 080,0
無學清算所收容數	"	3 892,1	5 015,6	87	6 419,0
成人教育學校就學者數	"	207,2	357,9	92	612,8
ク ラ ブ 數	所	44,790	46 235	93	54 206
大衆圖書館數(高等專門學校各經濟機關所屬を除く)	"	11 683	13 220	82	16 282
同 國 書 數	千 冊	80 455	30 878	97	101 434

△政治教育

單位	三六年		三七年	
	實績	遂行率(%)	計畫	實績
無學清算學校	千人	三、四二、〇	五、三六、〇〇、〇	〇
成人教育所生	"	五、四、八	七、一、〇、二、八	〇
教育人民委員部クラブ組織	一單位	四、八、四、一〇〇	五、七、五、五、九	〇
大衆圖書館	"	四、二、三	五、三、三、三	〇
A クラブ及文化の家	"	四、二、三	五、三、三、三	〇
B 讀書の家	"	三、九、六、一	九、七、三、三、六	〇
大衆圖書館網	"	八、六、三、六	二、二、二、九、六	〇

最近の諸問題

國勢調査と教育

從來の國勢調査に於ては全住民の教育水準問題を提起したことはなかつたが、今回、三十七年一月の國勢調査で初めて之を提起した。この結果、ソ聯民衆の文化水準が果して奈邊にあるかと判明することになつた。ソ聯邦に於ては今殆ど完全に文盲を清算したと言つてをる。實際、第一次五ヶ年計畫當時は生産設備を遮二無二建設するため、住民の被服食糧方面及

文 化

教育方面は殆ど犠牲に供せられたが、第二次五ヶ年計畫實施(一九三三年)以來は義務教育を初め、中等教育、中等高等專門技術教育の迅速なる發展を示し、未開邊鄙を以て知られたトルクメン共和国にすら、一九三五年には四箇の高等專門學校に一千四百九十六名の學生を有するに至つた。仍つて一九二六年の國勢調査に於ては初等讀書き問題のみに限定したのに反し、今回は初等教育のみならず、中等教育、高等教育の有無をも精確に調査したのである。

中等學校の新憲法教授

三十七年二月一日ソ聯人民委員會議はソ聯社會主義社會の積極的建設者たらんと勉學中の中等學校生徒にソヴェイト機構の基礎を習得せしめる爲、聯邦諸共和国人民委員會議に對し、(一)一九三六—三十七學生即本學生(註)自一九三六年九月至一九三七年五月)の殘學期に於て中等學校七年、八年、九年及十年級の生徒にソ聯新憲法を充分に習得せしめる手段を講ずること、及び(二)一九三七—三八年

度以降は中等學校七年級に獨立科目としてソ聯憲法の教授を實施することを電令するところがあつた。

ロシヤ共和国教育人民委員部會議

ロシヤ共和国教育人民委員部に於て三十七年七月二十日から教育今年度の成果に關する會議が開かれ、初等教育課長ヴィノグラツキイ並に中等教育課長ツエヘルの報告があつた。之によれば教育部門は若干の進歩即ち教授法の改良、生徒の知識向上、落第率の低下、生徒數の増加、諸所に於ける三部教授、二部教授の清算が見られたが、教育人民委員部並に諸地方機關の課題の遂行は不良だつた。特に學年度初めの方策に本質的に何等發展した綱領が見えなかつた。更に、根本的缺陷は落第で尙清算されず、落第生の數は三—四%減少したが依然著しくモスコイの簡易中等學校並に中等學校の二年級の落第生徒のみにて二萬七百人に上つた。初等義務教育並に義務七年教育は都市及び勞働者地區に於て根底から破壊され、

初等學校に關しては、一九三六—三七學年度の初めに三十萬人以上の兒童が學外に放置されたが、之は都市並に勞働者地區の簡易中等學校の收容數に略ぼ匹敵する。

教師員養成は不良で、高等師範學校の卒業者は申分なく教授を實施する様用意されてゐないし、又學校の指導も放任されたまゝである。今日に至るも教授綱目も、優秀な教授法の書物も有せず、従つて先づ第一に所謂「兒童學的方法」の如き有害な教育理論を絶滅し、新しい教授綱目を作る事が必要である。(科學研究所は兒童教育學に無定見であるが、報告者は教員養成の改良に關し教育人民委員部の方法を明言しなかつた。)尙同人民委員部は黨中央委員會二月總會より導かれる教員の政治教育を回避してゐたが、教員間に社會主義競争が行はれ教育の政治知識の水準は著しく高まつた。

報告に次いで討論に附したが、討論者は初等、中等教育課並に教育人民委員部の學校指導が具體的でなく學校の喫緊

事、兒童、教育に對する官僚的態度を交非難した。教科書問題、その不良、教育人民委員部の立運も、國語問題殊にエストニヤ語、ラトヴィヤ語等の教科書に反ソ宣傳が掲げられてゐるのに何等方策を採らない事其他論難されたが、報告に加へるべき何等の結語が見えなかつた。

高等教育者の増加

各産業部門教育界醫學界に配置さるべきソ聯邦三十七年度の專門學校新卒業生は莫大な數に上つており重工業人民委員部所屬の高等專門學校卒業生は二二、一二〇人(鑛山技手、化學者、建築家等)、農學校卒業生は九、六二六人(彼等の大部分はグルヂヤ、ウズベクスタン地方で高等教育を受けた農業技手、農業專門家である)師範學校及醫學專門學校卒業生四二、七一五人で高等專門學校卒業生は合計九〇、〇〇〇人に達し、卒業試験或は學位論文作成に没頭してゐるが、從來のルーズな試験制度が廢止されソ聯邦人民委員部及共產黨中央委員會の規定になる嚴

格な國家試験制度が實施された本年果して何%が右試験にパスし得るか極めて興味ある問題である。

新ソ聯史提要中等學校で教授

ソ聯政府は三十七年九月の新學年より中等學校第三・四學校生徒に「ソ聯史提要」を學習せしむべきことに決定したが、學習時間は三學級一週一時間(年四十時間)、四學級一週三時間(年百二十時間)である。

尙ロシヤ共和國教育人民委員部は國民教育各機關に對し「ソ聯史提要」教授法を審議すべきことを提議し、上記提要教授の任に當る教師の講習會を開催すべきことを決定した。

此の中等學校三、四學級用歴史教科書「ソ聯史提要」は、三十七年度教育人民委員部が革命二十周年記念祭に因み、ソ聯全歴史研究家に對し懸賞募集を行つた結果、二等に當選したA・シエスタコフ教授監輯になるもので、從來のパクロフスキイ流歴史學の誤謬を訂正したものととして、ソ聯で最初に發行されたのである。

初版は五百萬部を印刷したと言はれ、ソ聯當局が此の教科書によつて革命後の若きゼネレーションをソヴェイト國家に忠勤を勵む都合のよい人間に仕立てようと思圖してゐることが窺へるのである。

赤色教授養成所採用規定

全聯邦共產黨中央委員會はアヂ・プロ部長ステツキー署名の下に赤色教授養成所一九三七—三八年採用條件を發表した、大要左の通りである。

- 一、高等教育終了或はこれに該當する知識を有する共產黨員たること
- 二、入所志望者は全て全聯邦共產黨史の試験を受けること、史學科志望者は世界史及ソ聯邦史、經濟科(經濟、農業、世界經濟及世界政治)志望者は經濟學及地理、哲學科は史的辯證法的唯物論及レーニン主義、黨史科はレーニン主義及ソ聯邦史、文學科は文學史及ソ聯邦史或は世界史(專攻科目により)、ソヴェイト建設及法學科は法律を試験科目とするほか高等學校程度の外國語一ヶ國語の知識を有すべきこと

文 化

- 三、志望者は全て五年以上の黨歴を有し黨、ソヴェイト、組合、共青機關の指導活動知識を有するものたること、黨史科志望者は七年以上の黨歴を有し三年以上の黨指導活動經驗を有すべきこと
- 四、年齢制限は三十二歳以下たること
- 五、志望者は左記文書を提出すべし
 - A、州委員會、地方委會、民族黨中央委員會の推薦文、B、願書、C、學歷、D、政治的經歷、E、健康診斷書、F、兵役關係
- 六、願書受付は一九三七年十一月一日締切、願書は全て養成所に於て檢閲後黨中央委員會赤色教授採用委員會に提出
- 七、筆記試験通過の者には口頭試問を行ふ
- 八、入所許可者には一ヶ月の休暇を與ふべきこと
- 九、入所生は公共住宅及七百五十留を給與す、但し同人家族に對しては給費を行はず

ゴリキイ博物館開設

三六年の六月に物故したソヴェイトの文豪マキシム・ゴリキイを記念する博物館が、モスクワのヴォロフスキー街の或る家屋を改造して、三十七年九月から開設される運びになつた。この博物館は十一室よりなり、陳列品は全部で一五、〇〇〇品で、凡そゴリキイと關係のある繪畫、彫刻、書籍、書簡などを一堂に集めてゐる。例へば第一室は一九〇五年に至るまでのゴリキイの生活に關する資料が列べられ、第二室には一九〇五年の革命當時に於ける資料、第三室には同じく一九〇五年當時の資料並びにカプリに於るゴリキイの生活に關する資料が陳列されてゐる。そして一階の或る部屋の如きはこの作家の自筆の原稿や、彼が他の偉大なる作家と交した書簡の數々などが陳列されてをり、この部屋は鋼鐵の扉で閉されるやうに出來てゐて、これら貴重な文學的資料を絶えず一定の温度のもとに保つやうになつてゐる。

「父母大學」開校

ソ聯では三十七年度「父母大學」といふ

のを設立したが、これは將來父となり母となる青年男女の爲め、又は既に父母となれる者の爲めに開講されるもので目的は將來のソヴェート市民たるべき兒女の教育は先づ健全なる家庭からといふ譯で兩親教育を施すもので學課は(一)婚姻と家庭(二)兒童教育法(三)健全なる家庭的環境の育成法(四)兒童の就學と餘暇利用法(五)兒童身體の修養並びに鍛鍊(六)兒童の技術教育等で、右大學は各都市の俱樂部を教室に利用、學期は十月乃至十一月である。此種の大學の開講は從來の「小供の教育は國家の手で」といふ方針から矢張り「子供は兩親の膝下で」といふ人間自然の要求に還つたもので、斯してソヴェートの非人間性が次第に人間性に降服しつゝあることを示す一つの具體的證左であると見られてゐる。

ソ聯の外國語熱

ロシア共和國教育人民委員部では最近各學校に於ける外國語教授法改正案を作成外國語教師養成のためモスクワ、レニ

ングラード、ゴリキイ市に四ヶ所の師範學校を設けた、更にトムスク、ロストフ、ゴリキイ、スヴェルドロフスク市の既設師範學校内に外國語科を設け、外國語教師の大量養成に着手した。其他州、地方中心地には、英、佛語教師のため一ヶ年講習が開かれる豫定で、右講習には二、六〇〇名が参加すると。

學 術

ソ聯邦學術界概観

ソ聯邦に於ける最高學術機關はソ聯邦學士院である。これは一七二五年ピョートル大帝の勅命によつてペテルブルグに創設された學士院をその前身とするものである。帝政時代の科學院はその組織内に十四の學術機關と八の委員會を有してゐたが、全聯邦科學院は一九三五年現在研究所三十七、圖書館二十二、獨立研究室十一、植物園三、天文臺、學術委員會十六、學者協議會三、學者委員會四、地方に設置の學術研究所四十八を有するに至

つた。その外に極東ウラル後高架索には科學院の支部が設置されてゐる。科學院の正會員は八十八名で、その内十七は黨員である。その他、通信會員はソ聯邦には百七十六名、諸外國には百十六名がある。學士院は、數學自然科學部及び社會科學の兩部からなり、その各學術機關内で直接研究作業に従事してゐる。人數は三千二百一十一名に達した。尙全聯邦學士院の進展を最も明白に示すものは豫算である。一九一三年に於ける科學院の豫算は百萬留であつたが、三五年の全聯邦科學院の豫算は三千五百萬留である。ソ聯邦學士院に準すべき同種機關は白ロシア學士院である。この兩機關は革命後に新設されたもので、各々自國に於ける學術上の最高權威である。

學士院外の學術研究施設としては、各人民委員部所屬の學術研究所がある。一九二八年には其の數二百二十四であつたが、一九三二年末には七百七十を數ふるに至つた。就中重工業人民委員部の百五十一、労働人民委員部の六十九、農業人

民委員部の七十六、ロシア共和國保健人民委員部の百等は近年に増設されたものである。

マルクス主義研究機關の設備は、政府の最も努力せる所であつて、巨額の費用をこれに投資した。右機關中最も權威のあるのは共産主義アカデミーであつた。共産主義アカデミーは一九一八年の創設にかゝり、聯邦中央執行委員會に直屬してゐる會員は悉くマルクス主義一流の理論家で、一切の學術部門を網羅し、各部門に就きマルクス主義的方法論を研究、且つこの方法により學術研究を行ひ、幾多の研究所支部を包括し、之に附屬する多數の學會を指導して來た。然るに三六年二月、ソ聯邦人民委員會並に全ソ共産黨中央委員會は、ソ聯邦學士院及び共産主義アカデミーの兩者が並立的に存在することの不合理を認め、學者を單一の國家的學術中樞機關に統一する目的をもつて、共産主義アカデミーを廢止し其の管下諸機關、研究所及び所員をソ聯邦學士院下へ移管する件を議決し、右移管に

1929—1933 年間に於ける科學研究所教授網及び定員動態

(科學研究所及び高等專門學校所屬候補者を含む)

施設機關及び教授	年 末 現 在					前 年 に 對 する %				1929年 に對する 1933年の (%)
	1929	1930	1931	1932	1933	1930	1931	1932	1933	
研 究 所	400	520	850	940	840	130,0	163,5	110,6	84	210,0
研 究 所 支 部	41	102	267	303	188	249,0	261,8	113,5	62,0	458,2
教 授(千人)	22,6	31,6	42,2	53,0	47,9	140,0	133,6	125,6	90,4	211,2
科學研究所所屬候補者(千人)	1,0	2,6	6,4	7,9	6,4	260,0	246,2	123,5	10	640,0
高等專門學校所屬教授候補者(千人)	2,0	4,3	8,9	11,0	8,4	215,0	207,0	123,6	4	420,0

伴ひ、ソ聯邦學士院の社會科學部は一、經濟研究所、二、世界政治・經濟研究、三、ソヴェート建設及び法律研究、四、歴史研究所、五、哲學研究所、六、科學・技術史研究所を以て構成されることに

一九二二年右共産主義アカデミーより、マルクス・エンゲルス研究所を分離した。此研究所は科學的社會主義並に革命的共産主義の發生及發達の研究を目的としてゐる。一九二四年にはレーニン研究所の設立を見た。この研究所はレーニンの生活及言行の研究、レーニン主義諸問題の研究、黨及コミンテルン史の研究を目的とするものである。近年この兩研究所を合同しマルクス・エンゲルス・レーニン研究所と稱してゐる。

科學研究の新任務

ソヴェート聯邦の科學研究機關は、社會科學に屬するものも、自然科學に屬するものもすべて例外なく五箇年計畫によつて具體化されつゝある社會主義建設の嵐の如き躍進的現段階においてそれらの特殊的職能の上に新なる任務を附與され、もしくは遂行しつゝある。

この任務の外に立つが如き機關は、例へその外見が直接それと縁故のないやう

に見えたとしても、今日では絶対に存しない。

マルクス主義農學者第一回全國大會（一九一九年十二月二十七日）に於て、スターリンはソヴェート國家に於ける農業集團化運動の進撃を指摘した後、ソヴェート現段階に於ける理論（學術）研究の意義について次の如く述べてゐる。

「併しながら、我々が社會主義建設の實踐的方面に於ける成功を誇りうる根據を持つてゐるとしても、一般的には經濟的分野において特殊には農業經濟の分野において、我々が同じ程度の成功を理論的方面に於ても收めてゐると斷言するのは誤である。否、寧ろ理論的方面に於ける活動は、實際的方面のそれに追隨して居らず、又我々は實際的方面の成功と理論的思想的發展との間に多少の間隙をさへ持つてゐると言はなければならぬところが、理論的活動はたゞに實踐的活動に追従することをもつて能とすべきでなく、それを追ひ越し、實踐家をして社會主義の勝利のための闘争に武裝せしめるやう

仕向けてゆく事が必要である。」

都市及び農村に於ける社會主義經濟建設のポリシエヴィキ的テンポによる成功は、學術研究の方面における發達のテンポよりも著しく進んでゐるため、スターリンの指摘したやうなギャップが生れたのであつたが、爾來年々ソヴェート聯邦の全科學研究機關はこのギャップを埋め、進んで實踐を追ひ越して進むために凡ゆる努力を拂ひ、すでにその分野で相當の實績をすらしつゝある。

科學研究機關

現在ソヴェート聯邦における各種科學研究機關の數は、約一千に達してゐるが其中には（一）國家豫算によるもの、（二）國家の補助を受けるもの、（三）獨立せるもの、三種があり、之を研究の種目別に分てば、（イ）物理、數學研究機關、（ロ）自然科學研究機關、（ハ）人文科學研究機關、（ニ）教育研究機關、（ホ）各地方を研究する機關、（ヘ）藝術的圖書館、（ト）藝術研究機關等である。

之等機關の中、其組織、内容、任務等において第一位に推されるのはソ聯邦學士院で、聯邦人民委員會議（ブルジョア國家の閣議）に直屬し、レニングラードに存在する。比較的我國に知られてゐないその組織内容について左に紹介する。

ソ聯邦學士院

- 一、目的
 - A 新なる發見及び新なる研究法によつて科學を發達せしむること
 - B 國家の自然的資源を研究し、その利用に便すること
 - C 科學的研究の結果を工業、經濟及文化の上に應用せしめる事を目的とし、之に附帶して科學的發表並に出版を行ひ、直接科學者を養成する
- 二、組織
 - ソ聯邦學士院を物理、數學部と、人文科學部とに分つ、人文科學部は史學、言語學、經濟學、社會學等を含むソ聯邦學士院はそれ自身に直屬する研究所（インスチット）博物館、實驗所、委員會等の科學研究機關（一九二七、八年現在四〇を算せるも遙かに増加せる

管）を有し、又將來之を必要に應じて新設することが出来る。附屬研究機關の主なるものは左の如し。

- A 物理數學研究所（理論數學、應用數學、機械學、純正物理學、實驗物理學、地球物理學の研究）
- B 化學研究所
- C 高架索歴史考古學研究所
- D チフリヌ言語學研究所
- E 露西亞及隣接國人種調査常設委員會
- F ソヴェート聯邦自然生産力研究常設委員會（ソヴェート聯邦自然富源の研究、實驗、研究機關の統一等を行ふ）
- G 其他の委員會
 - 「常設地震委員會」、「常設北極委員」、「バikal湖探究委員會」、「學術探検委員會」、「熱帶國研究委員會」、「プーシキン及ツルゲーネフ著作出版委員會」、「ストラブ研究委員會」、「國立考古學委員會」、「常設歴史委員會」、「露西亞ウイザンチン歴史辭典委員會」、「東洋學者委員會」、「露西亞語辭典出版委員會」、「方言表作成委員會」、「舊露語研究委員會」
- H 博物館は左の五つ

文化

「植物學博物館」、「動物學博物館」、「地質礦物學博物館」、「人類學、人種學博物館」、「亞細亞博物館」

- I 「プーシキンの家」(博物館の一種)
- J 試驗所
 - 「植物生理試驗所」、「動物學試驗所」、「生理學試驗所」
- K セヴァストポリル生物學研究所、太陽研究國際同盟支部
- L 圖書館（藏書三百五十萬卷）書庫、出版部
- M 以上の外「天文觀測所」、「水理學研究所」、「國立ラヂオ研究所」
- 三、會員
 - ソ聯邦學士院は、A、正會員、B、名譽會員、C、準會員、D、學術勤務員の四種より成る。
 - A 正會員
 - ソヴェート聯邦の市民にして重要な發見をなし學術上に貢獻したる者より選舉す
 - B 名譽會員
 - ソヴェート聯邦市民又は外國人にして世界的貢獻をなした者から選出す

C 準會員
科學界に名聲ある學者中から學士院が之を選び、學士院會員總會の承認したる者

- D 學術勤務員
 - 有功なる研究又は實驗をなし、或は専門學識を以て有名なる者にして學士院の事業に參與す
- 一九二九年一月補缺選舉の結果になる正會員の數左の如し。
 - A 物理學部 三一人
 - B 人文科學部 五四人
- 四、管理
 - ソ聯邦學士院常任委員會は研究上管理上の最高權を有し會長一人會長代理二人（任期五年）、幹事、會員、各部書記より成る。
 - 現在學士院會長は著名の植物學者ヴェ・エル・コマロフ教授で、前會長地質學者ア・ペ・カルピンスキイ教授が三六年前物故した後を襲つたものである。
 - 會長代理は地質學者グブキン氏外一名である。
 - 學士院の總會（月一回）及部總會（月

二回)は常任委員會の召集によつて開かれる。特別總會は主要なる事件の發生に際して及び毎年二回開かれ正會員は正會員關係部會に出席の義務を負ふ。

五、其他

學士院は其郵税無くして郵便物の發受を行ふことを得、且つ其發受する印刷物手寫物は檢閲を要せぬ様特權を有す。

此他ソ聯邦學士院に準すべき同種の機關は、革命後キエフ(ウクライナ學士院)及びミンスク(白ロシア學士院)の二箇所にも設置せられ、當該共和國における學術上の最高權威機關となつてゐる。

マルクス主義學術特別研究機關

マルクス主義學術研究施設の最高峰はソ聯邦中央執行委員會の共產主義アカデミーである。一九一八年の創立にかゝり、一九二三年まで社會主義アカデミーと稱されてゐた。會員は悉くマルクス主義の一流理論家で、會長はエム・ボクロ

フスキーであつた。

共產主義アカデミーは幾多の研究(哲學、ソヴェート建設史、世界政策等)及びセクシヨンに岐れてをり、共產主義の學術的研究及自然科学の唯物史觀的研究の中心であつた。

然るに前述の如く三六年二月、該アカデミーは廢止され、ソ聯邦學士院の管下へ移されたので、當然從來の組織に大變更が加へられた譯であるが、該アカデミーの舊組織は左の如くであり、之に依つてその獨特の意義が窺へるのである。

舊共產アカデミー

組織

(1) 目的及事業

共產アカデミーの目的は一、「マルクス主義及「レーニン」主義に關する問題の研究。二、「ブルジョア」の「マルクス」主義破壊に對する防衛。三、社會科學及自然科学に「マルクス」主義を入れ、且理想主義を排除する事であり、其事業としては一、總ての學問に就き研究を行ひ、二、國內及外國の「マルクス」主義研究機關及研究者の協力を計り、三、マルク

ス」主義及「レーニン」主義の理論及實際に關する高級資格ある研究者を養成し、四、是等の主義の民衆に對する普及を圖る爲め講演、討論等を催し、五、調査隊を派遣し、六、出版を行ふ。

(2) 構成

共產アカデミーは八部、三研究學隊、若干の委員會及研究會より成り、出版部及圖書館の外に附屬の三學術協會がある。共產アカデミーの八部と是に附屬する委員會等は左の通りである。

- 一、經濟部 附屬の經濟地理會及「ソヴェート」國民經濟「セミナリー」あり
 - 二、農業部 農民革命研究委員會之に附屬す
 - 三、「コーペラチヴ」部
 - 四、法律及國家原理部 東方民族研究委員會之に附屬す
 - 五、國際婦人運動理論及實際研究部
 - 六、方法論及歴史研究部
 - 七、自然科学及數學部
 - 八、哲學部
 - 九、文學及美術部
- 因に從來の科學方法論部は一九二八年より廢せられ、自然科学及數學部に分屬せ

しめることゝなつた。

研究學院には左の如きものがある。

- 一〇、ソヴェート建設學院
- 一一、世界經濟政治研究學院
- 一二、最高神經作用研究學院

- 一三、黨建設研究會
- 一四、宗教思想研究會

附屬學術協會には

- 一五、「マルクス」主義統計學者協會
- 一六、「マルクス」主義歴史學者協會
- 一七、物質主義生理學者協會

(3) 會員

共產アカデミーは正會員、準會員、學術專家及研究勤務員を有する。一正會員は其の「マルクス」主義及「レーニン」主義思想に就き命令あり、又は、學術的研究を發表し、若くは實際的活動をなせる者より選舉せられ、共產アカデミーの機關の事業に與り、學術勤務員及研究員の研究を指導する。二、準會員は「マルクス」主義「レーニン」主義に就き著名な學問的研究を發表したるものより選舉せられる。三、學術勤務員は學問的研究により著名な者より選ばれる。

文化

マルクス・エンゲルス研究學院

一九二三年の創設にかゝり、聯邦中央執行委員會に屬し、モスクワに所在し科學的社會主義の發達の研究、同主義者及其先覺者の著述の研究及出版を目的とし、理論及歴史の研究室、圖書保管部、圖書館、博物館及出版部を有つてゐる。此の學院は藏書の豊富を以て名聲あり、その獨逸史研究室だけでも四萬五千部を有し、斯の如く多數の獨逸革命運動史の資料を蒐集した處は他にその類例なしと稀されてゐる。此の學院の主要なる事業は、「マルクス」及「エンゲルス」全集ドイツ語版(全四十卷)、同ロシア語、(八卷)、其他ブレハーフ、カウツキイ其他の全集である。此他「レーニン」研究學院(一九二三年三月創立、共產黨中央委員會附屬)、ロシア社會科學研究學院聯合、聯邦東方研究學術聯合、國立物質文化學院、經濟研究學院、經濟要素研究學院、國際農業研究學院等がある。

極東地方の學術研究作業

極東地方の實地調査は、第一次五ヶ年

計畫の實施と共に從來と異り大規模に行はるゝに至り、その調査費も一九三一年には千五百萬留、三二年には二千萬留であつたが、三四年には地形測量作業費の調査費も一九三一年には千五百萬留、三二年には二千萬留であつたが、三四年には地形測量作業費のみでも數千萬留支出され尙ほその他の百八十組に及ぶ探査隊には二千五百萬留支出された次第である、そして一九三五年には實に六千萬留の同地方探査費が豫定されてゐる。左にその重要な探査隊を擧げて見やう。

一、全聯邦學士院及び極東同支部では豫てから岩鹽及び石油の埋藏豫想地とされてゐたサハリン陥没區域の大陸沿岸(アムール河口からオホツク市まで)調査して、該區間の地質狀態並に該區間と北樺太の地質及び同島の石油との關係を探査することになつてゐる。

一、經濟地理學術研究所及び地方計畫局では、目 極東地方の重要問題となつてゐる生産諸力の配置並に經濟區劃の諸問題を解決するため、アムール、ハバロ

フスク、沿海の三州に亘て精細なる調査をなすことになつてゐる。

一、モスクワの水力發電所設計局では、アムール河支流のゴリユン及びムヘン兩河に水力發電所を建設するため大探査隊を派遣することになつてゐる。これら發電所はハバロフスクとコムソモリスクの兩地間に工業各部門の建設好適地を發見したので將來工業用電力を供給すべき目的を有するものである。

一、レニングラードの水工學施設研究所では、ゼーヤ・ブレイヤ平地ゼーヤ及びセレムジン兩河の上流、ハンカ湖及びエヴォリン低地の水利施設問題を解決するため探査隊を派遣することになつてゐる。右の探査隊は、極東に於けるこれら諸地方を優秀なる農業地とすべき案を樹てたり、洪水及び耕灌漑の問題を解決したり、河川の航行及び木材の流送を研究したりする任務を有してゐる。

一、地質調査トラストでは、ゼーヤ・ブレイヤ、ヒンガン、トルブデノ、沿海州、その他の諸地方に於ける地質調査を

行ひ、石炭、建築材料、鐵、有色金屬、硝子材料等の探査作業をなす豫定である。殊にブレイヤ地方に於ては地質學、地形學、水工學、水中生物學、氣象學、地球物理學等の研究を始めとし、農業、林業、化學工業、運輸、都市建築等の研究作業も行はれる豫定である。

此等諸調査の外、尙ほ北海航路管理局及び極北研究所では地質、運輸、生物學、林業等の見地から極東地方の北部を研究することになつてゐる。

最近の數年間に於て極東地方の諸事業に支出された金額は巨額（第一次五ヶ年計畫には九億三千萬留、一九三三年には四億五千萬留、三四年には十五億留にして、三五年には二十五億留支出される豫定）に達し、一方實地調査作業も十分とは言へないが、相當の程度に實施されてゐる。然し遺憾なことには調査事業に要する同地方の學術及び技術方面の勞務員の數は未だ僅少であつて、その需要を満足せしめる迄には行つてゐない。それから勞務員の養成機關たる大學及び高等專

門學校の教職員の數も不充分であるから尙ほ一層の擴張を要する次第である。

最近の諸問題

ソ聯邦の日蝕觀測

一九三六年六月十九日の皆既日蝕觀測に参加した、ソ聯邦學術諸機關は約二十五隊に分れ、外國觀測隊は約十隊で、二百五十餘人の天文學者を網羅した。

ブルコフスカヤ天文臺は、阿克・ブラク（オレンブルグ州）サラクタン（同上）及びオムスクの三ヶ所に觀測陣を張り、同じく阿克・ブラクには米國ハアバード天文臺觀測隊、サラクタンには伊太利觀測隊、オムスクには日本及び英國（ケンブリッヂ天文臺）の觀測隊が各々觀測陣を張つた。

モスクワのシュテルンベルグ記念天文學研究所は、カザクスタン及び極東地方へ各々一隊宛の觀測隊を派遣したが、同じくカザクスタンには巴里天文臺及び米國地理學協會の觀測隊が派遣された。アゾフ・黒海地方には、ハリコフ天文

臺、佛蘭西天文協會及びソ聯邦學士院物理研究所の觀測隊が待機した。

日本觀測隊及びソ聯邦政治・技術教育中央研究所の觀測隊はアルマヴィール附近に於て觀測をなした。

尙、クラスノヤルスク地方には、タンユケント天文臺、レニングラード大學觀測隊及特別飛行觀測隊が待機した。

ソ聯醫學新發見「動物血液輸血法」

一九三七年三月ミンスク市に於て第二回全白ロシヤ輸血・血液學大會が開かれ、二百名餘の専門學者が出席し、席上多數の興味ある報告が行はれた。就中、輸血・血液學中央研究所（モスクワ）のバグダサロフ所長は、胃潰瘍及び十二指腸潰瘍の療法として動物の血液を人體に輸血する新方法を發表した。右に關するバグダサロフ所長の説明は次の如くである。

『大量出血の際に輸血を行ふことは、周知の如く極めて有益なことが、胃潰瘍に伴ふ出血の場合でも全く同じことが云へる。だが、人間の血液を多量に輸血す

ることは出血を止める役割を果すのみで、潰瘍そのものを全治させることは出来ない。ところが私が試みた潰瘍療法によれば百中八十九%の全快率をあげ得るのである。その方法は動物の血液を少量宛（三グラム乃至十グラム）人體に輸血し、之を七回以内繰返せばよいのである。第一回の輸血をして一日を経過すると出血は必ず止り、第二回後には痛みが非常に薄らぎ、大概の場合は痛みを覺えなくなつて終ふ。そして、自己症狀も急速によくなり、食慾が増進し、體重が増加するに至る。

たとへば私が取扱つた患者で四十歳になるスミルノフと云ふ技手は、一年前に手術をうけ、私の病院に入院した當時は、ひどい出血で脈搏も微弱、血色素及び赤血球が非常に缺乏してゐたのであるが、山羊の血を五回輸血したところ、一ヶ月後には全く健康體になり、一ヶ年後の現在では元氣で前の職業についてゐる。尙、興味深い現象としてあげておきたいのは、動物の血液を使用するこの潰瘍療

法によれば、患部の傷痕が急速に消滅すると云ふことである。私の手許には治療の前後に撮影した數十葉のレントゲンで發見された潰瘍は動物の血液を輸血した後では大概の場合消滅してゐる。

ミンスクのマーツ博士、レニングラードのルイス助教授、ドニエプロペトロフスクのガリベルン教授及びロストフのボゴラズ教授もこの問題を研究してゐるが、動物の血液を使用するこの療法は強烈な反作用、即ち惡寒、發熱、疼痛等を伴ふことがある。だが、これは全く一時的の現象で、一瞬間にして消滅することも稀でない。

北極探險隊の學術調査

シュミット博士を首班とする北極探險隊の殘留隊員は一九三七年六月三日モスクワ宛無電を以て左の如き第一次調査報告を寄せた。

『我々の氷塊は五月二十一日から六月五日までの間、グリニツチ子午線に對し大體南方及び西方の方向に向つて一晝夜平均四哩の速度で浮流してゐたが、六月

五日からは、北緯八十八度三十分と北緯八十九度間及び西經三十度と西經零度間の一定區域中を東方或は西方の方向に向つてZ字型に浮流してゐる。浮流速度は、最大時速〇・四哩、最低時速〇・〇四哩である。尙、この氷塊の浮流は大體、風の方向に向つてゐるのであるが、地球の廻轉の影響をうけて右の方へ進む傾向が見える。

座標の天文學的測定は經緯儀を用ひて毎日之を行つてゐる。氣象觀測は一晝夜四回づゝ行つてゐる。六月十日から天候日誌をつけ始めた。五月下旬の十日間に於ける平均氣温は零下九度であるが、最も温度の低かつたのは五月二十六日で、當日の寒暖計は零下十六度を示した。だが、五月三十日から氣温は上昇の傾向を辿つてゐる。

六月中の平均氣温は零下二度であるが、最も高温を示したのは六月十一日で、當日は一度(氷點以上)であつた。風は(イ)五月二十二日から六月五日までは北風及び西北風、(ロ)六月五日から六月十

四日までは南風及び南西風、(ハ)六月十日から六月二十日までは北風及び北東風、(ニ)六月二十日から六月二十五日までは南風であつたが、最近では風速七米の北風が吹いてゐる風速十六米といふのが最も強い風であつた。南東風及び東風は減多に吹かない。

水學的調査は捲揚機が到達した六月六日から開始した。水深は、北緯八十八度五十四分、西經二十一度の個所では四千二百九十米、北緯八十八度四十七分、西經十度の個所では四千三百七十四米であつた。即ち、海底は東へ十五哩離れると八十四米低くなつてゐるのである。

尙、種々の深度に於ける海水の試験をした結果、次の様な貴重な結果を得た。即ち、海面から水深百五十米までの海水は鹽分少く且つ温度は零下一・六三度乃至一・七〇度の低温を示してゐるが、更に水深が深くなると温度が高くなり、水深二百五十米の所では殆んど零度に近い水温を示してゐる。水深二百七十五米から六百米までの間の海水は零度以上の高

温を示し、鹽分も富豊である。〇・七一乃至〇・七八度の最高温を示してゐるのは水深四百米の所である。七百五十米以下になると水温は再び低下し、二千米乃至二千五百米の所では零下〇・八四度乃至〇・八七度を示してゐる。海底に近い所では水温零下二・二三度で、三五・〇-%の鹽分含有率を示してゐる。

以上により明らかな如く、大西洋の海水はたくましい奔流をなして北極方面に流れ入り、北氷洋の中央部にも暖流を送り込んでゐるのである。尙、一晝夜に亘つて行はれた觀測の結果は極めて興味深い。即ち、水深二百米、二百五十米、二百七十五米、三百米及び四百米の個所に於ける海水を二時間おきに試験したのであるが、水深二百五十米のところでは水温及び鹽分含有率が定期的に動揺してゐることが判明した。この動揺は、恐らく、潮の干満によつて生ずる波濤が右の水層を通過してゐることを實證するものである。種々の深度に於て採集せる浮游生物の試験を顯微鏡を用ひて行つた結果、海洋

の上層部には水中生物學上の所謂「冬」がまだ終つてゐないことが判明した。即ち、浮游生物に微細な水棲陰花植物が多量に附着する所謂開花期はまだ始つてゐないのである。だが、この實驗によつて明らかな如く、「北氷洋の中央部に於ける生物の棲息は覺つかない」と述べたナンセン氏の假説は全く誤である。水深一千里のところから引上げた浮游生物の網には、多種多様な仔蟲、水母、草蝦等が、光を奪はれた海底生物に特有の鮮紅色を呈して、文字通りうごめいてゐたのである。

ソ聯建築家同盟 第一回大會

一九三七年六月十六日から二十六日まで十一日間にわたりモスクワに於てソ聯建築家同盟第一回大會一開催された。この大會は建築家同盟最初の大會であること、ソ聯の第二次五ヶ年計畫がまさに終らんとし、且つ第三次五ヶ年計畫が實施せられんとしてゐる時にあたり開かれたこと、そして特に大會において諸種の建設事業への建築家の

積極的參加が要求されたことなどの諸點において可成り重要な意義をもつものであると考へられる。

大會は六月十六日、モスクワのソヴェートの家、コロンヌイ廣間で開會された。代表者の數は四百十八名、その中のある者たちは遠くウラル、極東、カザクスタン、ウクライナの各都市から派遣されてきた。第一日には畫家、彫刻家、作家、工業技師、モスクワ所在の各種企業家のスタハノフ運動者たち、エフ・ジュルデン(佛)エム・アルカス(西)等をはじめ十數名の外國建築家たちも招待されて出席した。

第一日には先づ、ソ聯建築家同盟書記長、アラビヤンの開會の辭について、幹部會、起草委員會、資格審査委員會等の選舉が行はれた。そしてアラビヤン、ブルガニン(モスコヴエイト議長)シチュエーニセフ(建築アカデミー會員)ヴェスニ(教授)シチュエーコ(建築アカデミー會員)ヨハン(技師)チエルヌイシエフ(教授)ゴロフコ(教授)ニコリスキイ

(教授)コルリ(教授)の十名が大會の幹部(議長はチエルヌイシエフ)として選ばれた。ついで、スターリン、モトロフ、カガノウイチ等の政府及び黨の幹部八名を大會の名譽幹部として推舉することを決定したのち、書記長アラビヤンの「ソヴェイト建築の諸課題に關する報告への言葉」といふ演説があり、第一日を終る。

第二日(十七日)には、シチュエーコフの「ソヴェイト建築と古典的遺産」、コルリの「新段階について」等の演説の後、ウクライナ、白ロシア、アゼルバイジャン、アルメニア、ウズベクスタン等の代表の報告が行はれた。

第三日十八日にはコザツク共和國、ブルジャ等の代表者の報告が行はれた後、佛の建築家ジュルデンの演説、ソ聯彫刻家同盟を代表してメルクローフの挨拶があつた。

第四日(十九日)には「ソヴェイト宮殿」に關してその設計者ヨハン及び共働設計者シチュエーコ、グリフレイフの三人

の報告があつたのち、ソ聯作家同盟を代表してマリエツタ・シヤギニヤンが挨拶の辭をのべた。ついで報告を打切り討論へ入る。討論演説の皮切りはカシヤノフ(ハリコフ)で、「ホルホーズにおける建築の諸問題」次に「都市計畫の諸問題」コルフエリド(モスクワ)「工業技師と建築家との相互關係」クラシン(ソヴェート宮殿建設所次長)等の演説があつた。

第五日(二十日)は討論が續行されたが演説の主なるものは「構成主義と社會主義レアリズム」ヴェスニン(教授)「工業建築の諸問題」サモロフ(教授)「高等工業學校について」ブーロフ(モスクワ)「建築理論の諸問題」マーツァ「ソ聯建築家の創造物批判」ヴァクス(レニングラード)等である。

なほこの他に當日は丁抹の建築家ゲイベルトが「ソヴェート建築の發達」といふ題で演説し、更に共產黨中央委員チュバリーが出席して演説しこの大會の政治的意義を強調した。

第六日(二十一日)は、討論が續行さ

れたが、それは主として都市計畫の問題についてであつた。「オルジョニキーゼ市の都市計畫」ベモロフ、「民族的建築の諸問題」チモニン(チエチエノ・イングウシ)「企業事業の認可手續の遲延について」デヂューヒン(モスクワ)「都市計畫部」がその主なるものである。

以上で討論を終り、午後の會議では討論の結語として「ソヴェート建築の諸課題」といふ題でアラビアン書記長が演説した。

第七日(二十二日)は午前中の會議では、イーリン(教授)の「レニングラード下の區劃整理」その他の演説の後、建築家同盟規約に關する報告があつた後、大會の決議として起草委員會草案の「ソヴェート建築家の任務」を決議として採用することを決定した。

第八日(二十三日)午前は總會は開かれず、部會のみ開かれ、建築教育及び建築工業の職工の養成について討論が行はれた。午後には總會を開き、都市計畫問

題一般が討議された。

第九日(二十四日)には住宅建築問題に關する討議が行はれ、「住宅建築について」モルドヴィノフ「住宅建築の工業化」ギンスブルグ(教授)の報告演説の後、討論に入り、マルトフ(モスクワ)ポタノ(スヴォーロドフク)ヴォリフマン(モスクワ)等が演説した。

なほ當日は、米國のフランク・ロイド・ライトが挨拶の辭をのべた。

第十日(二十五日)住宅建築問題の討論が續行せられイサコヴィチ(ドンバス)コジン(モスクワ)その他の演説があり、これで一切の討論を終る。

第十一日(二十六日)午前中の總會では同盟幹部員の選挙が行はれ、決議草案を増補訂正の後、正式にこれを決議として採用することを決定し、次にウトキン大佐の「防空と建築計畫」なる演説があつた。

午後の總會では、先づ午前中に行はれた選挙の結果報告があり、新たにアラビアン、アルキン以下四十三名が幹部員と

して選ばれた。かくて全十一日にわたつた大會を終る。

第十七回國際地質學大會

第十七回國際地質學大會はモスクワに於て三十七年七月二十一日から開催され、参加者は獨、伊を除く五十ヶ國の代表者二百三十名にソヴェートの學者百四十名を加へて總數三百七十名に上り日本からは徳永重康博士外數名が出席した。議長にはソ聯邦學士院副總裁グブキンが推され、種々重要問題が論ぜられた。中には右グブキンの世界、主としてソヴェートと於ける石油問題、ソヴェートの石炭問題、北極地質學等があり、更に二十四日には大會参加者一行はレニングラードを訪れ、二十七日にはモスクワ—ヴォルガ運河を見學した。二十八日にはモロトフの招待を受けてクレムリン宮に於てソ聯邦要人と膝を交へ、この時モロトフは自己の演説中に地質學と産業との密接な關係を強調した。斯して盛會裡に二十九日を以て閉會したが、次の第十八回大會は

一九四〇年英國に於て開催される事に決定した。

宇宙の謎「原子體」研究會

宇宙の神祕「原子體」に關する諸問題の研究會が三十七年九月下旬モスクワに於てソ聯學士院科學部主催の下に行はれた。参加者はソ聯を始めとし英、佛、瑞西、其他の著名科學者一五〇名に及び、會は學士院會員I、M、グブキンの開會の辭に始まり續いて電子、宇宙線に關する興味ある研究報告があつた。主要出席者及研究報告は次の通りである。

▼主要出席者

- 外國—オーガー教授(佛)、ウイリアムス教授(リヴァプール大學)P、M、ブラケット(英)パウリ教授(チューリヒ大學)R、ベイリス(バーミンガム大學)フランク教授
- ソ聯—I、M、グブキン、(學士會員)A、F、ヨッフエ(議長)シネリコフ(ハリコフ物理學研究所)A、V、ヴェリガ(レニングラード、ラジウム研究所)ヴアビロフ(學士會員)L、ミノウスキー教授(レニングラード)A、ヴェルノウ等

▼電子に關する報告

- ウイリアムス教授「新微粒子の研究」
- フランク教授「電子運動が液體發光體に及ぼす影響」
- Kシネリコフ「原子體上の電子の速度測定」註、この實驗の爲同氏は數萬ボルトの誘導電流を發生する事の出来る靜電學用機械を設置す

▼宇宙光線に關する報告

- A、B、ヴェリゴ「成層圈飛行にて宇宙線測定」
- ヴェクラ「エルプラス山頂は於ける宇宙線測定」
- ルウマー教授「宇宙線放射の組織法則」
- ヴェルノウ「無電操縱裝置氣球にて成層圈宇宙光線測定」
- ウイリアムス、オーガー兩教授「野外宇宙線測定」

メンデレーエフの未發表原稿

帝政ロシアの生んだ大化學者ドミトリイ・メンデレーエフは週期律の發見者として知られ、その著書は未だにソヴェー

ト化學界で廣く研究されてゐるが、最近
レニングラードに保存されてゐる彼の書
齋を整理したところ、廣翰な未發表原稿
が発見され、學界の注目を惹いてゐる。

この原稿は「我が著作目録」と題する
もので、自作論文の標題が四百六に亘つ
て列記されてをり、從來知られてゐたメ
ンデレーエフの著作目録を遙かに凌駕す
る完全なものである。

學士院極東支部の活動

三七年夏學士院極東支部は「アムール」
リゼーヤ地方に牧場を求めて探検隊を派
遣した。その目的は極東地方の牧場の家
畜追込路を組織するにある。ハバロフス
クからコムソモリスクに赴いたサヴェル
キンは研究所の仕事を點檢し、山岳・密
林地方に大量的に牧草を播く爲その種子
を蒐集し、特に同地方の牧草地點を探索
した。

右探検隊の外に、ソフホーズ人民委員
と特別の契約を結び養鹿ソフホーズの牧
場を求めて地質・植物探検隊が活動して
居り、この一隊はシヂミ養鹿ソフホーズ

てゐるのである。

ソ聯邦の言論機關は「萬國の勞働者團
結せよ」なる標語を掲げ、從來ステッキ
イを首班とする黨中央委員會文化宣傳部
に統率せられ、共產黨の政策若くは方針
に關する言論機關に對する指導は總て同
部を通じて行はれてゐたが、近年文化事
業の擴張に伴ひ、三五年五月右文化宣傳
部を改組し、之に代へて文化、宣傳、教
育等の指導機關として五課を設け、その
内の新聞及出版課が新聞、雜誌、圖書並
びに新聞關係者の配置及養成に對する監
督を司ることゝなつた。

出版界二十年の發展

茲十數年間、ソ聯大衆の文化的水準向
上の爲め、政府當局の採れる方策は誠に
深甚なるものあり、従つてこの領域に於
て重大なる役割を演ずる新聞、雜誌等印
刷物の出版も物凄い増大振りを示してゐ
るが、左に簡単にソ聯出版界の現状を述
べて見よう。

一九一三年の帝制時代には書籍發行部

1918—1932 年間に於ける書籍出版及び新聞發行部數
(戦前との比較)

年 度	書 籍				新 聞	
	出版單位 標 題	部 數 (千 部)	全出版部數使用印 刷用紙(單位千枚)	1 出版單位 平均部數	一回發行部數 (百萬部)	年發行部數 (百萬部)
1913.....	38 132	113 400	—	4 031	2,7	—
1918.....	6 052	109 203	535 536	18 059	—	—
1919.....	6 798	147 455	589 822	21 691	—	—
1920.....	3 326	47 632	181 100	14 321	—	—
1921.....	4 529	32 550	110 670	7 187	—	—
1922.....	10 703	43 497	132 687	4 064	—	—
1923.....	18 608	133 364	906 872	7 167	—	—
1924.....	29 131	251 459	1 709 920	8 632	—	—
1925.....	43 000	426 051	2 466 934	9 908	—	—
1926.....	44 000	301 890	1 657 431	6 861	—	—
1927.....	32 644	221 248	1 197 074	6 777	—	—
1928.....	34 212	266 706	1 407 849	7 796	—	—
1929.....	40 973	393 385	1 864 918	9 601	12,5	2 640,0
1930.....	49 208	853 192	3 042 012	17 338	22,3	4 500,0
1931.....	53 674	834 943	3 446 683	15 556	34,5	6 455,3
1932.....	49 880	518 319	2 374 940	10 391	35,5	5 693,3

數は八千七百萬部
であつたが、一九
三六年には五億七
千一百万部、革命
後の新聞發行部數
は十倍以上に及
び、總發行部數三
千八百萬部を有す
る九千二百五十種
の新聞が發行され
てゐる。
帝政時代には各
民族語で出版され
る新聞雜誌數は極
めて微々たるもの
であつたが、今日
では九十九民族語
で書籍が出版され
れ、三六年には各
民族語(ロシア語
を除く)で出版さ
れた書籍數は一億
三千三百萬部に及

出 版

出版界概観

ソ聯邦は極端なる中央集權によるプロ
レタリアート獨裁政治の國であるから、
同政治に最も必要とする言論機關の主要
なるものは新聞たる雑誌たるを問はず、
中央部に集中せられてをり、地方の
ものは地方的諸問題を取り扱ふ以外は、
總て中央部の轉載若くはその縮少であ
り、又中央部に於て發行せられるものと
雖も、その主要なるものを除けば、當該機

で仕事を終へてペスチャヌイ岬に赴いた
が、第二の探検隊は浦鹽からスツヘ養鹿
ソフホーズに赴く豫定である。
更にヴィノグラードフを隊長とする地
質隊が浦鹽を出發してニジニ・アムール・
小興安、興安區並に綏粉區方面にアルミ
ニウム包含鑛を探検に出かけた。尙學
士院極東支部の實驗室では同地方爾餘の
科學機關のアルミニウム鑛等の分析を
も行つてゐる。

關の宣傳機關たる性質を有するに過ぎな
いのである。

ソ聯邦に於ける定期刊行物は共產黨、
政府、ソヴェート機關又は職業組合の何
れかの機關に屬し、プロレタリアート獨
裁の擁護に對する最も銳利有力なる武器
となり、又その獨裁の最高機關である共
産黨政治局は言論機關、特に新聞を通じ
て朝夕國民との接觸を保持し、又新聞は
常に「革命的警戒」の大旗の下にプロレ
タリアート獨裁の爲の大衆動員に當り、
社會主義經濟の建設を高調し、同建設事
業の促進完成を助長するに努めると共
に、他面一般國民の福祉の増進、教育文
化の發達に貢献してゐる。その使命遂行
に就いては、各新聞雜誌は總て黨の指導
方針に基き、その掲載する論說乃至記事
は一つとしてこの目的に副はざるものな
く、讀者に對しては宛然たる國定政治教
科書となり、又異論者に對しては秋毫も
假借する處なく絶えず整然たる規律を嚴
守し、黨が黨内分派の存在を絕對に否認
するの鐵則はここにも如實に反映せられ

1928—1932年に於ける出版書籍内容別表 (名稱別)

Table with 6 columns: 名 (Category), 年 (Year), 出版單位 (Units Published), 部數 (Number of Titles), 出版書籍使用刷紙總計 (Total Paper Used). Rows include categories like 一般 (General), 哲學 (Philosophy), 政治 (Politics), etc., with data for 1928 and 1932.

んでゐる。各民族語（ロシア語を除く）で發行される新聞の種類も約三十五倍、即ち一九一三年の八十四種から三十六年の二千九百六十五種に増大した。

共産主義の開祖マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリン等の著作出版部數の増大も驚くべきもので、三六年には上記四名の著作發行部數（七十二民族語）は四千三百萬部、スター

リンの「レーニン主義の諸問題」は最近十年間に八百三十萬部（二十九民族語）、スターリン憲法は二千七百四十萬部（六十二民族語）に及んでゐる。左に最も著しい發行部數を示した書籍名を示せば、ロマン・ローラン著作集百四十萬部（二十年間）

出版

外國に於けるソ聯邦出版物の需要状態を見るに逐年増加の傾向を辿つてゐる。一九三〇年度に於ける書籍・雜誌・新聞の輸出額は三十一萬ドルであつたが、一九三三年度には三十五萬ドル、一九三五年度には三十八萬ドルと加速度的に増加してゐる。ソヴェート出版物が最も大量的に輸出されてゐるは米國であり、次いで佛蘭西、ポーランド、英國、チェコスロヴァキヤ、ラトヴィヤ、リトワニヤ、エストニア等の順序となつてゐる。外國に於けるソヴェート文献に對する

Table showing publication trends: 新發行部數 (New titles), 同發行部數 (Same titles), 雜誌發行部數 (Magazine titles), 出版 (Publication), with units in thousands and millions.

Table showing publication trends: 新發行部數 (New titles), 一日發行部數 (Daily titles), 單行本雜誌發行部數 (Single book magazine titles), with units in thousands and tens of millions.

Table showing fulfillment rates (遂行率) for 1934, 1935, and 1936, with percentages and planned figures for 1937.

關心は、到る處で猛烈に行はれてゐる苛酷な檢閲のために阻止せられてゐる。獨逸、埃太利、伊太利等に於いては殆んど輸入禁止も同様の取扱をうけてゐるし、ポーランドの如きは、アフアナシエフの「初等讀本」やバランスキイの「經濟地理學」を差押へてゐる状態である。尙、外國で最も廣く讀まれてゐる作家はゴーストイ等である。ソ聯外國貿易人民委員部機關雜誌「外國貿易」誌三七年第六號によれば、ソ聯は一九三六年において總額千四百四十四萬

三千八百五十部の書籍、新聞、雑誌類を輸出したが、その内譯を示すと書籍二百六十七萬三千冊、新聞八百十萬一千八百五十部、雑誌七十六萬九千部となつてゐる。而して出版物輸出高總量中、定期刊行物が四一%を占めてゐるが、一九三六年度における書籍輸出高二百六十七萬三千冊を類別に内譯すれば左のごとくである。

政治、社會、經濟關係文獻	二四%
文藝書及び兒童讀物	四八
科學文獻及び教科書	一八
其 他	一〇
一九三六年度に於けるソ聯出版物輸出高總量を仕向國別に示せば左のごとくである。	
アメリカ	二〇%
フランス	一三
ポーランド	一一
イギリス	七
チエッコスロヴァキア	五
ラトヴィヤ	四
リトワニヤ	五
ルーマニヤ	四

らの學院の學生は黨員に限られ、卒業の上は多くは地方新聞の有責記者として派遣されるのである。有名な記者では新聞雑誌協會議長で、現在ブラウダ紙から西班牙へ特派されてゐるM・コリツオフ、同紙に依るメフリス、ヤロスラフスキイ、コトレル、イズベスチャ紙のラエフスキイ、アツシンスキイ、それに陰謀事件のブハーリン、ラデツク等がある。

ソ聯各新聞が自己の特派員又はタス(ソ國營通信社)によらずして蒐集するニュースの主要なものは、各地よりの投書又は寄書と通信員の通信である。

投書に就いては之を嚴査し、必要なものは之を紙上に掲載し、又一般國民の大衆と密接な聯絡を保つ爲に、選舉又は任命によらざる所謂労働者通信員、農民通信員及軍人通信員をして任意に新聞に對し社會各般の事情を通信せしめて、大衆の關心を政治問題の研究、經濟建設及學術、文化教育の向上に努めつゝあるが、之等の通信員中の優秀なものは新聞の編輯部に採用されてをり、千九百三十三年

支那 四
なほドイツ、イタリー、日本、スエーデン、スイス、ノールウェイ、デンマーク、オランダ、フィンランド、ブルガリヤ等へも若干輸出されてゐるが、右は極めて小額に過ぎない。因みに一九三七年度上半期におけるソ聯出版物輸出高は前年度同期に比し四十六萬留の増加を示してゐる。

新聞

ソ聯邦の新聞は共產黨の直接指導下に發行せられ、又その標語として萬國の労働者の團結を標榜、新聞の論調は總て黨中央委員會新聞及出版課により指導せられ、その結果は社説となり、論説、記事乃至は諷刺漫畫となつて紙上に現はれ、又地方新聞は總てモスクワ中央新聞の論調に追隨するものであるが、特にソ聯邦の新聞の社説は黨若くは政府の意志の發表であるから、最も重要な意義を有するのである。

ソ聯邦に關係する國際上の事件が発生

には其の數三百十三人に上つたと發表せられてゐる。而して此の種通信員の數は全聯邦に亘り其の數現在數百萬の多數に上る趣であるが、千九百三十四年六十の地方新聞に關係する通信員數は十七萬五千人に達したと謂はれて居る。此の通信員の外に中央新聞は時々地方に所謂督勵員を派遣し、其の地方状況の視察の通信若くは電報を紙上に掲載し、又黨地方委員會は地方に黨員を派遣して地方新聞の事業を援助せしめるのであるが、千九百三十二年より三ヶ年に亘りモスクワ地方黨委員會は三百十二人を此の目的の爲に派遣したる趣である。

ソ聯唯一の在外國營通信社タスに就いて述べれば、中央新聞中イズヴェスチャとブラウダは倫敦、バリ、伯林、紐育、羅馬等の各地に特派員を有し、其の特電を掲載して居るが、此の特電以外の海外電報は總てタス社から配布せられるのである。此の目的の爲にソ聯邦政府は新聞に對する外國及國內の政治經濟及文化に關する通信を供給する統一機關としてソ

するか、又は黨若くは政府が重大な決定を發表する時は、中央及地方の各大新聞は一律に社説(此の場合地方新聞はイズベスチャ若くはブラウダの社説を轉載することが屢々ある)を掲載し、事件若しは決定の内容趣意を敷衍説明すると共にその意義を高調して一般國民に對しその徹底を期し、常に内外に對し國內輿論の一齊集中主義を執つてゐるのである。

記者と記事蒐集網

ソ聯邦に於ては優秀な新聞記者としての第一條件は、レーニン主義に忠實な黨員にして黨の政策を全幅的に支持する者であらねばならない。黨中央委員會文化宣傳部では優秀な新聞記者の養成に力を盡し、此の目的の爲に各地に新聞記者共產學院が設けられてゐるが、その中でもかの暗殺されたウオロフスキイ記念モスクワ新聞雑誌記者共產學院が有名であり、又一九三〇—三一年度の學年期からマルクス主義講座内に新聞部が開設され、多くの共產黨高等學校内にも新聞記者養成及再教育講座が設けられた。これ

聯邦人民委員會に附屬するソ聯邦電報通信社タスを設けて居るのである、タス通信社はアバ、ウオルフ、ロイテル、アツソセーテッド・プレス、ステファン、同盟通信等と特別契約を結び、通信の交換をなす外、伯林、倫敦、ウイン、バリ、紐育、上海、東京等世界の主要都市に特派員を配置して通信をなさしめてゐる。

異分子續出と幹部養成

スターリンも「新聞は我が黨の最鋭、最強力な用具である」と言ひ、レーニン等と共に革命の地下運動時代、盛にポリシエヴィキ機關紙の指導編輯を行ひ、革命成立以來、ソ聯邦全紙を擧げて數千萬勤勞大衆の意識と感情にレーニン主義を鼓吹、社會主義建設の敵對分子は之を假借なく槍玉に擧げ、三七年三月の黨中央委員會總會でもスターリンによつて新聞關係コンミニスト幹部養成の緊急なることが提言された次第であるが、それにも拘らず、三七年六月には「イズヴェスチャ」紙臨時編輯者ラビンスキイ、同紙海外部長ホラフスキイ、同紙記者ザストラ

フスキイ等がラデツクとの關係で免職、七月にはタス通信社支配人ドレツキイ、同補佐役ソリツが賣國奴として告發され、續いて同通信員若干が妨害者、トロツキストの行動を陰蔽した廉で逮捕されたのを初めとし、最近ソ聯各共和國、邊境諸地方に反ソ民族獨立運動、トロツキスト派陰謀事件頻發し、遂に民衆の共產主義宣傳最重要機關たるソ聯操機界主腦部からも一聯の「ブルジョア國家主義者」を出すに至り、三七年十二月のソ聯最高會議選舉を前に控へてソ聯當局を狼狽させてゐる。

即ち、最近ソ聯各共和國、地方、州の大小諸新聞の内、反ソ運動に利用されたもの、或ひはその運動に對して自由主義的態度をとつたものは枚擧に遑ない有様で、就中キルギス共和國機關紙ソヴェート・キルギス編輯長ア・ペ・ツエリンスキイ、ロストフ地方機關紙モロト編輯長イ・ゲ・ポイツォフ、極東政廳機關紙チホ・オケアンスカヤ・ズヴェズダ編輯長ア・シウエル、沿海州黨機關紙クラスノエ

ズナーミヤ紙編輯長スタネーフスキイ等一味の反ソ活躍は當局はひんしゆくせしめるものがあつた、ツエリンスキイの如きはキルギスのブルジョア國家主義者一團が中央機關紙上で曝露された後までも彼等一味を自己編輯紙上で庇護し續けたし、ポイツォフはロストフのモロト紙に來る迄既に多年の間タール、東部シベリヤ、アゾフ黒海地方その他の諸新聞を轉々し、その間反ソ聯スパイ、トロツキスト派と手を組んで、彼等の活動を有利に導いて來た、又シウエルや、スタネーフスキイ等はトロツキスト・ブハリリ一派の間諜と關係あり、上記機關紙編輯局内に政治的に疑はしい有害分子を大勢引き入れた、と言ふのであり、これらの事實に徴しても今後とも一層ソ聯新聞編輯方面に優秀な黨員幹部が必要となつて來たのである。

かゝる事實に鑑み、狼狽したソ聯當局は政治的水準高きジャーナリスト幹部養成を急ぎ、ブラウダ記念全ソ共產主義ジャーナリスト學校でも本年度入學候補者

採用期限を例年よりも特に延期して十月二十日迄とし、多數の新入生を收容したが、同校採用資格は共產黨員、共產青年同盟員にして、黨及び青年同盟の仕事に經驗あり、或ひは新聞方面の仕事に經驗者となつてをり、之を見てもソ聯當局が高度のコンミニスト・ジャーナリスト養成に如何に力を入れているか窺へるのである。

新聞發行狀況と
主要新聞解説

ソ聯邦の新聞紙は假に之を區別するならば、中央新聞、地方新聞、其他の新聞とに大別することを得べく、その性質に鑑み、一般政治的及指導的新聞、商業、經濟、財政新聞、工業新聞、運輸、交通新聞、軍事新聞、新人教育新聞(青年共產、ピオネル關係のもの)、職業組合新聞、コオペラチヴ新聞、一般大衆向新聞(高級なる夕刊新聞より特に労働者及農民向の通俗的のものを含む)、政治部新聞(トラクター配給所、ソフホーズ、交通、漁

業等の各經濟部門政治部發行)等に類別することが出來、一九三七年の發行部數は六千六百萬部といふ龐大な數字に達した。

一九三四年現在國立中央圖書會議所統計に依れば、定期發行せられるものは、ロシア共和國五、九四一種一日發行高一九、六九五千部、ウクライナ一、三九五種二、六三三千部、白露一三四種二二二千部、後高架索一四九種三九二千部、ウズベツク二二三種五一八千部、ツルクメニ一八種三四千部、タヂク八二種二八八千部、其他一九種一〇千部、合計七、六一種二三、七七二千部であり、不定期九新聞は一、一三八種一、〇三七千部で、總計一日二四、八〇九千部が發行されたことになつてゐる。

これらソ聯新聞紙の主なるものを左に解説しよう。全てモスクワ發行である。

- △イズヴェスチヤ(報道)ソ聯及びロシア共和國中央執行委員會機關紙。一九一七年創刊。日刊(但各六日週の末日休刊、以下日刊とあるは通常之に準ずる)、約百七十萬

部發行。政府の機關紙にして、重要法令は本紙により公布せられるばかりでなく、外交に關する論説及報道は政府の意嚮を反映するものと認められる。前主筆エム・タール氏は十一月十三日罷免され、エル・メクリス氏が代つて任命された。
△ブラウダ(眞理)ソ聯邦共產黨中央委員會及黨モスクワ州委員會機關紙。一九一二年五月五日從前革命運動者の發行して來たイスクラ紙の後を承けて創刊。年中無休刊、約四百萬部發行。黨機關紙として、黨の決定及意嚮を發表し、極めて有力な新聞であり、内外諸問題に就きイズベスチヤと併せ當國政府の意見を表明するものと認められる。編輯は合議制であるが、代表者はマキドである。
△クレステヤンスカヤ・ガゼータ(農民新聞)ソ聯邦共產黨中央委員會機關紙。一九二三年創刊。隔日發行。發行部數三百萬。小型四頁紙で、黨の農民啓蒙機關である。主筆エス・ベ・ウリツキイ。
△コムソモリスカヤ・ブラウダソ聯邦青年共產同盟中央委員會機關紙。一九二六年創刊。日刊、一萬八千部發行。主筆ウエ・エム・ブベキン。

△ピオネルスカヤ・ブラウダソ聯邦青年共產同盟中央委員會機關紙。一九二六年創刊。隔日刊、五十萬部發行。少年少女の政治教育を目的とする。主筆ア・ストロエフ。
△マシノストロイニイ(機械製造)ソ聯邦工業及國防工業人民委員部機關紙。同紙は重工業人民委員部機關紙ザ・インドストリアリザツイユと機械工業及國防工業兩人民委員部機關紙テフニカを廢刊し、三七年九月十八日から新刊された。主筆はゲ・イス・ドプロウエンスキイ。
△エコノミーチエスカヤ・ジーズニ(經濟生活)ソ聯邦財務人民委員部機關紙。一九一八年創刊。隔日刊。十四萬部發行。主筆エス・シヤフノフスカヤ。
△クラスナヤ・ズヴェズダ(赤い星)ソ聯邦國防人民委員部機關紙。一九二四年創刊。日刊。主筆エム・エム・ラシダ。
△リヨフカヤ・インドウストリヤ(輕工業)ソ聯邦ロシア共和國輕工業人民委員部機關紙。一九三二年創刊。隔日刊、五萬部發行。主筆イ・ア・クツミン。
△ソチアリスチーテエスコエ・ゼムレゼーリイ(社會主義農業)ソ聯邦及ロシア共和國農務人民委員部機關紙。一九三〇年創刊。

日刊、十萬部發行。主筆エム・エヌ・グラ
ンドフ。

△ソヴエツカヤ・トルゴヴリヤ(ソ聯商業)
|| 聯邦國內商業人民委員部機關紙。一九二
六年創刊のソナブジエニエ・コーペラチャ・
トルゴヴリヤを改稱せるもの。隔日刊、三
萬部發行。主筆ウエ・ノデリ。

△レスナヤ・プロムイシユレンノステ(林
業) || 聯邦林業人民委員部機關紙。一九三
二年創刊。隔日刊、七萬五千部發行。主筆
ベ・エヌ・ルイサコフ。

△ザ・ビシチエヴュー・インドウストリユ
(食料工業の爲に) || 聯邦食料品工業人民委
員部機關紙。一九二八年創刊。隔日刊、五
萬五千部發行。主筆ミフリアシツツ。

△ザ・コムニスティチエスコエ・プロスヴ
エシチエニエ(共産主義教育の爲に) || 聯邦
教育人民委員部機關紙。一九二四年創刊の
「教育新聞」の後を承けたもので、隔日刊、
十五萬部發行。主筆ウエ・ユシエプロフス
キイ。

△グドク(汽笛) || 聯邦交通人民委員部機關
紙。一九二〇年創刊。日刊、二十萬部發
行。主筆ア・エル・スピヴォコフスキイ。
△トルード(労働) || 聯邦組合中央會議機關

紙。一九三〇年創刊。日刊、十七萬五千
部。主筆デ・ゲ・トウマルキン。

△リテラツールナヤガゼータ(文學新聞) ||
ソヴエイト作家同盟機關紙。月六回發行。
△ソヴエーツコエ・イスクリストボ(ソヴ
エイト藝術) || 美術、映、演劇、音樂機關
紙。月五回發行。

以上の外、ソ聯發行外字新聞としては
モスクワ・デイリー・ニユース(主筆エム・
エム・ボロディン、日刊、一萬三千部發行、
英字)、ドイツチエ・ツェントラル・ツア
イツング(主筆イ・アネンコフ、日刊、二萬
五千部發行、獨字)、ジュルナルド・ド・モ
スクワ(主筆エス・ア・ライエフスキイ、毎週金
曜發行、部數二萬、佛字)があり、尙、極東
地方から發行される新聞には、ハバロフ
スク市のチホオケアンスカヤ・ズヴェズ
ダ(黨、政府、労働組合、極東地方機關紙)、
トレヴオーガ(特別極東赤軍機關紙)、ブラ
ゴエシチエスク市のアムールスカヤ・プ
ラウダ紙、浦鹽市のクラスノエ・ズナイ
ミヤ紙等がある。

雜誌

となつてをり、この外、主要雜誌を擧ぐ
れば、左の如くである。

ベスボージニク(無神論者) || 戰局的無神論
者同盟機關紙。
ボリシエウイク || 全聯邦共産黨機關誌。
ヴエストニク・アカデミイ・ナウク(學士
院報知) || ソ聯學士院機關誌。
ヴネシニヤヤ・トルゴヴリヤ(外國貿易) ||
外國貿易人民委員部機關誌。
ウオプロイスイ・プロフツウイゼーニヤ(組
合運動の諸問題) || 聯邦労働組合中央會議
機關誌。

イストリク・マルクシスト(マルクス主義
歴史學者)。
コムニスティチエスキイ・インテルナチ
ヨナル(共産インタ) || 國際共産黨機關誌。
ミラウオエ・ハジヤイストヴオ・イ・ミラ
ワヤ・ボリチカ(世界政治經濟) || ヴアルガ
監修ソ聯學士院機關誌。
フラン(計畫) || 國家計畫委員會機關誌。
ブラノヴオエ・ハジヤイストヴオ(計畫經
濟) || 同上機關誌。
ボド・ズナメナム・マルクシスマ(マルク
ス主義の旗の下に)

ソ聯邦の雜誌及單行本發行部數は三五
年度四十三億、三六年度四十四億(内單
行本五億七千萬冊)、三七年度計畫五十四
億で、現在雜誌だけでも一年間四十數億
冊が發行されるわけであるが、之等無數
の雜誌書籍類は新聞と同様、すべて共産
黨中央委員會へ出版課指導の各種國立出
版所、例へば政治關係書は黨出版所(パ
ルトイズダート)、教科書は教育教科書出
版所(ウチベダイズ)、文學物は國立文藝
出版所(ゴスリトイズダート)、兒童書籍
は共産青年同盟附屬兒童出版所(ゼトイ
ズダート)、外國向出版物一切は國立書籍
販賣會社(メジウドナロドナヤ・クニ
ガ)等々と各種出版所から發行され、之
が販賣に當る書籍販賣聯合會書店は全聯
邦内に三七年現在一千九百七十八店を算
してゐる。

ソ聯發行雜誌は國立書籍販賣會社三七
年度カタログ發表では、大ロシア語によ
る物五七一種を數へ、之が部門別内譯は、
社會經濟、政治一二一種、地理、風土誌
一〇種、自然科學、物理化學三四種、ソ

出版

單行本は一九一三年當時發行高二萬六
千七百七十四種、延冊數八千六百七十萬冊
であつたものが、三六年には四萬三千三
百四十八種、延冊數五億七千萬冊に達し
てゐるが、最近の出版書籍若干を左に掲
げることとする。

ソ聯邦學士院編纂の
露語大辭典

一九三六年一月から、ソ聯邦學士院版
「露語大辭典」が出版されることになつた
が、これに關し、編纂責任者たる學士會
員エン・ジェルジャヴィン氏は次の如く
語つた。

『：この新辭典は現代に於ける最も偉
大なる學術的文獻となるもので、五ヶ年
間に上梓される筈である。現在の進行狀
態から察するに、この任務は完全に遂行
出来るものと信じてゐる。尙、この新辭
典は二千四百十頁に亘るもので、全二十
八卷であるが、一九三六年劈頭に第一卷
を上梓する。』

聯學士院雜誌一五種、技術、工業、運輸、
通信一八六種、農業、畜産、獸醫學五五
種、醫學、生物學五〇種、文學、批評、
美術五三種、幼年雜誌一四種、教育、
自習二六、體育、將棋二種、圖書批評雜
誌二五種、軍事雜誌一四種であり、この
外、各外國語及びソ聯民族語による物三
〇九種を算してゐる。

この内赤軍關係の雜誌名及購讀料は、

一、自動裝甲タ ンク雜誌	發行モ スクワ	一ヶ年六弗
二、砲兵雜誌	同	四弗
三、航空隊時報	同	七弗
四、防空時報	同	六弗
五、歩兵闘士	同	三弗
六、軍事思想	同	十弗
七、軍事時報	同	六弗
八、外國軍事	同	七弗
九、ウオロシロ フ射撃手	同	二弗四十仙
一〇、赤色騎兵隊	同	四弗
一一、赤軍陸海兵	同	三弗
一二、海軍集報	同	十弗
一三、航空技術	同	一弗
一四、技術及武裝	同	六弗

ソヴェート大百科
辭典の刊行

ソヴェート大百科辭典の刊行準備を開始したのは一九二五年度であるが、全六十五卷中今日までに三十五卷の上梓を見たのみで、其の進行状態はあまり芳しからぬ實績を示してゐる。これがために党中央委員會は當事者に對して刊行促進方を嚴に通達するところがあつた。而して、來る一九四〇年度までに全六十五卷の上梓を實現することに決した。

尙、既刊の辭典中に幾多の缺陷があることが發見された。即ち、ボクロフスキ一派の誤謬が多量に挿入されてゐることや、説明の冗長乃至は公式的偏向等が特に目立つことである。

ウ飛行士の北極征服
記念文集

三七年五月北極探險史上に新紀元を劃したシュミット博士の北極探險隊一行の壯舉を紀念するためソ聯出版所では「北極はボリシエヴィキによつて征服された」及大衆的報告文學集「我等は北極を

征服した」の二記念文集を發刊したほか、ソヴェート作家出版所では北極一番乗りを敢行したヴォドピヤノフ飛行士の自傳「犁から飛行機へ」と「飛行家の夢」(獨逸語版)を出版した。

ロシア革命戰史

三六年五十萬部の大量出版を行つた「ロシア革命戰史」第一卷はソヴェート讀書界に於て最も高く評價され、且つ物凄く賣行を示したものの一つであるが、今や同著は赤軍指揮官、學生、作家達の唯一の參考書となり、工場赤軍内では該著の讀合せ會、研究會が開かれてゐる、最近「ロシア革命戰史」第一卷大衆廉價版五十萬部が出版されたがまた、間に賣切れたと云はれる。

尙三七年現在第二卷を出版計畫中であるが、右は第一卷と同様百萬部出版される豫定である。

ソ聯で「資本論」改譯
新版發行

ソ聯共産黨出版所では三七年マルクスの「資本論」露譯新版第一卷を發行した、

部數三千價格七留五十哥、從來の舊版はマルクス・エンゲルス・レーニン研究所がステハーノフ・スクウォルツォフ譯(カウツキー修正版)に若干の補正を加へたものに過ぎなかつたが、新版からは全然カウツキー的歪曲部分を除きレーニンの譯文のある部分はこれを挿入してある名實共にソヴェート版「資本論」となつた。

世界大地圖の發行

三六年二月八日クレムリン宮殿内に於てソ聯邦中央執行委員會書記長アクロフ氏の司會により、ソヴェート版世界大地圖の編纂會議が開かれ、その決議により第十九回革命記念日までに第一卷が上梓されたが、この第一卷は、ソ聯邦及び資本主義世界の地圖百八十頁よりなつてをり、續いて三七年第二卷、三卷の印刷進行中で、既に「地球に關する地理學的表示の進歩」と「ソ聯の畜産業」に關する地圖は印刷完了、同時に「地表に於る平均氣温」に關する地圖の大衆版一萬部を印刷した。

學士院辭書刊行

ソ聯學士院極東文化研究所では三七年秋最初のジブシー||ロシヤ語の辭書を刊行した。編纂者はバロニコフ、セルゲエフスキーの兩氏で語數約一萬五千。

ソ聯で「赤軍歌集」出版

我が國でも今や軍歌が盛に歌はれ、これに關する歌集も多數出版されてゐるが、ソ聯でも三七年秋國防人民委員部軍事出版所から「赤軍歌集」が出版された、但し價格は我が國の廉價なるに比し、十二留もする高價なものである。

ソ聯最初のソヴェート
聯邦史

ソ聯教育圖書出版所では中等學校三、四學級用歴史教科書A・シエスタコフ教授監輯「ソ聯史提要」を發行することに決定、初版五百萬部を印刷に附し、三七年九月發賣が開始された。右教科書は印刷用紙全版十四枚、地圖六葉、圖表三、挿畫一〇九枚が挿入されてをり、用紙印刷ともソ聯優秀工場のもので定價は上製三留、並製二留五十哥である。

ゴリキイ著作年表

ソ聯が世界に誇る文豪ゴリキイの著作出版部數を年度別に調査した興味ある資料が最近發表された、即ち左の通り、

△一九三三—一九一六年に於て百二種
七十九萬九千八百八十部△一九一七年
の革命紙飢饉時代に十五萬部△一九一
八—二〇年、四十八種二百六十七萬五
百部△一九二一—二七年、百十三種百
八十四萬九千二百部△一九二八—三六
年、二百九十七種二千三百五十四萬四
千八百五十部△一九一八—三六年のソ
ヴェート政權下に於ける發行總部數は
四百五十八種二千八百六萬四千五百五
十部

これを作品別にみると左の如く

△幼年時代(十八種百二萬五千三百七
十五部)△世の中へ(十三種五十六萬
部)△私の大學時代(十二種四十九萬
部)△アルタモノフ家一族(十一種
四十二萬五千二百部)△フオマ・ゴル
デーエフ(五種十六萬部)△一月九日

(十二種四十九萬五千四百部)△レーニ
ン(七種四十四萬部)△鷹の歌、海つ
ばめの歌(七種三十三萬五千二百五十
部)

社會評論集の發行部數は三十五種一千三
百五萬七千三百九十部、文藝批評論集は
十五種三十四萬八千九百四十部學校用叢
書としては「古典文庫版」十六種百四十
七萬一千八百部、「廉價古典文庫版」二十
五種百四十萬五千部、「大衆文庫版」三種
百七萬五千部、「初等讀者文庫版」十一種
七十四萬四千四百部、「同農村版」六種六
十萬部等、このほか聯邦各民族語で百五
十種百四十萬部發行されてゐる。

ラヂオ

ソ聯ラヂオの特異性

ソ聯のラヂオが其の任務に於て原則と
して世界の他の凡てのラヂオ組織と異つ
てゐる點として、Kurt Wagenführ は、
共産主義的觀念の普及、宣傳が先づ第一
に外國に向けられてゐる事を挙げ、國內

に於ける宣傳を漸く第二義的な立場に於てのみ認めてゐる。此の考察はヤムソ聯の對外宣傳活動にとらはれた嫌ひがある。といふのは國策による國民の指導機關としてのラヂオが對外的國際的に利用されてゐるのは、ナチス獨逸に於ても軌を一にしてゐるからである。唯ソ聯の對外宣傳が、外國國家の内政關係をも取上げる程執拗な程度に行はれてゐる事は注目し得る。併し又一方ソ聯の新聞雜誌が喧傳する如く、ラヂオは「國際プロレタリアートとの通信に於ける最も効果ある武器」としてと同様に、國內に於ても、レーニンが「紙と距離のない新聞」と稱して以來、ラヂオが大衆のマルクス・レーニン主義教育に與つて大いに力があつたし、又都市及町村の文化的經濟的差異懸隔の可及的排除といふ目標に對しても或程度の役割を果してゐる事を看過する事は出來ない。

次にソ聯ラヂオ組織の特殊性として確認しなければならぬのは國家のラヂオが黨のラヂオと緊密に結びついてゐる事

である。即ちロシアには政治的目的と結びついた國家的ラヂオが存在する、と同時に労働組合を指導する黨のラヂオが存在してゐる事である。労働組合放送局は國家より資本の供給を受けてゐるのみならず、政府の放送局も屢々労働組合に提供されてゐるプログラムの編成、聴取者の獲得、出演者の養成、ラヂオ知識の普及等々凡てのラヂオの問題に對しても黨と國家とは非常に緊密に共働してゐるのである。此の二つの特異性はソ聯國家の本質上直ちに首肯されるであらう。

尙、ソ聯の版圖が非常に廣汎に涉つて居り、天候氣象等のラヂオに影響する自然的條件が全國的に不均等である爲に、何はさて置き放送局の増加とその使用電力の強化が要請され、——現在に於ては放送局の建設に當つては大電力方針が取られて居る——従つて受信装置の改良發展は立遅れの狀態を餘儀なくされてゐる事——鑛石式受信機が未だに支配的なのだ——且又、地方の局には獨自のプログラム活動を持たない中繼局が多いこと、

更に言語の異なる種々の民族の存在と對外宣傳方針とが放送に於ける多國語制度を取らしめてゐること、等も、現在ソ聯ラヂオの特殊性として指摘することが出來よう。

沿革と發展

思想、觀念の創意者はもとより、自然科学に於ける發見者發明者を自國に於て求め、それが唯一の端初なりと主張するのは近代國家の自尊心のせいであらうかそれとも世界史が未だ若いせいであらうか。

ロシアに於てはラヂオの發明者はアレクサンデル・ステパノウィッチ、ポポフなりといはれてゐる。Faradayの指摘、Maxwellの法則の發見(一八六五)、Feddersonの實驗(一八七五)、Heinrich Hertzの最初の成功(一八八七)は此處では暫らく置かう。兎に角先般逝去したマルコニーが初めてニュース中繼に成功した二年前即ち、一八九五年の四月二十五日、ロシア物理化學協會物理部第五

十一回會議に於て、アレクサンデル・ステパノウィッチ、ポポフが「電氣振動に對する金屬粉の關係について」といふ研究を發表し、之が世界に於けるラヂオ受信機發明の端初をなしたといふのである。この装置は金屬粉を充滿した硝子管が鋭敏な繼電器の回線に繋つて居るもので、外部からの電氣振動に對して敏感に作用し、雷雨の際に最初の實驗が試みられたといふ。

此のポポフ發明の無線電信機は間もなく九七年にはロシア海軍の水雷艇、巡洋艦等に裝置され始め、一九〇〇年にはゴクランド島とフィンランド沿岸ヨツカ市間四十七軒の距離に亘る世界最初の無線電信交換にも成功し、其後數次の實驗によつて、その距離は一、二六軒に迄延長されたのであつたが、一九〇五年ポポフの病死と其後の時の政府の無理解とが原因となつて、ロシア本來のラヂオの發展は中斷を餘儀なくされたのであつた。

かくて其後、日露戰爭の際派遣された第二太平洋艦隊の如きは獨逸テレフォンケ

ン會社製スリヤビ・アルコ式無線電局を數ヶ所に設備し、又同戰爭の終り頃派遣された無線電信隊二個中隊もマルコニー會社から無線設備を購入した等凡て外國に依存して居たが、漸く同戰爭後三ヶ年を経て、「ロシア無線電信會社(株式)」が創立されるに至り、世界大戰の一年前迄には、海軍省所屬船に一六七ヶ所、沿岸に五ヶ所、逡信省所屬として一六ヶ所の無線電局を有するに至つたが、之とても當時英國の一、五四ヶ所、米國の八七二ヶ所に比すれば、その發達は遅々たるものといはねばならなかつた。

一九一七年の十月革命は、ロシアの凡ゆるものに劃期的な轉變と轉換とを経験せしめた。無線電信は革命の運用手段となり、人民委員會の諸指令の傳達者となり、又ロシア通信社の新聞ニュース報道者ともなつて此處に新たな發展を開始するに至つた。一八年六月には郵便電信人民委員長ボドベリスキーの命令により、ニヂエゴロドスカヤ・ラヂオ研究所の設立を見るに至り、ボンチ・ブルウエイツ

チ教授の指導下に、ヤガて放送機用陰コンプがソ聯技術者の手によつて製作された。かくて二四年シヤポロア放送局(一キロワット)の放送開始があり、ラヂオ聴取の自由が布告され、波長の制限も撤廢された。勿論當時は技術は初歩的でありプロも貧弱であり、經營も放送會社の下に置かれてゐた。一九二六年には約三十の放送局があつたが、之とても廣汎な領土のラヂオ化には第一歩を踏み出した程度に過ぎなかつた。此の一九二四年より二八年迄がソ聯ラヂオ發展段階の第一期であり、其後第一次、第二次の五ヶ年計畫時代を経て今日に及んでゐるのである。即ち一九二八年に至つて、ラヂオは國家の統制の下に置かれ郵便電信人民委員會が之が管掌に當つた。かくてラヂオ五ヶ年計畫が樹立され、地方局、中繼局中繼線が相次いで建設された。最初のプランでは五キロワット以内の小放送局を激増せしめようとしたが、一九三一年に至らずして此の計畫は拒否變更され、放送電力の強化によつて放送局數を減少せ

んとするに至つた。(今日尙電力の強化が着手されたに拘はらず減少の傾向は見受けられない。)之等の放送局の中十キロワット局が州放送局として使用され、百キロワット局が主要放送局として、最も重要な都市及工業の中心地に置かれる事となつた。又「ロシア共和国ラヂオ友の會」が結成されてゐる。

かくして一九三三年にはラヂオ放送組織はその再組織を見、今日の如く世界有数のラヂオ國に迄急速な發展を遂げるに至つたのである。

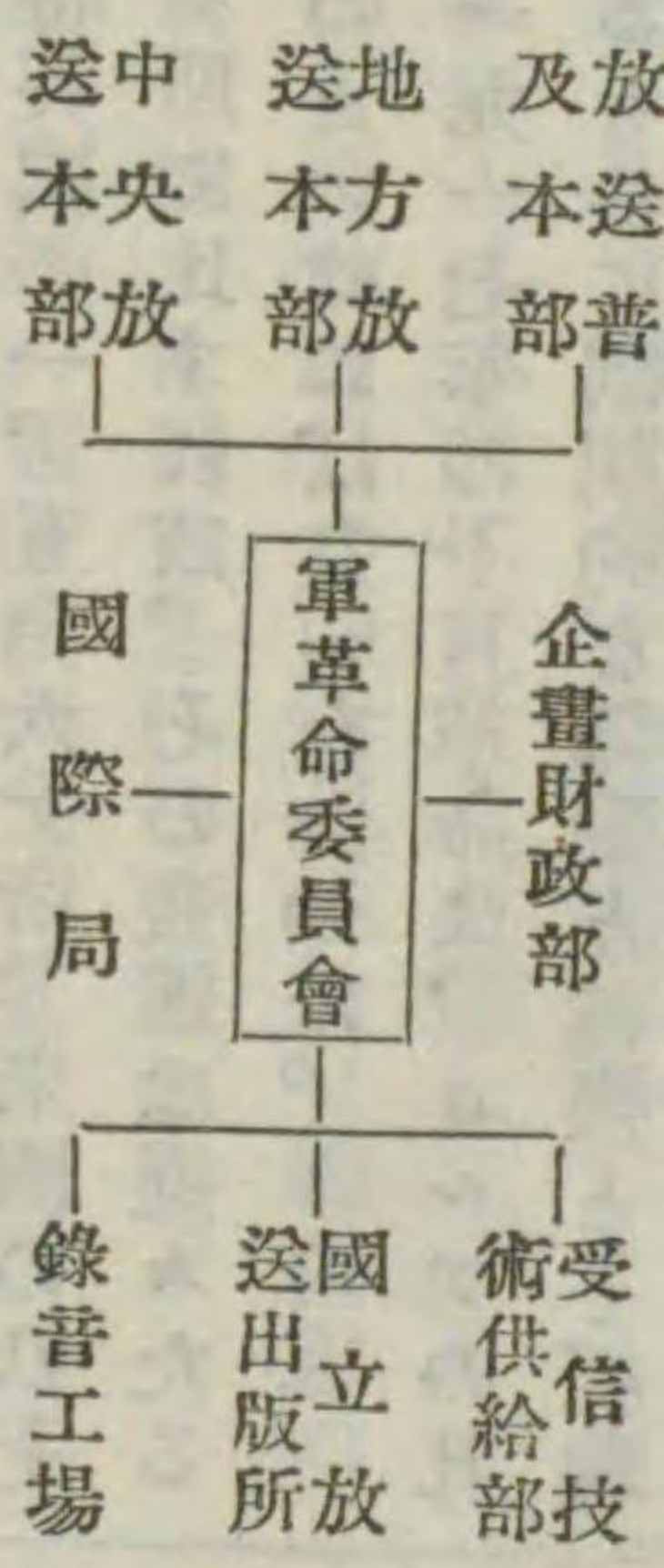
ソ聯放送施設の發展

年	局數	電力(kW)
一九二九	四	二七・五
一九三〇	五	三八・二
一九三一	五	三九・〇
一九三二	七	九〇・九
一九三三	七	一五〇・四
一九三四	七	一五三・〇
一九三五	八	一六三・八

ソ聯ラヂオの組織

一九三三年の改組以來、ソ聯のラヂオは一切、人民委員會議直屬の聯邦ラヂオ

委員會が之を掌握し、其の中心的指導機關は、ケルジエンツエフを議長とするBPK(軍革命委員會)である。此の指導監督下に中央放送本部、地方放送本部、ラヂオ普及本部があり、又國際局、企劃財政部(會計)及び、錄音工場、國立ラヂオ關係出版所、ラヂオ機械技術供給部が之に所屬してゐる。(次圖參照)



聯邦ラヂオ委員會は凡ゆるラヂオの問題に對して全責任を負うて居り、議長及び二人の副議長は人民委員の評議會に依つて任命される。BPKは放送局、中繼局の新設計畫統制に當りラヂオ商工業を監督し、中央放送本部、地方放送本部、其他各部を指導する。中央放送本部は特別放送を編成する外、一般プログラム計畫、中央放送團體の事業の規程を告示する。地方放送は地方放送本部指導の下

に、中央グループ、ウラルシビリンスクグループ、合同民族グループの三つに區分された、各州各地方各共和國ラヂオ委員會により、各地方放送局を通じて行はれてゐる。ラヂオ普及本部はラヂオ網の普及に従事しラヂオの發展と關係ある凡ゆる經濟的問題を整理し、又受信機の製作種類をも定める。其他全資本の融通供給、詳細なる資本の分配をなす企劃財政部の外技術的研究事業、ラヂオ機械の供給、共同聴取技術的講習の組織、其他藝術的人員の訓練等が委員會の指導の下に行はれてゐるのである。又地區、各企業、機械トラクター配給所等にある低度の初歩的な中繼所もラヂオ委員會によつて組織されて居る。併しながら地方局は聯邦又は地方のラヂオ委員會の許可を得なければそれ自體の特有放送を爲し得ずその時間も非常に制限されて居る。又地方局は時報及ラヂオ體操並びに政治ニュースは全中しなければならず、兒童向放送、コルホーズ農民向放送は中央局より再放送する事を義務として課せられて

居る。此の點に於てもソ聯が政治的文化的教育において農民と新しきヂエナレィションを擔ふ兒童に對して如何に注目を拂つてゐるか窺へよう。地方放送全體の一年間の所要時間は一二八、二二八時間(此の中他都市からの中繼は二七、〇〇〇時間)で、延人員六千人以上の音楽家藝術家が絶えず此の爲に活躍してゐる。之等放送局の外に郵電人民委員部、全ソ勞動組合中央會議、農務人民委員部、國營農場人民委員部、勞農陸海軍政治本部所屬のラヂオ中繼所が全聯邦に五千ヶ所以上ある。此の中繼所の中繼時間は一ヶ所一日平均七時間以上で一年間の總延時間は約一千三百萬時間に達し、全ソ聯聴取者の八五%から九〇%以上がその恩恵を受けてゐるといふ。併し此の中繼所は小規模のもので寧ろサークルと見做すべき程度であり、又逆にラヂオ受信機が主として鑛石式、せいぜいより高價な電池式をたよりにしてゐる證左ともなるものである。

受信機・聴取者・聴取料

文化

Wagenführer に依れば、少くとも一、三年前に於ては、國家は放送局網の擴充に努力して居るが、聴取を明瞭にする運動には着手し得ないで居たといふ。更に彼は之に附け加へて露西亞に於ては一個の受信機も個人では殆ど組立て得ない事を述べ、其の原因として聴取者層の技術的豫備教育の不充分さと、部分品の購入不可能の點を指摘し、更に受信機の分離の不充分さと真空管の不足の點に觸れてゐる。此の缺陷が未だ克服されるに至つてゐないことは、ソ聯ラヂオ年鑑所載の受信機總數百九十七萬個中、鑛石セツトが百六十萬を占めてゐる事によつても知る事が出来る。之等受信機所有者の内譯は勞働者四九・三%、共營農場員六・八%、事務員二八・九%、其他一・九、團體利用(幼稚園、公園、クラブ其他)一三・二%となつてゐる。

ソ聯のラヂオ聴取者の數字に關する最初の報告は、一九二八年から存在して居り、其の當時約三十五萬と計算されてゐた。一九三五年四月の調によれば二千三

百二十三萬であるといふ。勿論此の點に於ても制限が置かれねばならない。といふのは聴取者の多くは強力な增幅機と大スピーカーを前にした共同聴取者であつて自己所有の受信セツトを有するものは甚だ少く、大企業大工場地帯に於てもせいぜい三十ワット位の放送機を有する中繼局を介して無線により送電を受けて居る程度で他は強力受信機から有線によつて各家庭に送られてゐるのである。こうした装置はソ聯の集團制度にも依るものであらうが、一面受信機の供給不充分、真空管セツトの高價にも起因してゐる。個人聴取者は最近の發展を考慮に入れても三百萬には達してゐないと言へよう。

尙、此の三百萬といふ數字は非常に高く見積つたもので、一九三六年年鑑に依れば多數の聴取團體を除くと個人聴取者は約百五十萬と言はれて居り、Wagenführer は個人聴取者を二百五十萬と推定してゐる。

聴取料

聴取料には、聴取者の所得と聴取装置によつて各種の段階が設けられてゐる。序でに聴取料に各種の段階を設けてゐる國について述べて置こう。歐羅巴には周知の如くオランダとルクセンブルクといふ聴取料の全然ない國があり、聴取料と各種の段階を設けてゐる國も可成りの數に上つてゐる。例へば、リトアニアは受信機の種類と都市農村の區別により段階があり夏季七、八、九の三ヶ月は半額に減ぜられて居り、エストニアも同様受信機の種類とその装置場所（カフェ、レストラン、ラヂオ商等）によつて、ブルガリアは真空管の數によつて、ベルギーも受信機の種類によつて、夫々聴取料に高低がある。尙ラトビアは夏季と冬季によつて區別があり、ポーランドも種々高低の變化があつたが現今では小規模の農家及農業労働者に對して特に聴取料を切下げて受信を奨励してゐる。

三〇年に至つて國家は之を放棄し、約三年間無料でプログラムを放送した其後現在の如く段階をつけ、鑽石式受信機に對しては年五〇カペーク、真空管受信機に對しては三ルーブルといふ聴取料が定められた。一九三四年に至つて、真空管受信機に對しては年二四ルーブル、俱樂部、公園、其他公衆の集合する場所に於ては、年五〇ルーブルと改定されたのである。前述の歐羅巴の例を見ても分る如く、各國の地理的特殊性、經濟的條件等は勿論異なるにしろ、比較的受信機の發展や電力網の分布の不充分な國に、ラヂオ聴取

を普及させる目的の下に此の種の段階が設定されて居るのであるが、ソ聯に於ては更に聴取者の所得によつて分類されてゐるのである。即ち労働者は一ヶ月一ルーブル八十カペーク——二ルーブル五十カペーク、共營農場員は二ルーブル——三ルーブル、事務員は三ルーブル——四ルーブルの聴取料を支拂つてゐる。尙此の額は種々變更されるものと見做さなければならぬ。

なほソ聯の放送局は下表の如くである。

局名	電 力 (KW)	周波數 (KC)	波 長 (M)
(モスクワ) コミンテルン記念放送局	500	171	174.4
イルクーツク	20	184.5	160
ミンスク	35	108	144.3
ノヴォシビリスク	100	27.5	1100
ハルビン	10	111	119.3
バレンコフ	10	200	1500
レニングラード	100	34.5	1334
タシケント	35	35.4	1400
モスク	100	27.1	1104

本局表は「一九三六年版ソ聯邦ラヂオ年鑑」に依つたものであるが、キエフ局が百キロに強化された外五〇キロ局、四〇キロ局、三五キロ局が各々一つ強化されてゐる。現在、五〇〇キロ局一、一〇〇キロ局五、五〇キロ局一、四〇キロ局一、三五キロ局三、二〇キロ局四、一〇キロ局二七、一〇キロ以下の局三八と稱されてゐるが、現在の百キロ局の二五キロへの増力計畫も傳へられて居り、昨年各地に中繼局三十八局の新設プランが樹立されてゐる事も忘れらるべきではない。短波局も右年鑑所載のものとは極く代表的なものでハプロフスクには尙RRJ局、モスクワにも前記RNE局（十二メガサイクル）の外、RKI、RW九六、RW五九、UTU、RFV、RKC、RAN局等、浦鹽にもRRRH局其他其數も甚だ多い。我々の注目すべきは同一コールサインの局でも種々の波長を有する事であり、現在に於てはモスクワのRNE局が我がJZJの聴取者層を荒らして居る事、昨夏來ハプロフスクPB15局

局名	電 力 (KW)	周波數 (KC)	波 長 (M)
チエリヤビン	72	57.7	519.9
ゴリキ	42	55.6	531
チエリヤ	52	55.6	531
スタリ	34	55.6	531
スイク	41	47.4	635.6
チエボク	74	47.4	635.6
オム	44	47.1	639.9
オレン	45	46.1	650
ウイロ	37	45.0	667
スタリ	47	43.6	688.2
ウオ	25	42.3	712
(モスクワ) 全ソ労働組合會議局	49	41.5	735.5
マハチカラ	27	40.1	748.2
エリ	21	38.0	789.5
スウエル	5	37.5	800
スモ	24	36.4	824.2
ドン	12	35.5	845.1
ツル	18	35.0	857.1
ウラ	63	35.0	857.1
イ	85	34.0	882.3
サ	3	33.0	900
ク	66	33.0	900
ア	19	33.0	900
ア	60	31.0	967.7
チ	7	28.8	1040

は我が國內に混信を生ぜしめ聴取障害となつた事も銘記さるべきである。

尙本年五月六日十二日のNBCとの連絡の下に爲された對米向ラヂオコンサートはRNE(二四、八七米)RKI(一九、九五米)RAN(三一、二五米)を通じての放送であることを附記して置かう。

他國語放送

すでに觸れた様にソ聯放送は全國六十二種の民族語及び國境方面の他國語を以て放送してゐるのである。その數實に六十有餘。クロアト語、ヘブライ語、アラビヤ語、ルーミア語等々約二十ヶ國語を以て、地中海及バルカン諸國に向け放送してゐる伊太利のバリ局と雖も遙かに及ぶべくもない。英、獨、佛、伊、和、西、波語は勿論、土耳古語、日本語、支那語、エスペラントから、實に印度の方言、マレイ語等に迄及んでゐるのである。之等の放送は表向きにはソ聯國家が國境に於て含んでゐる人種の異なる少數者の爲に向けられてゐると稱されてゐるが、Wagenführerの確認する處によれば、

局名	電力(KW)	周波數(KC)	波長(M)
アルハンゲリスク	10	566	52
アストラハン	10	598	50.7
ムルマンスク	10	60	49.18
オルジョニキゼ	10	709	42.5
イワノヴォ	10	668	44.91
ウラヂオストツク	4	655	45.74
ベトロザヴオドスク	10	648	46.3
北樺太アレキサンドロフスク	2	662	45.1
グロイズヌイ	1	676	44.38
カザン	10	686	43.73
カラギンダ	11	663	44.7
クイブイシエフ	10	733	40.8
キエフ	15	733	40.8
サラエフ	1	734	39.91
イジエフ	3	767	38.66
スタリノ	10	776	37.8
ナリチク	11	794	37.12
シンフエロポリ	10	859	34.92
ヨシカル・オラ	1	888	33.78
ドネプロベトロフスク	10	913	32.86
エンゲルス	1	938	31.82
オデッサ	10	968	30.98
ウフタ	2	968	30.98
チエリニゴフ	5	1011	29.62
レーニンград	10	1080	28.16

プログラムの構成はソ聯版圖外の聴取者にも向けられてゐる事を證明してゐるといふ。細分すれば民族百九十にも及ぶといふソ聯ではあるが此の考察は恐らく肯綮に當つてゐるであらう。尙此處に、國內聴取者が自分の理解出來ぬ多くの外國語の放送にわすらはされざるやう、二重プロ送出の爲の努力が續けられてゐる事を特記して置かねばならぬ。

テレヴィジョン

テレヴィジョンも最近非常なる發展を遂げて居る。畫素數は一三〇〇を有してゐる程度であるが多くの中波放送局もテレヴィプロを放送してゐるし、テレヴィアマチュアの數も非常に高まつてゐる。モスクワに於て七・五キロワットの電力と六米の超短波で操作されるといふテレヴィジョン放送局の設置工事が始められつゝある事が昨秋「コスモプレス」により報じられた。ソ聯當局の確言によれば三四三のラインナンバーに相應して一六〇〇〇〇の畫素數を有し、五〇乃至六〇〇の範圍に於て立派な受像が得られ、三二

短波放送局

局名	電力(KW)	周波數(KC)	波長(M)
クラスノダール	33	1080	28.16
チラスボリ	57	1068	28.09
ヴァインニツア	75	1095	27.7
ハバロフスク	15	4173.5	70.11
モスクワ、全ソ労働組合中央會議放送局	59	11000	27.27

【註】PBエルヴェーはラヂオ放送局の略語

〇平方メートルの土地にテレヴィスタヂオの設置がなされつゝあるとの事であつた。最近のニュースに依れば、モスクワ市シヤボロフカに於て目下超短波テレヴィジョン中央局を建設中であり、之が裝備器具一切を米國から購入する事になつて居り、既に優秀なるテレヴィ受信機一〇〇〇臺と共に米人技師二名が到着し、指導に當つてゐる由である。放送範圍は昨秋報ぜられたと同一であるが、該局は二棟の建物と有し、一棟は二個の放送機(映寫及録音)に、他の一棟は大スタヂオと各種補助裝具類設置に當てられ、今年末竣工、來年早々放送開始の豫定であるといはれて居る。映像變化二十五、繪素數三十程度のテレヴィのテストは從來既に試

みられた處である。

放送内容

プロの構成

プログラムは種々のグループによつて構成されてゐる。農民の時間、労働組合關係の労働者向放送、話される新聞(ニュース)、赤軍の時間、子供の時間、青年の時間、婦人の時間、獨逸のホッホ・シユールにも似た教育放送(自習)、マルクス・レーニン主義政治講義、産業講座(播種、收穫、農業機械、土木、家畜、天文、地文、科學)實生活放送(實況)、文學講座、外國語講座、衛生保健講座、劇(ラヂオ・ドラマと劇場からの中繼)、音樂(オペラ、音樂會からの中繼、器樂、聲

樂、地方民族の歌謡、俚諺等。娛樂プロ全體には比すべくもないがニュースは、政治的宣傳器具としてのラヂオの役割に相應はしく、その重要部門を占めてゐる。

モスクワのペトロフカ街十二、にあるソユーズラヂオ(聯邦ラヂオ放送委員會)發表によれば、本年第一・四半期に於て、モスクワから放送された時間は總數二千八百二十九時間、之を放送種目別に分類すると次の如くである。

放送種目	放送時間(分)	比率(%)
一、音樂		
(イ) オペラ・バレエ	一三六〇	八・一
(ロ) オペラ及オペレッタ	五七〇	三・四
(ハ) シンフォニー・室	二九四〇	二二・三
(ニ) 民俗音樂	三〇〇〇	二・二
(ホ) アマチュア	一六〇〇	〇・九
計	六四〇〇	三三・八
二、テレヴィジョン	三六〇	一・七
三、文藝	七六〇	四・七
四、自習講座	八六〇	五・一

五、告知	計
(イ) 時事問題、スタヂオ外実況	一五六〇
(ロ) 最新ニュース	一六八〇
(ハ) 報告及演説	四五六〇
(ニ) 廣告	三〇〇〇
計	六六〇〇
六、雜	
(イ) 子供向放送	三七〇〇
(ロ) 體育	六三〇〇
(ハ) 其他	三二四〇
計	一三二四〇
總計	一六七四〇

(此の總計は二〇七〇〇分の録音及レコード放送を含んでゐる)

ニュース實況放送

ニュースは午前六時十分、午前七時、晝、夕方、夜と毎日定刻五回に亘り放送されてゐるが、必要に応じて臨時の追加ニュースある事はいふ迄もない。アナウンサー以外に屢々種々の事件の直接關係者、若くは主人公がそのニュースをマイクの前で讀む事が行はれてゐる。放送時間には普通の場合、一回二、三分、特別長い報告の場合は二十分乃至二十五分である。

るといへよう。

何よりも先づ全露、全聯邦ソヴェート大會、コルホーズニツク・ウダルニツク全聯邦大會、或はコムソモール大會等々の重要な大會や會議に於ける代演の演説の中繼、報告の録音による再放送を擧げねばならない。例へば本年一月九日にはコミンテルンYZSPS局其他多くの短波局が第八回全聯邦ソヴェート大會(昨年十一月開かれて所謂新憲法を採擇したもの)のモロトフの演説の録音放送を實施して居り、第十七回全露ソヴェート大會前日(一月十四日)には第八回大會に於けるスターリンの報告の録音放送が全聯邦ラヂオ委員會の手によつて組織され、アゾフ海黒海方面のコサツク集團農場員、アムデルマの炭坑夫、アルチツクの冬期グループに至る迄國內津々浦々の大衆が群をなして之に聴き入る。一夜が明けて第十七回大會當日には大會開始の實況放送、カリーニンの報告が放送され、國立録音工場はいち早く之をフィルムに録音するといつた調子である。

文化

ソ聯の勝利を意味する様な喜ばしい事件、新しい企て、記念すべき催しのある毎に、その現場から、空から、海底から、山頂から、地下から放送されるのである。一昨年の五月祭當日にはマイクは赤の廣場にあるモスクワ最高の建物、即ちモスクワ・ソヴェート・ホテルの屋根に、墜落したゴリキエ號の上に、レニングラード港では砕氷船エルマーク號上に、キエフではシチヨルソフスカヤ師團の勇士達の傍に置かれてゐる。セヴァストポリル附近のストレットツカヤ灣で沈没船引上作業の際には第一のマイクは潜水用大ランチの上に、次の二個のマイクは黒海の有名な潜水夫チエルトンの潜水服の中に置かれ、チエルトンが海底で作業をする音に混つて陽氣に歌ふ聲までも電波の上に傳へて居る。モスクワ地下鐵開通の日にはマイクは三十米の地下に据ゑつけられ、ソ聯の大飛行船「B・6」號が四十時間の繼續飛行に成功した時は、五百米の中空のマイクを通じて熱烈な挨拶が述べられ、海拔四千二百米のカズベク山

る。アナウンサー以外にマイクの前に立つた人々には、例へば民間航空界の指導者、土耳古から歸朝した名譽俳優、國防化學飛行協會の抽籤に當り世界一周した電氣技師、播種好成绩で勳章を授與された共營農場員、モスクワ地下鐵の試運轉に成功した技師、共和國の名射撃手等々が擧げられる。右の如き一事件一人の報告に止まらず、十月革命記念とか五月祭の如き日には一事項につき二人、三人の人々が代る／＼放送してゐる。又デクソン島にある極北ラヂオ中心地から規則正しくニュースが中繼されて居り、本年七月四日からルドルフ島の放送局がフランツ・ヨゼフ島に來る新聞によつてニュース、參考資料等をレコードと共に北極向に放送してゐる事もニュース網の點に於て注目をする。

頂から、凄まじく荒れ狂ふ吹雪の音を混へた放送が試みられてゐる。ソ聯ではかかる場合近くの電話と有線連絡のあるマイクによつて放送されるのが普通で、一般に短波放送は立遅れ状態にあるのだが、此の時は短波放送機が使用されてゐる。尙星や惑星の光を強力な變光抵抗變更器によつて一種のメロデニアスな響に變化させて放送するといふ野心的な「星の歌聲」の實驗放送が半ば成功的に行はれた事は特記すべきであらう。

本年二月十九日重工業人民委員オルジヨニキーゼが死んだ時には、そのニュースの全中と共に特輯記念プロが組織され、十九、二十の兩日、作家S・トレチヤコフ、V・グセフ、S・デイコフスキ等が彼の死骸の置かれてゐた勞働組合會館のホールから記念プロを指揮、少し以前に録音されたオルジヨニキーゼの演説の再放送があり、翌二十一日赤の廣場で持たれた記念集會が早速放送されてゐる。赤軍に捧げられたラヂオ・デー(二月二十二日)は朝八時半國境警備隊プ

ラス・バンドの行進曲に始まり、有名な演奏家達による大コンサートが放送された。實況放送として遙かに我々の興味を惹くのは赤軍十九週年記念放送（二月二十四日）である。先づ重爆撃機に乗つた有名なレーニンググラード軍區の飛行士ゾーコフの空中からの放送に續いて、マイクは地上のタンク納庫に移され技術主任でありタンクの操縦の名手F・ドドウドコの放送、更に之に續いて赤旗バルチック艦隊の潜水艇に於てマイクのスイッチがあげられ、トリボルスキー副艇長がその英雄的航海と潜水艇に於る軍備充實の様を説明放送したといふのである。ボルシヨイ劇場中繼の國際婦人デー、モスコイ教育會館からのチェス大會の實況等には大して目新しいものはない。ソ聯實況放送の壓巻、豪華版は何といつてもメーデー記念の放送であらう。先づ四月三十日には、祝祭を明日に控へてデコレーションと祭日気分のみたされ、夜ともなれば煌々と輝くイルミネーションの點じられた白壁の都、白夜の都、首都モスク

ワの姿が市の街々のマイクから描寫され、母なるモスクワ、ヴォルガ運河のデコレーションがサイレンを交へつゝモーター船のマイクから描寫され、建設事業をテーマとした「祖國の詩」と題する文學放送が行はれ、外國革命詩人ワイネルト、R・アルベルチ、ルイ・ドゥ・タピアの詩が、サドフスキー、アクセノフの如き有名な俳優によつて朗讀された。翌五月一日、全聯邦放送局は午前九時三十分から午後三時迄、モスクワから陸軍觀兵式や赤の廣場の大デモをマイクの前で叙述するソ聯作家の放送を中繼し、引續いて地方のメーデー祝賀の様を電波にのせてゐる。一つのマイクはモスクワ・ヴォルガ運河畔のドミトロフ市に置かれ祭日のモスクワを祝福する艦隊のサイレンを傳へ、ドンバスでは有名なトラクター運轉嬢パーシヤ・アングリーナがマイクの前に現れた。放送の間にアムール河畔のコムソモルスク市に働かんとする四〇〇名の娘をのせた特別仕立の列車で極東に向けられ、聴取者の耳には走れる汽車

の音、娘達の歌、その代表の演説が傳はつて來た之に續いて九歳のソ聯作曲家、デイマ・ターシンのスペインの爲につくられた行進曲が放送され、スペイン政府軍のミイアヤ將軍、詩人アルベルチ、レオン等の録音演説が放送された。赤の廣場からの放送は極東及スペインを唄つた多くの流行歌やモスクワ・ヴォルガ運河を唄つた流行歌を含んでゐたといふ事であり、夜は北極向の特別コンサートがコミンテルン放送局から放送され、午後九時モスクワからのメーデーコンサートが再び全聯邦に放送されたといふのである。その形式の大がかりな事、領域は全聯邦に涉つたものである點に於て我々は獨逸の實況放送を想起するが今此處に兩者を比較検討する暇を持たない。尙二三實況放送の例を述べねばならない。モスクワ・ヴォルガ運河建設勞働者の放送。マイクは工事地に据えつけられ、全部勞働者によつて組織された合唱團、管絃樂團、ジャズ團、或は勞働者歌手、朗讀家等によつてコンサートが放送され、運河

を建設するに當つて勞働者チエブリークが作つた歌「第一の舟を迎へて」が合唱されたといふ。次に北極遠征隊とのラヂオ連絡を擧げねばならない。五月三十日に北極遠征隊の爲に最初のコンサート放送が組織され、有名な藝術家、A・V・ネズグノバ、V・I・カチャロフ、M・O・ライツェン、A・B・ゴルデンライツェル、K・A・エル德里I・S・ゴズロフスキー及びブラツセルの國際ヴァイオリニスト・コンテストの第一等賞獲得者D・オイストラーク等が参加し、六月七日には北極を征服した遠征隊の爲に第二回コンサートがBW1局を通じて放送され、モスクワのみならずレーニンググラードとキエフの藝術家が参加し、北極からは二回のコンサートの後直ちにシュミット隊長のサインした感謝の無電がもたらされた。六月二十五日、北極遠征隊の、ソ聯飛行士ボドピアノフが操縦し、シュミット隊長シェレフ副隊長の搭乗する隊長機から、アルハンゲリスタ、モスクワ間の最後の行程が放送された。先づアルハン

ゲリスタク離陸後BW七〇局と無電で連絡をとり、全聯邦ラヂオ委員會の特派員の報告、シュミット、シェレフ、ボドピアノフ、スピリン等の遠征模様を機上より放送、續いて地上から着陸の様が放送された。モスクワ——北極——アメリカの第二回無着陸飛行の際にも、M・M・グロモフ、A・B・ユマシエフ及S・A・ダミリンの搭乗する「ANT-25」機とソ聯のみならずアメリカを含む多くの無電局が連絡し、受信したニュースが放送されてゐる。尙スターリン空路の超人的記録を完成し、兩大陸を北極に結び一躍ソ聯の英雄となつたバイドコフ、チエカロフ、ベリヤコフ等名飛行士のソ聯到着實況放送が七月二十六日實施された。先づ白ロシア黨中央委員會、白ロシア共和國中央委員會代表の參列した歓迎會がミンスタ局から中繼され、モスクワで録音され、續いて列車でモスクワに到着するやモスクワ委員會書記クルシュチエフ開始の下に黨中央委員會、人民委員代表の挨拶、等々によつてソ聯の勝利を祝ふ放送

があり、チエカロフが之に答へてマイクの前に立つた。かくの如く飛行機からの實況放送に止まらず、體育パレードの放送（七月十二日）とか、或はクリミアの南方海岸にあるピオネールのキャンプからの放送等があり、更に碎氷船にもラヂオの設備がある。バルチック造船所に於て造られた新碎氷船には全部技術的最新を誇るラヂオの設備が施されて居り、ヨセフ・スターリン號、ラサル・カガノウイツチ號上のもも略竣功に近づき文字通り浮べるラヂオセンターとなるであらうといはれてゐる。兩船共KWの短波送信機が備へ付けられ、之に依り北海路の主要地と長距離通信が可能となり、直接モスクワ或は北極の各局と通信を取ることが出来るわけである。のみならず氣象の測候、航海、航行中の船舶と連絡を取るKWの長波送信機及事故の起つた場合最寄りの陸上局と連絡を取る準備送信機も弱電力ながら備へつけられ、更に長距離受信用の短波長波何れにも特別感度の良いスーパーヘテロダイン受信機が設

備されるといふ事である。碎氷船上からの實況放送、碎氷船に依る特別遠征放送等も之により更に活潑に行はれるであらうと豫想される。

ラヂオ愛好者運動

ソ聯のラヂオ愛好者運動は、ラヂオ網の擴充及び廣汎な勤勞大衆へのラヂオ技術の普及に呼應して數年前よりコムソモール指導の下に、大衆に呼びかける實踐期に入つて居る。先づドニエプロベトロシアカヤ州モロチヤンスキイ區のラヂオ愛好者及び共營農場員のイニシアチーブの下に第十七回黨大會記念ソ聯邦ラヂオデーが催された。その目的は即ち各ラヂオ中繼所の中繼網を活潑にすること、集團的に利用する球式聴取装置を復興すること、鑛石式ラヂオ化に間斷なく協力すること、春季播種運動に絶えずラヂオを利用させること、にあつたのである。かくて此のラヂオ・デーには、専門のラヂオ修繕班はラヂオ・セット數千個を修復し、或るラヂオ中繼所の如きは一日で共

營農場内に三十ヶ所の聴取設備を施してゐる。尙此の日には聴取者會議が開かれ、ラヂオ修繕所が設置されたといふ事である。

かゝるラヂオ・デー以外にコムソモールのラヂオ委員會及びラヂオ組織者達はラヂオ技術講習に大童となつてゐる。即ちラヂオ愛好者は誰でも少くとも最低限度の電氣並びにラヂオ技術に關する知識を有さなければならぬといはれ、全ソ労働組合中央會議記念放送局(モスクワ)から之に關する講義が系統的に放送されたのである。そして全聯邦に涉つて此のラヂオ技術最低限度採擧専門委員會が創設された。かゝる氣運の昂揚と共にラヂオ委員會は「活動家・ラヂオ愛好者」章なる胸につける徽章を發行したが、之はラヂオ技術(最低限度)有資格者を意味し、ラヂオ愛好者運動及ラヂオ普及に積極的に活動した人々に授與され(其の數數百名に上つてゐる)、徽章佩帶者は聴取料免除の特典を附與されてゐるのである。

ラヂオ愛好者運動の波が次第に高まり行くにつれ、ラヂオ・サークルが續々と創設されるに至り今や其數、數百を算するに至つた。サークルはラヂオ技術(初步)研究、モールス信號研究、ラヂオ・セット設計の各サークルに分たれ基礎的研究に従事してゐるのであるが、中には「ジャワ」工場、トルモズヌイ工場等の優秀なラヂオ・サークルを産んでゐる。

ソ聯ラヂオ愛好者大衆のラヂオ技術機關誌として二週間に發行されてゐる「ラヂオ戦線」がある。創刊以來既に十一年を閲してゐる。此の雜誌は大衆、セット設計、ラヂオ技術理論、短波、テレヴィジョンの各部に分たれて居り、多數の優秀なラヂオ専門家や實際家から提供される材料によつて編輯されてゐるといふ事である。一年間の執筆者は著述家百名、技術通信員五百三十五名、労働通信員三百十四名に達して居り、讀者から編輯局宛の手紙は六、五一五通に上つてゐる。

計十五ヶ所のラヂオ技術陳列所設置を決議したといふ事であり、全聯邦ラヂオ委員會機關誌「ラヂオ・プログラム」は讀者の要求に應じて本年誌上にラヂオ相談部を開設、ラヂオ技術に關する質問に答へる事になつたといふ。

ラヂオ愛好者軍の前衛となつてゐるのは短波運動者達である。此の運動はラヂオ委員會所屬の短波中央局が指導し、愛好者間に於ける短波施設數約四百、三百名の愛好者が遠く濠洲、ジャワ、アメリカ、日本、バタヴィヤ、南アフリカ、ロンドン、マダガスカル等々と短波通信を爲してゐる。短波部中央局は既に三回に亘り全ソ短波運動者テストを施行したが、第三回のテスト——二十米の波長による歐露亞露間の連絡——は好成績を得たといふ。短波運動の指導は一九三五年春よりは國防化學飛行協會の手に移された。短波受信の例を擧げて置かう。例へば、ハリコフの電氣技術協會ラヂオ研究所に勤めてゐるコムソモールの短波フアン・オコロフスキーの如きは全世界の

遠隔なる國々と短波連絡に成功を収め、南米、北米、西歐、太平洋諸島の短波フアンと定期的連絡を續けてゐるが、最近、マルタ島の短波フアンのコール・サイン EDIV を受信し、マルタ島に於てもハリコフが明瞭に聴取されるといふ報告を齎らしてゐる。デョルデアに於ても本年アマチュア短波フアン部が組織され、濠洲、加奈陀、アフリカ、英、チエツコ、アメリカ、支那等との連絡が試みられて居り、タシユケントに於ても短波フアン、ヴラツフの如きは世界三百ヶ所の放送を受信し、南北アフリカ、ジャバ、バタビア等をも聴取してゐる。

ラヂオ業者の講習も行はれ、例へば本年三月から、デョルデア・ラヂオ委員會は十ヶ月の講習を開始してゐる。本年全聯邦ラヂオ委員會は第三回通信ラヂオ展覽會を催し、全聯邦のラヂオ・フアン、短波フアン、テレヴィ・アマチュア、録音アマチュア、ラヂオ専門家、ラヂオ・サークル等誰でも此の展覽會に参加する事が出来、アマチュア・セット、アンブリ

ファイアー、放送機、録音機等の説明が募集されつゝある。提出される出品物は構造の説明及プラン、外形及内容の寫眞をそへねばならず、優秀なものに對しては懸賞が與へられるといふのである。かくてソ聯の受信機も將來改良されて行くものと見做されなければならぬ。

國際放送

ソ聯の執拗あくなき對外宣傳は歐羅巴に於ても物議を醸してゐる。従つて國際放送の領域は極めて制限されてゐると看做すべきであらう。

本年一月九日にはキエフからチツコスロバキヤに向つて、チエコ作曲家スメターエ作曲のオペラ「賣られた花嫁」が放送され、ブラーグの新聞はヨリリツシュ指揮の此のオペラ放送の成功を掲載した。次に既に約束したブーシキン・コンサートの外國向放送について述べなければならぬ。コンサートのプロはブーシキンの原作に對して作曲した多くの作曲家(リムスキー・コルサコフ、チャイコ

フスキー、ムツソルグスキー、ダレゴミ
デンスキー、ルビンシュタイン、ボロー
デン、グラズーネフ、グレチャニコフ、
グリーンカ、コヴァル、ムラデリイ、ガイ
ロヴァ)の音楽によつて編成された。極
東、アフガニスタン、イラン、土耳其等
に對しては二月八日、コミンテルン放送
局(一七四四米) RNE局(二五米)
を通じて放送され、出演者は國立オペラ
劇場、ボルシヨイ劇場の歌手、音楽家ア
カデミーのカトルウカヤ・ペトロオヴァ
及び全聯邦ラヂオ委員會所屬のシンフォ
ニー・オーケストラ及合唱團であつた。
西歐及アメリカ向には二月十一日、コミ
ンテルン放送局(一七四四米)、RNE
(五〇米)、RWG(四〇・七六米)及RA
N(三一・二五米)を通じて放送され、民
衆藝術家A・V・メズダノオヴァ、N・
A・オヴクノオヴァ・名譽藝術家M・O・
ライツェン(國立オペラ劇場ボルシヨイ
劇場の歌手)、S・Y、レメシエフ及び全
聯邦ラヂオ委員會のシンフォニー・オー
ケストラがマイクの前に現れたのであ

る。此の放送は北米・佛蘭西に於て再放
送されたといふ事である。第三回シヨパ
ン・コンクールに出演したソヴェートの
ピアノリスト、ローザ・タマルキーナの放
送がワルシャワから二月二十八日にソ聯
に中繼されたが此の中繼放送の開始前に
タマルキーナの傳記が放送され、彼女の
教師ゴルデンヴァイツァ教授の彼女に關
する談話が中繼された。因みにタマルキ
ーナの演奏は録音工場によつて録音され
たといふ事である。

本年五月一日にはニュージランド大蔵
大臣ワルター・ナツシュ氏がマイクの前
に現はれソ聯の印象に就て語つた。此の
演説は短長波局を通じて國內のみなら
ず、歐羅巴、ニュージランド、濠洲及ア
メリカに於ても受信出来る様にし、翌二
日特にニュージランド向けに録音によ
る再放送を實施した。

以上を除けば本年に於けるソ聯の國際
放送と看做さるべきものは對米と對スベ
インとに限られて居る。ソ聯がスペイン
の人民戦線に深い關心を有してゐる事は

の子供の爲のスペイン語による第一回放
送が行はれた。放送は「リエゴ」で始ま
り、此の放送の爲にマドリッドからのラ
ヂオ・フオンによつてモスクワで特別に
録音されたレオンやアルベルチの演説が
あり、スペイン・フットボール選手の短
かい手紙がマイクの前でよまれ、北極の
ラヂオ・オペレーター娘イレーネ・ク
レンケルがモスクワの學童及ピオニール
を代表して、スペインの子供達に暖かい
挨拶を送り、スペインとソ聯の歌によつ
て放送が終了されたといふ事である。
ソ聯の對米放送については前號に一寸
觸れた。五月六日にはNBCの懇請によ
り、ソヴェイト作曲家のオペラからの抜
萃や歌、デエルデンスキー作曲の「静か
なるドン」、カバレフスキー作曲の「コラ
ス・ブレニオン」、ステパノフのバスマツ
チ等がダボドヴァ(ボルシヨイ劇場歌手)
及全聯邦ラヂオ委員會の獨唱歌手及合唱
團によつてアメリカに放送されたのであ
る。(前號にのべた如くRNE、RAN、
RKI局が之に當つた)。更に全聯邦ラヂ

オ委員會はNBCとの協定の下に五月十
二日RKI及RNE兩局を通じてアメリ
カ向にコンサートを放送した。コンサー
トは「三人の同志」「幸福を求めぬ人達」
「キヤプテン・グラントの子供達」「ゴリ
キイ・バイ」「サーカス」等の映畫の爲にか
かれたイサツク・ドウナエフスキーの歌
や行進曲、ブランター作曲の映畫「青年」
中の歌を含んだもので、出演者は、ドウ
ナエフスキー指揮のモスクワ地下鐵オー
ケストラ合唱團、クヴィキン指揮の全聯
邦ラヂオ委員會合唱團、ラヂオ委員會の
歌手デミアノフ、モスクワ・オペレッタ
劇場俳優A・ゲオリ等で、獨唱はドウナ
エフスキーのピアノの伴奏で放送され
た。六月二十七日にはソ聯の英雄チエカ
ロフ、バイドコフ、ベリヤコフを記念す
るコンサートをアメリカ向に中繼した。
プロは「エヴィア行進曲(カイト作曲)」、
「北極」(クルーチェン曲)、「モスクワ夏
の歌」(クニツペル曲)、「祖國の歌」(ドウ
ナエフスキー曲)、「スターリンの歌」(レヴ
ツキー曲)等である。NBCは翌二十八

勿論いふ迄もない。三月二十八日及四月
十四日にスペイン向のラヂオ・コンサー
トが放送されて居り、六月十七日にはク
リミヤのピオネールのキャンブに居るス
ペインの子供に對して放送してゐる。三
月二十八日のプロの内容はスペインの古
典並に民衆音楽、新しいスペインの革命
歌、ソ聯作曲家によるスペインを歌へる
歌、スペイン及ソ聯詩人の詩等でマリア・
テレサ・レオンの録音放送が例によつて
利用されてゐる。四月十四日はスペイン
共和國創立記念に當り、全聯邦ラヂオ委
員會は大ラヂオ・コンサートを放送した
のである。プロの内容はスペイン作曲家
アルペニツァ、グラナドスの作品、スペ
イン詩人ラファエル・アルベルチ、ルイ
ス・デ・タビア及ガルシア・ロルキー及
スペイン共和國歌「リエゴ」のグラマフ
オンレコード、民謡及スペイン革命歌等
を含んだものであつたといふことであ
る。六月十七日には、現在クリミアの南
岸のアルチョーク・ピオネール・キャン
プに於て休暇を送つてゐる革命スペイン

日、彼等ソ聯飛行士を記念してワシント
ンで催され、アメリカ新聞、文學界代表
約二百名の出席した宴會の模様をソ聯に
中繼したといふ事である。

最後に注目さるべきは、ウクライナ・ラ
ヂオ委員會、白ロシア放送局に於ける反
ソ宣傳事件である。キエフ、ハリコフ、
ドンバス、チエルニゴフ其他ウクライナ
各地の放送局に於て種々の政治ニユース
が歪曲され、赤軍が誹謗される等の事件
を惹起し、全ウクライナ・ラヂオ委員會
議長ダレクンは免職職を掠奪されたとい
はれ、白ロシアに於ても同様の事件が
摘發されたといふのである。

宗 教

新憲法と宗教

一九三六年十二月五日、ソ聯邦臨時第
八回ソヴェイト大會で確認された所謂ス
ターリン民主主義新憲法第二百二十四條に
は、「人民に對し良心の自由を保障する
爲、ソ聯邦に於て教會は國家より、學校は

教會より分離せられ宗教的儀典舉行の自由及反宗教的宣傳の自由は全人民に對して認めらる」と明白に規定されてゐるが、これを、一九一八年憲法が「宗教的及反宗教的宣傳の自由」を認め、一九二五年憲法が「信教及宗教的宣傳の自由」を認めたのに比べると、ソ聯當局が宗教問題を取扱ふ態度に於て漸次これを公的世界より私的世界に追ひ込むと共に、人民の宗教的關心を内容化させずに形式化させる（即ち宗教の政治化を抑へてこれを娛樂化させる）方針を執つて來たことが看出出來、かくて新憲法による宗教的儀典執行の自由確認、僧侶の選舉權獲得等と相俟つて、宗教儀式による冠婚葬祭の再流行、基督降誕祭、同復活祭、教會禮拜の活潑化等、恰も宗教復興の觀を呈するに至つたと傳へられてゐる。

宗教運動の現状

現在ソ聯邦には三萬以上の宗教組織及團體が存在し、各宗教團體は二十名以上より成る教會會議を存し、六十萬以上の

活動分子を擁してゐる。ゴリキイ州の如きは約一萬の活動分子あり、内男子一六四%、女子一三〇%で、而も都市に於ける教會會議の大部分は女子が之を占めて居り、その活動分子中六〇%は五十歳以上、約三分の一は三十歳乃至五十歳、爾餘の部分を青年が占めてゐる。教會會議の構成員中労働者は四%、コルホーズ員は約四〇%、尼僧は二、三%で、教會長老中四、五%は労働者が之を占めてゐる。

教會組織は宗教宣傳に百年に亘る豊富な經驗を有する特殊の俱樂部であつて、司祭は祈禱をなし、讚美歌を歌ふのみならず、説教を行つてゐる。宗教團體の集會所は往々俱樂部等より見事で、宗教畫等を掲げ、コーラスを行ひ、青年及職業的歌手の注意を惹いてゐる。又今尚或る村落では學校兒童の大部分が教會に行き、精進潔齋し、聖餐を受け宗教儀式を執行してゐる。

宗教家の活躍

近年ソ聯邦に於ける宗教家の活躍振り

た例もある。

教會再開と宗教儀式復活

上述の諸事實に徴しても、ソ聯に於ける僧侶、宗教家の活躍は容易に想像され得るが、新憲法の確立により、彼等の行動は更に活潑となり、以前閉鎖された教會の再開を企圖し、教會の修理再建資金を集め、説教の論題、憲法問題の對話を作つた。教會は表面忠實を装ひ、ソ政権の永續を宣し、新憲法を賛し、憲法條文中自己の爲になる部分を詳説し、これを住民に説教した。即ち、「ボリシエヴィクの勝利は神の慈悲によるものなり」「ソ政権は常に合法的なるのみならず、神の定め給へる權力なり」「ソ聯建設の成功は神の恩寵によるものなり」等々と種々巧妙な説教の言葉を並べ、官憲の忌諱に觸れるやうな文句は絶對に之を避けてゐる。また基督は大工の息子なり、プロレタリア出身なら、基督は最初の共產主義者なり等と基督教のモダン化に努める僧侶も現はれて來た。

宗教が多數住民、殊に農村、婦人間、

は眼覺ましいものがあり、その實例を舉げれば、先づ一九三五年クリミア某驢粗村では十七人のピオニールに割禮の式を強制したり、又某コルホーズでも三十七名の生徒に割禮を執行したところ、生徒等は二週間以上も病症に就いたといふやうなことがあつたが、こんなのはまだ手緩い方で、多種多様な手段で各方面に喰ひ込み、或る共營農場の代表者は同時に教會評議會の代表者であつた、或る代表者の如きは正教僧の家で農場員達に聖書を讀んで聞かせた、或る村では僧侶が毎晩若者達を集め、手風琴を演じ、農村クラブに聖歌團を組織してをり、その中には共產青年同盟員も参加してゐる、「僧侶は我々よりも教養が高いから彼を利用してねばならぬ」といふ黨組織員までも出て來た、極東地方でも福音布教者團は信徒に對し宗教的祝祭日には働かせまいとし、ウオロシロフ記念工場の如きでは復活祭の日に一職場で三十二人も若い労働者の缺席があつた、各宗教の傳導者達は労働組合にさへ這入り込んでゐる。例

へばハラググと言ふ一宗徒がイマンスク木材工場の労働組合代表兼労働監督だつたので最近の三年間に一回の労働組合會議も開かれなかつた、またイマンの地區執行委員會代表者達は宗徒の祈禱會に出席した、更にこの地方の戰鬪的無神論者同盟員達も宗教運動に援助を與へたり、ハバロフスク市電信クラブ會長の如きは反宗教展覽會の開催を禁止したりした、この外私營農のコルホーズ加入を抑制せんと努めた一部の者は近く世界の危機があると流布したり、ジョルジヤの一地方では日蝕時洗禮しない子供は皆永久に眠るべしと蜚語を放つたり、最近キエフ州の裁判は某長老が不時の死は救なりと説法して二十人餘を殺害せしめた犯罪を曝露したり、驢粗の一福音主義者は祈禱を讀經するとして、浴場でピオニールの息子を殺害し、この犯罪を宗教的動機によるものと公言したりした。尙ほ一九三六年イワノフ州某コルホーズで雨乞の道具を集め、七月二十六日教會で祈禱が行はれ、婦人コルホーズ員の一部が出席し

民族地方に保存せられてゐる所から、僧侶は之を利用し、最近に到り、その信徒組合及收入（年額數億留）の保持増加を圖りつつあり、憲法で法律化された宗教儀式舉行の自由な旗の下に、僧侶は國民並に社會主義建設に對し妨害行爲を積極化し、例へば、クイブイシエフ州では活潑な教會再開運動が開始され、革命中閉鎖された一千七百七十三ヶ所の教會中三百二十五は事實上活動を續け、今日教會開始に關し代表者として活動してゐるのは三三六人である、又以前宗教を抛棄した者が再び僧侶の影響下に宗教儀式を執行し、共產青年同盟員某の如きは教會に於て結婚、教父として兄弟の子を洗禮した、更に僧侶並びに之等宗教復歸者は今や再び布施乞ひの古典的方法を復活し、諸地方に聖像復興し、聖泉巡禮も發生、靈驗による治病も再開された。モスクワ州スターリン・コルホーズ（優秀なる農園で表彰をうけた）のあるサンスコエ村では結婚及葬儀は常に教會儀式で行はれ、一昨年の結婚數五十一件中、教會によるも

の三十七件、又、昨年度四ヶ月間の結婚
數二十六件中教會によるもの二十一件あ
つたといはれてゐる。

反宗教運動の現状

ソ聯反宗教運動の指導機關は一九二九
年結成された戰闘的無神論者同盟で、反
宗教大學三十五校、同中學八十九校、同
博物館三十四館が之に所屬し、現在聯邦
内に同盟員約二百萬人を擁してゐると言
はれ、機關紙「無神論者」月刊、一ヶ年
分一冊を發行、ヤロスラフスキがそ
の主幹である。

最近反宗教運動の經過

前記ヤロスラフスキは最近に於ける
ソ聯民衆の信仰狀態、僧侶階層の活動に
就き概要左の如く注目すべき諸事實を列
舉してゐる。

「第一次五ヶ年計畫中反宗教運動者は
「共青降誕祭」、「共青復活祭」等の大衆運
動を行ひ、地方によつては專斷的に聖像
を住民の住宅より放逐する等の舉に出た
所もあるが、共產黨は聖像の除去は短期

農村中には僧侶の住居してゐない村落
が多數あり、村民中にも自己を無信仰者
と自任し居る者が多い。出生及死亡は
戶籍登録役場に登録し、宗教祭日は存在
してゐない。一九三二年春、中央黒土州
のホルホーズ八百について調査したとこ
ろ、其七五%は春時時、農繁期中、宗教
祭日にも勞働して居た。」

共產黨の反宗教運動

強化方針

ヤロスラフスキは更にソ聯共產黨書
記長スターリンの意を體し、大要左の如
き新方針を以て宗教機運擡頭に對處せん
としてゐる。

「ソ聯政權の敵は政治—啓蒙、教育運
動の些細な弛緩にもつけ込むのである。
然るに黨並に共青同盟の諸團體は反宗教
宣傳を放任し戰闘的無神論者同盟は諸地
方に於て活動分子を失つた。時に決議等
を採譯することはあるが、黨及共青同盟
の諸團體並に學校が最近極めて弱体化置
されてゐた反宗教宣傳の方面に所要の注
意を向けて居たとは愆目にも云ひ難い

間の運動によらずして長期間の宣傳、勞
働者の深き自覺に待つべきものであると
なし、斯る運動には賛同しなかつた。右
の如き運動と、同時に無神論者並に聖職
者をも含む大衆的反宗教論争が行はれた
が、反宗教運動も社會主義の攻勢と共に
漸く系統的宣傳煽動を行ふに至つた。

戰闘的無神論者同盟が組織せられたの
は此の時である。勿論反宗教宣傳を行つた
のは該同盟に止まらず、黨及共產青年同
盟の諸組織も亦之に参加した。
宗教思想の溫醸成長を促す社會的根柢
は、レーニンの再三再四指摘せる如く、
資本の盲目的な力、即ち勞働大衆階級及
小經營者の生活を一朝にして轉落せしめ
る力であるが、斯の如き社會的根柢はソ
ヴェート聯邦に於ては既に根絶してゐる
ので、第二次五ヶ年計畫の政治的基本課
題は國民經濟並に人間意識に於ける資本
主義的殘滓の克服である。ソ聯邦に於て
は數百萬の信者中反動宗教の信奉者は一
萬に止まらないのである。自覺した農
民、ホルホーズ員は不作、旱魃、大雨の

である。勞働組合も亦該宣傳が大衆間に
於ける政治—啓蒙運動の一部なることを
無視し、從來宗教祭日が一再ならず勞働
規律に反映せることに屢々目を閉ざして
居た。反宗教宣傳は尙敵の影響下にある
最も遅れた大衆間に於ける吾が黨宣傳の
一部を成し居るものである。而して現階
段に於ける反宗教宣傳の任務は宗教を離
脱した數千萬の勤勞者が會て宗教の立場
からしたものを唯物論の立場より見直す
ことを未だ會得せずとの點より出發しな
くてはならない。之が衝に當るべきは獨
り戰闘的無神論者同盟のみではないが、
該同盟は率先して共產主義宣傳の一部門
として反宗教宣傳の質を高めなくてはな
らない。

信仰者に對する反宗教宣傳は宗教イデ
オロギー、宗教的迷信の害を全面的に説
明し、教會及宗教の歴史的反動的役割を
舉出し、其の現代に於ける假裝を暴露す
るにある。今日反動的、宗教的イデオロ
ギー及宗教的迷信は勤勞者の生活改善を
妨げ、之を舊時代へ引戻さんとするもの

年に際會しても、此の自然力を解決する
には計畫的闘争、高度の農業技術あるの
みで、過去に於けるが如く雨乞其の他の
祈禱を以ては何等効果なきことを知るに
至つた。然し大衆の社會は經濟活動に於
て計畫性及意識性は今日既に完全に實現
せられたかと云へば、未だしと答へざる
を得ない。此の計畫性、意識性を強化す
ることこそ反宗教戦線に於ける成功を保障
するものである。

今ソ聯邦に於ける反宗教宣傳の成功は既
に蔽ひ難き事實である。成人の約半數は
宗教と訣別し、子供は凡て反宗教の雰圍
氣中に教育せられてゐる。數年前の各地
方調査資料に依れば、白ロシヤに於ける
二十都市の勞働者及二百二十ヶ村のホル
ホーズ員について見るに、無信仰者は六
五、四%（内男一六九%、女一五六%）で
あつた。一九二九年モスクワの大工場勞
働者一萬二千人に關する調査に依れば、
其の八八、八%が無信仰者であつて、其の
中非黨員勞働者中の無信仰者は八四、一
%であつた。

であることを證明しなくてはならない。
大衆的通俗的文獻の發生普及を強化して
自然現象を説明し、國民經濟に害をなす
自然力の克服方法を示さなくてはならな
い。宗教が神は永遠の法を定め、人間は
之を改むるを得ずと教へるのに對し、現
代科學は常に世界を解釋するのみなら
ず、之を勤勞者の爲に再生するものであ
ることを示さなくてはならない。此の解
釋運動は信仰者の文化水準、各地方の宗
教の特殊性を考慮しなくてはならない。
之が爲戰闘的無神論者同盟は特に「農民
新聞」「ホルホーズ員」「農村婦人」「コ
ムソモリスカヤ・ブラウダ」等の新聞雜
誌の取扱ふテーマに留意しなくてはなら
ない。

勞働組合も其の文化、啓蒙運動中に、
又學校は書物を通じて、反宗教宣傳を怠
つてはならない。反宗教文庫及展覽會を
企て、諸市に反宗教博物館を設け、更に
是等機關に於ける職員の質を向上せし
め、モスクワ中央反宗教博物館及レーニ
ングラード宗教史博物館を更に充實せし

めならてはならない。教會は新憲法が僧侶其他に對し選舉權を附與し、宗教的儀典舉行の自由を確保せることを機會乘すべしとなし、國家は今や反宗教的煽動の自由を許さざるに至つたのだと反ソヴェト煽動を行つて居るが、之に對し共產黨は共青同盟は反撃を加へなくてはならない。」

最近の問題

國勢調査と宗教

三七年ソ聯で施行された國勢調査を機會に、宗教調査も行はれたが、此の問題に對するソ聯國家の態度は新憲法の第二百二十四條に「人民に良心の自由を保障するためソ聯邦に於ては教會を國家より、而して學校を教會より分離す。宗教儀式執行の自由及反宗教宣傳の自由は之を總ての人民に認む。」との明文に依つて明かである。ソ聯邦に於ては曾て宗教撲滅運動、無神運動を盛んにやつたが今日は教育や文化の發展、富農の清算と相俟つて(共營農場等)にも農村青年は専門知識の

吸収に忙しく、念佛を唱ふる暇がなくなつた)宗教及宗教團體が反ソ運動の巢窟となるが如き憂ひも無くなつたため、黨部、政府とも此處に從來の宗教政策を緩和して、浮世に野心の無くなつた老年者や、基督降誕祭の賜物に喜ぶ幼年や一般の善男善女には昔戀しき教會の鐘くらゐ自由に聞かせてやるのを得策と考へるに至つたのだらう、別言すれば、之は過去二十年餘りに政治性濃厚なる祭日儀式のみの連發に食傷して居る民意を多少とも和暢せしめるには、寧ろ宗教儀式の執行を娛樂的年中行事として採用するに如かずと考へた結果であらう。

ヤロスラフスキイ演説

三七年九月モスクワで政治教育家會議が開催され、席上、戰闘的無神論者同盟會長エム・ヤロスラフスキイが、最近ソ

聯に於ける宗教復興に對し、反宗教宣傳擴大強化の必要を左の如く力説した。「反宗教宣傳は一九三〇年から次第に減退して來た。或る者は、人々が共營農場にはいれば、反宗教宣傳は必要がなくなる、と考へたし、又他の者は教會を閉鎖しさへすれば、宗教がなくなる、と考へてゐた。その間に國內には反動分子の影響下にある宗教團體が次第に増加し、今では既に三萬團體を數へるに至つた。反宗教宣傳の弱体化は第一に戰闘的無神論者同盟、教育人民委員部、また共產、青年同盟勞動組合の責任に歸するものである。反宗教宣傳は政治教育事業の最重要部分である。此の宣傳は共營農場クラブ、讀書の家、文化の家の仕事の大部分を占めなくてはならぬ。目下大衆的反宗教書の大出版計畫を作成中で、之に關する教科書が近日中に十萬部發行される豫定である。」

同教徒の宗教運動

ソ聯反宗教運動の不振と宗教熱の復興が屢々傳へられてゐるが、最近またフェ

オドシャといふ一都市では二千人を超え、多數の戰闘的無神論者同盟員が一人として反宗教宣傳を行はず、多數の同教徒宗教運動を黙認してゐた事實が指摘され問題となつてゐるが、同教徒は一般に狂信的であり、之を彈壓する時は民族的暴動を起す恐れが多分にあるので當局者も痛し痒しの状態で、民衆の自覺を待つより他に方法がないと稱してゐる。

ソ聯反宗教博物館の移轉

舊ストラスト寺院内にあつた全聯邦反宗教中央博物館は三七年十月カリヤエフスキー通りに移轉、會場を擴大すると共に内容も豊富にされたが、その中で最も興味あるのは宗教裁判に關する陳列品である。ラマの面、僧衣七十種以上も陳列されてをり、その他チベツト、蒙古語で書かれた珍本三千冊ノヴォ・スパスク寺院から持つて來た一七世紀ロシアの壁畫等興味あるものである。

近く博物館は大展覽會を催す準備をととのへてゐる。

スポーツ

赤色スポーツの特徴

ソ聯スポーツの特異なる點は、他の國に於けるスポーツが英雄主義、記録主義又は選手偏重に傾いてゐる事實に對し、從來生産への一段として從屬せしめてゐたソ聯スポーツが更に一步進んで「勤勞及國防」のスローガンの下に選手偏重主義を排撃、廣汎なる大衆全般の體育に主力を注ぎ一路國防スポーツへの發展を辿つてゐる事にある。

内亂時代から新經濟政策時代一五ヶ年計畫時代とソ聯血みどろの建設の過程に幾多の困難と辛酸を嘗めて來たソ聯一般大衆の體力は、たとへスターリン一流の宣傳工作を以つても其の必然的體位低下を否む事は出來ない。こゝに於てスターリン、政府、黨主腦部では富國強兵の基礎たる國民體力の向上を圖る爲には體育競技は重大なる意義あるものとして從來の生産一段へのスポーツより一

轉、こゝに富國の源一労働力一國防力の一石二鳥を視つた新段階への劃期的飛躍即ち勤勞及國防へのスポーツへと再出發したのである。

政府側から教育人民委員部所屬全聯邦體育競技委員會、民間側から労働組合所屬各競技團體の指導下に其の發達を奨勵、其の隆盛振りは近時目覺しく體育團體二萬二千、競技場四千、水泳場八百、體育室二千五百を數へ、記録的にも世界的水準に迫りつゝあり、既にズナメンスキー(陸上)ポイチェンコ(水泳)アレシナ(水泳)クズネツォワ(スケート)スタロスマイ(蹴球)其他世界的選手が輩出するにいたつてゐる。

此の國防スポーツの隆盛を示すものとして又次の如き事があげられる。一九三五年七月六日、三六年七月六日、三七年六月十二日の三回に亘つてモスクワ赤色廣場に行はれた全聯邦體育行進祭には數十萬の青年男女が參加、富國強兵のユニフォームを着け、示威行進を行ひスターリン、ウオロシロフ、モロトフ等政府首腦

部の檢閲下に新興ソ聯の健康と若さと意氣を示した。政府では奨励策としてスポーツ選手には資格として「G・T・O」章(ゲ・テ・オ章)勤勞と國防の準備はなれりの略語を與へ一般スポーツマンと區別をしてゐる。次に掲げるのは一九三七年五月ブラウダ紙社説で、ソ聯スポーツ界の動向を知らんとするものにとつて甚だ興味がある。

「今夏(一九三七年)には「GTO」章所有者間の個人團體競技、都市集團體操、ソ聯杯フット・ボール大會、大自轉車大會、六月十二日赤の廣場に於ける全聯邦各首都體育行進祭が行はれる事になつてゐるが、かゝる機會を逃さず政府當局を初め各競技團體は率先して廣汎な組織的スポーツ宣傳を行ひ、從來の選手偏重主義を一掃し新に數百萬市民をスポーツ生活に引入れる様にせねばならぬ。我國人口の約半分は青年であるのにゲ・テ・オ章所有者が僅か四、五百萬人に過ぎぬ現狀は大いに打開せねばならぬ。共營農場でもスポーツ熱は旺盛を極め、多數の運

動場、競技場が設置され體育團體は二萬二千を數へるに至つたが、まだ指導が充分でない。ソ聯邦のスポーツは國家的事業であり體育としての國內ツーリズムに關しては當局者は大いに支持を與へる。又運動家の政治教育は非常に不充分である。我々に必要なのは單なる運動家ではなく、心身共に強健にして、黨に忠實で、常に祖國防衛に備へてゐる人間である……」

又ソ聯邦の體育及運動は國民體位の向上によつて國防能力及勞働能力の増大に資せんとする意圖を卒直に宣明してゐるのは、ソ聯邦が體育及運動の奨励普及を目的とし又身體の鍛練及體位向上の指標として一九三一年に制定した、前述の(全聯邦體育評議會)「勞働及國防適合章」の制度である。此の制度は體力検査の標準となるべき速力、身體の器巧性、力及耐久力と他面普通教練及軍事教練に對する知識及熟練程度を検査する十五科目、(短距離及遠距離の諸種の競走、投擲競技、ジャンプ、漕艇、重量物運搬、スキ

1、防毒裝身の歩行、自轉車及騎馬競争等の實科並に軍事知識、スポーツ知識、應急手當法の知識等の學科試験を含む)の綜合試験を行ひ特定の標準に合格した者に對しては、勞働及國防に適合する者として所定の徽章「勞働及國防適合章」を授與するものである。尙體位の標準は高低二級に分たれて第一級適合章(低)及第二級適合章(高)の二種類がある。ソ聯邦に於ては此の制度の效用を重要視し、今後益々之が發達普及を計らんとすると共に、現在の適合章の體力標準は著しく一般青少年の體位の向上を來したソ聯邦の現在に於ては低位に過ぎるものとして本年末よりは一層高度の標準に改正を見んとしてゐる。(一九三七年七月十二日イズヴェスチヤ紙)

第一級勞働及國防適合率の完全合格者數

一九三二年	一、五八、〇〇〇
一九三三年	一、七〇、〇〇〇
一九三四年	一、八〇、〇〇〇
一九三六年	三、〇〇、〇〇〇
一九三七年(七月)	四、五〇、〇〇〇

發展への段階

イ 革命前

「勤勞及國防の爲に」……と言ふソ聯獨特のスローガンの下に最近目覺しい發達を遂げ、世界スポーツの水準に迫りつゝあるソ聯スポーツも、革命(一九一七年)前は實に貧弱そのものと言つてよかつた。

即ち革命前までは、モスクワ(昔のペテルブルグ)、ハリコフ、ロストフ、キエフ、其他數ヶ所の都市に於て小規模の體育團體があつたが加盟者は數十人に過ぎず、主として中等學校學生と知識勞働者が之に参加してゐた。参加人員の少い結果としてスポーツの種目も従つて非常に少く、當時廣く行はれた競技はスケート、スキー、フットボール、體操、ジャンプ等であり大衆はスポーツの發展に注意を向けてゐなかつた……と言ふよりはスポーツそれ自身が大衆の生活にとつて縁遠い存在であつた。

ロ 革命後より現在

文 化

國內戰が終了し、今迄革命の爲一時停止してゐた全産業が漸く復興し始め、廣汎なる大衆の生活が比較的に樂になると共に、ソヴェト青年達の間にはスポーツ熱は急激に喰入り遂に一九二三年六月七日全露中央執行幹部會の決議に基き同幹部會附屬の最高體育委員會が組織されるに至つた。委員會の構成メンバーは人民の體育事業に關係ある機關の代表者で、教育人民委員部、保健人民委員部、勞働組合及他の機關代表者も参加した。州、縣、郡、地方の各ソヴェト機關内にはこの最高體育委員會の地方機關として、體育委員會が設置されて居り、それが各勞働組合關係(工場、鑛山、交通機關、職場等)の下級體育團體やコルホーズ、ソフホーズ、大、中、小學校内の體育團體を指導して體育の生産への適合競技の組織、スタヂオの新設擴張、指導者の養成、文献の發行を始め體育の正しい普及と發展に努めた。最高體育委員會によつて下級機關に發せられた一九三〇年の指令は、スポーツを生産への一手段として

限定してゐる點に於て注目せらるべきであつた。之は新經濟政策を終へ第一、五ヶ年計畫(一九二八年開始)の遂行にソ聯の運命をかけた政府首腦者が右計畫圓滿遂行の爲には強力なる勞働力を必要とし生産者の體力強化維持を圖る爲にスポーツを利用したと見てもよからう。一九三〇年の指令の要目は次の如きものである。

(一)生産戰線に立つスポーツマン突撃隊に引入れる事、(二)スポーツの爲勞働者を生産から引離す事は絶対に避ける事(三)十月一日を期し體育デーを舉行する事

此の指令に依つても明な如く當時のソヴェトスポーツの特徴はそれが生産や勞働生活の最も密接なる有機的聯繫の下に發展を企圖せられた事である。

斯くして體育及スポーツはソ聯廣汎なる大衆の必須物となると共にスポーツ競技に於ても逐次優秀なる成績を示し赤色スポーツ・インタールに加盟する各國との、又ソヴェト各共和國、各都市、各工場

間のスポーツ競技は隨時隨所に行はれ陸上、水上、其他各種目に新記録を作つた。

一九三四年七月二十四日のブラウダ紙は「最近ソ聯邦の黨及政府は勤勞者の生活状態及び健康に大なる注意を拂つてゐる。其の結果今日では體育スポーツは一般民衆の間に普及して「勞働及國防準備」體育會の如きは五百萬の會員を擁するに至つた。體育費も巨額に上り一九三四年國家豫算のみでも二千四百萬ルーブル以上で達しスポーツ器具の生産も本年二億ルーブル以上になつてゐる……ソヴェート體育はブルジョア・スポーツのレコードに追着き超越す事を目的とし近年優秀なる成績を獲得するに至り最近一年間に數十のソ聯邦新記録が生れた今日迄我々の作つた世界的記録はプロレタリア・スポーツ技術を一層向上せしめる爲の端緒に過ぎない。ソヴェート・スポーツマンは世界の優秀なるスポーツマンたる事を目指してゐる。これが爲ソヴェート政府は「功勞スポーツ・マスター」の稱號を

制定、體育運動の向上を圖つてゐる。斯くしてソ聯に於ける體育文化及スポーツ技術は次第に向上してゐる」と報告をしてゐる。

此の報告に依つてみるとソ聯體育スポーツは第一五ヶ年計畫時代の生産への一手段より又更に國防の目的に副ふたスポーツへと進展を開始した痕跡を認める事は難しい事でない。事實翌一九三五年七月六日モスクワ赤色廣場に開催せられた一大體育スポーツ行進祭にはモスクワ、レニングラードを中心とする青年男女十五萬人が参加しソ聯スポーツ始つて以來の大規模であつたのみならずソ聯スポーツの進むべき路即ち前述の勤勞と國防を示したものととして注目せられた。

體育文化學校はどしどし全聯邦偶々に建設されスポーツマンはこゝで教育、訓練を受ける事となり又體育指導者専門研究家を養成した。

一九三六年四月モスクワに出來たスターリン體育文化中央研究所はこれらの體

育文化學校に對する中心の研究所とも言ふべきで、研究所では幾多の青年男女がいづれも眞剣に體育文化問題を研究してゐる。

一九三六年六月ソヴェートスポーツ育の親である最高體育委員會は中央執行委員會の手より離れ人民委員會議の手に移つた。

(一) 全露中央執行幹部會附屬の全聯邦最高體育委員會を廢し、人民委員會議の下に全聯邦體育スポーツ委員會を設置す。
(註、委員會議長はゼリコフ・ア・ウエ
||一九三七年十一月現在)

(二) 委員會に各勞働組合、共青同盟スポーツ團體代表、各共和國代表よりなる協議會を設置す。
(三) 各共和國、自治共和國、地方、州の執行委員會及、場合に應じて市ソヴェート又は地區執行會内にも同様の體育スポーツ委員を設置す。

斯くてソ聯各種スポーツ團體及組織は全部之の機關に統制され指導され一路國策スポーツへと發展を目指してゐる。
ソ聯スポーツの現状

落下傘に、グライダーに、自轉車に、

ソ聯スポーツの範圍は著しく廣大で且つ其の競技熱は猛烈である。恐らくソ聯に於てはスポーツと名を付けられたもので行はれてないものはない。陸上、水上の各競技を始めスケート、スキー、射撃、テニス、蹴球等、其の競技種目は二百種類以上に亘り記録に於ても世界の水準に迫り、或は破る等目覺しいものがある。

一九三七年ベルギーのアント・ワープに開催せられた「第三回國際勞働オリムピック」に於てソ聯スポーツは陸上競技、蹴球等各種目に優秀な成績を収めた。

一九三七年六月十二日、モスクワ赤色廣場に於て第三回全聯邦體育スポーツ行進祭が舉行されモスクワ、レニングラードを始めとし遠くは中央アジア、トルキスタンの青年男女四萬五千人が参加し一大スポーツ繪巻がくりひろげられた。次に各種目別に分けソ聯スポーツの現状及水準を示して見る。

文化

陸上競技

(男子)

ソ聯陸上競技界の人氣者はズナメンスキー兄弟(長距離五千米一四分五秒、一萬米三一分五〇秒)とリュリコ(百米一〇秒六、二百米二一秒六、走巾跳七米二、五)で其の記録も決して悪くはない。一九三七年五月、クズリンは四米一〇の棒高跳ソ聯新記録を作つた。同五月、男子六〇米競走でゴロヴキンは六秒のソ聯新記録を、同六月赤兵カナキは砲丸投に一五米四六ステパンチエノクは百十障害に一五秒七のソ聯新記録を樹立した。

(女子)

六千米 七、六秒 マリヤ・シヤマノワ
百米 一一秒 ボリソワ

水上競技

(男子)

水上競技に於ては幾多の世界記録と優秀記録を持つてゐる(但しプールの大きさもわからず又計時の方法にも疑問があるから確實性は薄い)

百米自由型 五九、一秒 ボリソフ

二百米自由型 二分一七秒五 同

二百米平泳 (世界記録) ボイチエニコ

四百米背泳 (世界タイ記録) ボリソフ

(女子)

百米自由型 一分一〇秒八 アレシナ

二百米自由型 二分四九秒 同

四百米背泳 (世界タイ記録)

重量揚

三つの世界記録がある。

▽シアトフ(ライト級)左手七八・四疋、

従來記録はエシマン(スイス)の七七・

五疋

▽ボ、フ(ライト級)兩手一二・三疋、

従來記録はフエイン(埃)の一〇〇疋

▽ウラヂミル・クリロフ(ミドル級)左

手揚八七・九疋、従來記録フットネル

(獨)八七疋

落下傘

此のスポーツはソ聯獨特と稱しても差支へない程一般に普及されつゝある。パラシュート降下と言へば普通飛行機より降下することを考へるが、ソ聯ではパラ

シュート降下臺、パラシュート、カタパルトを案出。獨特のスポーツを創り上げた。パラシュート臺は高さ三〇米―六〇米で既に全聯邦に亘り何萬と建設されて居り其他パラシュート技術を養成する爲の學校が二十校あり修業者は四十萬人を超えたと言はれてゐる。一九三六年八月にはパラシュート大會が催され、團體、個人の高低降下記録競技が行はれた。最近一ケ年間のパラシュート降下を行つた者は飛行機で一萬六千名、塔で八十萬名の多きに達したと。

飛行機に依るパラシュート降下レコードに於てもソ聯は幾多の世界記録を樹立してゐる。最近のレコードを掲げて見れば
(一) 一九三五年四月一日
ソヴェート女流飛行家フェドロヴァ嬢は酸素吸入なしに六三五〇米の高空より降下、女子世界記録を作る。
(二) 一九三五年六月九日
コスルカ氏はモスクワ郊外にて七四四五米の世界記録樹立。

だ。
五〇〇米四八・二秒(クズネツォフ)三
千米五分四四秒(バロモワ)は世界的記録である。一九三七年、全聯邦スケート大會はモスクワにて舉行され参加選手は一二〇名内(女子三六名)。當日の記録は左の通り。
(男子)
五〇〇―四三・二秒
一、五〇〇―二分二二秒二
五、〇〇〇―八分三六秒八
一〇、〇〇〇―一分八分七秒
(女子)
五〇〇―四八秒四
一、〇〇〇―一分四五秒
三、〇〇〇―五分四六秒五
五、〇〇〇―一分一六秒四

世界的水準には遙か遠いが近年目覺しい發展を遂げつゝある。一九三六年ソ聯を訪問し模範試合に妙技を振つた世界的名選手アンリ・コーシェ(佛)は一九三七年夏再び招待されモスクワ赤色廣場中央會館スタジアムに特設されたテニス學

(三) 一九三七年七月二十九日
カイトノフ中尉は九八〇〇米の高度より降下世界記録作成。
(四) 一九三七年八月二十四日
同じくカイトノフ中尉はレニングラードに於てM・I・スキテス氏操縦機より一〇一〇三七米の世界新記録を樹立した。
グライダー(航空事業参照)

近年特に目覺しく進出してきた競技で、ソツカー、ラグビー兩方共行はれてゐる。國際的にも優秀なチームをもつこととに於てソ聯の誇の一つである。一九三七年、ベルギーのアントワープにて開催された「第三回國際労働オリムピック大會」に於てソ聯蹴球チームは、參加國英國、佛國、ベルギー、スペイン、ノールウエイ、スイス、フィンランド、チェッコ、ポーランド、デンマークの諸豪を抑へ優勝した。その時のメンバーは左の如くである。
ゴールキーパー―アキモフ

蹴 球
校初代校長として、ソ聯の最優秀選手男子十四名、女子五名、及び未來の選手にたらんとする少年少女二十名、其他四十名の有望選手を集めコーシェ一流の華麗なプレイを示しコーチを行つた。コーチを受けた右選手の中には左の選手権保持者が加はつてゐる。
一九三七年
全聯邦選手権保持者
男子 A、チエブリヤコフ
女子 B、ノヴィコフ
全聯邦體育祭テニス試合優勝者
G、ル・ボプロフ
室内テニス選手権保持者
ゲエルツ

自 轉 車
一九三七年に於ける自轉車競技界の大きな話題は八月十二日開催されたモスクワ―キエフ―ミンスク―モスクワ間二千五百軒の劃期的長距離レースであつた。参加者は百二十六名、競技記録は左の如き優秀なものであつた。
一着、ミハイル・ルイバリチニコ(九十四時間四分五十八秒)

フルバック―マリニン、ソコロフ
ハイフバック―アルテメフ、アンドレーエフ
タロスチン、デミトリエフ
フオワード―ニコライ、スタロスチン、グ
ビータースタロスチン、ク
ラズコ、テレコフ、フェドロフ

ス ケ ー ト
ソヴェート・ウインタースポーツとしての長距離スキー行は毎年盛んとなり優秀記録を擧げてゐる。一九三四年極東赤軍兵士五名よりなるスキー隊はネルチンスク―モスクワ(六九一〇軒)ボチカレオ―モスクワ(八一三軒)間のスキー踏破行に一日平均速度九三四軒の記録を作成、國防人民委員長ウオロシロフより表彰せられた。この長距離スキー行は赤軍の年中行事となり毎年行はれてゐる。
雪と氷の國ソ聯にとつて盛んなスポーツ。女子スケート選手クズネツォフ、バロモワ、イサコフは輝しい世界的トリオ

自 動 車
ソ聯の自動車スポーツは同國の自動車工業が漸く活潑な働きを見せた一九三六年邊より稍々盛んとなつたが乗用はまだまだ少く、各地に勃興した自動車俱樂部に十分配給せられてゐない。政府首脳部では自動車技術修得は國防上必要であると現在大いに奨励してゐる。
一九三三年、ソ聯製自動車に依る第一回長距離遠征施行がモスクワ―カラ・クム沙漠九千軒間に行はれた。
一九三七年八月、第二回自動車遠征旅行は古今未層有の二萬キロ(一萬二千四百マイル)と言ふ遠距離を自動車従隊を編成し行つた。此の壯舉の詳細は次の如くである。
遠征経路、モスクワ―ノヴォシビリスク―キシユカ、タクメニスタン(アフガニスタンとの國境)―ウラルスク―ヴォ

ルガ、カスピ海に沿うてバクーへ、ジョ
ージャ、オデッサ、レニングラード、モ
スクワ、全行程二萬キロ、一日の走行豫
定十六時間で、右行程によつて聯邦共和
國十一、自治共和國九を通過するわけに
なる。

使用自動車は全部ソ聯製で特製のオイ
ルタンク及ギヤソリンを備へつけた。尙
遠征旅行中には荒果てた無人境であるウ
スト・ウルト沙漠(八百軒)カラ・クム
沙漠(千六百軒)を始め中央アジアの山
領を通過する爲、一行はガスマスクを用
意した。

射 撃

オソアヴィアム(航空の項参照)によ
つて普及發達した射撃團體は各自射撃場
をもち技術訓練をやつてゐる。地方別及
年一回の全聯邦射撃大會の優秀成績はウ
オロシロフ勳章を與へられる事になつ
てゐる。

記録は少し古いが一九三四年モスクワ
に開催されたソ聯邦第一回小口経騎銃射
撃大會に於て、ダイナモースポーツマン

協會會員アドノレトコフ以下三十一名
は、一九三二籽リウオフ市に開催の世界
射撃大會で作られた汎蘭代表ボドスキ
ーの世界記録を破つた。其の成績は左の
通りである。

一、距離一〇〇米に於て
得點 可能點 人名 所屬
五七九 六〇〇 アドノレトコフ (モ)

以下六名は、ボドスキの從來世界記
録五六九體を破つた。
一、距離二〇〇米に於て
二八八 三〇〇 同人

赤軍スポーツ

競 技 種 目	参加チーム数	時、處
一、フットボール	二五	六月九月十日 各都市
二、ヴァレイボール	二八	六月十一十五日 各都市
三、體 育 行 進	五、〇〇〇人	六月七月 各都市
四、輕 競 技	六〇人	十月十八—二十四 各都市
五、輕競技、水泳、體育、角 力、拳闘、重量揚、擊劍、 ポーツ、自轉車、自動車、 フットボール	四〇〇	七月二十一日—八月六日 各都市

ソヴェートスポーツが國防第一主義に
則り選手偏重主義を排撃してゐる事は周
知の事實であり、赤軍内のスポーツ熱勃
興も又注目に値し既にソ聯スポーツ水準
の一線に迫つてゐる。一例を挙げれば一
九三七年六月、赤兵カナキは砲丸投にて
一五米四六を投げソ聯記録を更新。レニ
ングラード軍管區の水泳チャムピオン、
リユーテナント・デビアトキンはレニ
ングラードクロンスタツド三〇キロの遠
泳に成功した。
一九三七年度に於ける赤軍年中行事プ
ログラムは左表の如くで、赤軍スポーツ
熱の一競を覗ふ事が出来やう。

「スポーツ・ニュース」
(一九三七)

四 月

*室内テニス選手權試合、ヴェルフ選手
權を保持す。

*ジュニアライイト拳闘選手權試合、昨
年の覇者ウクヒンはナザロフに惜敗。

五 月

*モスクワ、スターリン・スタジアムに
於て夏のシーズン開幕。五十萬の男女
参加。當日舉行された重なる記録左の
如し。

△槍 投 五二米九〇(イワン・セル
ゲーフ)

△棒高跳 四米一〇(クズリン)ソ
新

△六十米競争(男)六秒七(ゴロウキ
ン)ソ新

(女)八秒(シヤモノワ)

六 月

*ソ聯邦體育スポーツ行進祭、モスクワ
赤色廣場に四萬五千の男子参加

七 月

文 化

六、體育、輕競技、水泳、庭
球、自轉車、自動車
七、クロスカントリ
八、マラソン 競 走
九、ス キ

十月一日—六日 各都市
九月十日 於各赤軍部隊
八月二十—四日 各都市
十二月一日—三 各都市
十一月 各都市

※新記録續出の全リ競技大會

ソヴェート秋のスポーツ・シーズンを
飾る全聯邦輕競技大會はウクライナの主
都キエフ市に舉行、左の如き數記録をつ
くつた。

△百十米ハードル競走、一五、三秒(カナ
キキエフ市)

△走幅跳、全聯邦記録七米三七種(ブン
デン||ゴリキイ市)

△八百米一分五五秒二全聯邦記録||マク
シモフ(スターリングラード)

△女子圓盤投、全聯邦新記録四四米五一
種(ニーナ・ドウンバゼ||オデッサ
市)、同じく女子圓盤兩手投、全聯邦新
記録七四米四八種(ゾーヤ・シニツカ
ヤ||ハリコフ市)

右記録は世界記録六八米四八種を更新
△四百米障害物競争、全聯邦新記録五五、

九月

*二萬キロ自動車旅行開始。

*全聯邦参加第一回自轉車長距離競走
(二千五百軒)開始。

*ニス學校開設。

*赤色廣場中央會館スタジアム、テ
ニスを招待。

*世界的テニス選手コシエ(佛)を招

*白耳義アントワープ市の第三回國際勞
働者スポーツ大會に参加、英、佛、西、
白、瑞西、丁抹、諾威、フィンランド
其他の諸國労働者に伍してソ聯の労働
者團が全體の第一位(内個人としては
男子六名、女子四名が首位)を占め、
就中、セラフイムズナメンスキーの五
千米第一位一五分二〇秒、ゴロウキン
の百米第二位(フィンランド人一〇秒
九に次ぐ)等好記録あり。

八月

世界的テニス選手コシエ(佛)を招

赤色廣場中央會館スタジアム、テ
ニスを招待。

三秒(シエルヂヤコフモスクワ市) △五千米競走、一等一五分九、八秒(セ ラフイム・ズナメンスキーモスクワ 市)、二等ステパーノフ

二日間の大會に於て世界記録一、全聯邦 記録六、ウクライナ共和國記録八が樹立 された。

文 學

新作家同盟設立迄の

ソ聯文學

一九三二年三月共產黨書記局の命令に より、當時ソ聯文學界に對立的存在をな してゐたゾオアツプ(全ソ聯邦プロレタ リヤ作家協會聯盟)及びラツプ(ロシア・ プロレタリア作家協會)其他の全文學諸 團體が解散し、翌三三年、故ゴリキイの 先導でソ聯邦の全文學者を打つて一丸と したエス・エス・ペー(ソヴェイト作家 同盟)が新たに創立され、愈々第二次五 ヶ年計畫を開始した。ソ聯共產黨及び政 府の政策と相呼應し、こゝに強力な再出

發をして以來、ソ聯文學は急角度の轉換 をなした譯であるが、それは後述するこ とにし、翻つて革命以來のソ聯文學を概 観すれば、これを三期に分けることが出 来る。

第一期は一九一七年の十月革命から二 一年の戦時共產主義時代に至る生活機關 の崩壊、混沌時代で、文學もまだ醜態、 胎生期にあつた。

第二期はネツプ(新經濟政策)時代を 含む二一年から二九年へ至る間である。 この時期には生産及び分配機關が復活し て、印刷機關が活動を開始し、作家達は 前期の革命的な異常な諸事件をダイナミ ックな形式で描き、又、革命を永い世紀 に亘つて鐵鎖の重壓に束縛された農民の 叛逆と見、彼等の内部に眠つてゐた野獸 的本能、原始的本能の目醒めと解釋し、 その惨虐や醜汚の中にロマンチズムを感 じたりし、同伴者作家側からはビリニヤ ークの「裸の年」、イワノフの「装甲列車」、 パーベリの「騎兵隊」等の小説が現はれ た。だが同時にプロレタリア文學も萌芽

す方針をとつた程で、その中からフアヂ エーエフの「壊滅」が生れた。

第三期は二九年以來の五ヶ年計畫實施時 代である。第一次五ヶ年計畫といふ大膽 な事業を開始するに當つて、之に反對す る者があつてはならぬので、黨はそれ迄 の自由競争方針を捨て、凡ゆる領域に亘 つてその統制を強化し、トロツキスト派 は失敗し、ソヴェイト政府が確立した。 かくて同伴者作家も左翼轉向する者多 く、ビリニヤークの「ヴォルガは裏海に 注ぐ」、シヤギニヤン女史の「水力發電所」 レオーノフの「ソーチ河」、「スクタレフ スキー」、エレンブルグの「第二の日」等 々と、五ヶ年計畫を主題とし、ポリシエ ヴイズムに同情した作品が現はれ、その 間に報告文學も發生し、プロレタリア作 家の中からもシヨロホフの「静かなド ン」、「開かれた處女地」、パンフヨローフ の「ブルスキー」、グラトコフの「エネル ギイ」等、優れた長編が開始された。

新作家同盟設立後の五年間

前述の如く、三二年三月共產黨中央委

文 化

員會の決議により、ソ聯文學團體の改組 に關する規定が規けられ、プロレタリア 文學が質量共に著しく向上した現在で は、從來の諸團體はすでに狹隘な枠とな つたが故に、ソヴェイト政權を支持し社 會主義建設に参加しようとする凡ゆる作 家を網羅した単一のソヴェイト作家同盟 を組織して、その中に共產黨のフラクシ ヨンを置くことになり、ゴリキイを名 譽委員長に、グロンスキーを委員長、キ ルポーチンを書記とする組織委員會が形 成(翌三三年ソヴェイト作家同盟設立) されて以來、既に五ヶ年を経過し、この

間、文學に於ける言語の問題、文學と科 學の結合の問題、勞働的フォークロアと 文學との關聯の問題、文學的遺産の批判 的繼承の問題、社會主義的レアリズムの 問題等々の諸問題がソ聯文學に於いて初 めて正しく提起され、これを前進させ、 解決せねばならない新しい段階に到達し たのであるが、三六年ゴリキイの逝去 あり、久しきに渡る抑評文學の無力、不振 あり、又作家同盟内から多數のトロツキ

スト派を出してゐるなど、早くも誕生僅 か五ヶ年の新作家同盟改組問題が中堅、 新進作家によつて喧しく叫ばれ、折柄、 三七年秋の革命二十週年記念祭を前に控 へて、ソヴェイト文學は深刻な自己批判 を餘儀なくされてゐるのである。

ゴリキイの死

ソ聯文學にとつての最近の事件は、三 六年六月十八日に於ける何人も豫期しな かつたゴリキイの突然の死である(享年 六十八)。この死によつてソ聯文學は社 會主義レアリズムの指導者を失ひ、この 新しい文學の最大唯一の支柱を失ひ、莫 大な損失を蒙つた。ソ聯文學に横たはる 凡ゆる問題は彼の該博な文學的知識と豊 富な生活的經驗とに裏付けられた稀に見 る廣大な視野と遠い見透しと原則的に非 常に高い立場とから直接的具體的指導を 今後もなほ長く必要としたのである。兩 して直接的には文化雜誌「我等の到達」、 若き作家乃至作家志願者の爲の雜誌「文 學勉強」はその編輯最高顧問を失ひ、ソ 聯文學者の共同制作、「ロシア工場史」、